高城町文化財調査報告書　第14集

細井地区遺跡群

細井地区県営農地保全整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

2004

高城町教育委員会

細井地区遺跡群（南から）

山城第１遺跡第１・２次調査出土埋甕

上原第３遺跡・山城第１遺跡第１次調査出土装飾品

上原第１遺跡出土羽口転用高坏

序

本報告書は宮崎県北諸県農林振興局が主体となり行ってきた細井地区県営農地保全整備事業に先立ち実施いたしました埋蔵文化財発掘調査の記録です。

平成４年の第１次調査より、平成12年にかけ５次にわたる調査が実施され、縄文時代の竪穴住居跡72軒、古墳時代の竪穴住居跡19軒のほか縄文時代の装飾品を含め、10万点をこえる遺物が出土するなど多くの成果が上がりました。

この報告書が諸研究の材料となることはもとより、学校教育・生涯学習においてそれぞれの形で用いられ、地域に対する関心を深める手助けとなれれば幸いです。

最後になりましたが、多大なるご協力を賜りました各関係機関並びに町民各位の皆様方に心から深く感謝を申し上げます。

平成１６年３月

高城町教育委員会
教育長　内　田　國　昭

例　言

1　本書は高城町教育委員会が平成４年10月26日から平成13年２月23日にかけて、宮崎県北諸県郡高城町大字有水において実施した埋蔵文化財発掘調査の成果をまとめたものである。

2　当発掘調査は細井地区県営農地保全整備事業に伴うものであり、発掘調査から報告書作成にかけての一切の業務は高城町教育委員会が委託を受け、宮崎県教育委員会の指導・支援のもとに実施した。

3　この発掘調査の主体者及び担当者は次のとおりである。
　主体者　高城町教育委員会
　担当者　白谷健一(平成４年度～平成13年度)
　担当者　近沢恒典(平成14年度～平成15年度)

4　本書の執筆及び編集は下記の者が行った。
　近沢恒典（高城町教育委員会社会教育課主事）

5　本報告のための整理作業は平成13～15年度にかけて実施した。

6　遺構の実測は白谷健一、押川富代子、奥宮靖代、轟木治、近沢恒典等が行い、一部を有限会社埋蔵文化財サポートシステム及び有限会社ジパングサーベイに委託した。遺構写真の撮影は白谷健一が行い、空中写真については株式会社スカイサーベイに委託した。
　遺物の実測は近沢恒典、宮戸英里子、久保敦子、尾曲真貴、田ノ上麻理、大古殿スミ子が行い、一部を有限会社埋蔵文化財サポートシステム及び株式会社九州文化財研究所に委託した。遺物写真の撮影は近沢恒典が行った。

7　本書の作成にあたり下記概要報告書を基礎資料とした。
「高城町文化財調査報告書第2集・上原遺跡」
「高城町文化財調査報告書第3集・上原遺跡(第2地点)」
「高城町文化財調査報告書第4集・上原第3遺跡」
「高城町文化財調査報告書第5集・雁寺第2遺跡・山城第1遺跡」
「高城町文化財調査報告書第10集・山城第1遺跡」

8　調査にあたっては土地所有者並びに細井地区土地改良区、宮崎県北諸県農林振興局、高城町農林振興課の協力を得た。また発掘調査及び報告書作成に際して別府大学、鹿児島大学、宮崎県教育庁文化課、宮崎県埋蔵文化財センター、都城市教育委員会文化課を始め多くの方々よりご指導、ご助言をいただいた。

9　記録類や出土遺物は高城町教育委員会において保管している。

本文目次

Ⅰ　はじめに…… 1
1　発掘調査に至る経緯…… 1
2　調査の組織…… 1
3　調査の方法及び経過…… 2
4　遺跡の立地と環境…… 5

Ⅱ　調査の記録
1　上原第１遺跡…… 7
　Ａ区の調査…… 9
　Ｂ区の調査…… 28
2　上原第２遺跡…… 77
　Ａ区の調査…… 78
　Ｂ区の調査…… 92
　Ｃ区の調査…… 100
3　上原第３遺跡…… 105
　Ａ区の調査…… 109
　Ｂ区の調査…… 121
　Ｃ区の調査…… 127
　Ｄ区の調査…… 130
4　山城第１遺跡(第１次調査)…… 133
　Ａ区の調査…… 134
　Ｂ区の調査…… 153
5　雁寺第２遺跡…… 155
6　山城第１遺跡(第２次調査)…… 159
7　山城第１遺跡(第３次調査)…… 177
　Ａ区の調査…… 179
　Ｂ区の調査…… 203
　Ｃ区の調査…… 221
　Ｄ区の調査…… 250
　Ｅ区の調査…… 260
付編　自然科学分析報告書１…… 287
　自然科学分析報告書２…… 313
　自然科学分析報告書３…… 327

挿図目次

第　１図　遺跡位置図…… 3
第　２図　周辺遺跡図…… 4

上原第1遺跡

第　１図　調査区位置図…… 7
第　２図　Ａ区 遺構分布図…… 8
第　３図　Ａ区 １号竪穴住居跡実測図…… 9
第　４図　Ａ区 １号竪穴住居跡出土土器実測図…… 10
第　５図　Ａ区 １号竪穴住居跡出土鉄器実測図…… 10
第　６図　Ａ区 １号竪穴住居跡出土石器実測図…… 11

第 7 図 A区 2号竪穴住居跡実測図…… 12
第 8 図 A区 2号竪穴住居跡出土土器実測図…… 12
第 9 図 A区 3号竪穴住居跡実測図…… 13
第 10 図 A区 3号竪穴住居跡出土土器実測図…… 14
第 11 図 A区 4号竪穴住居跡実測図…… 15
第 12 図 A区 4号竪穴住居跡出土土器実測図…… 16
第 13 図 A区 1号掘立柱建物跡実測図…… 17
第 14 図 A区 2号掘立柱建物跡実測図…… 17
第 15 図 A区 3号掘立柱建物跡実測図…… 18
第 16 図 A区 4号掘立柱建物跡実測図…… 18
第 17 図 A区 5号掘立柱建物跡実測図…… 19
第 18 図 A区 6号掘立柱建物跡実測図…… 20
第 19 図 A区 7号掘立柱建物跡実測図…… 21
第 20 図 A区 8号掘立柱建物跡実測図…… 22
第 21 図 A区 9号掘立柱建物跡実測図…… 22
第 22 図 A区 5号竪穴住居跡及び1号溝状遺構実測図… 23
第 23 図 A区 1号溝状遺構土層図1…… 24
第 24 図 A区 1号溝状遺構土層図2…… 24
第 25 図 A区 包含層出土土器拓影図…… 25
第 26 図 B区 遺構分布図…… 27
第 27 図 B区 1号竪穴住居跡実測図…… 28
第 28 図 B区 1号竪穴住居跡出土土器拓影図…… 29
第 29 図 B区 2号竪穴住居跡実測図…… 30
第 30 図 B区 2号竪穴住居跡出土土器拓影図…… 31
第 31 図 B区 2号竪穴住居跡出土有孔石実測図… 32
第 32 図 B区 3・4号竪穴住居跡実測図…… 33
第 33 図 B区 3号竪穴住居跡出土土器拓影図…… 34
第 34 図 B区 4号竪穴住居跡出土土器拓影図…… 34
第 35 図 B区 5号竪穴住居跡実測図…… 35
第 36 図 B区 5号竪穴住居跡出土土器拓影図…… 35
第 37 図 B区 6号竪穴住居跡実測図…… 36
第 38 図 B区 7・8号竪穴住居跡実測図…… 37
第 39 図 B区 土坑実測図…… 38
第 40 図 B区 1号土坑出土土器拓影図…… 39
第 41 図 B区 3号土坑出土石器実測図…… 39
第 42 図 B区 9号竪穴住居跡実測図…… 40
第 43 図 B区 9号竪穴住居跡出土土器実測図…… 41
第 44 図 B区 10号竪穴住居跡実測図…… 42
第 45 図 B区 10号竪穴住居跡出土土器実測図…… 43
第 46 図 B区 11号竪穴住居跡実測図…… 45
第 47 図 B区 11号竪穴住居跡出土土器実測図…… 46
第 48 図 B区 12号竪穴住居跡実測図…… 47
第 49 図 B区 12号竪穴住居跡出土土器実測図1… 48
第 50 図 B区 12号竪穴住居跡出土土器実測図2… 49
第 51 図 B区 12号竪穴住居跡出土土器実測図3… 50
第 52 図 B区 13号竪穴住居跡実測図…… 51
第 53 図 B区 13号竪穴住居跡出土土器実測図1… 52
第 54 図 B区 13号竪穴住居跡出土土器実測図2… 53
第 55 図 B区 14号竪穴住居跡実測図…… 55
第 56 図 B区 14号竪穴住居跡出土土器実測図…… 56
第 57 図 B区 15号竪穴住居跡実測図…… 57
第 58 図 B区 15号竪穴住居跡出土土器実測図…… 58
第 59 図 B区 16号竪穴住居跡実測図…… 59
第 60 図 B区 16号竪穴住居跡出土土器実測図…… 59
第 61 図 B区 17号竪穴住居跡実測図…… 60
第 62 図 B区 17号竪穴住居跡出土土器実測図…… 61
第 63 図 B区 18号竪穴住居跡実測図…… 62
第 64 図 B区 18号竪穴住居跡出土炉跡土層図…… 62
第 65 図 B区 18号竪穴住居跡出土土器実測図…… 63
第 66 図 B区 6号土坑出土土器実測図…… 64
第 67 図 B区 1号掘立柱建物跡実測図…… 65
第 68 図 B区 1号道路状遺構実測図…… 66
第 69 図 B区 2号溝状遺構実測図…… 66
第 70 図 B区 包含層出土土器拓影図…… 67
第 71 図 B区 包含層出土土器実測図…… 68
第 72 図 B区 包含層出土石器実測図…… 69

上原第2遺跡

第 1 図 調査区位置図…… 77
第 3 図 A区 遺構分布図…… 78
第 4 図 A区 土坑実測図1…… 79
第 5 図 A区 土坑実測図2…… 81
第 6 図 A区 6号土坑出土土器実測図…… 81
第 7 図 A区 土坑実測図3…… 82
第 8 図 A区 土坑実測図4…… 84
第 9 図 A区 土坑実測図5…… 85
第 10 図 A区 土坑実測図6…… 87
第 11 図 A区 溝状遺構実測図…… 88
第 12 図 A区 包含層出土土器実測図…… 89
第 13 図 A区 包含層出土須恵器実測図…… 90
第 14 図 B区 遺構分布図…… 91
第 15 図 B区 土坑実測図1…… 93
第 16 図 B区 土坑実測図2…… 94
第 17 図 B区 1・2・4・8号土坑出土土器拓影図… 95
第 18 図 B区 溝状遺構実測図…… 96
第 19 図 B区 包含層出土土器拓影図…… 97
第 20 図 C区 遺構分布図…… 99
第 21 図 C区 1号竪穴住居跡実測図…… 100
第 22 図 C区 1号竪穴住居跡出土土器拓影図…… 100
第 23 図 C区 1号竪穴住居跡出土石器実測図…… 101
第 24 図 C区 2号竪穴住居跡実測図…… 101
第 25 図 C区 包含層出土土器拓影図…… 102
第 26 図 C区 包含層出土石器実測図…… 102

上原第3遺跡

第 1 図 調査区位置図…… 105
第 2 図 C区土層断面図…… 106
第 3 図 A区 遺構分布図…… 107
第 4 図 A区 1号竪穴住居跡実測図…… 108
第 5 図 A区 1号竪穴住居跡出土石器実測図…… 108
第 6 図 A区 1号竪穴住居跡出土土器拓影図…… 109

第　7 図　A区 2号竪穴住居跡実測図…… 110
第　8 図　A区 2号竪穴住居跡出土土器拓影図…… 110
第　9 図　A区 2号竪穴住居跡出土石器実測図…… 111
第 10 図　A区 2号竪穴住居跡出土垂飾実測図…… 111
第 11 図　A区 3号竪穴住居跡実測図…… 111
第 12 図　A区 3号竪穴住居跡出土土器拓影図…… 112
第 13 図　A区 3号竪穴住居跡出土石器実測図…… 112
第 14 図　A区 4号竪穴住居跡実測図…… 113
第 15 図　A区 4号竪穴住居跡出土土器拓影図…… 114
第 16 図　A区 土坑実測図…… 115
第 17 図　A区 1号掘立柱建物跡実測図…… 115
第 18 図　A区 包含層出土土器拓影図…… 116
第 19 図　A区 包含層出土土器実測図…… 117
第 20 図　A区 包含層出土石器実測図 1 …… 118
第 21 図　A区 包含層出土石器実測図 2 …… 119
第 22 図　B区 遺構分布図…… 121
第 23 図　B区 土坑実測図…… 122
第 24 図　B区 1号土坑出土土器拓影図…… 122
第 25 図　B区 2号土坑出土土器拓影図…… 123
第 26 図　B区 2号土坑出土石器実測図…… 123
第 27 図　B区 3号土坑出土土器拓影図…… 123
第 28 図　B区 土器加工円盤拓影図…… 123
第 29 図　B区 出土石器実測図…… 123
第 30 図　B区 1号溝状遺構実測図…… 124
第 31 図　B区 2号溝状遺構実測図…… 124
第 32 図　C区 遺構分布図…… 126
第 33 図　C区 1号土坑実測図…… 127
第 34 図　C区 1号土坑出土土器拓影図…… 127
第 35 図　C区 1号竪穴住居跡実測図…… 128
第 36 図　C区 包含層出土土器拓影図…… 128
第 37 図　D区 遺構分布図…… 129
第 38 図　D区 土坑実測図…… 130
第 39 図　D区 1～3号土坑出土土器拓影図…… 131
第 40 図　D区 3号土坑出土管玉実測図…… 132

山城第1遺跡第1次調査

第　1 図　調査区位置図…… 133
第　2 図　B区 土層図…… 134
第　3 図　A区 地形図…… 135
第　4 図　A区 遺構分布図…… 136
第　5 図　A区 1号竪穴住居跡実測図…… 137
第　6 図　A区 2号竪穴住居跡実測図…… 138
第　7 図　A区 2・3号竪穴住居跡出土石器実測図… 138
第　8 図　A区 3号竪穴住居跡実測図…… 139
第　9 図　A区 3号竪穴住居跡出土土器拓影図…… 139
第 10 図　A区 出土土坑実測図 1 …… 141
第 11 図　A区 出土土坑実測図 2 …… 142
第 12 図　A区 出土土坑実測図 3 …… 143
第 13 図　A区 2・6・13・16号土坑出土土器拓影図… 144
第 14 図　A区 17・20号土坑出土土器拓影図…… 145
第 15 図　A区 11・17号土坑出土石器実測図…… 146
第 16 図　A区 19号土坑出土土器実測図…… 147
第 17 図　A区 包含層出土土器拓影図…… 149
第 18 図　A区 包含層出土土器実測図…… 149
第 19 図　A区 包含層出土垂飾実測図…… 149
第 20 図　A区 包含層出土石器実測図 1 …… 149
第 21 図　A区 包含層出土石器実測図 2 …… 150
第 22 図　B区 遺構分布図…… 152
第 23 図　B区 1号竪穴住居跡実測図…… 153

雁寺第2遺跡

第　1 図　調査区位置図…… 155
第　2 図　土層図…… 156
第　3 図　遺構分布図…… 156
第　4 図　包含層出土土器実測図…… 157

山城第1遺跡第2次調査

第　1 図　調査区位置図…… 159
第　2 図　遺構分布図…… 160
第　3 図　1・2号竪穴住居跡実測図…… 162
第　4 図　3号竪穴住居跡実測図…… 163
第　5 図　1・2号竪穴住居跡出土土器拓影図…… 164
第　6 図　1・2号竪穴住居跡出土石器実測図…… 164
第　7 図　3号竪穴住居跡出土土器拓影図…… 164
第　8 図　3号竪穴住居跡出土石器実測図…… 164
第　9 図　4号竪穴住居跡実測図…… 165
第 10 図　4号竪穴住居跡出土土器拓影図…… 165
第 11 図　土坑実測図…… 166
第 12 図　1号土坑出土土器実測図…… 167
第 13 図　集石遺構実測図…… 168
第 14 図　3～5号土坑出土土器拓影図…… 169
第 15 図　6号土坑出土土器実測図…… 169
第 16 図　3号土坑出土石器実測図…… 169
第 17 図　5号竪穴住居跡実測図…… 170
第 18 図　5号竪穴住居跡出土土器実測図…… 170
第 19 図　1号道路状遺構実測図…… 171
第 20 図　包含層出土土器拓影図…… 172
第 21 図　包含層出土土器実測図…… 173
第 22 図　包含層出土石器実測図…… 174

山城第1遺跡第3次調査

第　1 図　調査区位置図…… 177
第　2 図　B区 土層断面図…… 178
第　3 図　A区 地形図…… 179
第　4 図　A区 遺構分布図…… 180
第　5 図　A区 1号竪穴住居跡実測図…… 181
第　6 図　A区 1号竪穴住居跡出土土器拓影図…… 181

第　7図　A区 2・3号竪穴住居跡実測図…… 182
第　8図　A区 3号竪穴住居跡出土土器拓影図…… 183
第　9図　A区 4号竪穴住居跡出土土器拓影図…… 183
第 10図　A区 4号竪穴住居跡実測図…… 184
第 11図　A区 5号竪穴住居跡実測図…… 184
第 12図　A区 6号竪穴住居跡実測図…… 185
第 13図　A区 6号竪穴住居跡出土土器拓影図…… 185
第 14図　A区 7号竪穴住居跡実測図…… 185
第 15図　A区 7号竪穴住居跡出土土器拓影図…… 186
第 16図　A区 出土土坑実測図1…… 187
第 17図　A区 出土土坑実測図2…… 188
第 18図　A区 1～3・5号土坑出土土器拓影図… 189
第 19図　A区 7号土坑出土土器拓影図…… 190
第 20図　A区 2号土坑出土石器実測図…… 190
第 21図　A区 1号集石遺構実測図…… 190
第 22図　A区 8号竪穴住居跡実測図…… 191
第 23図　A区 8号竪穴住居跡出土土器実測図…… 191
第 24図　A区 1号土器集積土器出土状況図…… 192
第 25図　A区 1号土器集積出土土器実測図…… 193
第 26図　A区 2号土器集積実測図…… 194
第 27図　A区 2号土器集積出土土器実測図1…… 195
第 28図　A区 2号土器集積出土土器実測図2…… 196
第 29図　A区 1号掘立柱建物跡実測図…… 194
第 30図　A区 1号道路状遺構実測図…… 197
第 31図　A区 包含層出土土器拓影図…… 198
第 32図　A区 包含層出土石器実測図…… 199
第 33図　B区 地形図…… 202
第 34図　B区 遺構分布図…… 202
第 35図　B区 1号竪穴住居跡実測図…… 203
第 36図　B区 1号竪穴住居跡出土土器拓影図…… 204
第 37図　B区 2号竪穴住居跡実測図…… 205
第 38図　B区 2号竪穴住居跡出土土器拓影図…… 206
第 39図　B区 2・3・6号竪穴住居跡出土石器実測図… 206
第 40図　B区 3号竪穴住居跡実測図…… 207
第 41図　B区 3号竪穴住居跡出土土器拓影図…… 207
第 42図　B区 4号竪穴住居跡実測図…… 208
第 43図　B区 4号竪穴住居跡出土土器拓影図…… 208
第 44図　B区 5号竪穴住居跡実測図…… 209
第 45図　B区 5・6号竪穴住居跡出土土器拓影図… 209
第 46図　B区 6号竪穴住居跡実測図…… 210
第 47図　B区 7号竪穴住居跡実測図…… 211
第 48図　B区 7号竪穴住居跡出土土器拓影図…… 211
第 49図　B区 1号土坑実測図…… 212
第 51図　B区 8号竪穴住居跡実測図…… 213
第 52図　B区 8号竪穴住居跡出土土器実測図…… 213
第 53図　B区 9号竪穴住居跡実測図…… 214
第 54図　B区 9号竪穴住居跡出土土器実測図…… 215
第 55図　B区 1号掘立柱建物跡実測図…… 215
第 56図　B区 包含層出土土器拓影図…… 216
第 57図　B区 包含層出土石器実測図…… 216
第 58図　C区 地形図…… 219
第 59図　C区 遺構分布図…… 220
第 60図　C区 1号竪穴住居跡実測図…… 221
第 61図　C区 1・2号竪穴住居跡出土土器拓影図… 222
第 62図　C区 2号竪穴住居跡実測図…… 223
第 63図　C区 3号竪穴住居跡実測図…… 224
第 64図　C区 3号竪穴住居跡出土土器拓影図…… 224
第 65図　C区 4号竪穴住居跡実測図…… 225
第 66図　C区 4・5号竪穴住居跡出土土器拓影図… 226
第 67図　C区 5号竪穴住居跡実測図…… 227
第 68図　C区 6号竪穴住居跡実測図…… 228
第 69図　C区 6・7号竪穴住居跡出土土器拓影図… 228
第 70図　C区 7号竪穴住居跡実測図…… 229
第 71図　C区 8・9号竪穴住居跡実測図…… 230
第 72図　C区 8号竪穴住居跡出土土器実測図…… 231
第 73図　C区 9号竪穴住居跡出土土器拓影図…… 232
第 74図　C区 10号竪穴住居跡実測図…… 233
第 75図　C区 10号竪穴住居跡出土土器拓影図…… 234
第 76図　C区 11号竪穴住居跡実測図…… 235
第 77図　C区 11～17号竪穴住居跡出土土器拓影図… 236
第 78図　C区 12号竪穴住居跡実測図…… 237
第 79図　C区 4・6・10・15号竪穴住居跡出土石器実測図… 237
第 80図　C区 13号竪穴住居跡実測図…… 238
第 81図　C区 14号竪穴住居跡実測図…… 239
第 82図　C区 15号竪穴住居跡実測図…… 240
第 83図　C区 16号竪穴住居跡実測図…… 241
第 84図　C区 17号竪穴住居跡実測図…… 242
第 85図　C区 1号土器集積出土土器実測図…… 243
第 86図　C区 1号土器集積出土石器実測図…… 243
第 87図　C区 包含層出土土器拓影図…… 245
第 88図　C区 包含層出土石器実測図…… 246
第 89図　D区 地形図…… 248
第 90図　D区 遺構分布図…… 249
第 91図　D区 1号竪穴住居跡実測図…… 250
第 92図　D区 1号竪穴住居跡出土土器拓影図…… 251
第 93図　D区 2号竪穴住居跡実測図…… 252
第 94図　D区 2号竪穴住居跡出土土器拓影図…… 253
第 95図　D区 3号竪穴住居跡実測図…… 254
第 96図　D区 3・4号竪穴住居跡出土土器拓影図… 255
第 97図　D区 4号竪穴住居跡実測図…… 256
第 98図　D区 5号竪穴住居跡実測図…… 257
第 99図　D区 包含層出土石器実測図…… 257
第 100図　D区 包含層出土土器拓影図…… 258
第 101図　E区 地形図…… 260
第 102図　E区 遺構分布図…… 261
第 103図　E区 1号竪穴住居跡実測図…… 262
第 104図　E区 1～3号竪穴住居跡出土土器拓影図… 263
第 105図　E区 2号竪穴住居跡実測図…… 264
第 106図　E区 3号竪穴住居跡実測図…… 264
第 107図　E区 4号竪穴住居跡実測図…… 265
第 108図　E区 5号竪穴住居跡実測図…… 265
第 109図　E区 6号竪穴住居跡実測図…… 266
第 110図　E区 3・4・6号竪穴住居跡出土石器実測図… 266
第 111図　E区 6・7号竪穴住居跡出土土器拓影図… 267
第 112図　E区 7号竪穴住居跡実測図…… 268
第 113図　E区 8号竪穴住居跡実測図…… 269

第 114 図　E区 8～11号竪穴住居跡出土土器拓影図… 270
第 115 図　E区 9・10号竪穴住居跡実測図…… 271
第 116 図　E区 11号竪穴住居跡実測図…… 272
第 117 図　E区 12号竪穴住居跡実測図…… 273
第 118 図　E区 12号竪穴住居跡出土土器拓影図…… 274
第 119 図　E区 13号竪穴住居跡実測図…… 275
第 120 図　E区 14号竪穴住居跡実測図…… 276
第 121 図　E区 13～15号竪穴住居跡出土土器拓影図… 276
第 122 図　E区 15号竪穴住居跡実測図…… 277
第 123 図　E区 16号竪穴住居跡実測図…… 277
第 124 図　E区 15号竪穴住居跡出土石器実測図…… 278
第 125 図　E区 集石遺構実測図…… 279
第 126 図　E区 3号集石遺構出土土器拓影図…… 279
第 127 図　E区 17号竪穴住居跡実測図…… 280
第 128 図　E区 17号竪穴住居跡出土土器実測図…… 281
第 129 図　E区 包含層出土土器拓影図…… 282
第 130 図　E区 包含層出土石器実測図…… 283

表目次

第 1 表　上原第1遺跡A区出土遺物観察表…… 26
第 2 表　上原第1遺跡B区出土遺物観察表1…… 70
第 3 表　上原第1遺跡B区出土遺物観察表2…… 71
第 4 表　上原第1遺跡B区出土遺物観察表3…… 72
第 5 表　上原第1遺跡B区出土遺物観察表4…… 73
第 6 表　上原第1遺跡B区出土遺物観察表5…… 74
第 7 表　上原第1遺跡B区出土遺物観察表6…… 75
第 8 表　上原第2遺跡A区出土遺物観察表…… 90
第 9 表　上原第2遺跡B区出土遺物観察表…… 98
第 10 表　上原第2遺跡C区出土遺物観察表…… 103
第 11 表　上原第3遺跡A区出土遺物観察表1…… 117
第 12 表　上原第3遺跡A区出土遺物観察表2…… 119
第 13 表　上原第3遺跡A区出土遺物観察表3…… 120
第 14 表　上原第3遺跡B区出土遺物観察表…… 125
第 15 表　上原第3遺跡C区出土遺物観察表…… 127
第 16 表　上原第3遺跡D区出土遺物観察表…… 132
第 17 表　山城第1遺跡第1次調査A区出土遺物観察表1…… 148
第 18 表　山城第1遺跡第1次調査A区出土遺物観察表2…… 151
第 19 表　雁寺第2遺跡出土遺物観察表…… 157
第 20 表　山城第1遺跡第2次調査出土遺物観察表1…… 171
第 21 表　山城第1遺跡第2次調査出土遺物観察表2…… 173
第 22 表　山城第1遺跡第2次調査出土遺物観察表3…… 174
第 23 表　山城第1遺跡第2次調査出土遺物観察表4…… 175
第 24 表　山城第1遺跡第3次調査A区出土遺物観察表1…… 199
第 25 表　山城第1遺跡第3次調査A区出土遺物観察表2…… 200
第 26 表　山城第1遺跡第3次調査A区出土遺物観察表3…… 201
第 27 表　山城第1遺跡第3次調査B区出土遺物観察表1…… 217
第 28 表　山城第1遺跡第3次調査B区出土遺物観察表2…… 218
第 29 表　山城第1遺跡第3次調査C区出土遺物観察表1…… 242
第 30 表　山城第1遺跡第3次調査C区出土遺物観察表2…… 243
第 31 表　山城第1遺跡第3次調査C区出土遺物観察表3…… 244
第 32 表　山城第1遺跡第3次調査C区出土遺物観察表4…… 247
第 33 表　山城第1遺跡第3次調査D区出土遺物観察表…… 259
第 34 表　山城第1遺跡第3次調査E区出土遺物観察表1…… 283
第 35 表　山城第1遺跡第3次調査E区出土遺物観察表2…… 284

図版目次

巻頭図版1　細井地区遺跡群(南から)
巻頭図版2　山城第1遺跡第1・2次調査出土埋甕　上原第3遺跡・山城第1遺跡第1次調査出土垂飾
　　上原第1遺跡出土羽口転用高坏
図版1　上原第1遺跡航空写真1　上原第1遺跡航空写真2
図版2　A区1号竪穴住居跡遺物出土状況　A区1号竪穴住居跡　A区2号竪穴住居跡
　　A区3号竪穴住居跡遺物出土状況1　A区3号竪穴住居跡遺物出土状況2　A区3号竪穴住居跡

		A区４号竪穴住居跡	A区１号掘立柱建物跡	
図版	3	A区２～９号掘立柱建物跡１	A区２～９号掘立柱建物跡２	A区５号竪穴住居跡
		A区１号溝状遺構トレンチ	B区１号竪穴住居跡	B区２号竪穴住居跡
		B区３・４号竪穴住居跡	B区５・６号竪穴住居跡	
図版	4	B区７・８号竪穴住居跡	B区１号土坑	B区２号土坑
		B区３・４号土坑	B区９号竪穴住居跡遺物出土状況	B区９号竪穴住居跡
		B区10号竪穴住居跡遺物出土状況	B区10号竪穴住居跡	
図版	5	B区11号竪穴住居跡遺物出土状況	B区11号竪穴住居跡	B区12号竪穴住居跡
		B区13号竪穴住居跡	B区14号竪穴住居跡遺物出土状況	B区14号竪穴住居跡
		B区15号竪穴住居跡	B区16号竪穴住居跡	
図版	6	B区17号竪穴住居跡	B区18号竪穴住居跡	B区６号土坑遺物出土状況
		B区６号土坑	B区１号道路状遺構	B区２号溝状遺構
		B区１号掘立柱建物跡	B区５号土坑	
図版	7	上原第２遺跡A区航空写真１	上原第２遺跡A区航空写真２	
図版	8	A区１号土坑	A区２号土坑	A区３号土坑
		A区４号土坑	A区５号土坑	A区７号土坑
		A区６号土坑遺物出土状況	A区６号土坑	
図版	9	A区８号土坑	A区９号土坑	A区10号土坑
		A区11号土坑	A区12号土坑	A区13号土坑
		A区14号土坑	A区15号土坑	
図版	10	A区17号土坑	A区18号土坑	A区19号土坑
		A区20号土坑	A区21号土坑	A区22号土坑
		A区24号土坑	A区25号土坑	
図版	11	A区26号土坑	A区27号土坑	A区28号土坑
		A区29号土坑	A区30号土坑	A区31号土坑
		A区32号土坑	A区33号土坑	
図版	12	A区34号土坑	A区35号土坑	A区36号土坑
		A区37号土坑	A区１号溝状遺構	A区遺物出土状況１
		A区遺物出土状況２	A区作業風景	
図版	13	上原第２遺跡B区航空写真１	上原第２遺跡B区航空写真２	
図版	14	B区１号土坑遺物出土状況	B区１号土坑	B区２号土坑
		B区３号土坑	B区４号土坑	B区５号土坑
		B区６号土坑	B区７号土坑	
図版	15	B区８号土坑	B区９号土坑	B区11号土坑
		B区12号土坑	B区15号土坑	B区16号土坑
		B区１号溝状遺構	B区２号溝状遺構	
図版	16	上原第２遺跡C区航空写真	C区１号竪穴住居跡遺物出土状況	C区１号竪穴住居跡
		C区２号竪穴住居跡遺物出土状況	C区２号竪穴住居跡	
図版	17	上原第３遺跡A・B区航空写真	A区作業風景	A区１号竪穴住居跡
		A区２号竪穴住居跡遺物出土状況	A区２号竪穴住居跡	
図版	18	A区３号竪穴住居跡遺物出土状況	A区３号竪穴住居跡	A区４号竪穴住居跡遺物出土状況
		A区４号竪穴住居跡	A区２号土坑遺物出土状況	A区２号土坑
		A区１号土坑	A区１号掘立柱建物跡	
図版	19	B区１号土坑	B区４号土坑	B区２号土坑遺物出土状況
		B区２号土坑	B区３号土坑遺物出土状況	B区３号土坑
		B区１号溝状遺構	B区２号溝状遺構	
図版	20	上原第３遺跡C区航空写真	C区１号土坑	C区１号竪穴住居跡
		C区土層	C区作業風景	
図版	21	上原第３遺跡D区航空写真	D区１号土坑	D区２号土坑
		D区３号土坑	D区４号土坑	
図版	22	山城第１遺跡第１次調査A区航空写真１	山城第１遺跡第１次調査A区航空写真２	
図版	23	A区１号竪穴住居跡	A区２号竪穴住居跡１	A区２号竪穴住居跡２・シラス出土状況
		A区２号竪穴住居跡３	A区３号竪穴住居跡遺物出土状況	A区３号竪穴住居跡
		A区１号土坑	A区２号土坑	

図版	24	A区３号土坑	A区４号土坑	A区５号土坑
		A区７号土坑	A区６号土坑遺物出土状況	A区６号土坑
		A区８号土坑	A区９号土坑	
図版	25	A区10号土坑	A区11号土坑	A区12号土坑
		A区13号土坑	A区14号土坑	A区15号土坑
		A区16号土坑遺物出土状況	A区16号土坑	
図版	26	A区17号土坑遺物出土状況	A区17号土坑	A区18号土坑
		A区19号土坑	A区20号土坑	A区21号土坑
		A区22号土坑	A区23号土坑	
図版	27	山城第１遺跡第１次調査B区航空写真１	山城第１遺跡第１次調査B区航空写真２	
図版	28	B区１号竪穴住居跡遺物出土状況	B区１号竪穴住居跡	A区全景(東側)
		A区全景(西側)	B区全景(東側)	B区全景(西側)
		A区垂飾出土状況	作業風景	
図版	29	雁寺第２遺跡航空写真	土器出土状況	全景
図版	30	山城第１遺跡第２次調査航空写真	１・２号竪穴住居跡	３号竪穴住居跡
		４号竪穴住居跡	１号土坑遺物出土状況	
図版	31	１・２号土坑	３号土坑	５号土坑
		１号集石遺構	２号集石遺構	６号土坑
		５号竪穴住居跡	１号道路状遺構	
図版	32	山城第１遺跡第３次調査A区航空写真１	山城第１遺跡第３次調査A区航空写真２	
図版	33	A区１号竪穴住居跡	A区２号竪穴住居跡	A区３号竪穴住居跡
		A区４号竪穴住居跡	A区５号竪穴住居跡	A区６号竪穴住居跡
		A区７号竪穴住居跡	A区８号竪穴住居跡	
図版	34	A区１号土坑	A区２号土坑	A区３号土坑遺物出土状況
		A区４号土坑遺物出土状況	A区５号土坑遺物出土状況	A区３～５号土坑
		A区６号土坑	A区７号土坑	
図版	35	A区１号集石遺構	A区８号竪穴住居跡	A区１号土器集積出土状況
		A区２号土器集積出土状況	A区２号土器集積	A区１号掘立柱建物跡
		A区１号道路状遺構	A区遺物出土状況	
図版	36	山城第１遺跡第３次調査B区航空写真	B区１・２号竪穴住居跡遺物出土状況	B区１号竪穴住居跡
		B区２号竪穴住居跡	B区３号竪穴住居跡	
図版	37	B区４号竪穴住居跡遺物出土状況	B区５号竪穴住居跡	B区６号竪穴住居跡
		B区７号竪穴住居跡	B区１号土坑遺物出土状況	B区８号竪穴住居跡
		B区９号竪穴住居跡	B区１号掘立柱建物跡	
図版	38	山城第１遺跡第３次調査C区航空写真１	山城第１遺跡第３次調査C区航空写真２	
図版	39	C区１号竪穴住居跡	C区２号竪穴住居跡	C区３号竪穴住居跡
		C区４号竪穴住居跡	C区５号竪穴住居跡	C区５～９号竪穴住居跡
		C区６号竪穴住居跡	C区７号竪穴住居跡	
図版	40	C区８・９号竪穴住居跡遺物出土状況	C区８・９号竪穴住居跡	C区10号竪穴住居跡遺物出土状況
		C区10号竪穴住居跡	C区11号竪穴住居跡	C区12号竪穴住居跡
		C区13号竪穴住居跡遺物出土状況	C区13号竪穴住居跡	
図版	41	C区14号竪穴住居跡	C区15号竪穴住居跡	C区16号竪穴住居跡
		C区17号竪穴住居跡遺物出土状況	C区17号竪穴住居跡	C区１号土器集積出土状況
		C区石刀出土状況	A～C区全景	
図版	42	山城第１遺跡第３次調査D区航空写真	D区１号竪穴住居跡	D区２～５号竪穴住居跡
		D区２号竪穴住居跡	D区３号竪穴住居跡	D区４号竪穴住居跡
		D区５号竪穴住居跡		
図版	43	山城第１遺跡第３次調査E区航空写真１	山城第１遺跡第３次調査E区航空写真２	
図版	44	E区１号竪穴住居跡	E区２号竪穴住居跡	E区３号竪穴住居跡
		E区４・５号竪穴住居跡	E区６号竪穴住居跡	E区７号竪穴住居跡
		E区８号竪穴住居跡	E区４・５・７～10号竪穴住居跡	
図版	45	E区９・10号竪穴住居跡遺物出土状況	E区９・10号竪穴住居跡	E区11号竪穴住居跡
		E区12号竪穴住居跡	E区13号竪穴住居跡	E区14号竪穴住居跡
		E区15号竪穴住居跡	E区16号竪穴住居跡	

図版46　E区17号竪穴住居跡遺物出土状況１　E区17号竪穴住居跡遺物出土状況２　E区17号竪穴住居跡
E区１号集石遺構　E区２号集石遺構　E区３号集石遺構
E区４号集石遺構　E区５号集石遺構
図版47　上原第１遺跡A区出土遺物１
図版48　上原第１遺跡A区出土遺物２
図版49　上原第１遺跡B区出土遺物１
図版50　上原第１遺跡B区出土遺物２
図版51　上原第１遺跡B区出土遺物３
図版52　上原第１遺跡B区出土遺物４
図版53　上原第１遺跡B区出土遺物５
図版54　上原第１遺跡B区出土遺物６
図版55　上原第１遺跡B区出土遺物７
図版56　上原第１遺跡B区出土遺物８
図版57　上原第１遺跡B区出土遺物９
図版58　上原第２遺跡A区出土遺物
図版59　上原第２遺跡B区出土遺物・上原第２遺跡C区出土遺物
図版60　上原第３遺跡A区出土遺物１
図版61　上原第３遺跡A区出土遺物２
図版62　上原第３遺跡B区出土遺物・上原第３遺跡C区出土遺物・上原第３遺跡D区出土遺物
図版63　山城第１遺跡第１次調査A区出土遺物
図版64　山城第１遺跡第１次調査A区・雁寺第２遺跡出土遺物
図版65　山城第１遺跡第２次調査出土遺物１
図版66　山城第１遺跡第２次調査出土遺物２
図版67　山城第１遺跡第３次調査A区出土遺物１
図版68　山城第１遺跡第３次調査A区出土遺物２
図版69　山城第１遺跡第３次調査A区出土遺物３
図版70　山城第１遺跡第３次調査A区出土遺物４・山城第１遺跡第３次調査B区出土遺物１
図版71　山城第１遺跡第３次調査B区出土遺物２
図版72　山城第１遺跡第３次調査B区出土遺物３・山城第１遺跡第３次調査C区出土遺物１
図版73　山城第１遺跡第３次調査C区出土遺物２
図版74　山城第１遺跡第３次調査C区出土遺物３
図版75　山城第１遺跡第３次調査C区出土遺物４・山城第１遺跡第３次調査D区出土遺物１
図版76　山城第１遺跡第３次調査D区出土遺物２
図版77　山城第１遺跡第３次調査E区出土遺物１
図版78　山城第１遺跡第３次調査E区出土遺物２
図版79　山城第１遺跡第３次調査E区出土遺物３

Ⅰ　はじめに

1　発掘調査に至る経緯

昭和63年、宮崎県北諸県農林振興局により高城町大字有水において細井地区県営農地保全整備事業が計画された。事業区内には多くの遺跡が分布しており、宮崎県北諸県農林振興局、宮崎県教育庁文化課、高城町教育委員会社会教育課の三者により遺跡の取扱について協議が進められ、工事計画により遺跡への影響が避けられない地点において発掘調査が実施された。

平成4年度・上原第1遺跡・約8,000㎡。平成5年度・上原第2遺跡・約7,800㎡。平成6年度・上原第3遺跡・約10,000㎡。平成7年度・雁寺第2遺跡・山城第1遺跡・約5,600㎡。平成12年度・山城第1遺跡第2次調査・第3次調査・約14,000㎡の調査が実施され、総調査面積は約45,400㎡である。

2　調査の組織

細井地区遺跡群の発掘調査組織は以下のとおりである。

平成4年度(発掘調査)

調査主体　高城町教育委員会

教育長	山下英俊(平成4年9月まで)
	新地文雄(平成4年10月から)
社会教育課課長	中村真琴(平成4年7月まで)
	松田俊夫(平成4年7月から)
同課長補佐	大浦義澄(平成4年7月から)
同文化係長	田中孝明(平成4年7月から)
同主事	白谷健一(調査担当)

調査支援

宮崎県文化課主任主事　菅付和樹(調査担当)

調査指導

宮崎県文化課主査　面高哲郎

特別調査員

別府大学教授　賀川光夫

平成5年度(発掘調査)

調査主体　高城町教育委員会

教育長	新地文雄
社会教育課課長	松田俊夫
同文化係長	田中孝明
同主事	白谷健一(調査担当)
調査補助員	押川富代子
	奥宮靖代

調査指導

宮崎県文化課埋蔵文化財第二係長　面高哲郎

同主査　石川悦雄

同主査　菅付和樹

平成6年度(発掘調査)

調査主体　高城町教育委員会

教育長	新地文雄
社会教育課課長	松田俊夫
同課長補佐	有村修一
同文化係長	田中孝明
同主事	白谷健一(調査担当)
調査補助員	押川富代子
	轟木治

調査指導

宮崎県文化課埋蔵文化財第二係長　面高哲郎

同主査　石川悦雄

同主査　菅付和樹

特別調査員

宍戸地質研究所　宍戸章

平成7年度(発掘調査)

調査主体　高城町教育委員会

教育長	新地文雄
社会教育課課長	松田俊夫
同課長補佐	有村修一
同主事	白谷健一(調査担当)

調査指導

宮崎県文化課主査　石川悦雄

平成12年度(発掘調査)
調査主体　高城町教育委員会調査
教育長　新地文雄(平成12年9月まで)
内田國昭(平成12年10月より)
社会教育課課長　江内谷満義
同課長補佐　田中孝明
同主査　白谷健一(調査担当)
調査指導
宮崎県文化課主査　谷口範典

平成13年度(整理・報告書作成)
調査主体　高城町教育委員会
教育長　内田國昭
社会教育課課長　江内谷満義
同課長補佐　中村敏和
同主査　白谷健一(整理・報告書担当)
報告書作成指導
宮崎県文化課主査　飯田博之

平成14年度(整理・報告書作成)
調査主体　高城町教育委員会
教育長　内田國昭
社会教育課課長　江内谷満義
同課長補佐　中村敏和
同主事　近沢恒典(整理・報告書担当)
報告書作成指導
宮崎県文化課主査　飯田博之

平成15年度(報告書作成)
調査主体　高城町教育委員会
教育長　内田國昭
社会教育課課長　江内谷満義
同課長補佐　新地安弘
同文化係長　永峰キヌ子
同主事　近沢恒典(報告書担当)
報告書作成指導
宮崎県文化課主査　飯田博之

3　調査の方法及び経過

細井地区遺跡群の調査対象総面積は45,500㎡である平成4年10月26日より上原第1遺跡の調査を開始、開発状況に応じて調査を進行し、平成13年2月23日に山城第1遺跡の調査を終了した。

調査の方法はいずれの調査も重機で表土を除去した後、人力で遺物包含層掘り下げ、遺構確認、遺物の採取作業を行い、測量、写真撮影を行った。

上原第１遺跡においては平成４年10月26日より平成５年３月31日にかけて調査が実施され、縄文時代の竪穴住居跡８軒、土坑４基、古墳時代の竪穴住居跡14軒、土坑１基、中世の掘立柱建物跡10軒等の出土をみた。

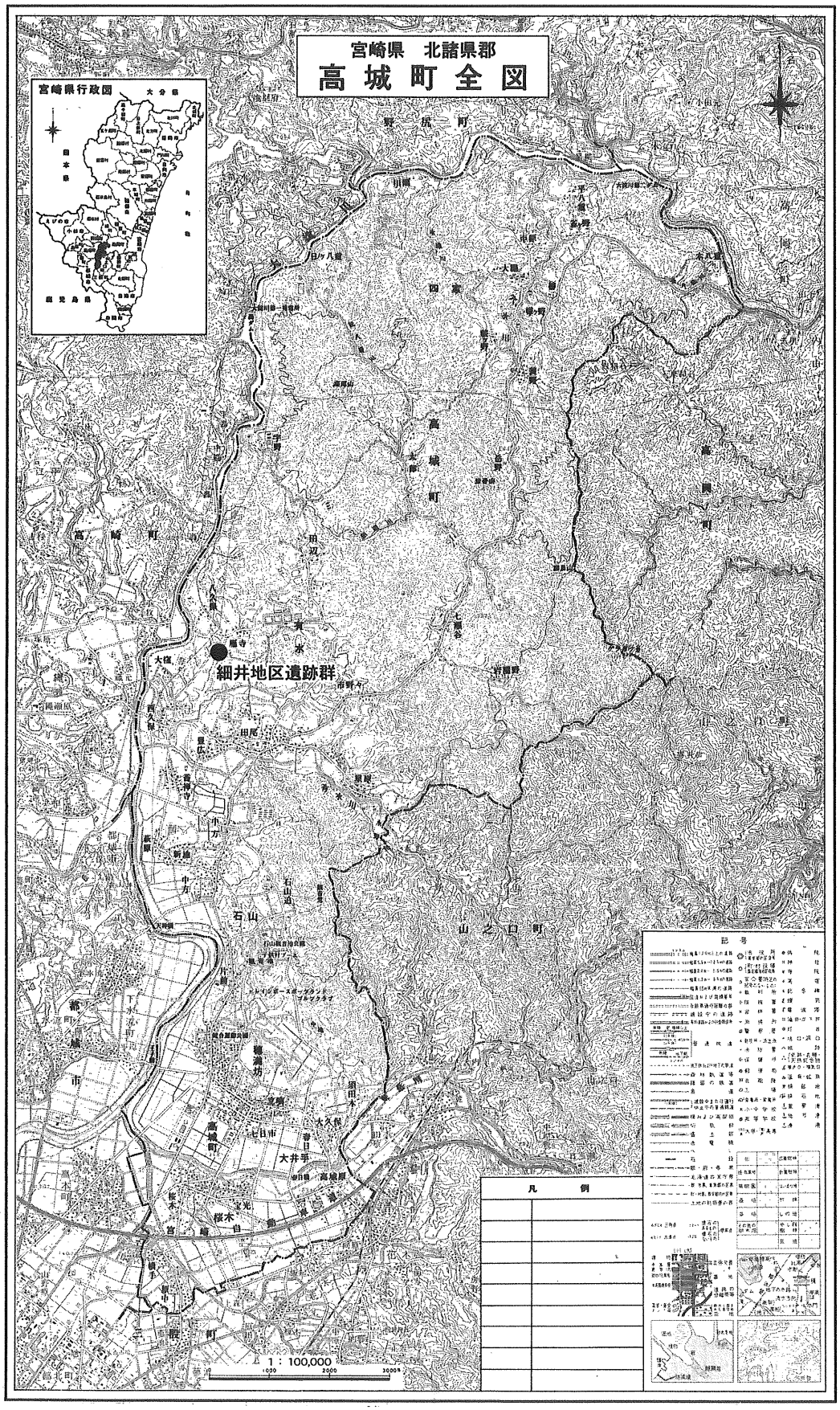
上原第２遺跡においては平成５年12月８日より平成６年３月30日にかけて調査が実施され、縄文時代の竪穴住居跡１軒、土坑12基等の出土をみた。

上原第３遺跡においては平成６年９月１日より平成７年１月20日にかけて調査が実施され、縄文時代の竪穴住居跡４軒、土坑９基等の出土をみた。

山城第１遺跡第１次調査及び雁寺第２遺跡においては平成７年９月18日より平成８年２月10日にかけて調査が実施され、縄文時代の竪穴住居跡３軒、土坑19基等の出土をみた。

山城第１遺跡第２次調査においては平成12年４月11日より６月30日にかけて調査が実施され、縄文時代の竪穴住居跡４軒、土坑１基、古墳時代の土坑１基、古代の竪穴住居跡１軒等の出土をみた。

山城第１遺跡第３次調査においては平成12年８月１日より平成13年２月23日にかけて調査が実施され、縄文時代の竪穴住居跡52軒、古墳時代の竪穴住居跡４軒、古代の掘立柱建物跡２軒等の出土をみた。



第１図　遺跡位置図（1/100,000）

4036	高取原遺跡	4037	本城第1遺跡	4038	本城第2遺跡	4039	香禅寺第2遺跡	4040	西原第1遺跡
4041	西原第2遺跡	5001	小善城址	5002	小善城遺跡	5003	蕨野遺跡	5004	大迫遺跡
5005	大久保遺跡	5006	川内口遺跡	5007	柿ヶ野遺跡	5008	小桜遺跡	5009	長崎遺跡
5010	星原第1遺跡	5011	星原第2遺跡	5012	中尾第1遺跡	5013	中尾第2遺跡	5014	田尾上第1遺跡
5015	田尾上第2遺跡	5016	塩水流遺跡	5017	木ノ下遺跡	5018	辻遺跡	5019	上別府遺跡
5020	後向第1遺跡	5021	後向第2遺跡	5022	豊広遺跡	5023	下野遺跡	5024	西久保第1遺跡
5025	西久保第2遺跡	5026	浜ヶ水遺跡	5027	大窪第1遺跡	5028	大窪第2遺跡	5029	中野第1遺跡
5030	中野第2遺跡	5031	三反田遺跡	5032	市野々第1遺跡	5033	市野々第2遺跡	5034	木所遺跡
5035	小除遺跡	5036	久井ヶ野第1遺跡	5037	久井ヶ野第2遺跡	5038	田辺第1遺跡	5039	田辺第2遺跡
5040	田辺第3遺跡	5041	田辺第4遺跡	**5058**	**上原遺跡群**	5059	雁寺第1遺跡	**5060**	**雁寺第2遺跡**
5061	雁寺第3遺跡	5062	雁寺第4遺跡	**5063**	**山城第1遺跡**	5064	山城第2遺跡	5065	八久保第1遺跡
5066	八久保第2遺跡	5067	八久保第3遺跡	5068	八久保第4遺跡				

県指定史跡

1-20	高城町古墳群第21号墳	1-21	高城町古墳群第22号墳
1-19	高城町古墳群第20号墳	1-22	高城町古墳群第23号墳

町指定文化財

6	石坂碑	7	有水備前守碑	28	香禅寺遺跡	30	須田木城址	31	三島神社

第２図　周辺遺跡図

4　遺跡の立地と環境

細井地区遺跡群は宮崎県北諸県郡高城町大字有水に所在する。

高城町は宮崎県の南西部、鹿児島県との県境である都城盆地の北西部に位置する。町南部は都城盆地へと広がる平野部であり、北部は鰐塚山地からつらなる山間部となり、都城市、高崎町、山之口町、三股町、高岡町、野尻町の1市5町に囲まれ南北に長い町域を形成している。

細井地区遺跡群は上原遺跡群及び雁寺第1遺跡、山城第1遺跡からなり、町域のほぼ中央西端に位置する。西を大淀川、南を大淀川の支流である有水川、東を有水川の支流である永山川、北を大淀川の支流である八久保川に囲まれている。当台地は鰐塚山地から連なる山地の西端から大淀川まで西方に延びる台地であり、台地縁辺には幾本もの谷が刻まれ、入り組んだ地形を形成する。

上原遺跡群は西を大淀川、南を大淀川の支流である有水川に囲まれた標高約150mの台地上に立地する。地形は台地北側が高く南に延びるに従い緩やかに下る。「町内遺跡分布調査報告」(1998　高城町教育委員会)において南北約1kmの台地上のほぼ全域が縄文時代・古墳時代・中世の遺物散布地として記録されている。台地の南側には町指定文化財として中世山城の下の城址、須田木城址があり、南側の台地下には西久保第1遺跡、第2遺跡、浜ヶ水流遺跡が確認されている。台地西側下の大淀川河川敷には大窪第1遺跡、第2遺跡、谷を挟み東側の台地上には平成10年に発掘調査が実施され平安時代の掘立柱建物跡が出土した下野遺跡が確認されている。

雁寺第2遺跡は上原遺跡群と谷を挟み標高約150mの北西側台地に立地する。東、南、西側の三方を谷によって切られ、北側は山城第1遺跡が所在する台地と続く。「町内遺跡分布調査報告」(1998　高城町教育委員会)において縄文時代・中世の遺物散布地として記録されている。北側の台地には山城第1遺跡、谷を挟み南側には上原遺跡群、谷を挟み東側には雁寺第3遺跡が確認されている。

山城第1遺跡は雁寺第2遺跡に続く標高約150mの台地上に立地する。台地北側下は大淀川の支流である八久保川となる。「町内遺跡分布調査報告」(1998　高城町教育委員会)においては縄文時代・平安時代・中世の遺物散布地として記録されている。当台地と谷を挟み西側には八久保第1遺跡、第2遺跡、東側には雁寺第3遺跡、第4遺跡、南側には雁寺第2遺跡、八久保川を越えて北側には山城第2遺跡、八久保第3遺跡が確認されている。

周辺の遺跡としては永山川東岸には県指定高城町古墳群第19号墳、第20号墳が確認され、有水川を挟んだ南には1958年に調査が実施され地下式横穴墓、地下式板石積石室が確認された香禅寺遺跡、2002年に調査が実施された石山高取原地下式横穴墓、2001年に調査が実施され竪穴住居跡、掘立柱建物跡が出土した鳥井原遺跡が確認されている。大淀川を挟んだ高崎町域では前方後円墳1基を含む高崎塚原古墳群が立地する。

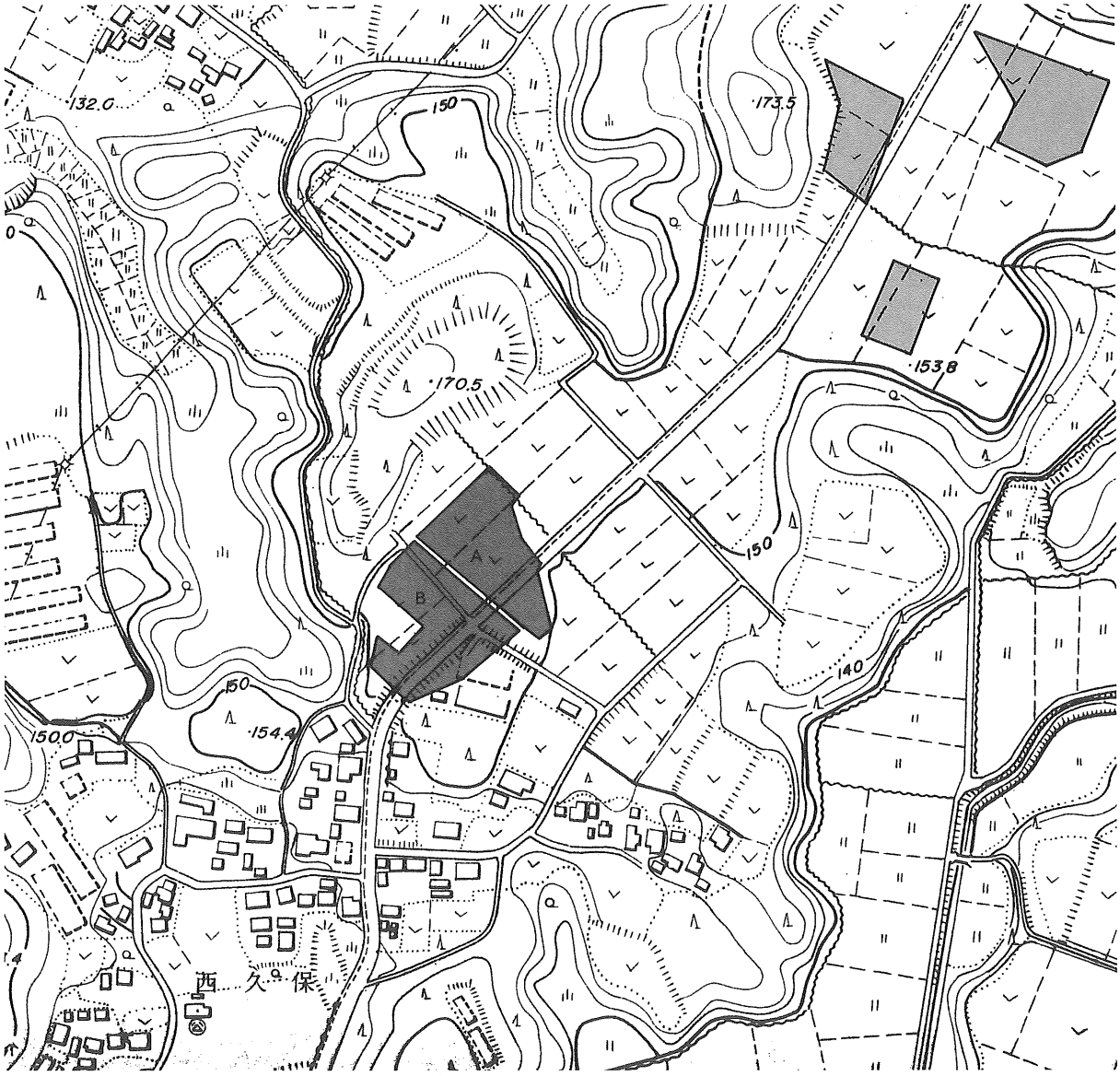
上原第1遺跡

発掘調査に至る経緯

本調査は平成4年度より平成15年度にかけて高城町大字有水において実施された、宮崎県北諸県農林振興局による細井地区県営農業基盤整備事業・平成4年度事業実施予定地における埋蔵文化財発掘調査である。平成3年より開発事業が計画され、事業予定地において宮崎県文化課面高哲郎、高城町社会教育課白谷健一による踏査及び、面高哲郎による一部試掘調査が実施された。その結果を元に協議が重ねられ平成4年10月26日より平成5年3月31日にかけて発掘調査が実施された。調査対象面積は約8,000㎡であり、調査の進行に従いA、B区の2区に設定された。また発掘調査は平成4年10月26日から11月28日までを宮崎県教育庁文化課菅付和樹氏が実施し、11月30日から平成5年3月31日までを白谷健一が担当した。

立地と環境

本調査区は上原遺跡群の所在する台地上の南端に位置する。南側は有水川沿いに広がる平野に至る



第１図　上原第１遺跡調査区位置図（1/5,000）

第２図　A区遺構分布図（1/600）

緩やかな斜面となり、北側は上原第２遺跡、第３遺跡の在する台地中央へと続く。西側には町指定史跡であり中世山城である須田木城址が確認されている。また南側の山林内には宮崎県指定史跡高城町古墳群第21・22号墳(円墳)が在する。調査区は北からA、B区に設定され、東北側が高く南西に向い大きく下がる斜面となっている。

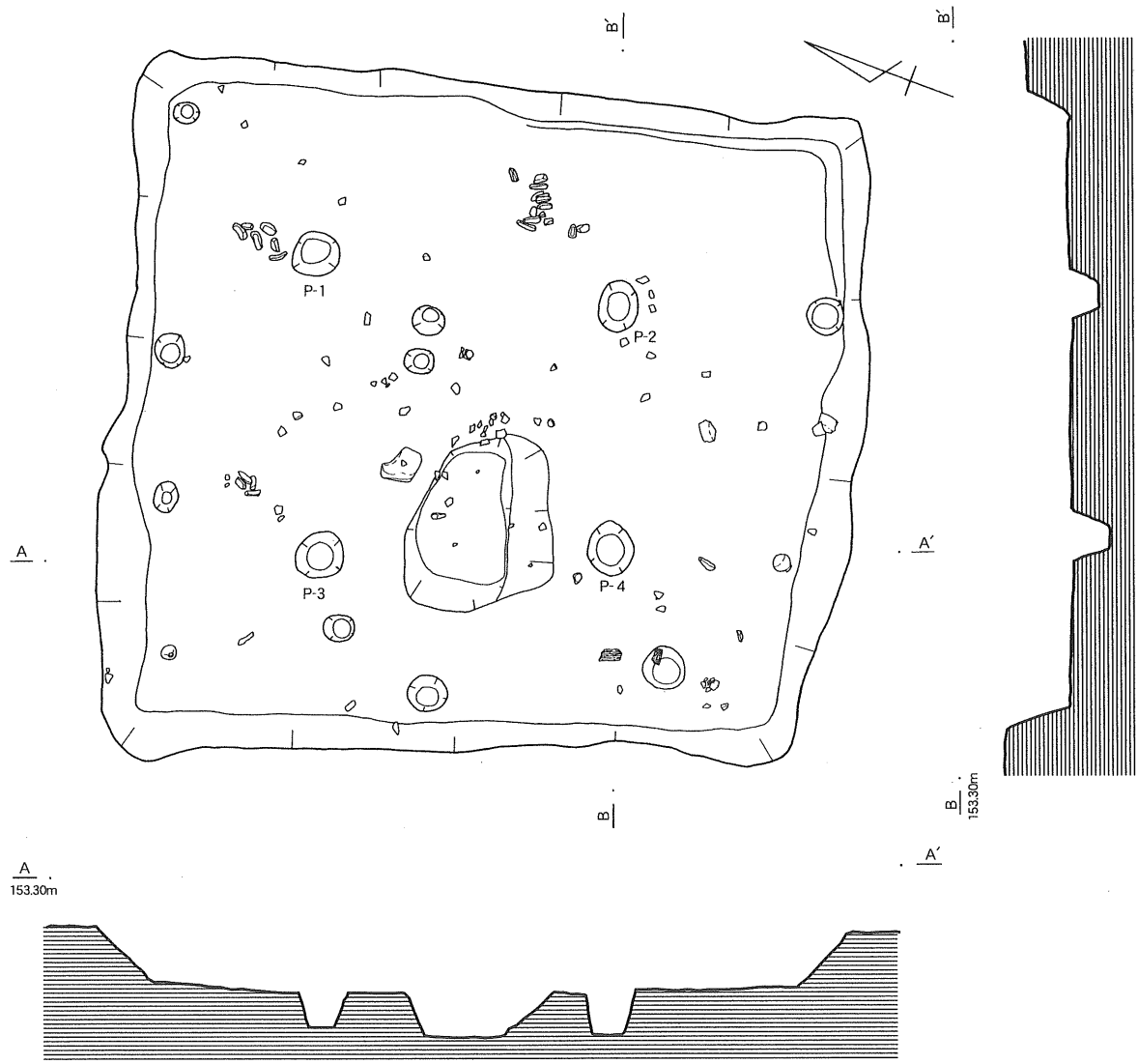
層序

本遺跡の基本土層は1層・耕作土、2層・褐色土、3層・褐色土、4層・御池軽石である。

A区の調査

層序

調査区の標高は153.50m～154.50mで、西側が高く東側に向け傾斜している。層序は1層・表土、2層・褐色土、3層・褐色土、4層・御池軽石である。調査以前は畑地として利用されていた。



第３図　A区１号竪穴住居跡実測図（1/60）

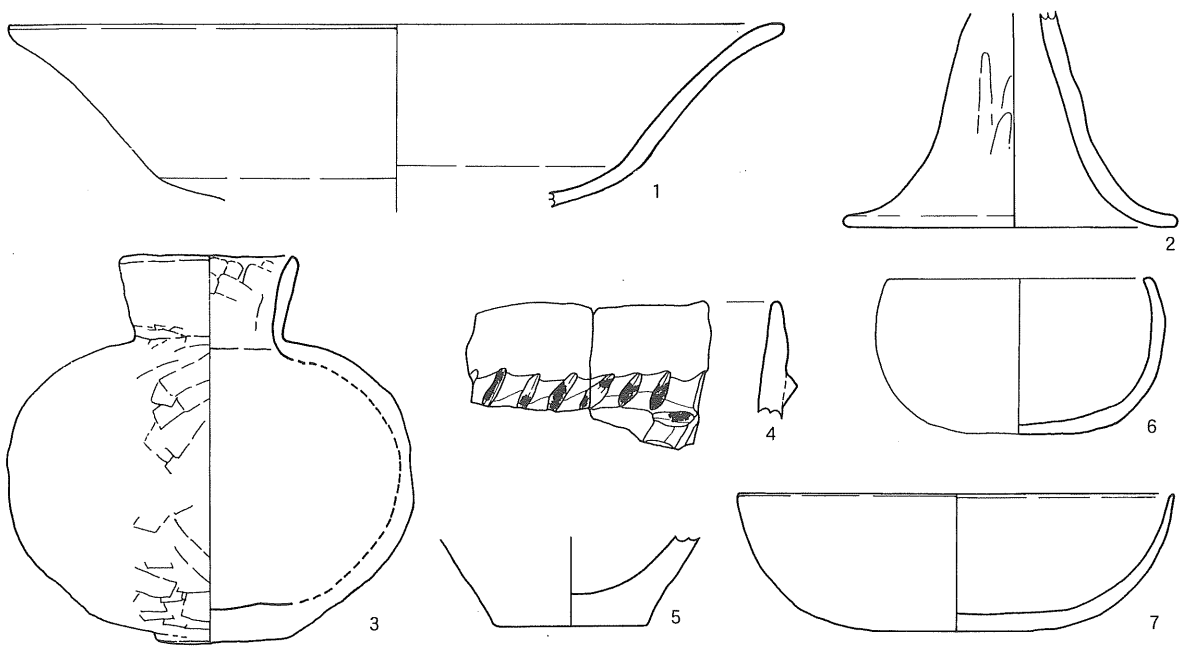
遺構と遺物

古墳時代の遺構として竪穴住居跡4軒、中世の遺構として掘立柱建物跡9軒が出土した。時期不明の遺構として竪穴住居跡1軒、溝状遺構１本のほか、多数のピットが出土した。

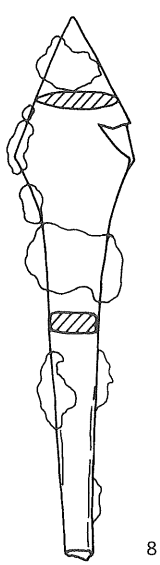
古墳時代の遺構と遺物

１号竪穴住居跡

調査区の南東隅において検出された。平面形態は方形を呈し長軸約6.2m、短軸約5.4m、検出面からの深さ約0.5mを測る。ピットは計13本が確認され、主柱穴はP-1～4の4本と考えられる。床面は平坦で、中央西側より円形を呈し、長径約1.4m、短径約1.2m、床面からの深さ約0.4mを測る土坑が検出された。住居の東側、東北側隅より敲石、磨石の集積が床面より若干高い位置にて検出された。埋土中より土師器、敲石、磨石、石皿が出土している。



第４図　A区１号竪穴住居跡出土土器実測図（1/3）



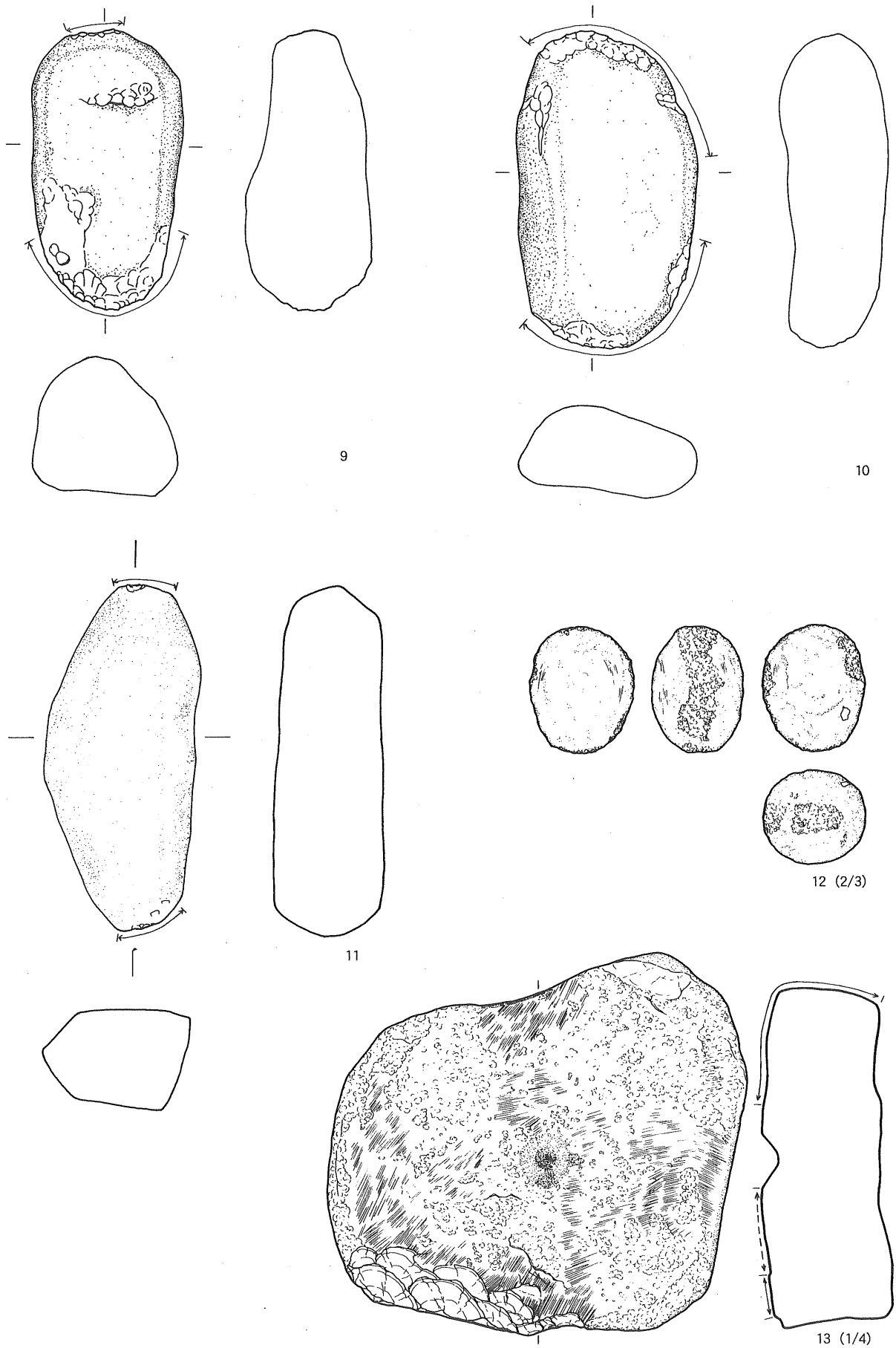
第５図　A区１号竪穴住居跡出土鉄器実測図（1/2）

１～７は土師器である。1、２は高坏である。１は坏部で受部と口縁部との境に明瞭な稜をもち、口縁部は大きく外反する。２はラッパ状に大きく開く脚部である。３は平偏球状の胴部をもつ壷で、口縁部はやや外頃する。４は甕口縁部で頸部に刻目突帯を施す。刻目は布目圧痕を有する。５は甕底部で平底である。6、７は坏である。６は広めの丸底で口縁部は内湾し、端部は平坦に仕上げる。内外面ともに赤色顔料が残る。７は丸底で開き気味に立ち上がる。

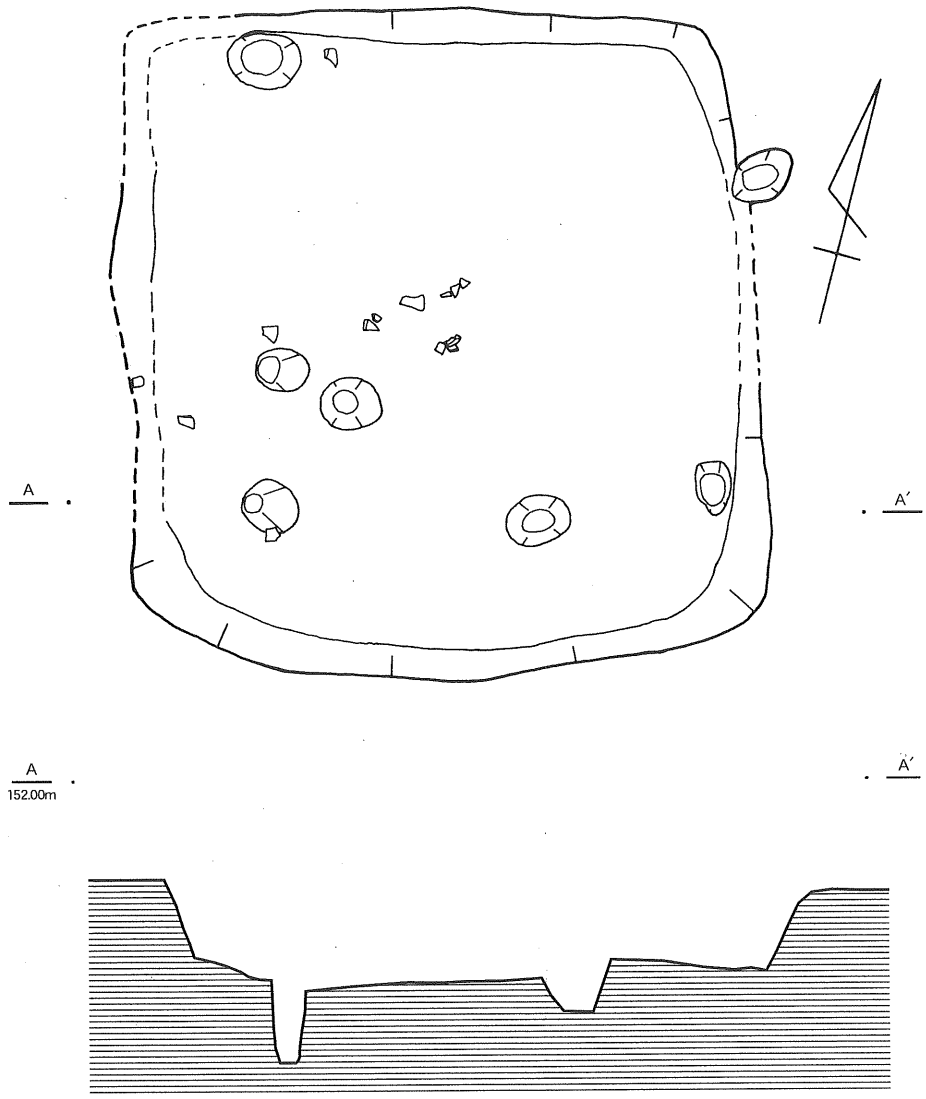
８は鉄鏃で圭頭族である。９～12は敲石で石材は砂岩である。９～11は楕円形を呈し上下端に敲打痕が残る。12は球形を呈し縁周に沿って敲打痕が残る。13は石皿で石材は砂岩である。中央に凹みをもつ。

２号竪穴住居

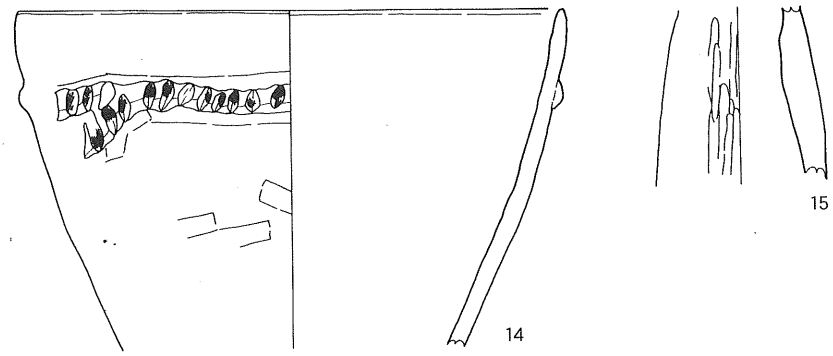
調査区のほぼ中央、3、４号竪穴住居跡の東側において検出された。平面形態は方形を呈し長軸約 2.5m、短軸約 2.4m、検出面からの



第６図　A区１号竪穴住居跡出土石器実測図（1/2）



第７図　A区２号竪穴住居跡実測図（1/40）

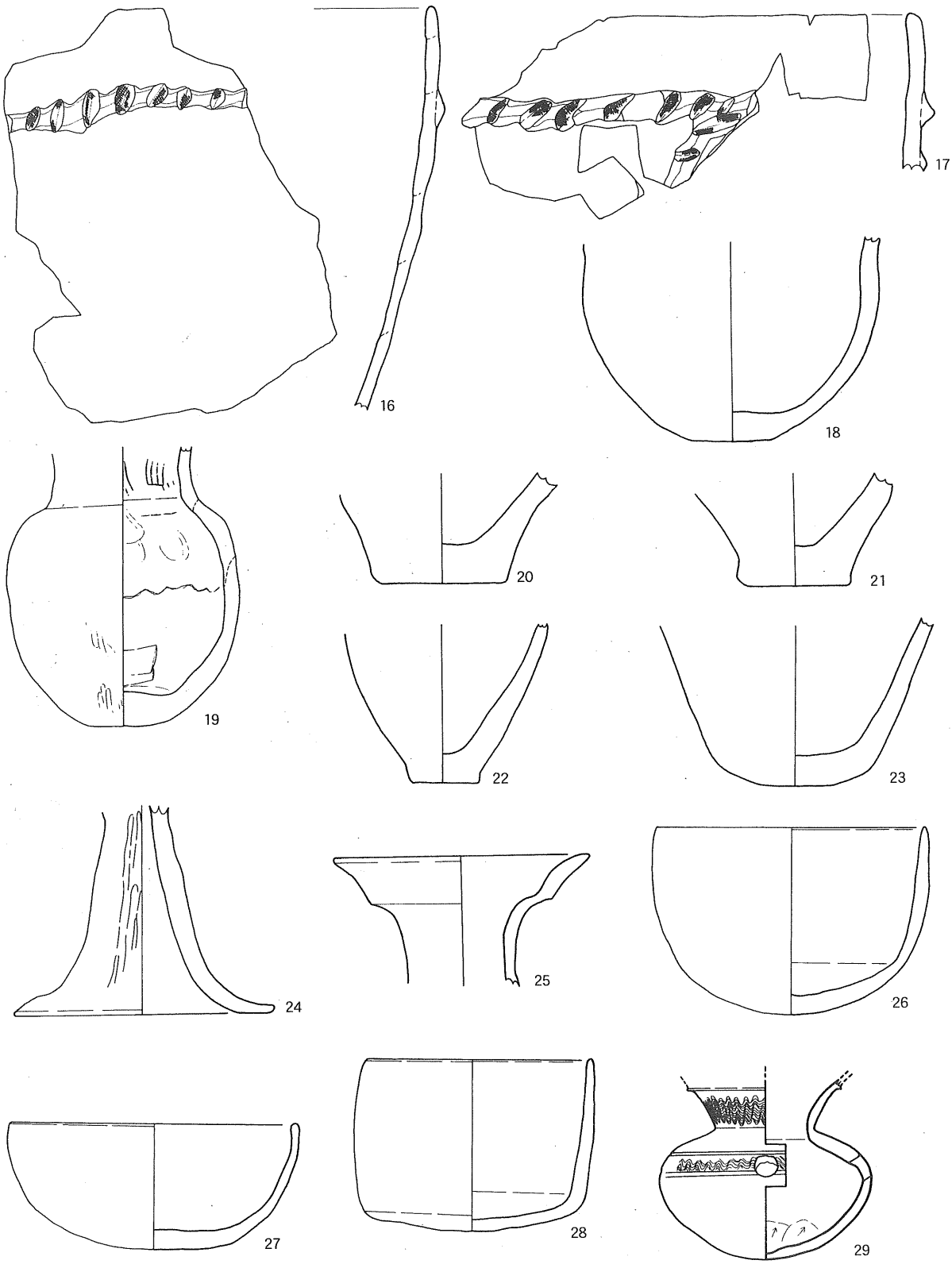


第８図　A区２号竪穴住居跡出土土器実測図（1/3）

深さ約0.4mを測る。床面は平坦で、ピットは計6本が検出された。西側隅を後世の土坑により攪乱を受けている。埋土中より土師器、砥石が出土している。

14は内湾する甕口縁部で刻目突帯を施す。刻目は布目圧痕を有する。15は直線的に若干開く高坏脚部である。

第９図　A区３号竪穴住居跡実測図（1/40）



第10図　A区３号竪穴住居跡出土土器実測図（1/3）

3号竪穴住居

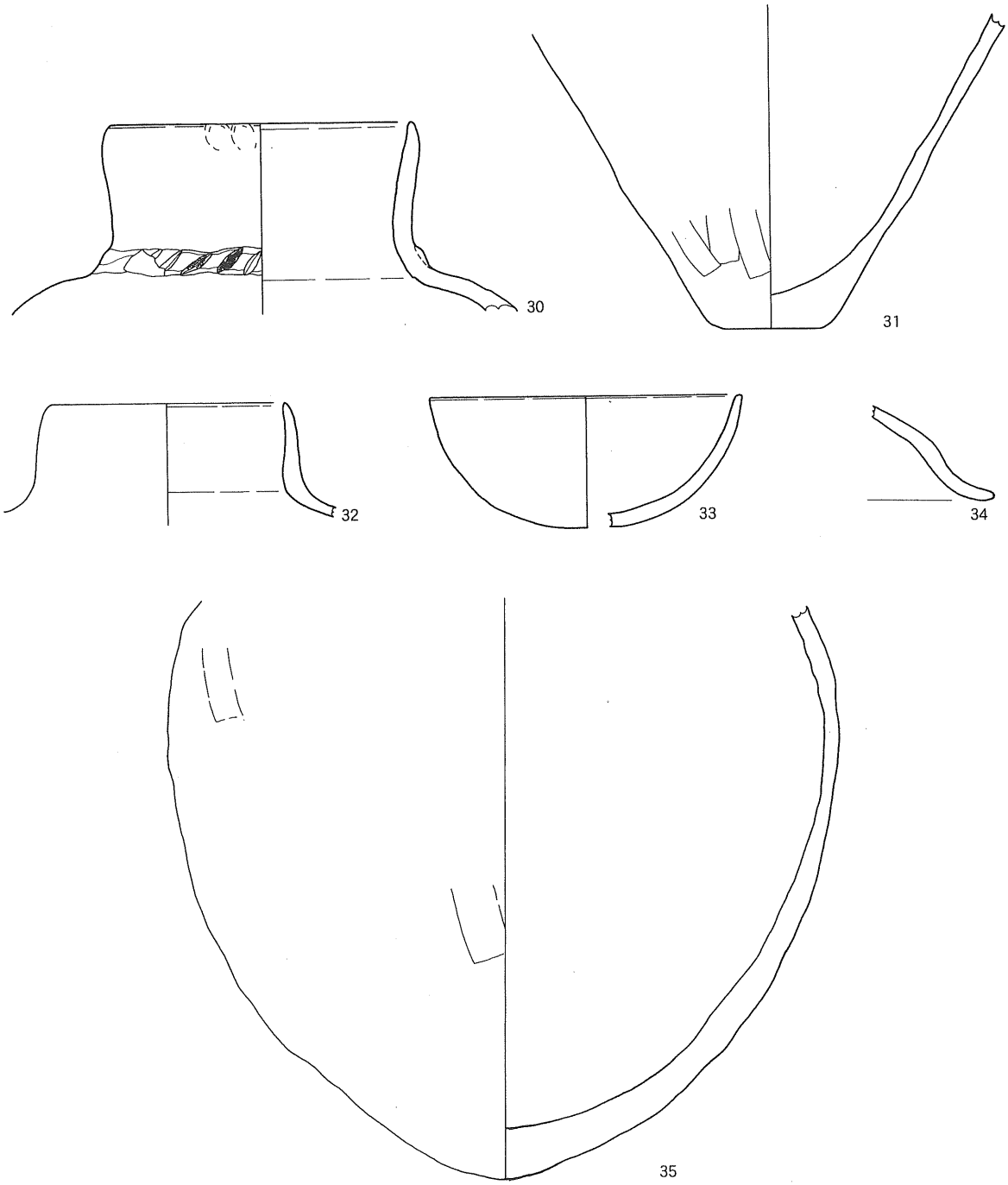
調査区のほぼ中央、2、4号竪穴住居の北側において検出された。平面形態は方形を呈し、長軸約4m、短軸約3.9m、検出面からの深さ約0.4～0.6mを測る。床面は平坦でピットは計5本が検出された。

埋土中より土師器、須恵器が出土している。ほとんどが上位からの出土であるが、22、24、25はほぼ同じ高さから出土している。

16～28は土師器である。16、17は甕口縁部である。いずれもやや内湾し布目圧痕を有する刻目突帯を施す。20～23は甕底部である。20、21は平底で側面はやや外反しながら立ち上がる。22は平底で側面はやや膨らみながら立ち上がる。23はレンズ状の平底で、側面はわずかに膨らみながら立ち上がる。19は壷で頸部の締まりは弱く、口縁部はやや外反すると考えられる。18は壷底部である。レンズ状の平底を呈し、側面は膨らみながら立ち上がる。24はラッパ状に開く高坏脚部である。25は甕口縁部と考えられる。内外面に赤色顔料を施す。26、28は広い丸底より直線的に立ち上がる椀である。いずれも赤色顔料を施す。27は底部が丸底で口縁部は内湾する坏である。赤色顔料を施す。

28は須恵器甕で肩部と口縁部とに波状文を施す。肩部に直径1.05cmの穿孔をもつ。

第11図　A区４号竪穴住居跡実測図（1/60）

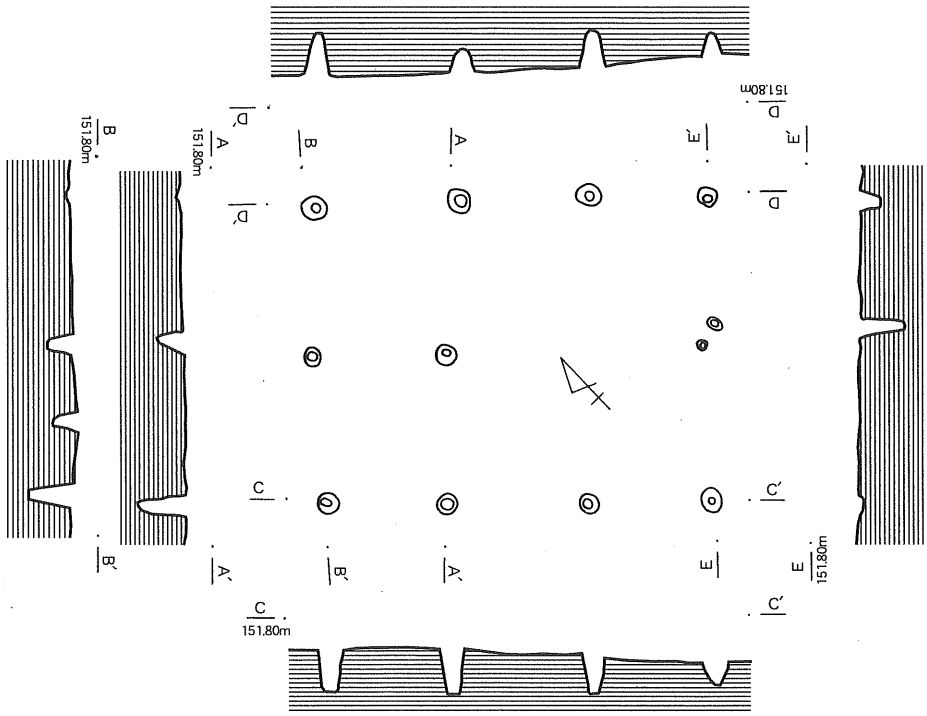


第12図　A区４号竪穴住居跡出土土器実測図（1/3）

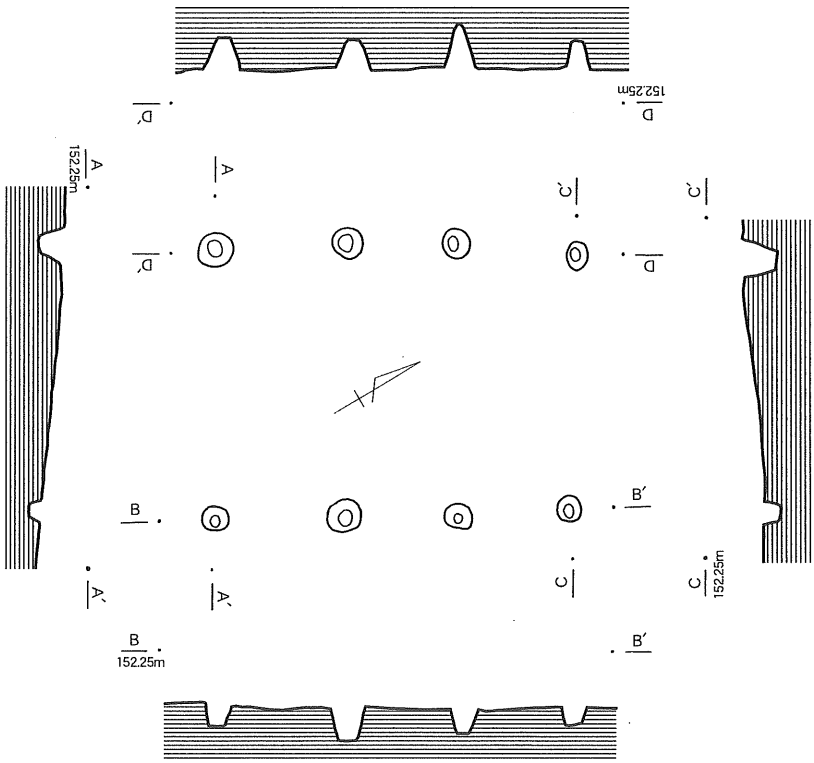
4号竪穴住居

調査区のほぼ中央部、3号竪穴住居の東側において検出された。平面形態は方形を呈し、長軸約6m、短軸約5m、検出面からの深さは約0.1～0.2mを測る。床面はほぼ平坦でピットは計10本が検出され、主柱穴はP-1～4の4本と考えられる。床面付近より土師器が出土している。

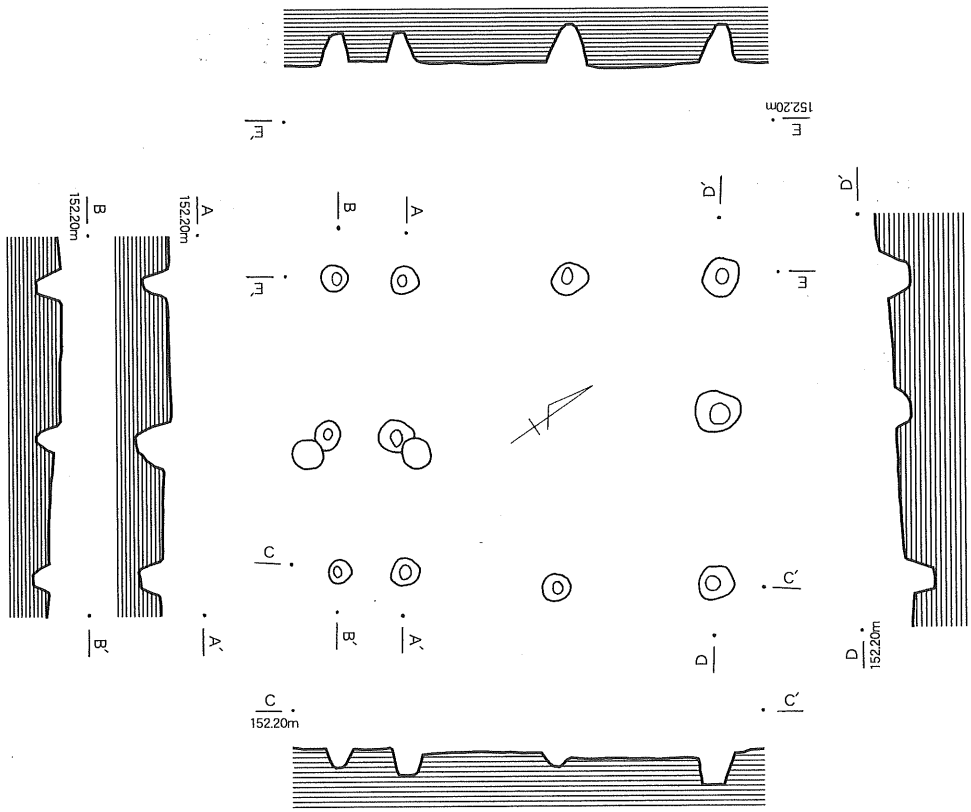
30は布目圧痕を有する刻目突帯を頸部にもつ壷で、口縁部はやや外反する。32はやや内湾する口縁部、35は球形胴で尖底気味の丸底底部をもつ壷である。31は甕底部で平底である。33は丸底で口縁部がやや開きながら立ち上がる坏である。34は高坏裾部で脚部と裾端部との間に明瞭な稜をもち、端部は外反する。



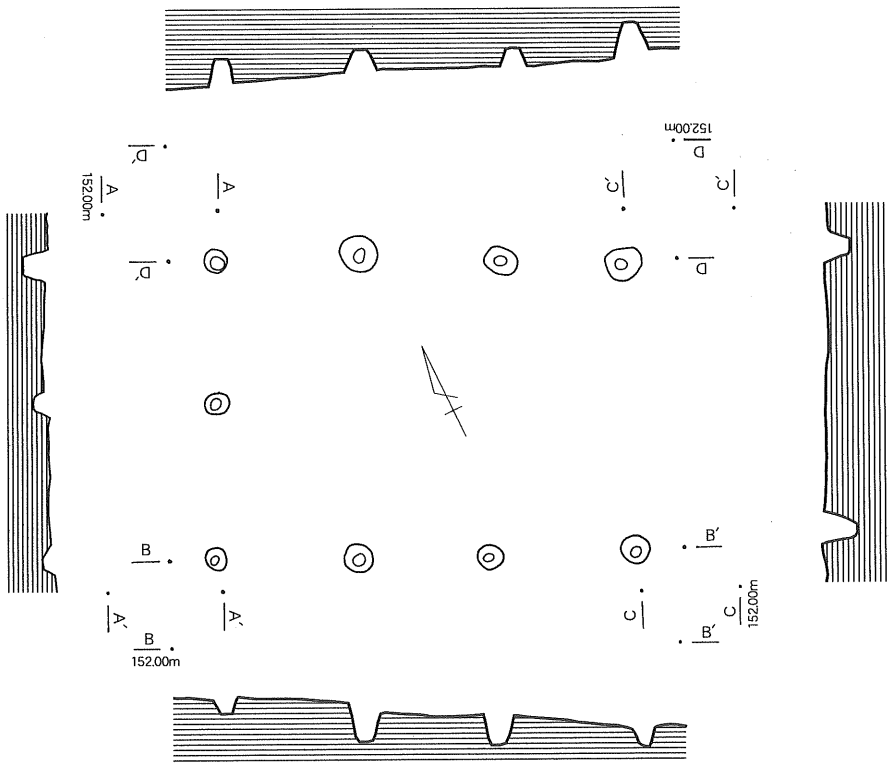
第13図　A区１号掘立柱建物跡実測図（1/100）



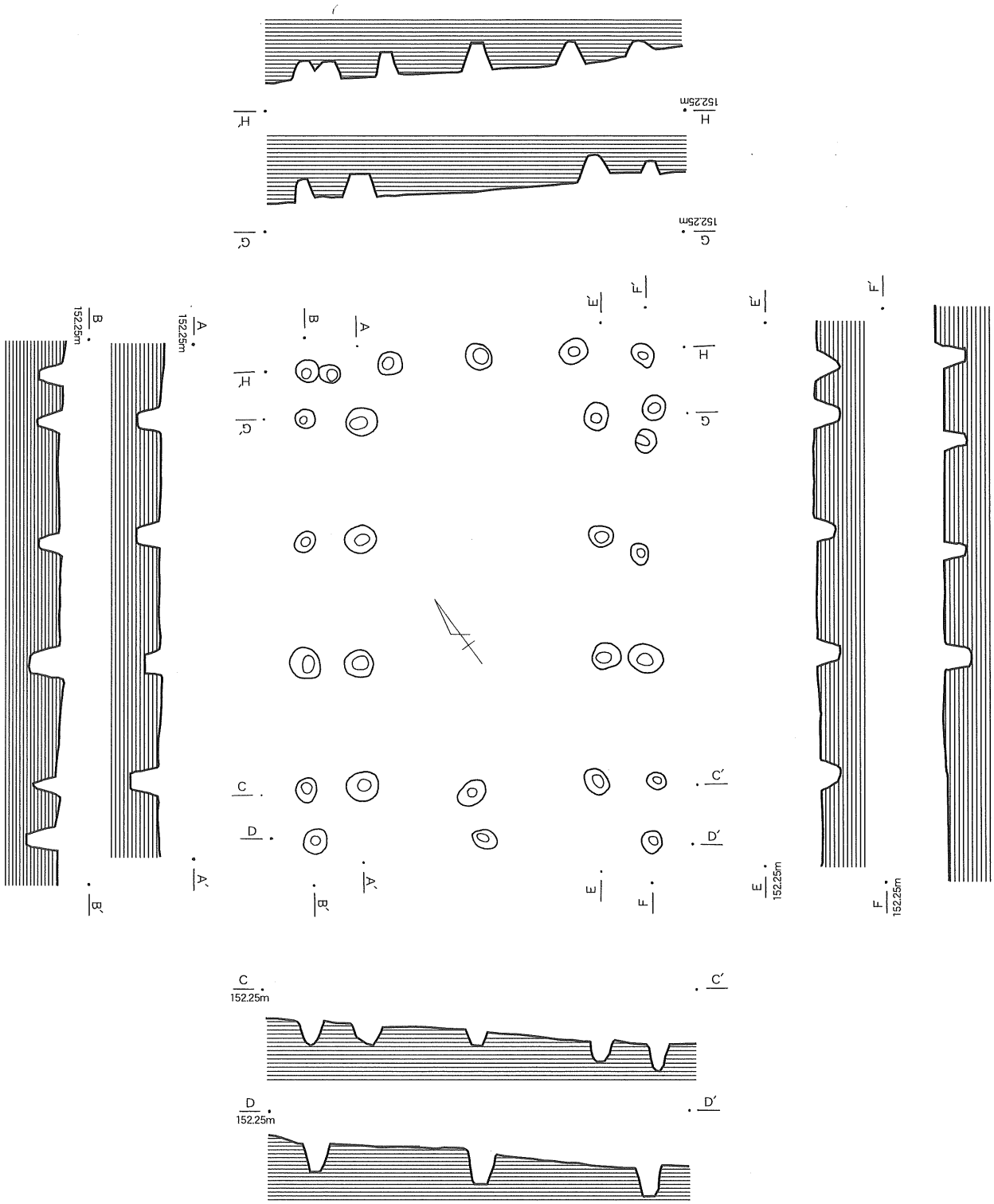
第14図　A区２号掘立柱建物跡実測図（1/100）



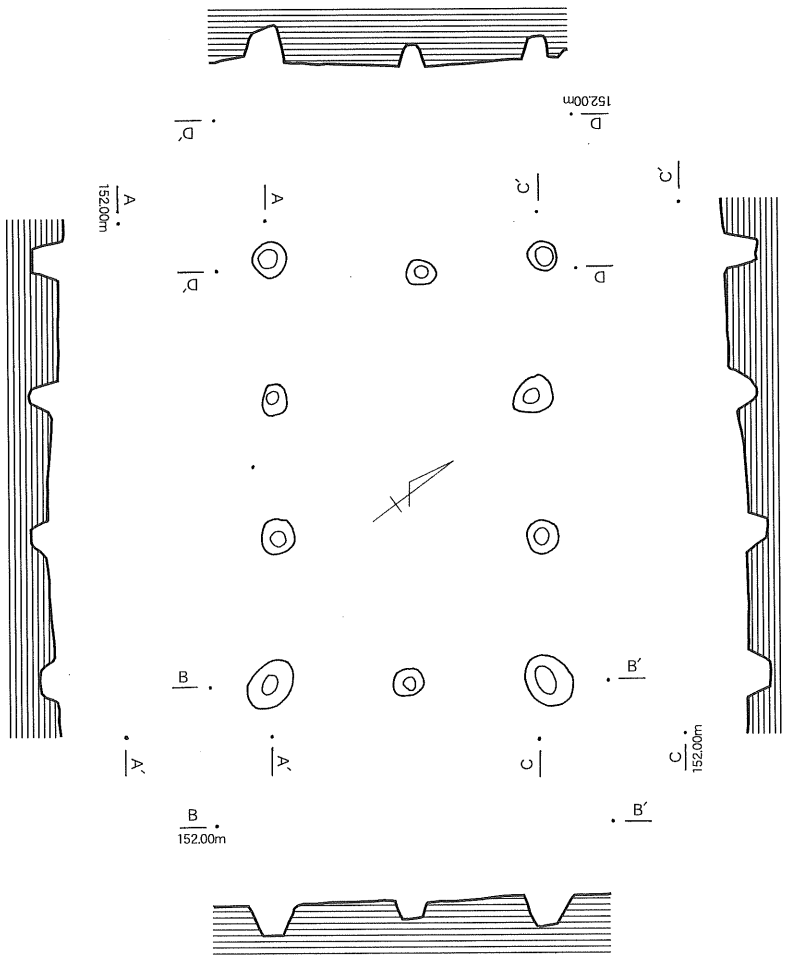
第15図　A区３号掘立柱建物跡実測図（1/100）



第16図　A区４号掘立柱建物跡実測図（1/100）



第17図　A区５号掘立柱建物跡実測図（1/100）



第18図　A区６号掘立柱建物跡実測図（1/100）

中世の遺構

1号掘立柱建物跡

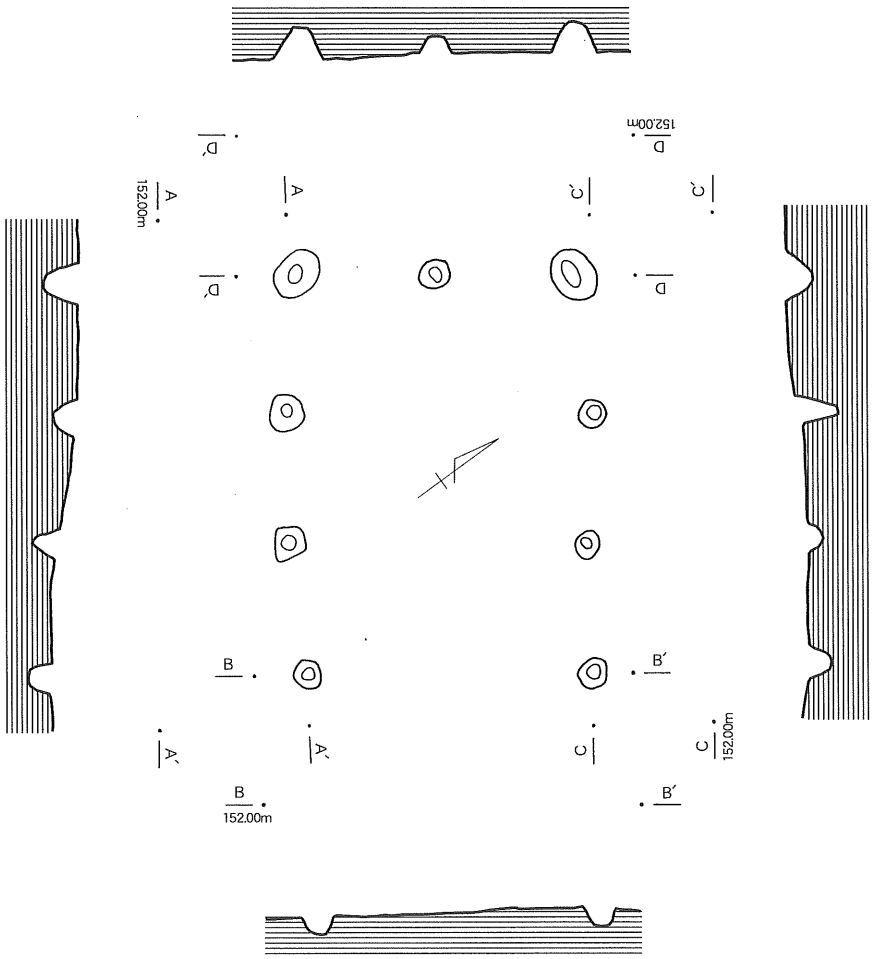
調査区の北西隅において検出された。主軸方向はN－44°－Wをとる。2間×3間の中抜け側柱式の掘立柱建物になると考えられ、梁行約4m、桁行約5.2mを測る。柱穴の平面形態は円形を呈し、直径は約30～16cm、検出面からの深さは約60～20cmを測る。

2号掘立柱建物跡

調査区のほぼ中央北西側において検出された。3号掘立柱建物跡と重複する。主軸方向はN－61°－Eをとる。1間×3間の側柱式の掘立柱建物になると考えられ、梁行約3.5m、桁行約4.7mを測る。柱穴の平面形態は円形を呈し、直径は約50～25cm、検出面からの深さは約50～30cmを測る。

3号掘立柱建物跡

調査区のほぼ中央北西側において検出された。2号掘立柱建物跡と重複する。主軸方向はN－55°－Eをとる。2間×2間の側柱式の掘立柱建物で南側に廂を持つと考えられる。身舎の梁行約3.8m、桁行約4.2mを測る。廂と身舎との間隔は約1mである。柱穴の平面形態は円形を呈し、直径は約60～35cm、検出面からの深さは約50～25cmを測る。



第19図　A区７号掘立柱建物跡実測図（1/100）

4号掘立柱建物跡

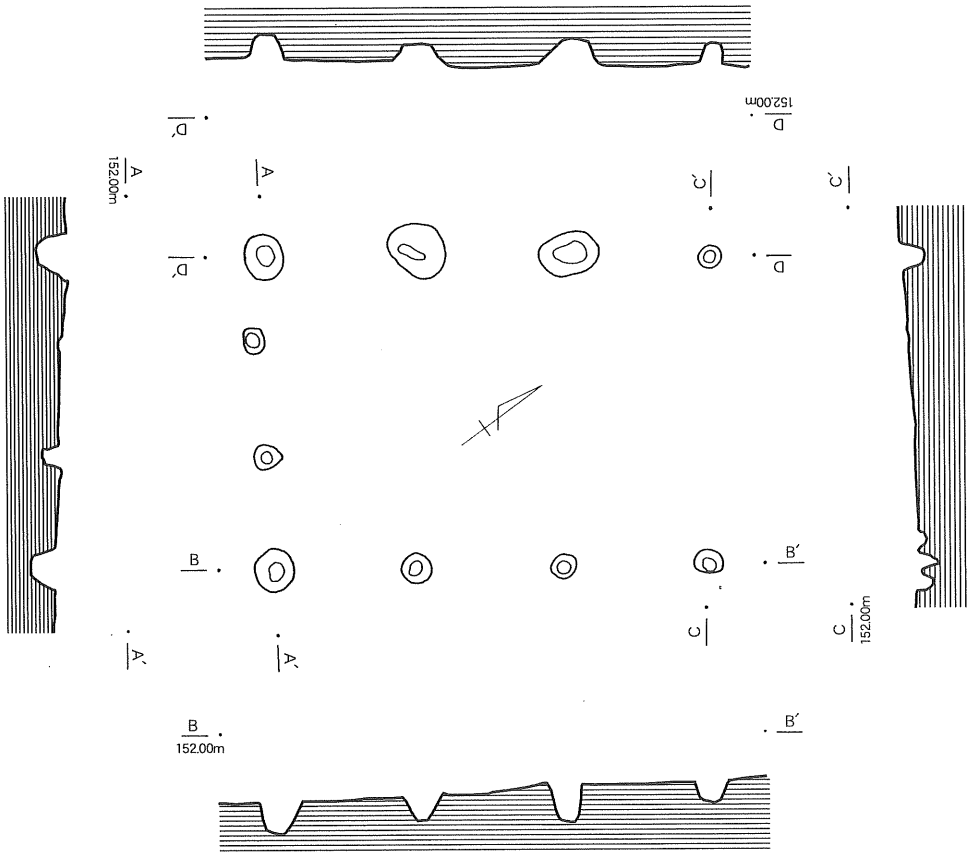
調査区のほぼ中央北側、5号掘立柱建物跡南側において検出された。主軸方向はN－64.5°－Wをとる。2間×3間の側柱式の掘立柱建物になると考えられ、梁行約4m、桁行約5.5mを測る。柱穴の平面形態は円形を呈し、直径は約50～30cm、検出面からの深さは約50～30cmを測る。

5号掘立柱建物跡

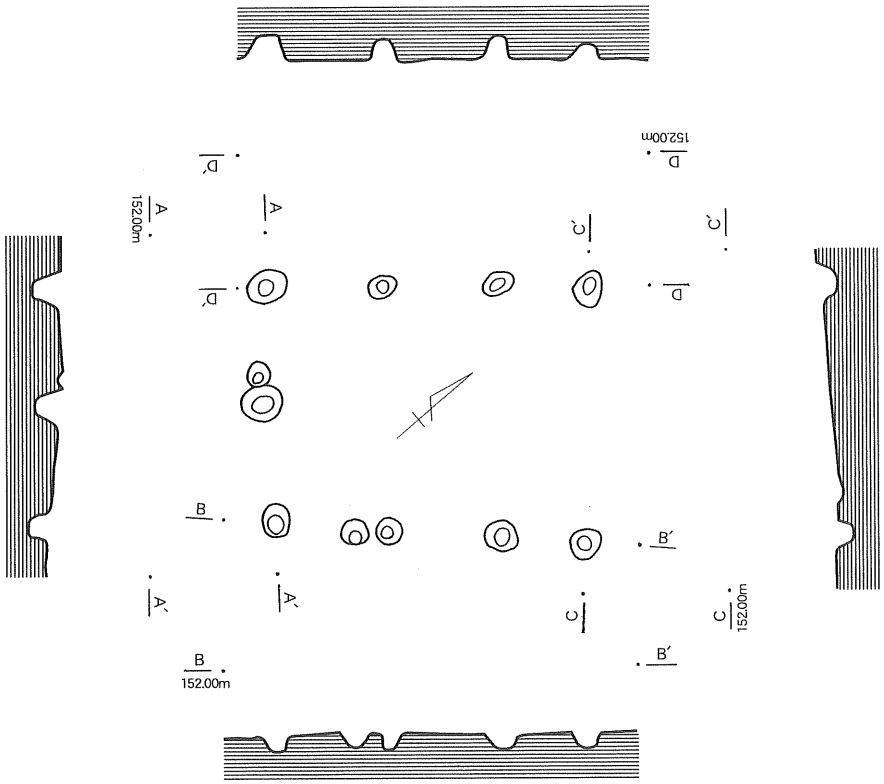
調査区の北側、2、3号掘立柱建物跡の北東側において検出された。6号掘立柱建物跡と重複し、ピットの一部が切り合っている。主軸方向はN－37°－Eをとる。2間×3間の側柱式の掘立柱建物で4面に廂をもつと考えられる。身舎の梁行約3.9m、桁行約6mを測る。廂と身舎との間は北東面が約1m、東南面が約0.7m、南西面が約1m、西北面が約0.95mを測る。柱穴の平面形態は円形及び楕円形を呈し、直径は約30～16cm、検出面からの深さは約60～20cmを測る。

6号掘立柱建物跡

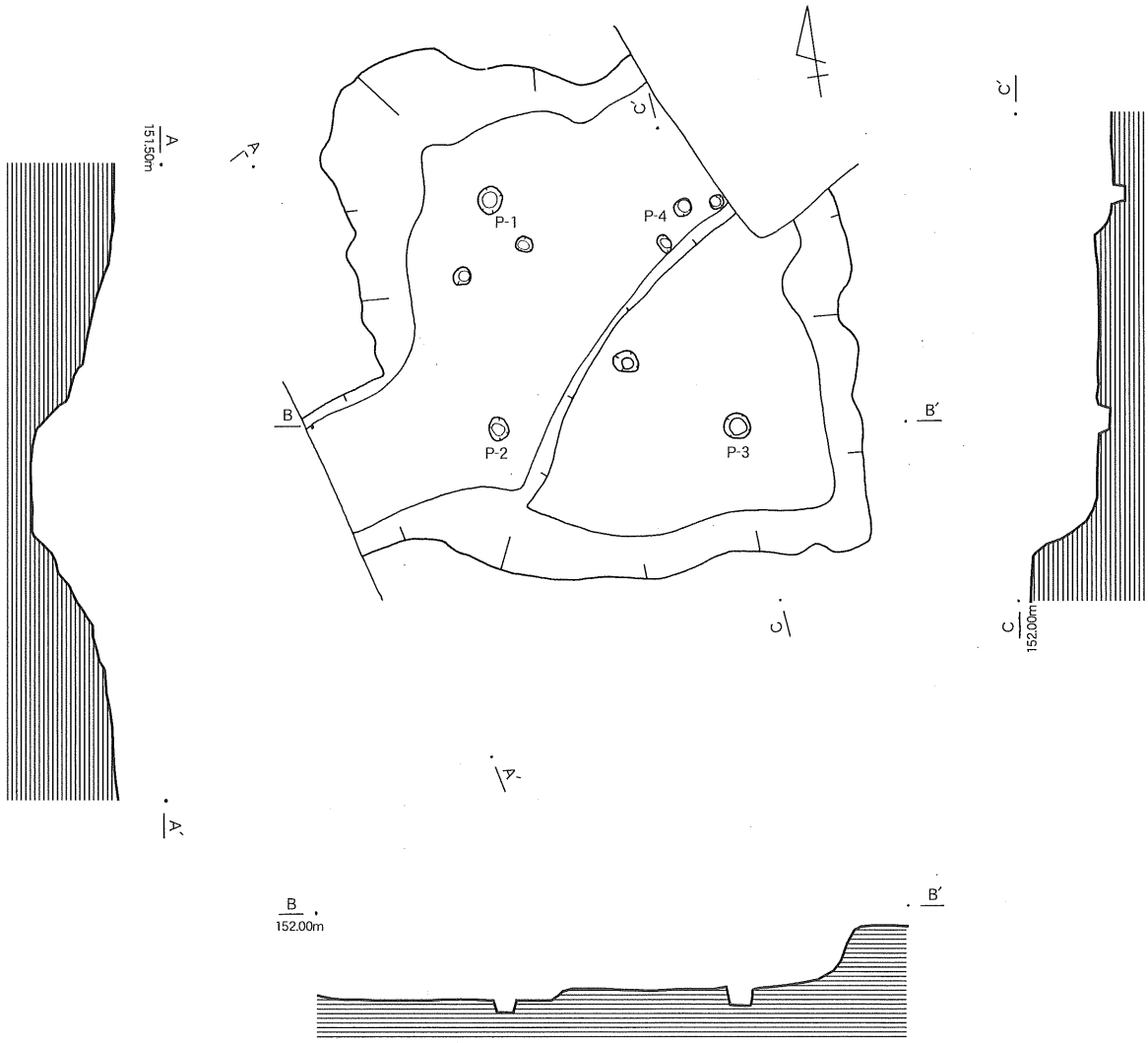
調査区の北側において検出された。5、7号掘立柱建物跡と重複し、ピットの一部が切り合っている。主軸方向はN－54°－Wをとる。2間×3間の側柱式の掘立柱建物になると考えられる。梁行約3.65m、桁行約5.5mを測る。柱穴の平面形態は円形及び楕円形を呈し、直径は約60～30cm、検出面からの深さは約40～25cmを測る。



第20図　A区８号掘立柱建物跡実測図（1/80）



第21図　A区９号掘立柱建物跡実測図（1/100）



第22図　A区５号竪穴住居跡及び１号溝状遺構実測図（1/100）

7号掘立柱建物跡

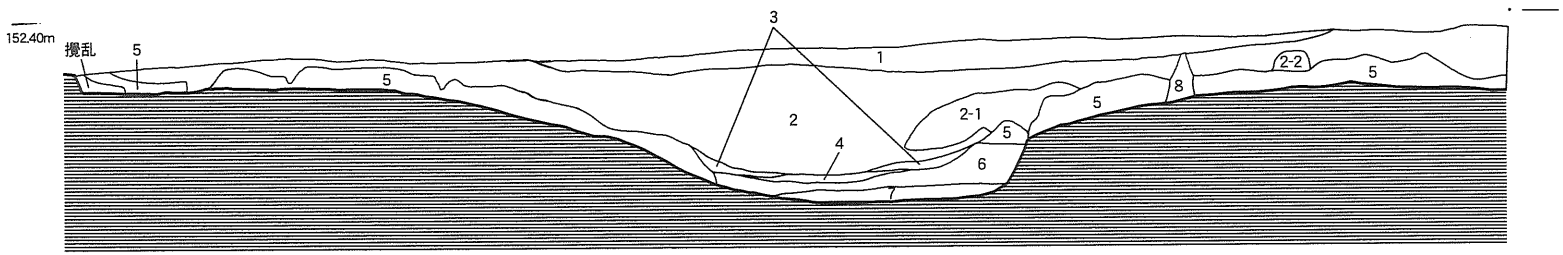
調査区の北側において検出された。6号掘立柱建物跡と重複し、ピットの一部が切り合っている。主軸方向はN－54°－Wをとる。2間×3間の側柱式の掘立柱建物になると考えられ、梁行約4.25m、桁行約5.3mを測る。柱穴の平面形態は円形及び楕円形を呈し、直径は約50～30cm、検出面からの深さは約50～20cmを測る。

8号掘立柱建物跡

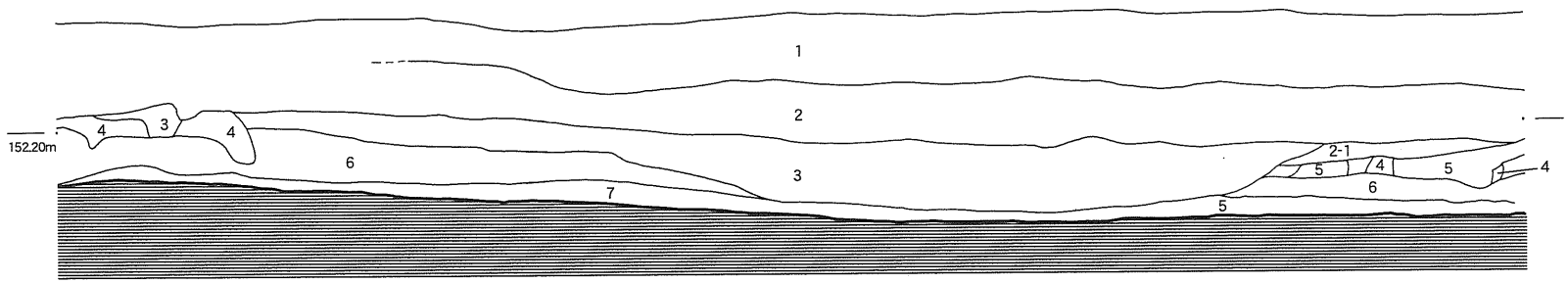
調査区の北側において検出された。6、7号掘立柱建物跡の北東側に位置する。主軸方向はN－37.5°－Eをとる。1間×3間の側柱式の掘立柱建物になると考えられ、梁行約4m、桁行約5.75mを測る。柱穴の平面形態は円形及び楕円形を呈し、直径は約80～35cm、検出面からの深さは約45～25cmを測る。

9号掘立柱建物跡

調査区の北側において検出された。8号掘立柱建物跡の東側に位置する。主軸方向はN－41°－Eをとる。2間×3間の側柱式の掘立柱建物になると考えられ、梁行約3.4m、桁行約4.3mを測る。柱穴の平面形態は円形を呈し、直径は約55～35cm、検出面からの深さは約30～25cmを測る。



第23図　A区１号溝状遺構土層図１（1/80）



第24図　A区１号溝状遺構土層図２（1/80）

1号溝状遺構土層１
1　褐色土　御池軽石をやや多く含む。しまりが弱い。
2　褐色土　御池軽石を多く含む。1層に比べ詰まっている。
2-1　暗褐色土　色調は2層と同一だが、黄が強い。
2-2　黒褐色土　御池軽石層に近いが、褐色土が混じる。
3　黒色土　褐色が強く、色調は、2層に近い。粘質。
4　黒色土　御池軽石を多く含む。色調は3層とほぼ同じ。粘質。
5　御池ボラ
6　黒色土　上層ほど御池軽石が多く、下層ほど赤みが強い。粘質。
7　アカホヤ火山灰
8　黒色土　しまりがない。

1溝状遺構土層２
1　耕作土
2　褐色土　御池軽石を少量含む。しまりが弱い。
3　褐色土　御池軽石を多く含む。粘質。
3-1　黒褐色土　3層に比べ色調が暗い。
4　御池ボラ
5　黒色土　御池軽石を多く含む。
6　黒色土　御池軽石を多く含む。粘性。
7　アカホヤ火山灰

その他の遺構

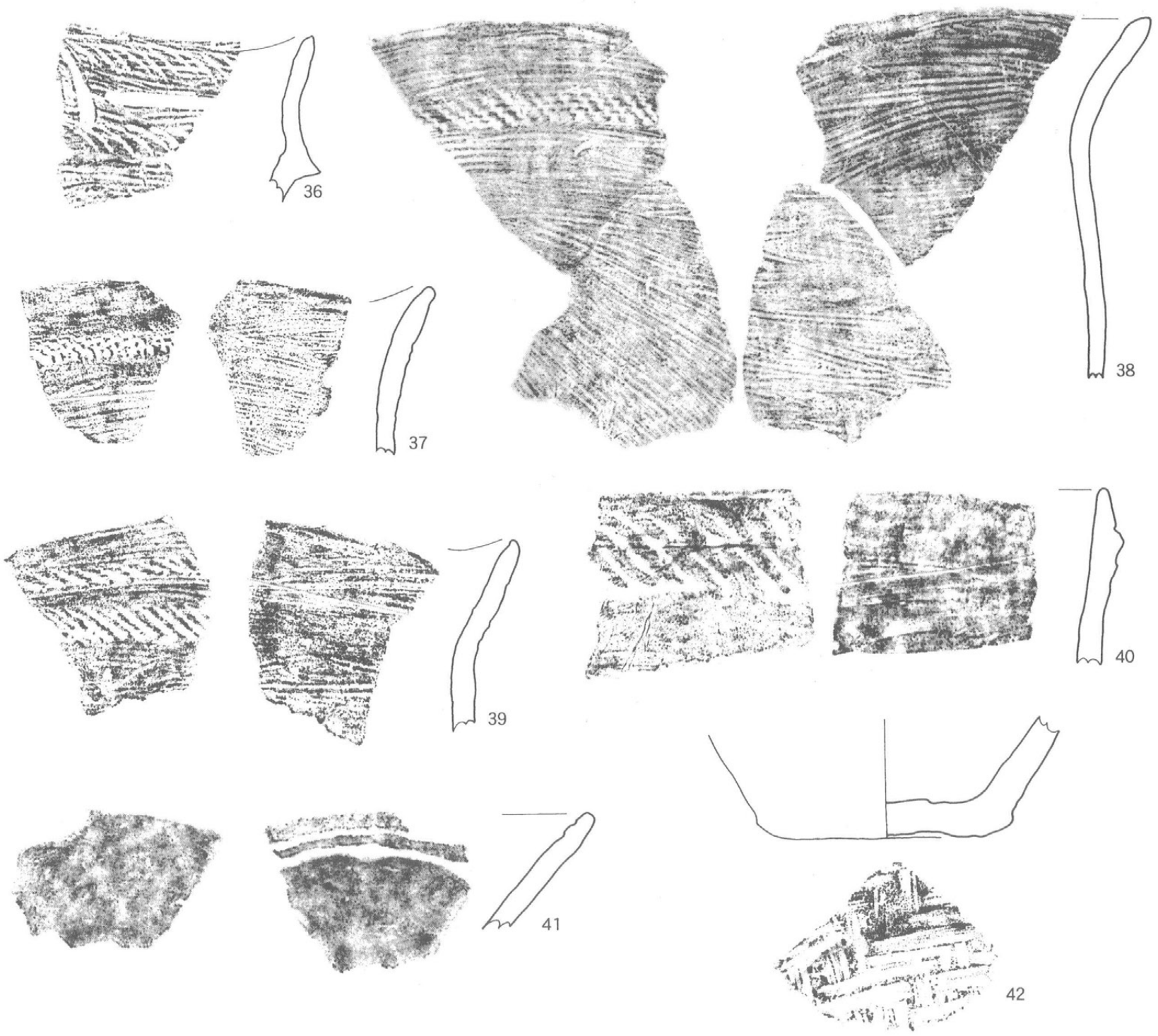
5号竪穴住居跡

調査区ほぼ中央北側において検出された。平面形は方形を呈し軸長約6.5m、検出面からの深さ約0.5mを測る。ピットは計9本検出され、主柱穴はP-1～4の4本と考えられる。

北東から南西にかけ半分以上が1号溝状遺構と切り合っている。

1号溝状遺構

調査区の北西部において検出された。北東方向から南西方向にかけて調査区をほぼまっすぐに横切る。溝全体の調査は実施されておらず4本のトレンチによる調査である。A区のほぼ中央北側において5号竪穴住居跡と切り合っている。溝底レベルは地形に合わせ、北東方向から南西方向にむけて約1.77m下がる。



第25図　A区包含層出土土器拓影図（1/3）

表1　上原第1遺跡A区出土遺物観察表

単位：cm

No.	出土位置	種別	器種	法量(上：土器　下：石器)			手法・文様		色調		胎土	備考
				口径	底径	器高						
				最大長	最大幅	最大厚	外器面	内器面	外面	内面		
1	1号住居	土師器	高坏	30.5			ナデ。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm程度の茶褐色粒ごく微量。白色・黒色粒子ごく微量。	
2	1号住居	土師器	高坏		13		ミガキ。赤色顔料。	ナデ。	にぶい黄橙	褐灰	白色・黒色・茶褐色粒子微量。	
3	1号住居	土師器	壷	7.2	15.4	5	ナデ。工具痕。	ナデ。工具痕。	浅黄橙	にぶい黄橙	1～3mmの白色・黒色・茶褐色粒ごく少量。	
4	1号住居	土師器	甕				刻目突帯。ナデ。スス付着。	ナデ。	褐色	浅黄橙	1mm程度の石英粒微量。1～2mmの黒色・茶褐色粒ごく少量。	
5	1号住居	土師器	甕				ナデ。	ナデ。	明褐	黒褐	1mm程度の白色粒ごく少量。	
6	1号住居	土師器	坏	10	6.5	6	ミガキ?。赤色顔料。	ミガキ。赤色顔料。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	白色・黒色・茶褐色粒子微量。	
7	1号住居	土師器	坏			4.5	ナデ。	ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1～3mmの茶褐色粒微量。白色・黒色・茶褐色粒子微量。	
8	1号住居	鉄器	鉄鏃	14	3.2	0.9						
9	1号住居	石器	敲石	9.9	5.6	3.45						321g・砂岩
10	1号住居	石器	敲石	11.1	6.4	3.7						396g・砂岩
11	1号住居	石器	敲石	12.2	5.1	4.3						406g・砂岩
12	1号住居	石器	敲石	6.65	5.5	4.8						209g・砂岩
13	1号住居	石器	石皿	29	25	8.5						12.5kg・砂岩
14	2号住居	土師器	甕				刻目突帯。板ナデ。ナデ。	板ナデ。ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1～2mmの白色・黒色・茶褐色粒ごく少量。	
15	2号住居	土師器	高坏				ミガキ。	ナデ。	にぶい黄橙	褐灰	1～2mmの茶褐色粒微量。白色・黒色・茶褐色粒子微量。	
16	3号住居	土師器	甕				刻目突帯。ナデ。スス付着。	ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1～2mmの石英粒少量。1～2mmの黒色・茶褐色粒少量。	
17	3号住居	土師器	甕				刻目突帯。ナデ。スス付着。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1～2mmの石英粒少量。1～3mmの黒色・灰色・茶褐色粒少量。	
18	3号住居	土師器	甕		3.5		ハケ目。ナデ。スス付着。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1～3mmの黒色・灰色・茶褐色粒少量。	
19	3号住居	土師器	壷		3.9	14.2	ナデ。一部ミガキ。	ナデ。	灰白	浅黄橙	黒色・白色・茶褐色粒子ごく少量。	
20	3号住居	土師器	甕		6		ナデ。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1～2mmの石英粒少量。1～3mmの黒色・灰色・茶褐色粒少量。	
21	3号住居	土師器	甕		6		ナデ。	ナデ。	灰黄褐	浅黄橙	1～2mmの石英粒少量。1～3mmの黒色・灰色・茶褐色粒少量。	
22	3号住居	土師器	甕		3.5		ナデ。	ナデ。	浅黄橙	淡黄	1～2mmの黒色・茶褐色粒ごく少量。	
23	3号住居	土師器	甕		5.5		ナデ。スス付着。	ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1～2mmの石英粒少量。1～3mmの黒色・灰色・茶褐色粒少量。	
24	3号住居	土師器	高坏		13		ミガキ。	ナデ。	にぶい黄橙	褐灰	白色・黒色・茶褐色粒子微量。	
25	3号住居	土師器	甑	13			ミガキ。赤色顔料。	ミガキ。赤色顔料。	赤褐色	赤褐色	白色・黒色・茶褐色粒子微量。	
26	3号住居	土師器	椀	(14)		9.5	ミガキ。赤色顔料。	ナデ。赤色顔料。	暗赤色	にぶい黄橙	黒色・茶褐色粒子ごく微量。	
27	3号住居	土師器	坏		9		ミガキ。赤色顔料。	ミガキ。赤色顔料。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の黒色・茶褐色粒微量。	
28	3号住居	土師器	椀	11.5	11	8.6	ミガキ。	ナデ。	赤褐色	赤褐色	1mm以下の白色粒微量。	
29	3号住居	須恵器	甑				波状文。		暗青灰	暗青灰	白色粒子ごく微量。	
30	4号住居	土師器	壷	(14)			刻目突帯。ナデ。	ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1～2mmの黒色・灰色・茶褐色粒少量。	
31	4号住居	土師器	甕		4.5		板ナデ。ナデ。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1～2mmの石英粒少量。1～3mmの黒色・灰色・茶褐色粒少量。	
32	4号住居	土師器	壷	(10.6)			ナデ。	ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1～2mmの黒色・灰色・茶褐色粒少量。	
33	4号住居	土師器	坏				ナデ。	ナデ。	褐色	褐色	1～2mmの茶褐色粒ごく微量。	
34	4号住居	土師器	高坏				ナデ。	ナデ。工具痕。黒斑。	にぶい黄橙	黒褐	黒色・白色・茶褐色粒子ごく少量。	
35	4号住居	土師器	壷				板ナデ。ナデ。	ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1～2mmの黒色・灰色・茶褐色粒少量。	
36	包含層	縄文土器	深鉢				沈線文。貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	明赤褐	橙	1mm以下の白色粒少量。雲母ごく少量。	
37	包含層	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。スス付着。	貝殻条痕。ナデ。	黒褐	にぶい黄橙	1mm以下の白色・茶褐色粒ごく少量。石英粒ごく微量。	
38	包含層	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	橙	橙	1mm以下の黒色・白色粒少量。	
39	包含層	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	橙	橙	1mm以下の白色・黒色粒ごく少量。	
40	包含層	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	橙	橙	1mm以下の白色粒少量。	
41	包含層	縄文土器	浅鉢				ナデ。	沈線文。ナデ。	橙	橙	1mm以下の黒色・白色・茶褐色粒ごく少量。雲母ごく少量。	
42	包含層	縄文土器	深鉢		(10)		ナデ。網代痕。	ナデ。	にぶい橙	にぶい黄橙	1mm程度の黒色・白色・茶褐色粒ごく少量。	

第26図　B区遺構分布図（1/600）

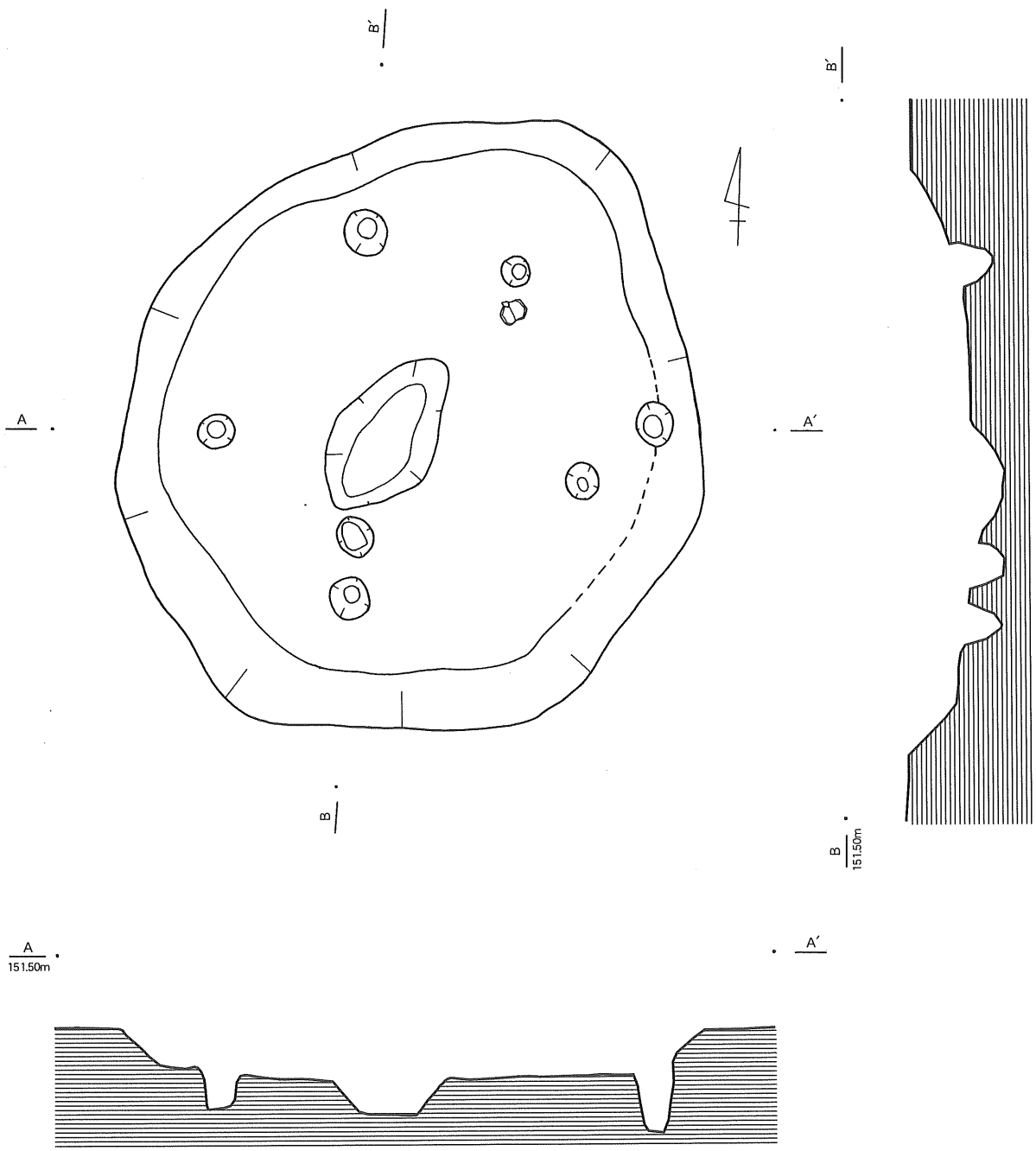
B区の調査

層序

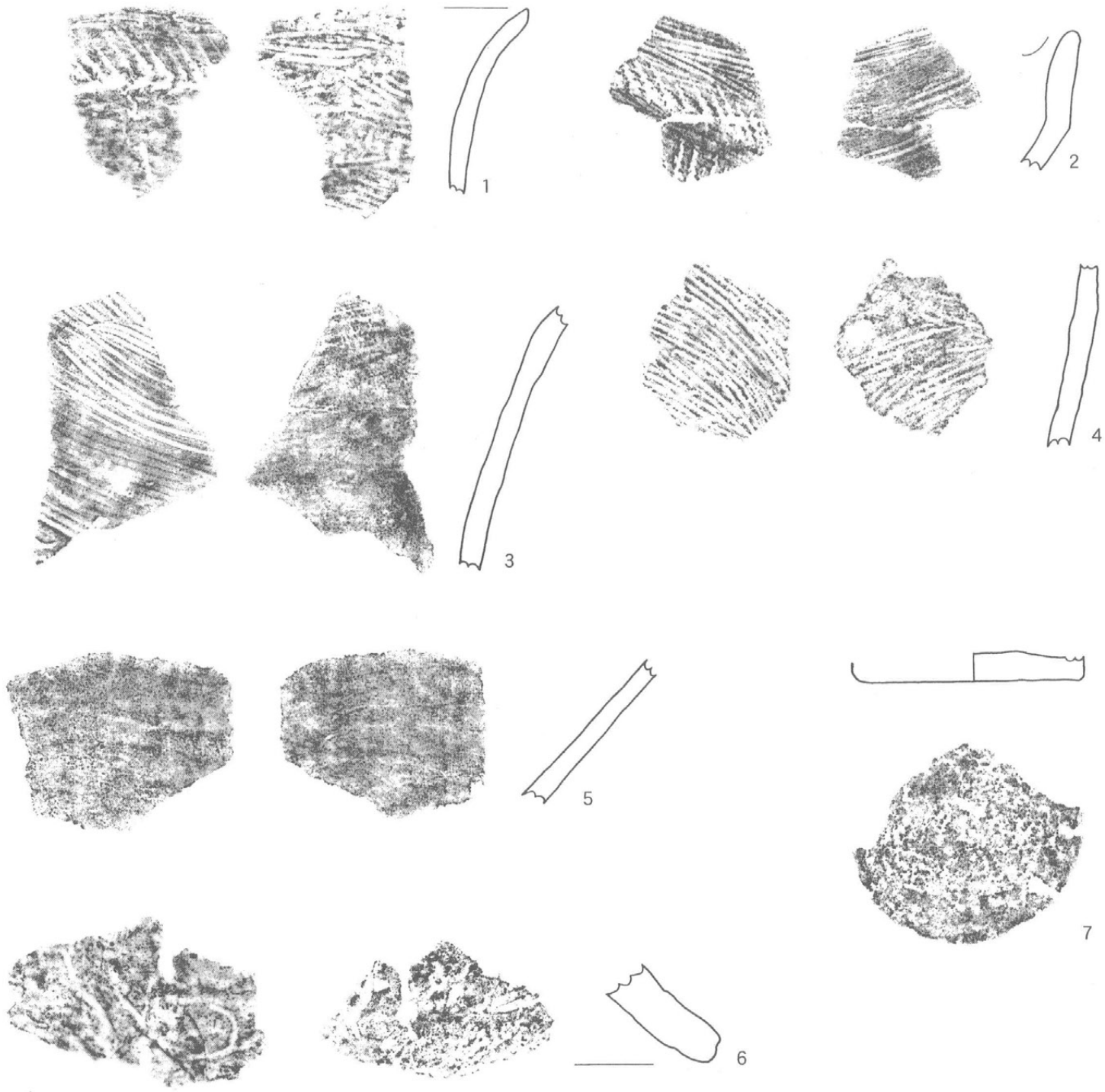
調査区の標高は153.00m～152.25mで、東北側が高く南側に向け傾斜している。層序は1層・耕作土、2層・褐色土、3層・褐色土、4層・御池軽石である。調査以前は畑地として利用されていた。

遺構と遺物

縄文時代の遺構として竪穴住居跡8軒、土坑4基、古墳時代の遺構として竪穴住居跡10軒、土坑1基、中世の遺構として掘立柱建物跡1軒、道路状遺構1本、溝状遺構2本が出土した。時期不明の遺構として土坑１基の他、多数のピットが出土している。



第27図　B区１号竪穴住居跡実測図（1/40）



第28図　B区１号竪穴住居跡出土土器拓影図（1/3）

縄文時代の遺構

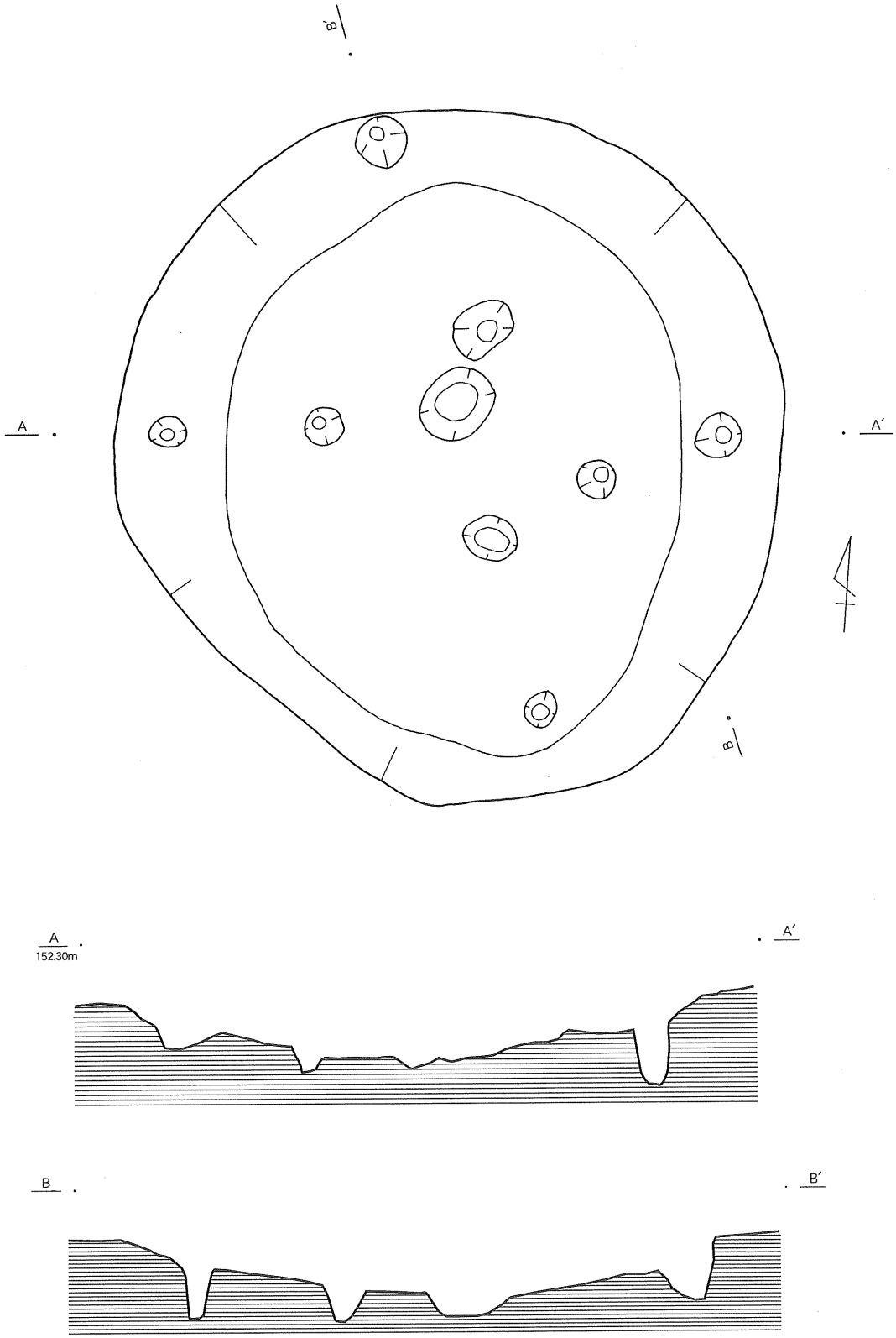
1号竪穴住居跡

調査区のほぼ中央部において検出された。17号竪穴住居跡のすぐ南側に位置する。平面形態は円形で、長径約4.2m、短径約3.5m、検出面からの深さ約.04mを測る。床面はほぼ平坦で、中央に楕円形を呈し長径約1m、短径約0.6m、床面からの深さ約0.4mの土坑をもつ。ピットは計7本が確認された。土坑周囲からは南側にピット1本が検出された。埋土中より縄文土器が出土している。

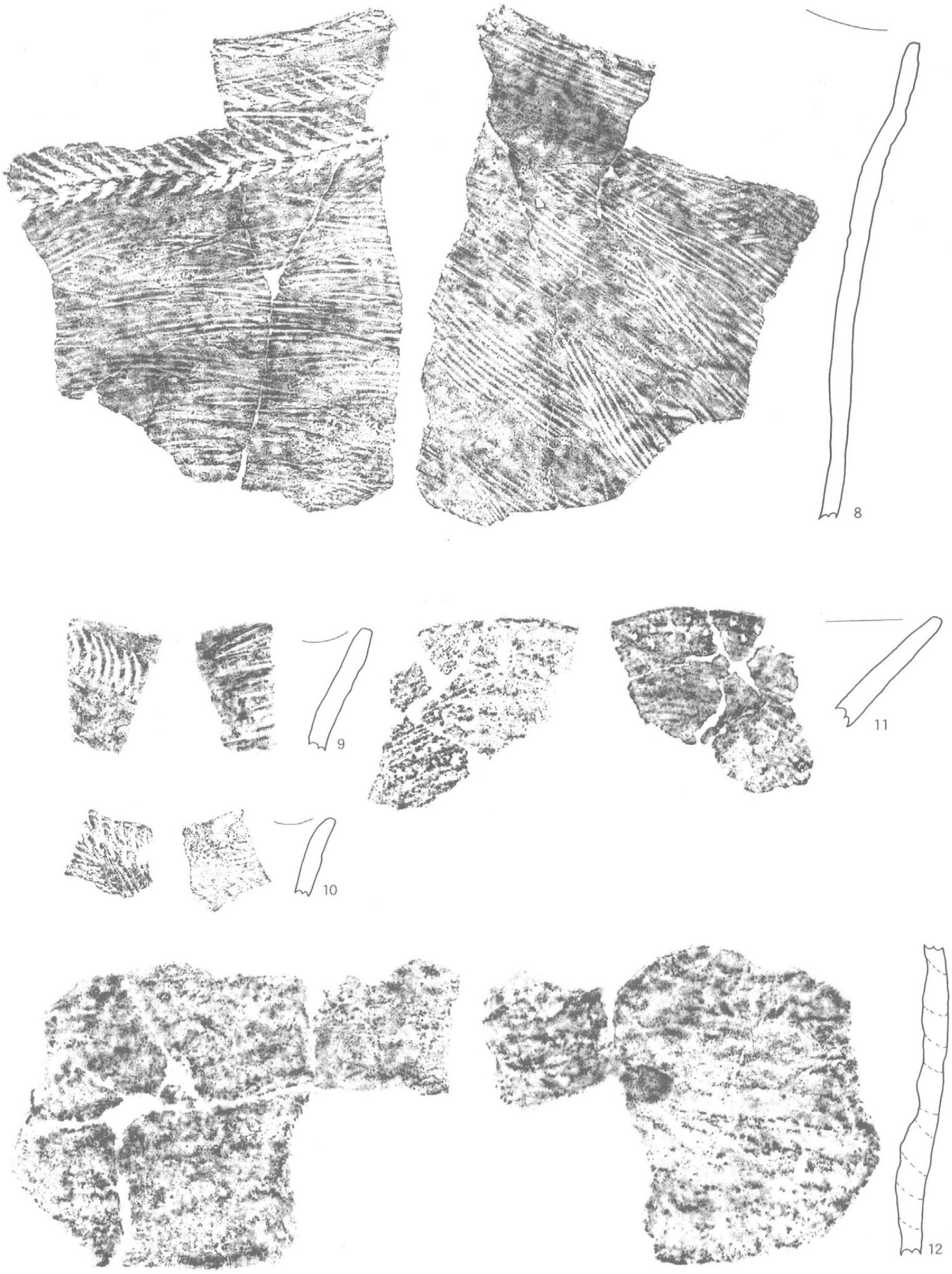
1、2は深鉢で1は外反する口縁、2は「く」の字口縁である。いずれも貝殻腹縁による連続刺突文を施す。3、4は深鉢の胴部、5は浅鉢の胴部である。6は台付皿形土器の脚部、7は底部で平底である。

2号竪穴住居跡

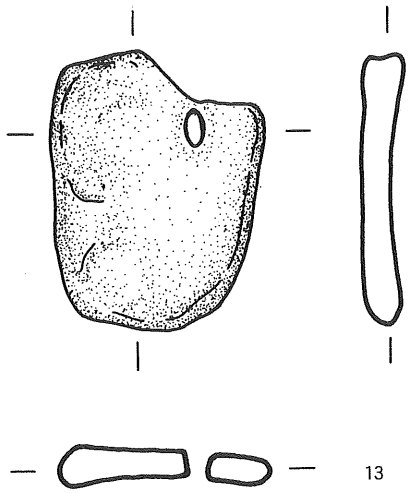
調査区のほぼ中央、北側において検出された。3、4号竪穴住居跡の西側に位置する。平面形態は円形を呈し、直径約4.2m、検出面からの深さ約0.35mを測る。ピットは計9本が確認された。縄文土器と有孔石の他、剥片6点が出土している。



第29図　B区２号竪穴住居跡実測図（1/40）



第30図　B区２号竪穴住居跡出土土器拓影図（1/3）



第31図　B区２号竪穴住居跡出土有孔石実測図（2/3）

8～10は深鉢口縁部で、いずれも外反する波状口縁である。11は浅鉢もしくは台付皿型土器の皿部口縁部で内面に棒状工具による二重の連続刺突文を施す。12は深鉢の胴部である。6は有孔石である。

3号竪穴住居跡

調査区のほぼ中央、北側において検出された。南側を4号竪穴住居跡に切られている。平面形態は楕円形を呈し、長径約2.9m、短径約2.4m、床面からの深さ約0.3～0.4を測る。ピットは計3本が確認されている。縄文土器、剥片2点が出土している。

14～16は深鉢である。いずれも外反する口縁部で1は波状口縁、2、3は平縁である。貝殻腹縁による連続刺突文を施す。17は浅鉢胴部で外面に沈線文、貝殻腹縁刺突文を施す。

4号竪穴住居跡

調査区のほぼ中央、北側において検出された。北側は3号竪穴住居跡を切っている。埋土中より平面形態は円形を呈し、直径約3.1m、検出面からの深さ約0.3mを測る。ピットは計6本が確認された。縄文土器の他剥片3点が出土している。

18は台付皿型土器で脚部に沈線文を施す。19は台付皿型土器の脚部で沈線文を施す。20は深鉢口縁部で外反する波状口縁である。

5号竪穴住居跡

調査区のほぼ中央、北側において検出された。3、4号住居の東側、6号竪穴住居跡の南側に位置する。平面形態は楕円形を呈し、長径約4.8m、直径約3.6m、検出面からの深さ約0.3mを測る。ピットは計8本が確認された。埋土中より縄文土器が出土している。

21は深鉢口縁部で外反する波状口縁である。貝殻腹縁による連続刺突文を施す。

6号竪穴住居跡

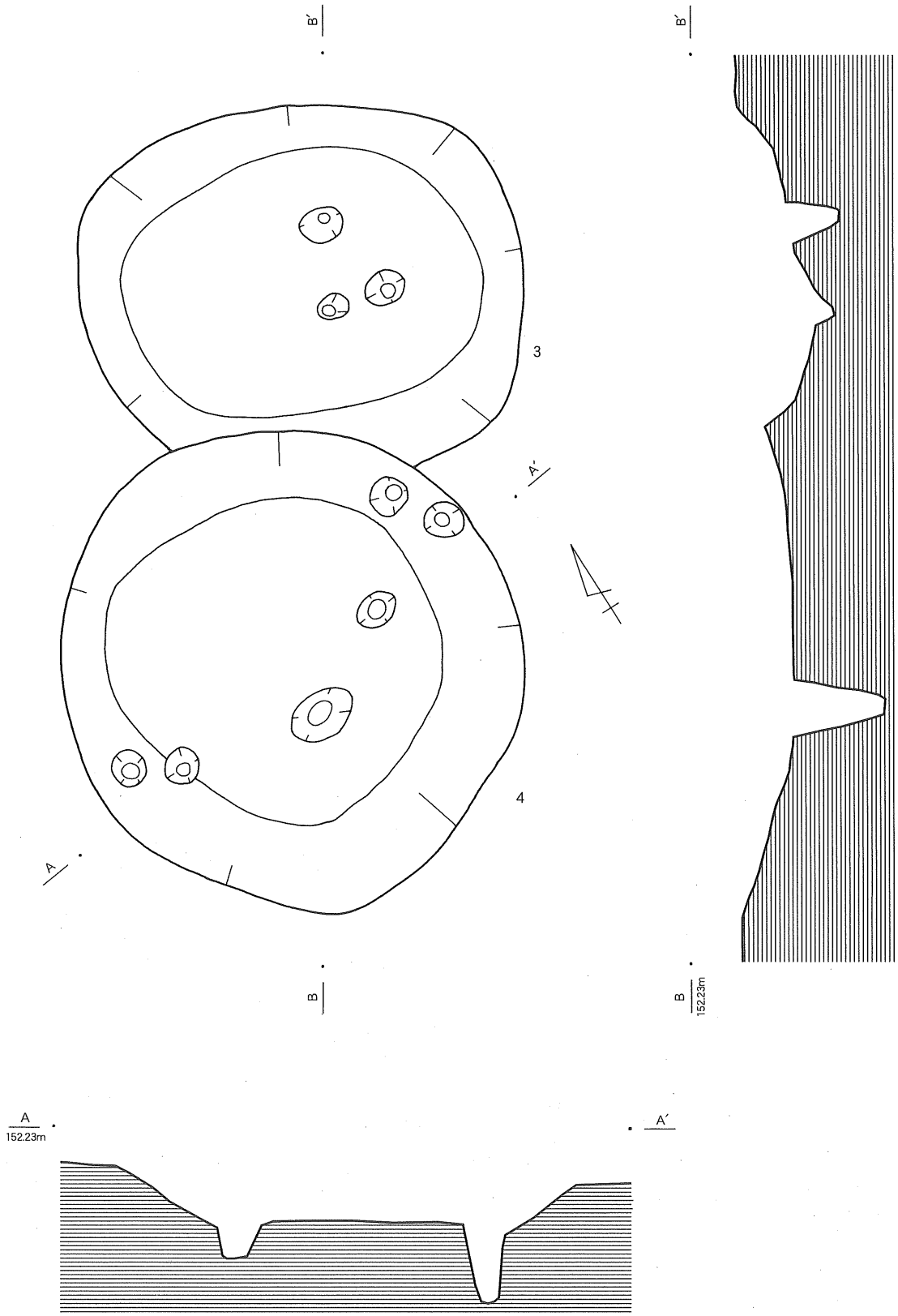
調査区のほぼ中央、北よりにおいて検出された。3、4号竪穴住居跡の東側、5号竪穴住居跡の北側に位置する。平面形態は円形を呈し、直径約3.8m、検出面からの深さ約0.2mを測る。床面は平坦で、ピットは計9本が確認された。剥片1点が出土している。

7号竪穴住居跡

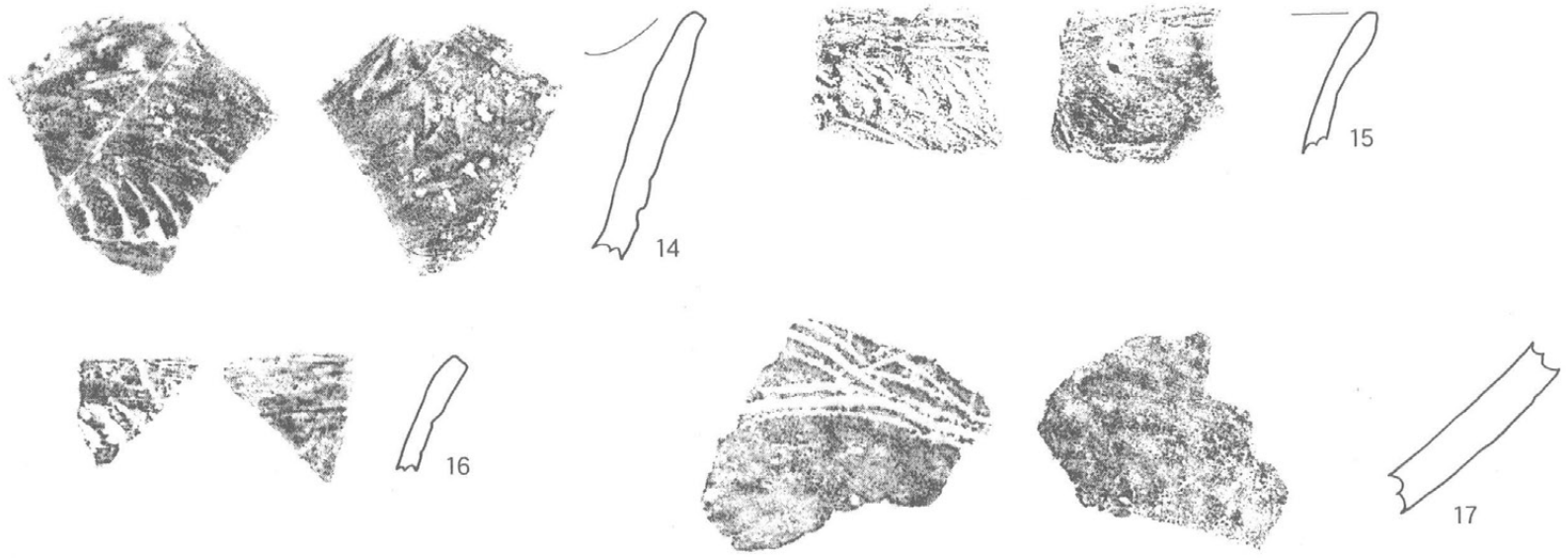
調査区の北側において検出された。2号竪穴住居跡の西側に位置する。東側は8号竪穴住居跡と切り合っており、南西側は18号竪穴住居跡に切られている。平面形態は円形と考えられ、直径約4m、検出面からの深さ約0.2mを測る。床面は平坦で、ピットは計4本が確認されている。

8号竪穴住居跡

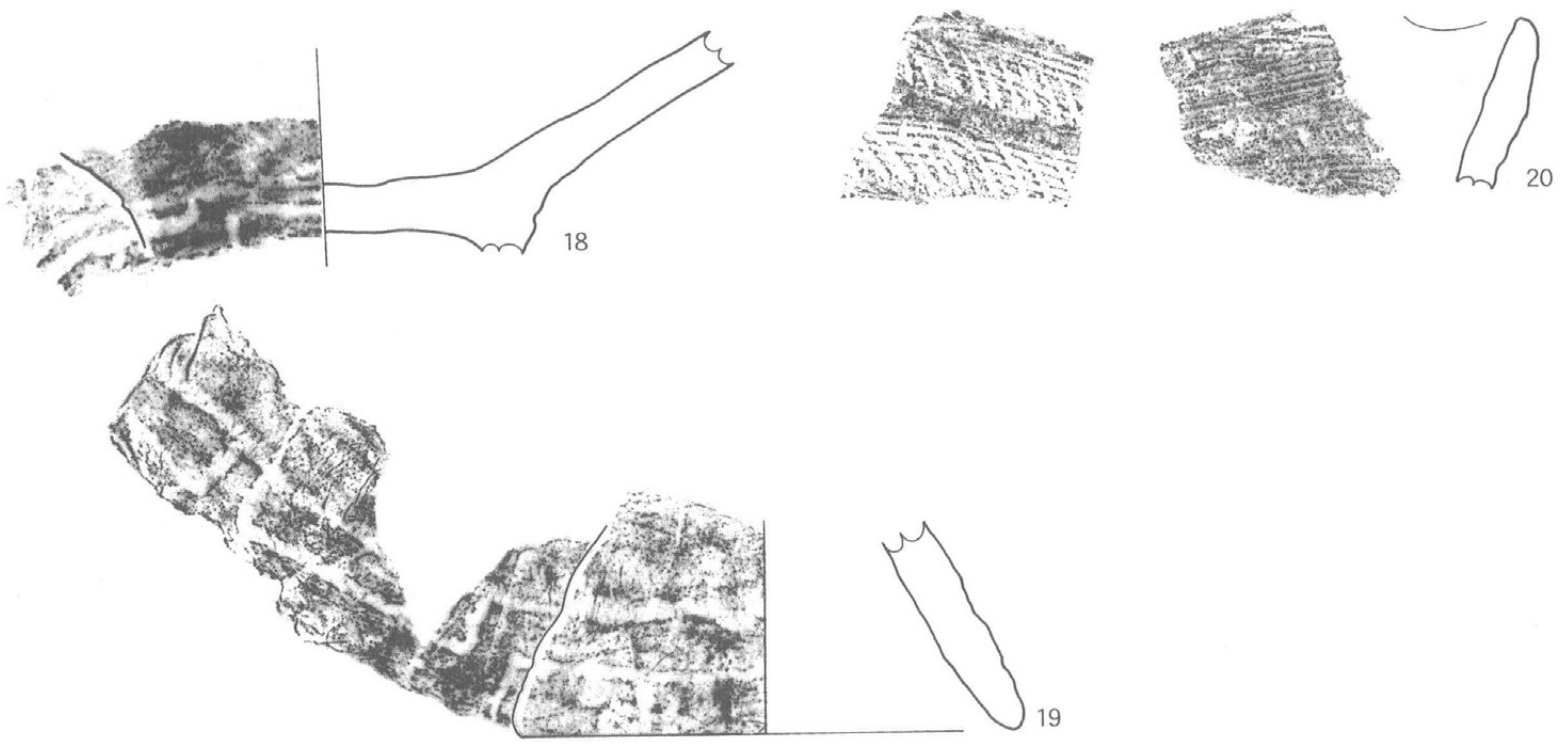
調査区の北側において検出された。2号竪穴住居跡の西側に位置する。西側を大きく7号竪穴住居跡に切られている。平面形態は楕円形と考えられる。ピットは計7本が確認されている。



第32図　B区３・４号竪穴住居跡実測図（1/40）



第33図　B区３号竪穴住居跡出土土器拓影図（1/3）



第34図　B区４号竪穴住居跡出土土器拓影図（1/3）

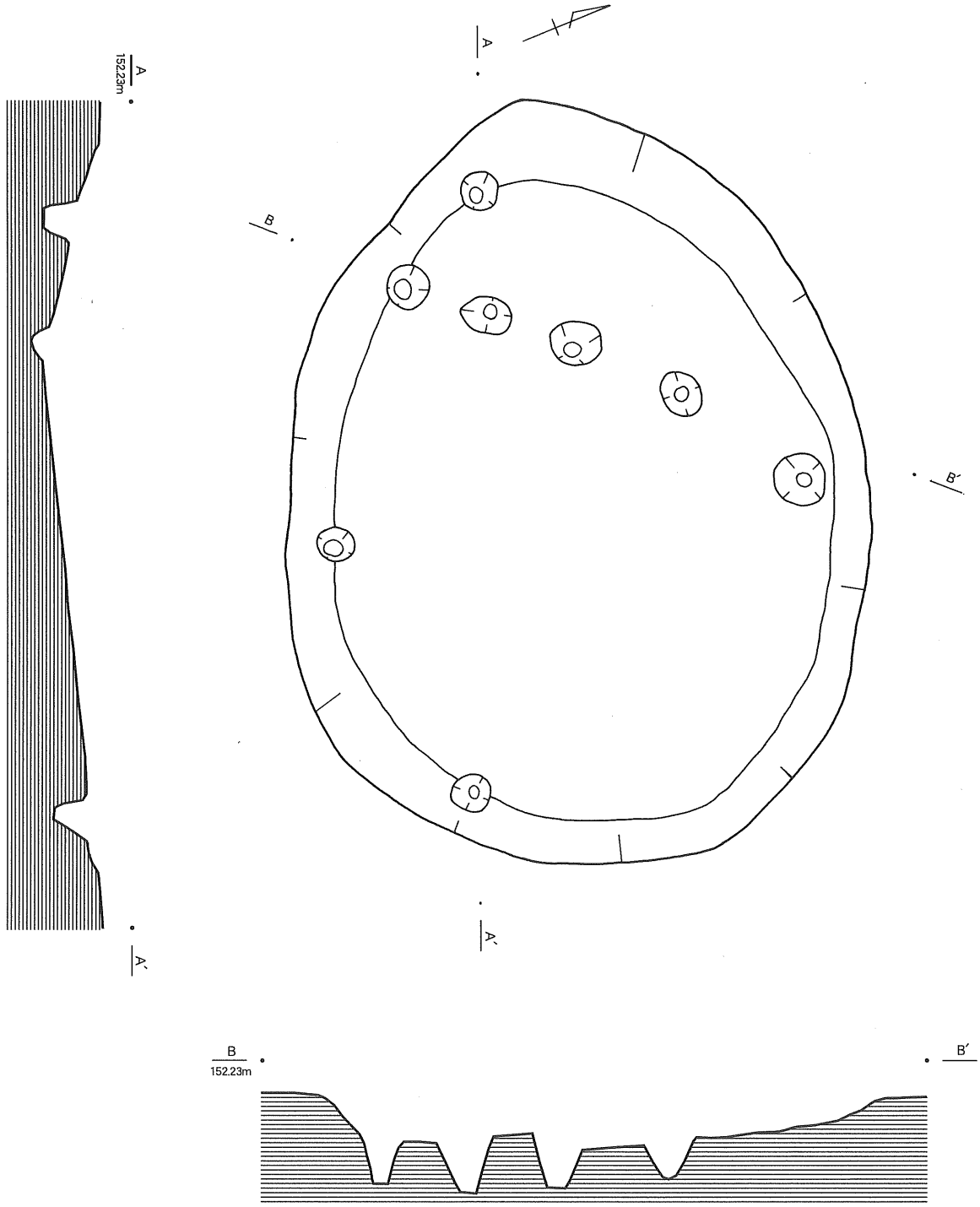
１号土坑

調査区の北東側、６号竪穴住居後の東側において検出された。平面形は楕円形を呈し長径約1.2m、短径約1.2m、検出面からの深さ約0.2mを測る。丸味をおびた底面には直径約50cm、深さ約35cmのピットが検出されている。縄文土器が出土している。

22から24は深鉢口縁部である。22、24はやや「く」の字状に屈曲し、23は外反する。いずれも波状口縁で、貝殻腹縁による連続刺突文を施す。

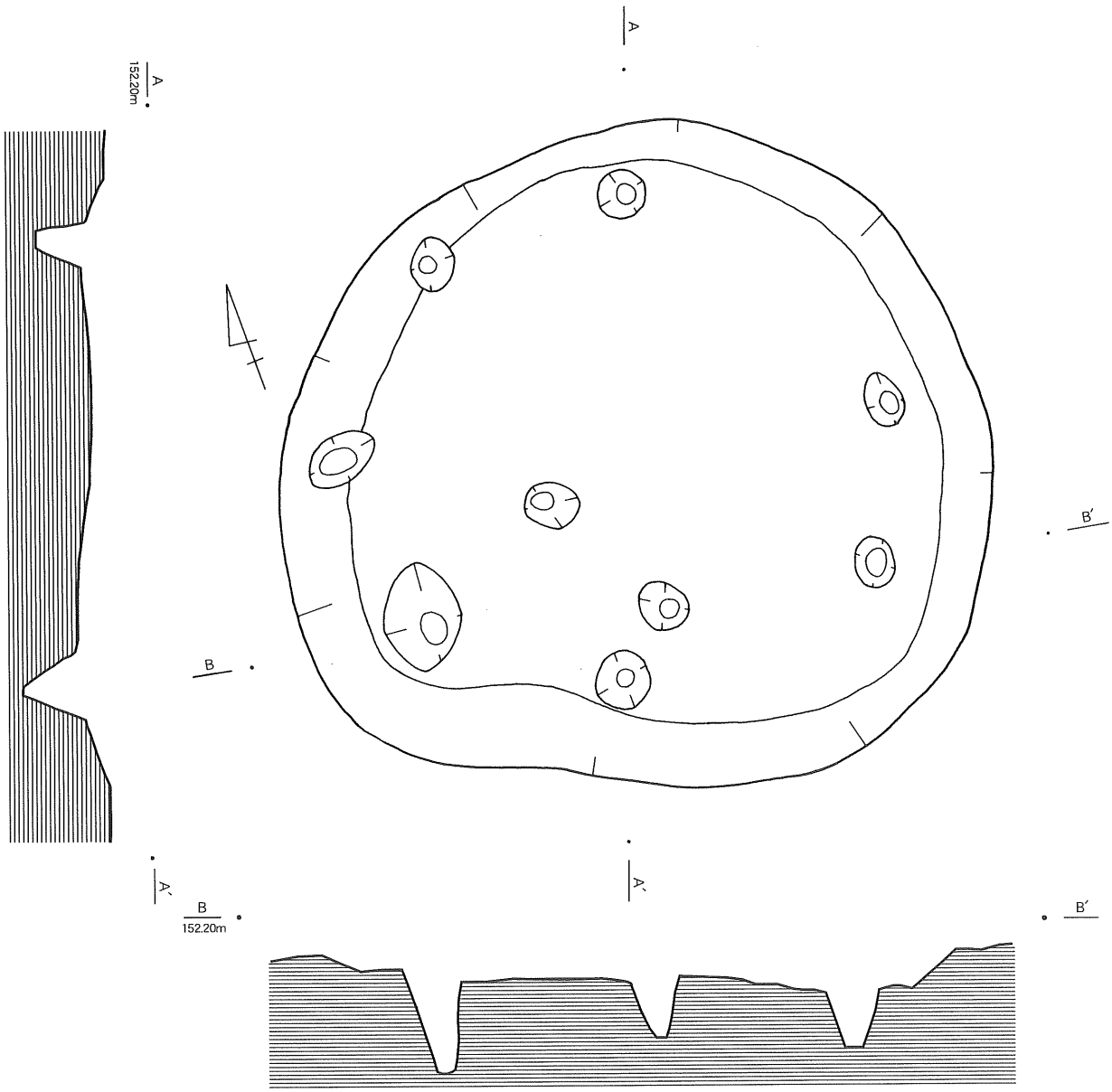
２号土坑

調査区の北西側において検出された。２号体穴住居跡の西側に位置する。平面形は長楕円形を呈し、長軸約2.6m、短軸約1.6m、検出面からの深さ約0.2mを測る。



第35図　B区５号竪穴住居跡実測図（1/40）

第36図　B区５号竪穴住居跡出土土器拓影図（1/3）



第37図　B区６号竪穴住居跡実測図（1/40）

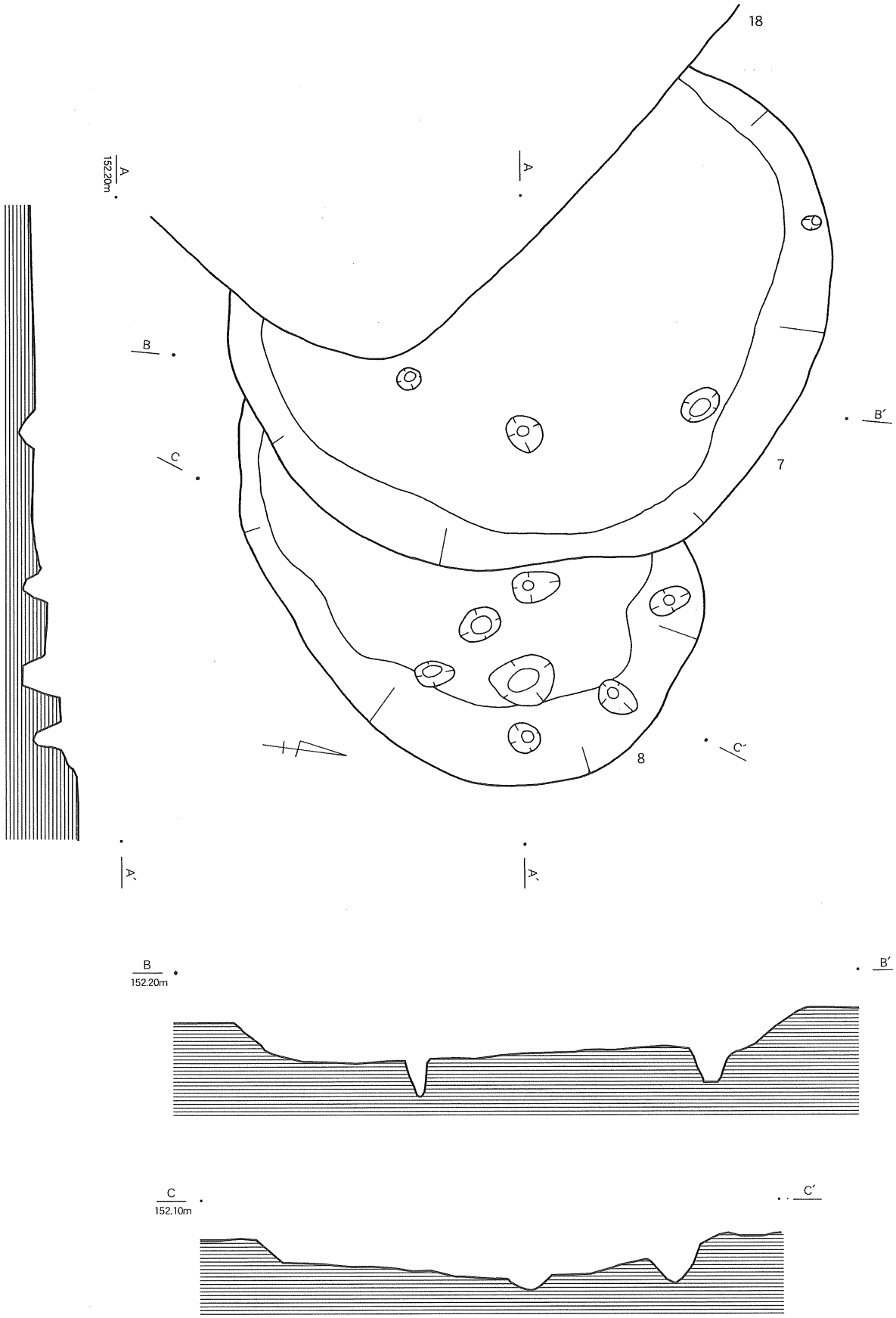
３号土坑

調査区のほぼ中央において検出された。４号土坑と切り合っている。平面形は楕円形を呈し、長径約2.3m、短径約1.2m、検出面からの深さ約0.5mを測る。土坑の西側は一段低くなる掘り込みをもつ。埋土中より縄文土器が出土している。

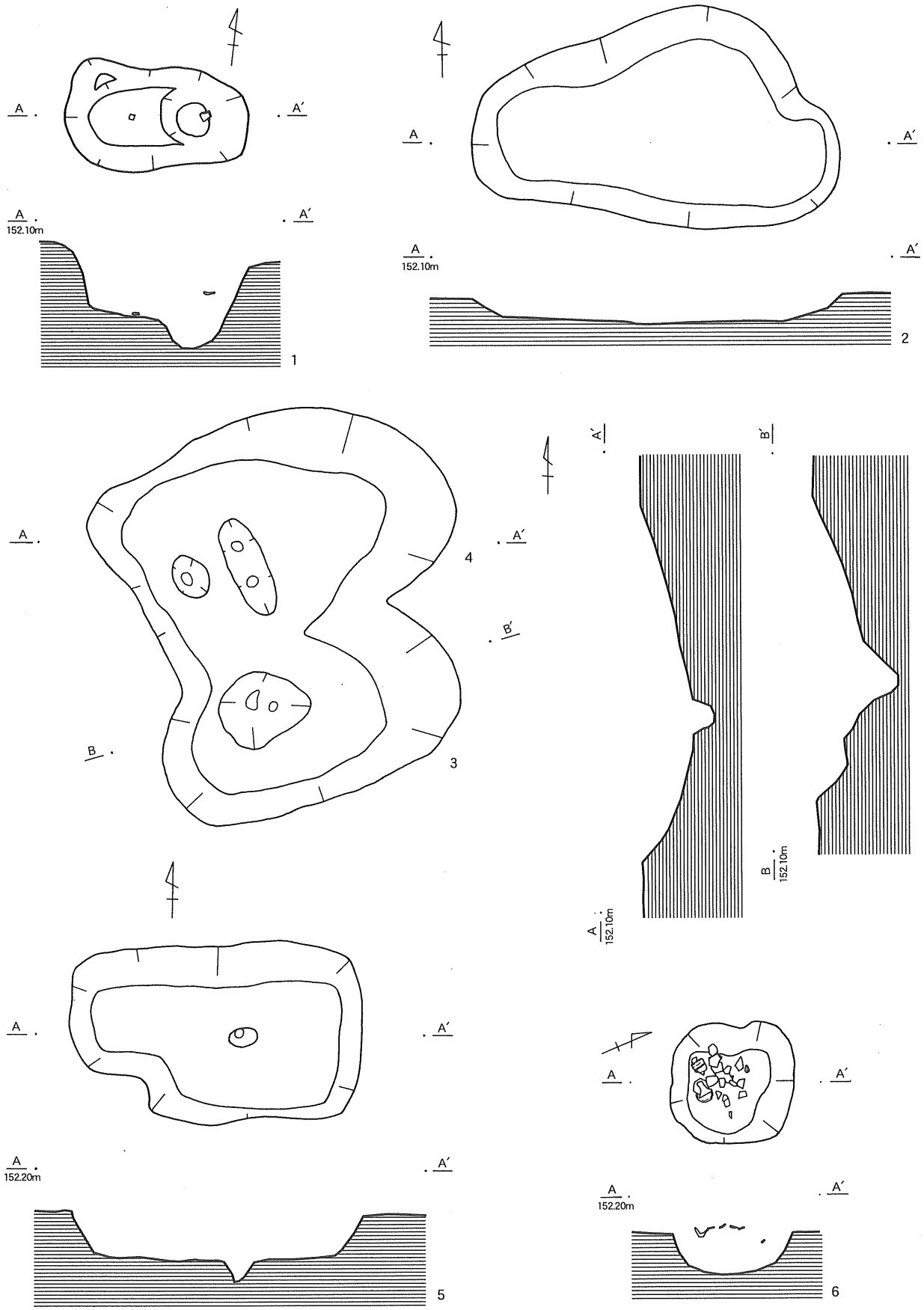
25は石錘である。方形を呈する扁平な礫の四辺中央を打ち欠き紐掛け部を作り出す。石材は砂岩である。

４号土坑

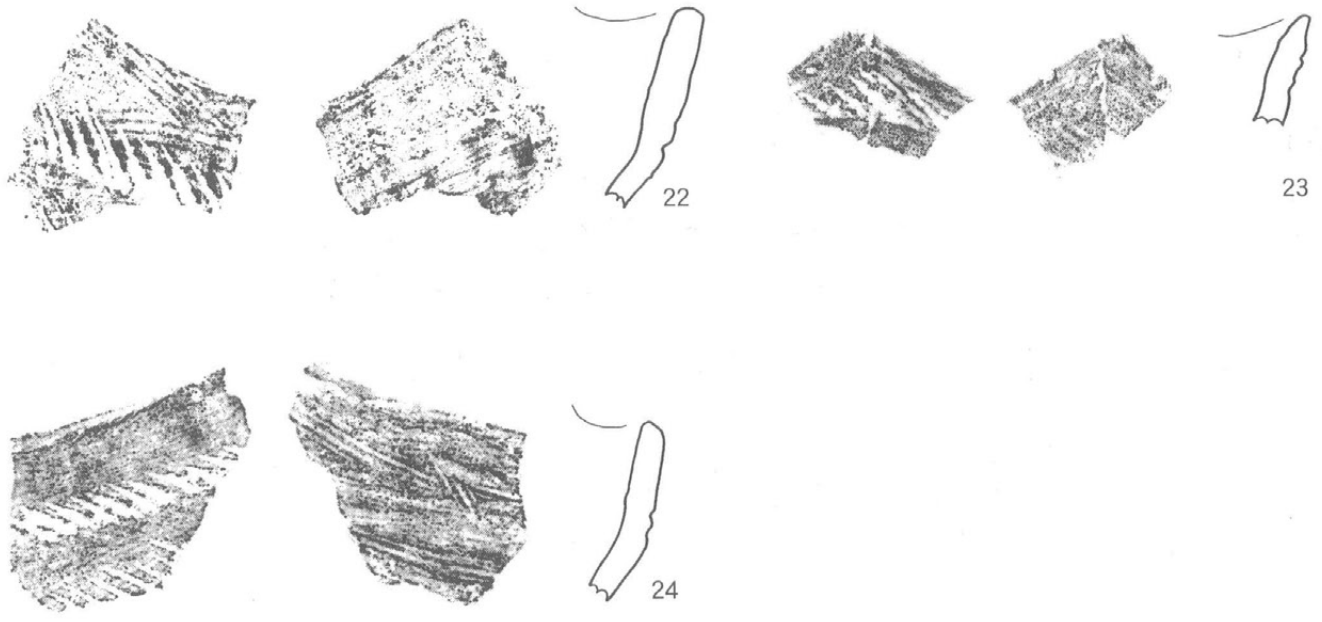
調査区のほぼ中央において検出された。3号土坑と切り合っている。平面形は楕円形を呈し、長径約2.6m、短径約1.5m、検出面からの深さ約0.35mを測る。丸味をおびた底面には直径約24cm、深さ約18cm、長径約50cm、短径約25cm、深さ約15cmのピットが2基検出された。縄文土器の小片数点が出土している。



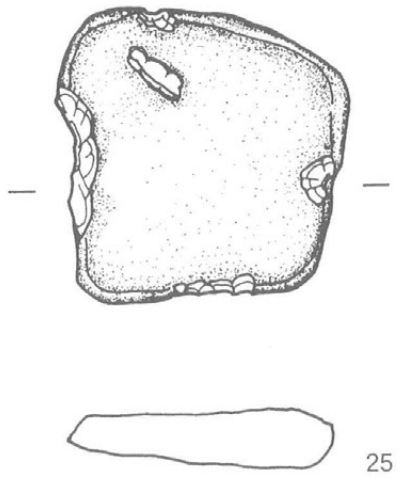
第38図　B区７・８号竪穴住居跡実測図（1/40）



第39図　B区土坑実測図（1/40）



第40図　B区１号土坑出土土器拓影図(1/3)



第41図　B区３号土坑出土石器実測図（1/2）

古墳時代の遺構と遺物

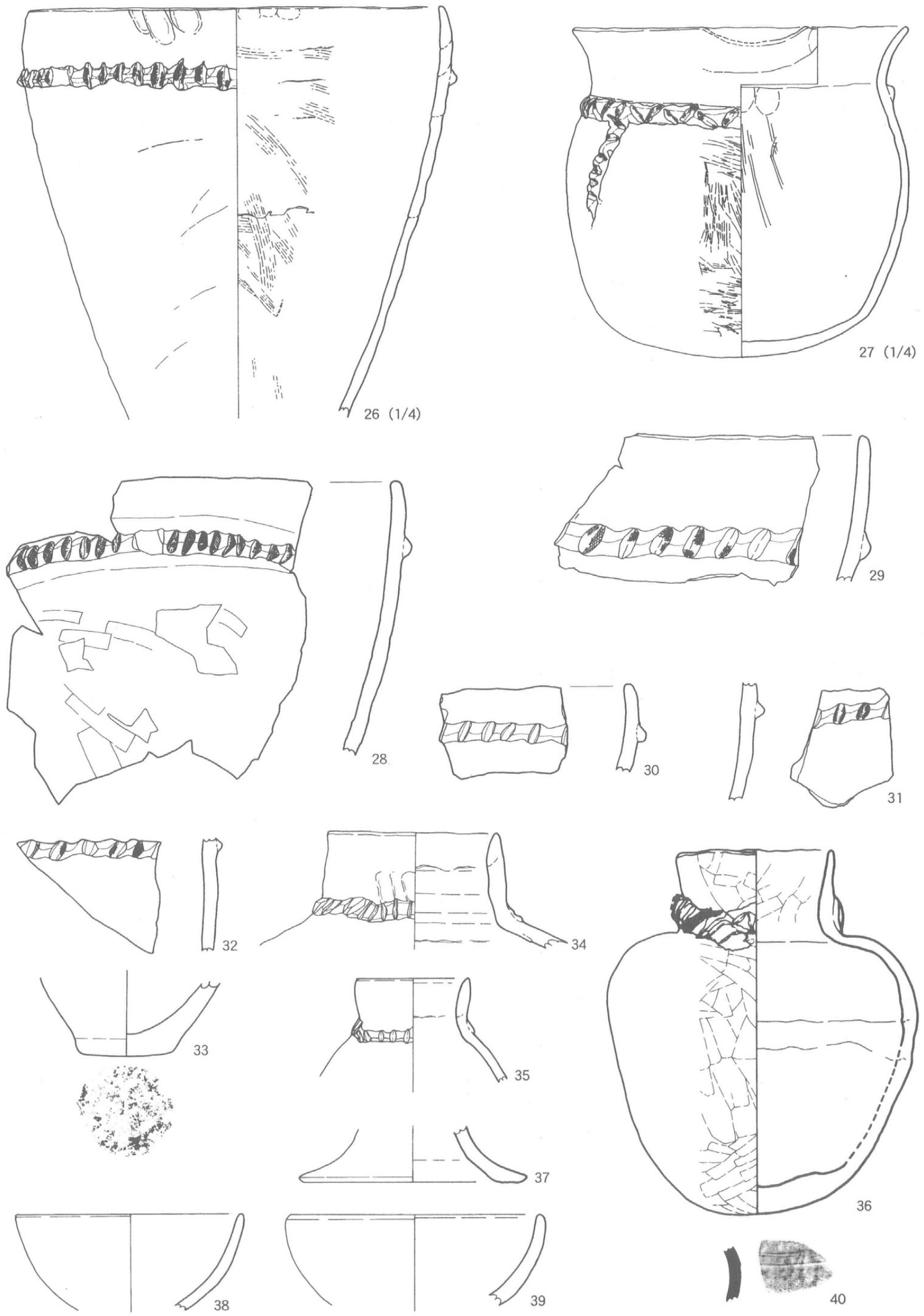
９号竪穴住居跡

調査区のほぼ中央東側において検出された。15号竪穴住居跡の東側に位置する。埋土は黒褐色土一層である。平面形態は方形を呈し長軸約4.2m、短軸約4.0m、検出面からの深さ約0.3mを測る。床面は平坦である。ピットは計17本が確認され、P-1より炭化物が出土している。西壁には長径約1.7m、短径約1m、深さ約0.1mの掘り込みが確認されている。また壁面下には幅約10cm、深さ約5cmの周溝が巡る。埋土中より土師器、須恵器が出土している。27、36は床面直上からの出土である。

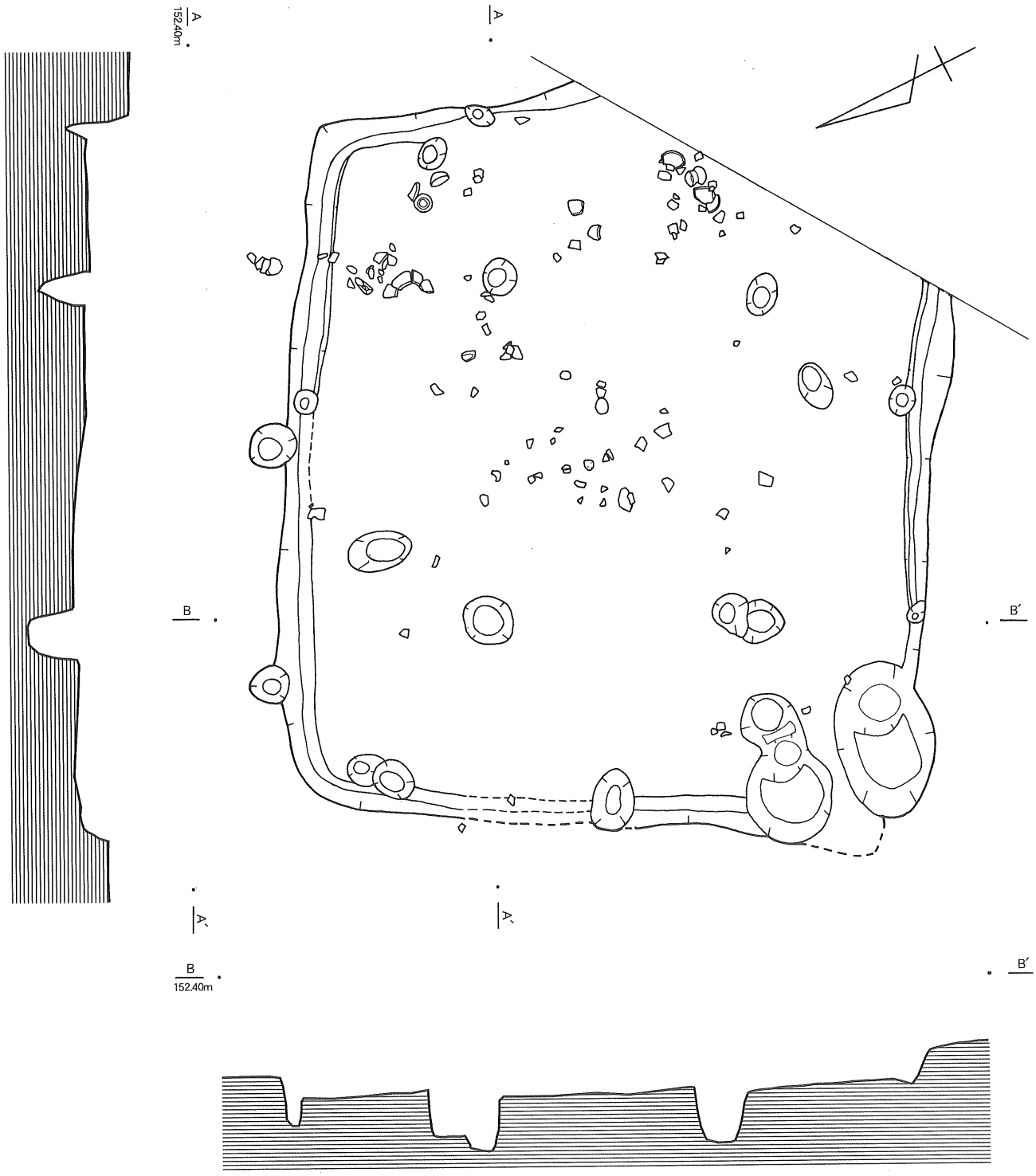
26～39は土師器である。26～32は刻目貼付突帯を施す甕である。26、28～30は口縁部が若干内湾をする。30以外は刻目に布目圧痕を有する。26はいわゆる「バケツ状」を呈する甕で口縁部は外反し片口をもつ。31、32は甕胴部で刻目は布目圧痕を有する。33は甕底部で平底である。木葉痕を有する。34～36は壷で頸部に刻目突帯を施す。37は高坏脚部でラッパ状に開く。38は口縁部がやや開きながら立ち上がる坏で赤色顔料を施す。39はやや開き気味に立ち上がる坏で口縁部は内湾する。

40は須恵器で瓮胴部と考えられる。波状文を施す。

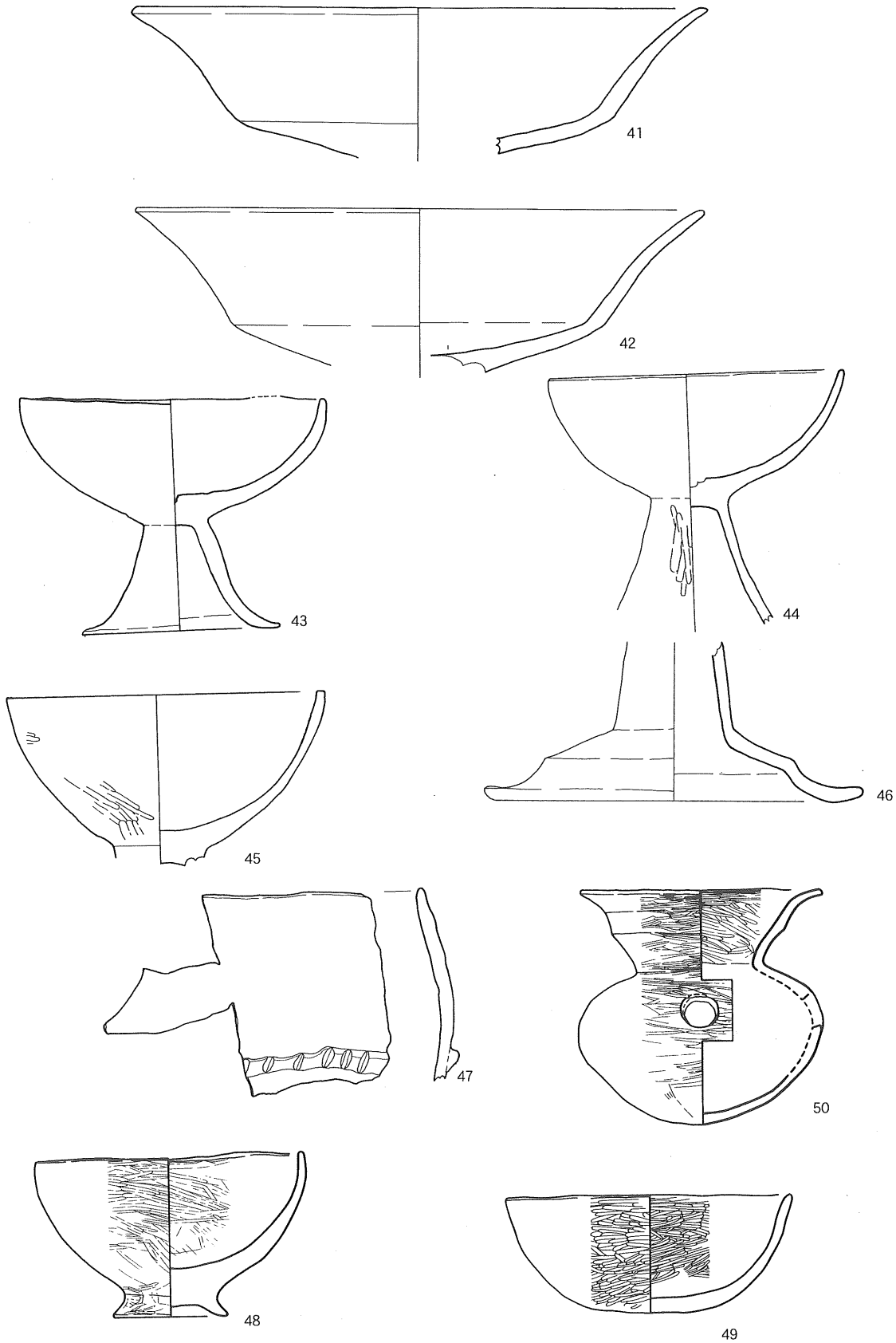
第42図　B区９号竪穴住居跡実測図（1/40）



第43図　B区９号竪穴住居跡出土土器実測図（1/3）



第44図　B区10号竪穴住居跡実測図（1/40）



第45図　B区10号竪穴住居跡出土土器実測図（1/3）

10号竪穴住居跡

調査区の東端において検出された。９号竪穴住居跡の東側に位置し、東南部は調査区外である。埋土は御池軽石を多く含む黒褐色土一層である。平面形態は方形を呈し、長軸約5m、短軸約4.2m、検出面からの深さ約0.25mを測る。床面は平坦で、ピットは計19本が確認されている。壁面下には幅約10cm、深さ約3cmの周溝が巡る。埋土中より土師器が出土している。43～45、48～50は床面直上からの出土である。

41、42は高坏坏部である。いずれも口縁部と受部との境に明瞭な稜をもち、口縁部は外反しながら大きく開く。43から45は坏部が坏状を呈する高坏で、43、44はラッパ状に開く脚部が付き、赤色顔料を施す。46は高坏脚部で脚部と裾部の間に明瞭な稜をもち、端部は外反する。47はやや内湾する甕口縁部で刻目突帯を施す。刻目は布目圧痕を有する。48は台付坏、49は坏、50は甑である。
いずれも丁寧なミガキの後、内外面に赤色顔料を施す。

11号竪穴住居跡

調査区の南側において検出された。12号竪穴住居跡の西側に位置する。平面形態は長方形を呈し、長軸約5.4m、短軸約4.8m、検出面から深さ約0.45mを測る。床面は平坦である。ピットは計4本確認されており、主柱穴はP-1、P-2と考えられ、P-2より土師器甕の底部が出土している。住居のほぼ中央より多量の炭化物が出土している。埋土中より土師器、須恵器が出土している。

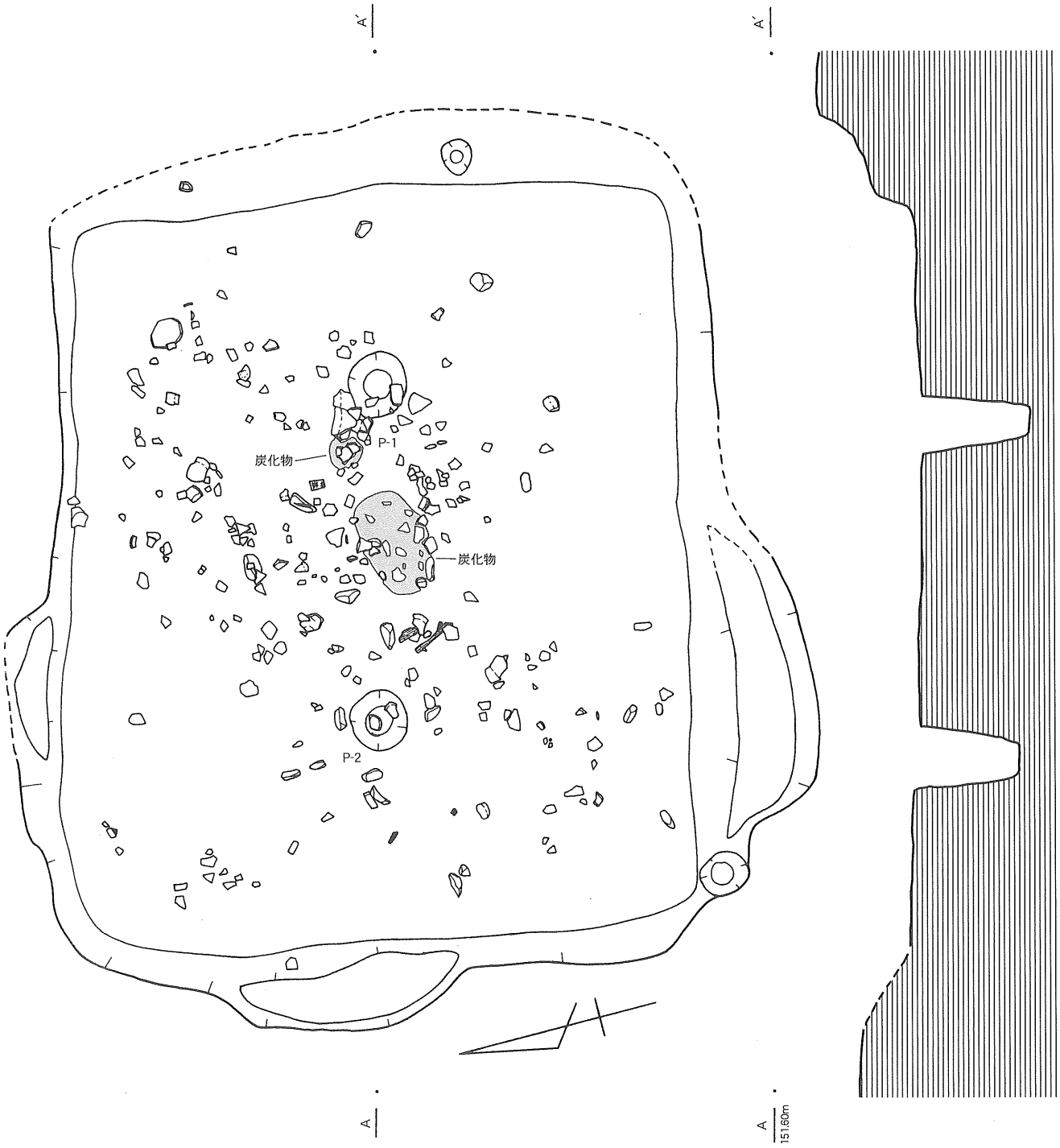
51から66は土師器である。51は刻目突帯をもたない甕で、口縁部はやや緩く屈曲し外反する。52から54は刻目突帯をもつ甕口縁部である。53、54の刻目は布目圧痕を有し、52はヘラ状工具による刻目である。57は甕口縁部で突帯をもつ。55、56、58は甕底部である。55、56はレンズ状の平底で、55は側面がやや膨らみながら立ち上がる。58は平底である。59から64は高坏である。59から61はやや開き気味で直線的な脚部、62、64はラッパ状に開く脚部である。63は裾部で脚部と裾部の間に明瞭な屈曲をもち、端部は外反する。65は広めの丸底から口縁部がほぼ直立する坏で、赤色顔料を施す。66は丸底で口縁部がやや内湾する椀である。

67は須恵器坏蓋である。17号竪穴住居跡出土154坏蓋と接合する。68は須恵器坏身である。

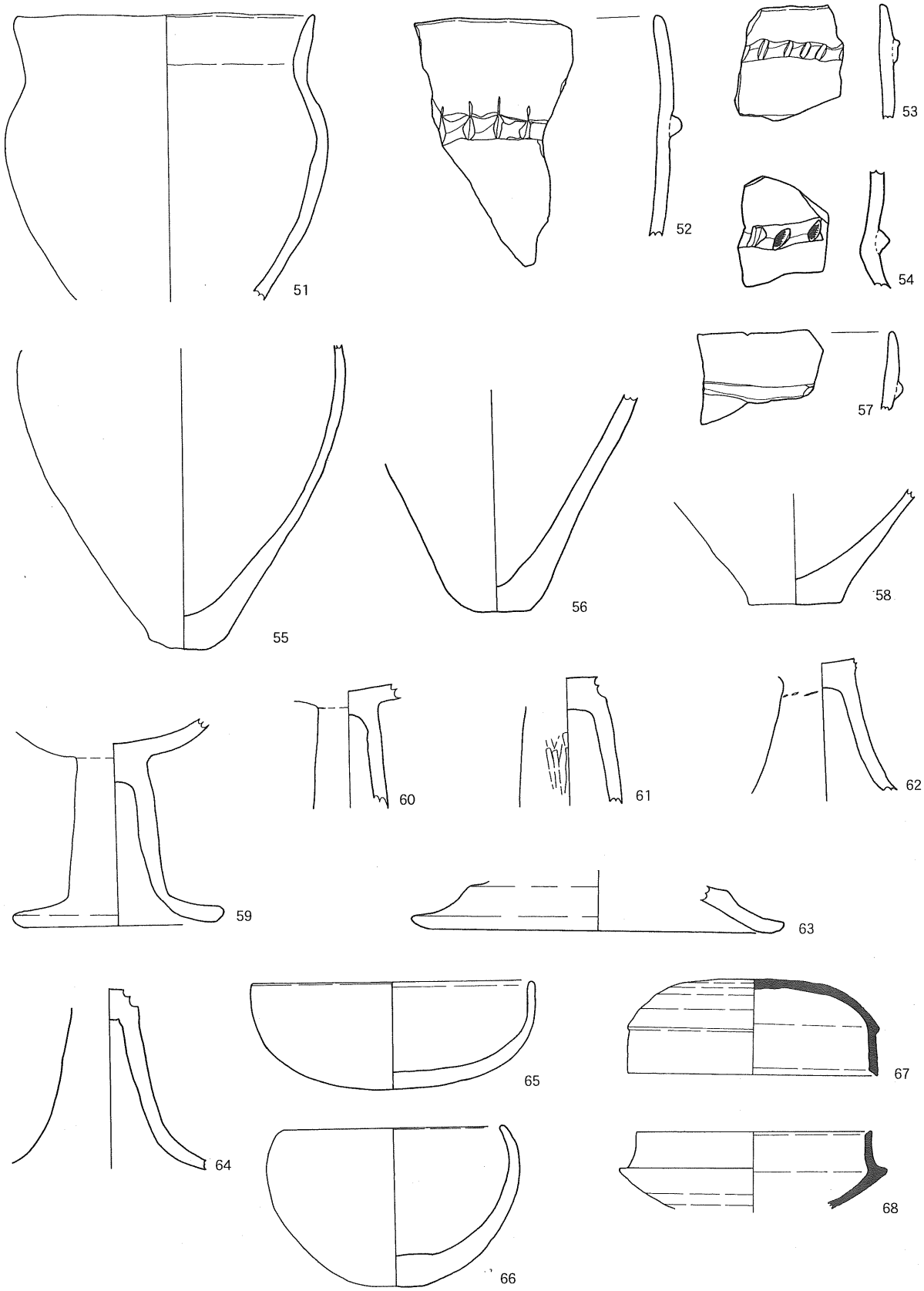
12号竪穴住居跡

調査区の南側において検出された。11号竪穴住居跡の西側に位置する。平面形態は方形を呈し、長軸約5.0m、短軸約4.6m、検出面からの深さ約0.4mを測る。床面はほぼ平坦で、中央北側に不整楕円形を呈し長径約270cm、短径約210cm、床面からの深さ約16cmを測る掘り込みが確認されている。ピットは計17本が確認され、主柱穴はP-1～4の4本と考えられる。埋土中より土師器が出土している。

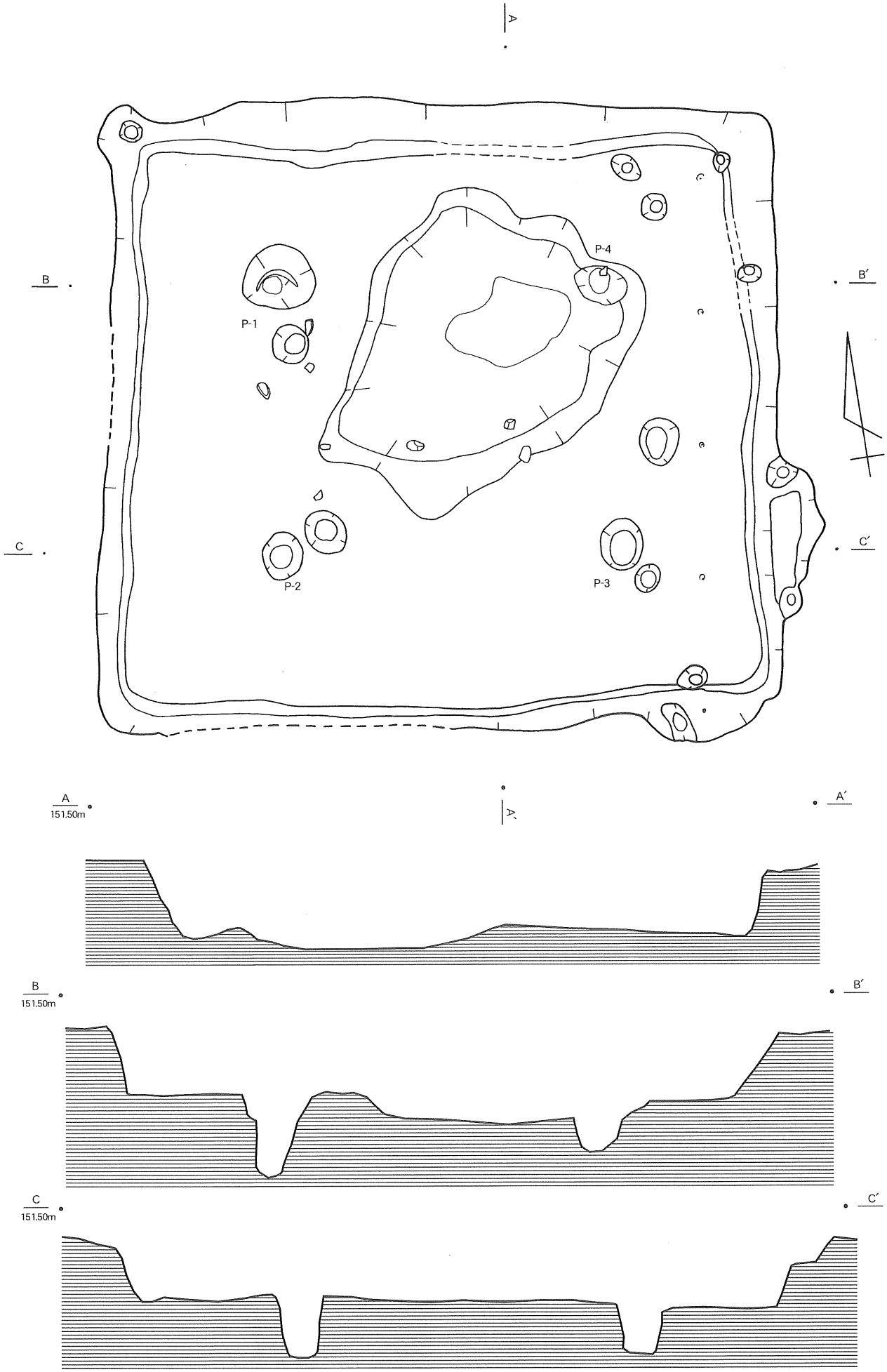
69は頸部に突帯をもつ甕で胴部は大きく開きながら立ち上がり、頸部においてやや屈曲し口縁部はほぼ直立する。70、71、73、74は頸部に刻目突帯をもつ甕である。刻目は布目圧痕を有する。70、71、73の口縁部はやや内湾する。72は刻目突帯をもたない甕で肩部がやや張り、頸部において屈曲し口縁部は若干外反する。75、76は壷で75は短く外反する口縁部、76は頸部に刻目突帯をもち、口縁部は直線的に大きく開く。77、79は甕底部で77はレンズ状の平底、79は平底である。78は壷底部で中心がわずか持ち上がる。80から87は高坏である。80は坏部で受部と口縁部との境に明瞭な稜をもち、口縁部は外反しながら大きく開く。81から83は坏部が坏状を呈し、81はエンタシス状の脚部に直線的な裾部が付く。赤色顔料を施す。84はエンタシス状の脚部と考えられ、外反しながら開く脚部が付く。85から87はラッパ状に開く脚部である。84から87の脚部は上部が被熱により赤化し、端部には融着物があり、ふいごの羽口としての転用が考えられる。88は平底の底部よりやや内椀しながら立ち上がる椀である。92はミニチュア土器の椀である。口縁部は強く内湾し、外面に赤色顔料を施す。89から91は丸底の底部より内湾しながら立ち上がる坏である。93は坩の口縁部と考えられる。



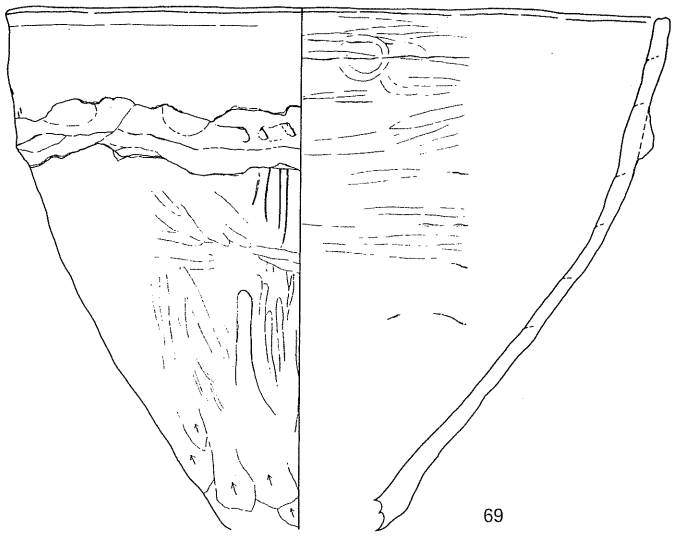
第46図　B区11号竪穴住居跡実測図（1/40）

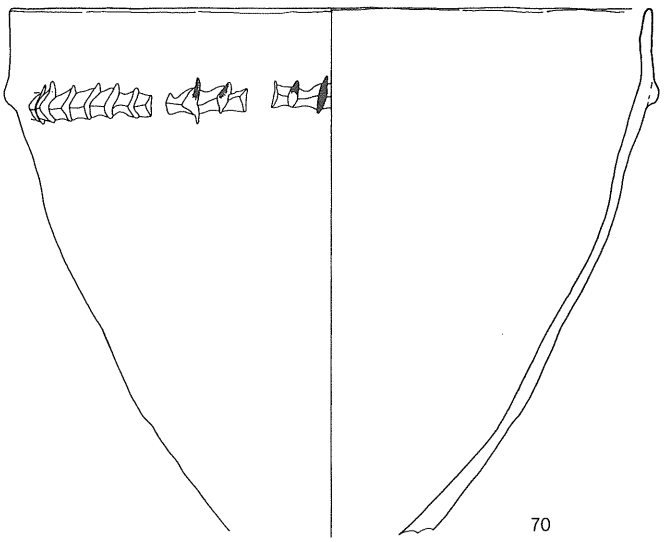


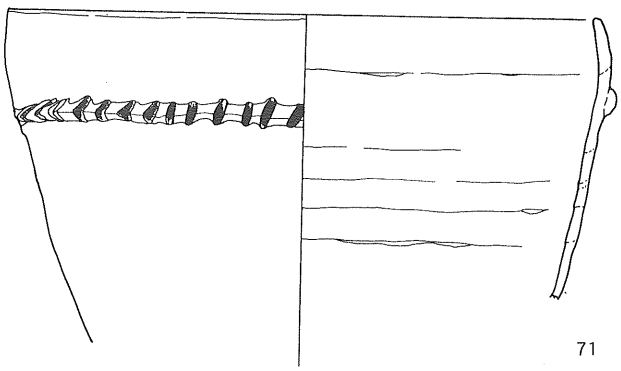
第47図　B区11号竪穴住居跡出土土器実測図

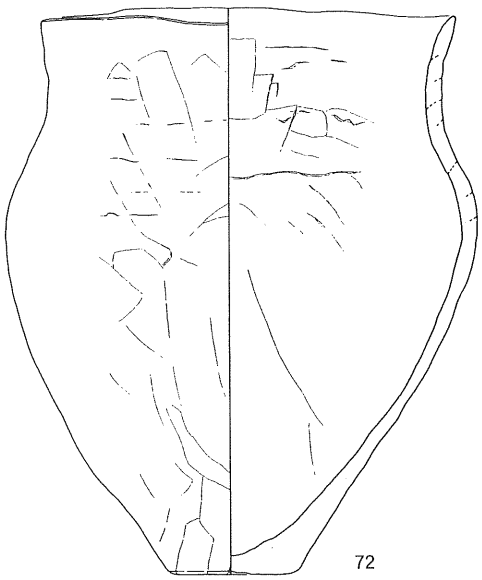


第48図　B区12号竪穴住居跡実測図（1/40）

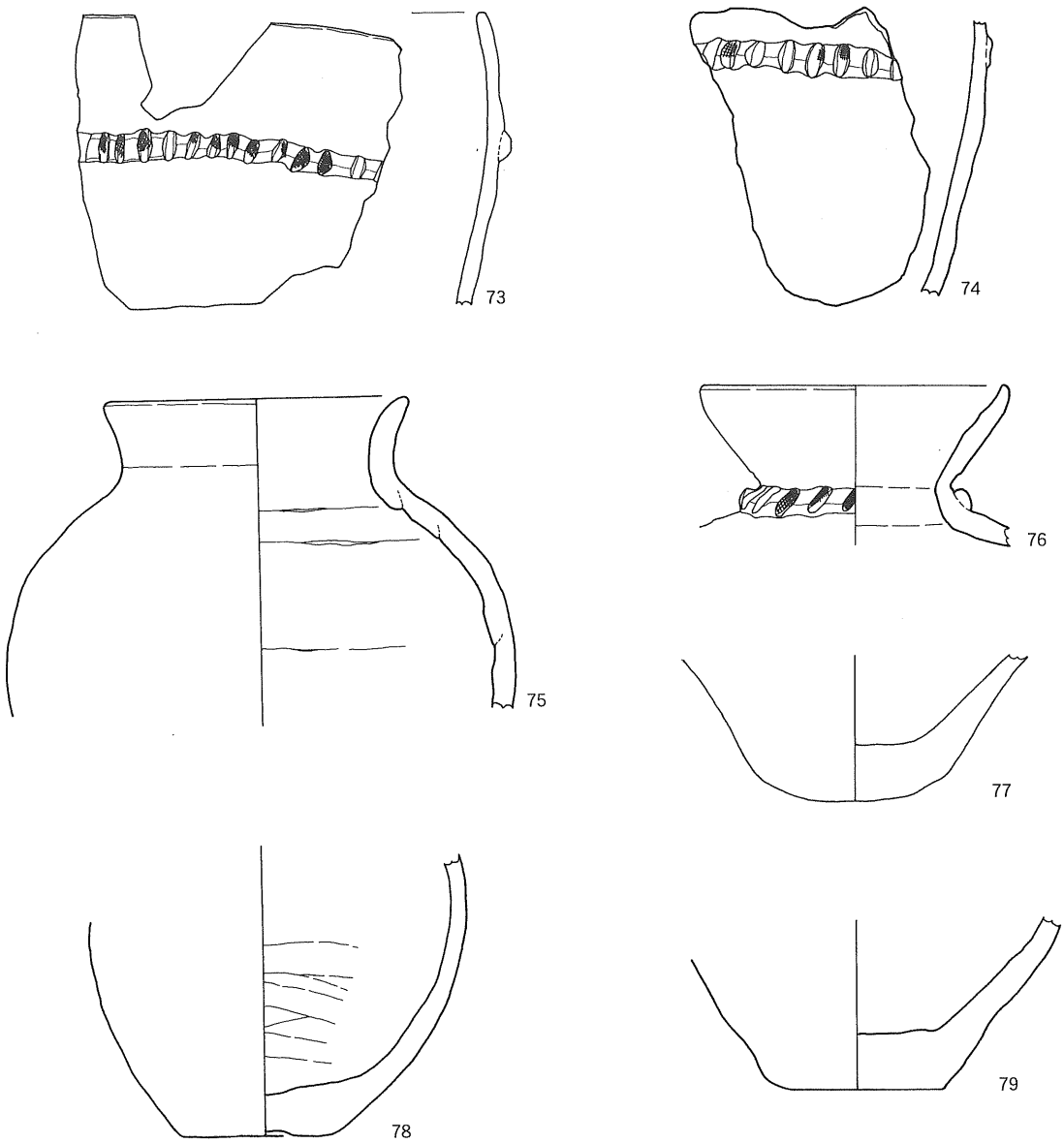




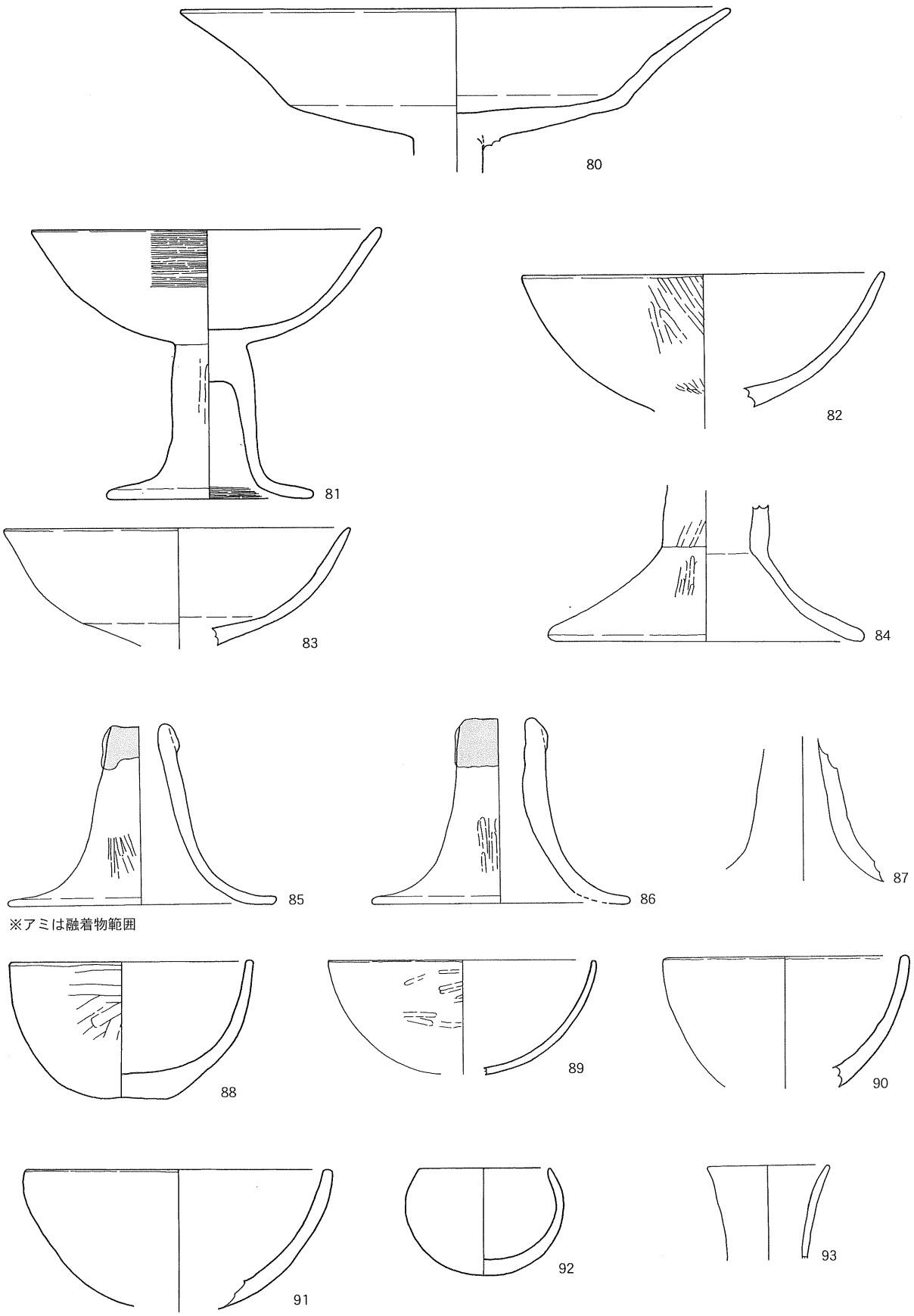




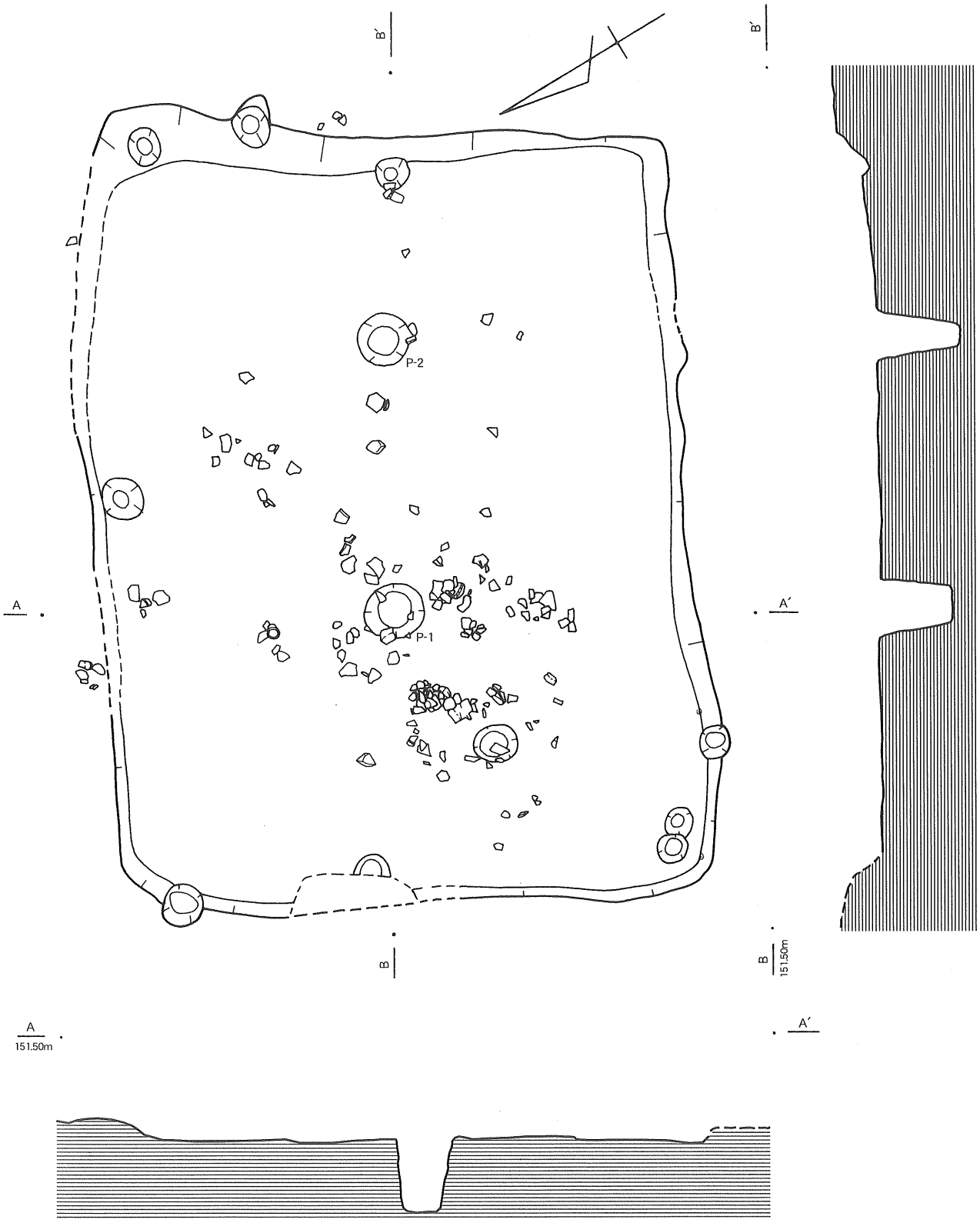
第49図　B区12号竪穴住居跡出土土器実測図１（1/4）



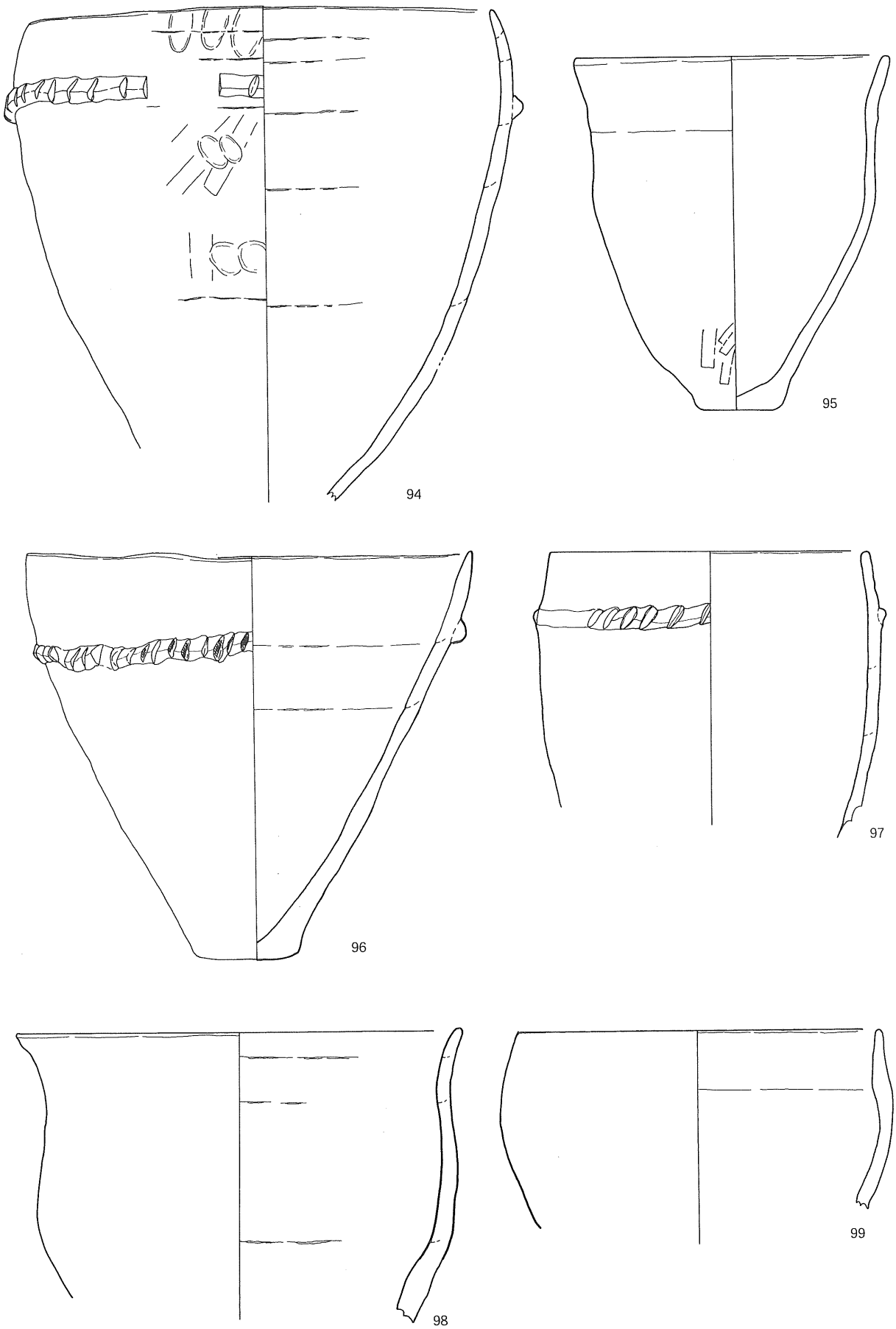
第50図　B区12号竪穴住居跡出土土器実測図２（1/3）



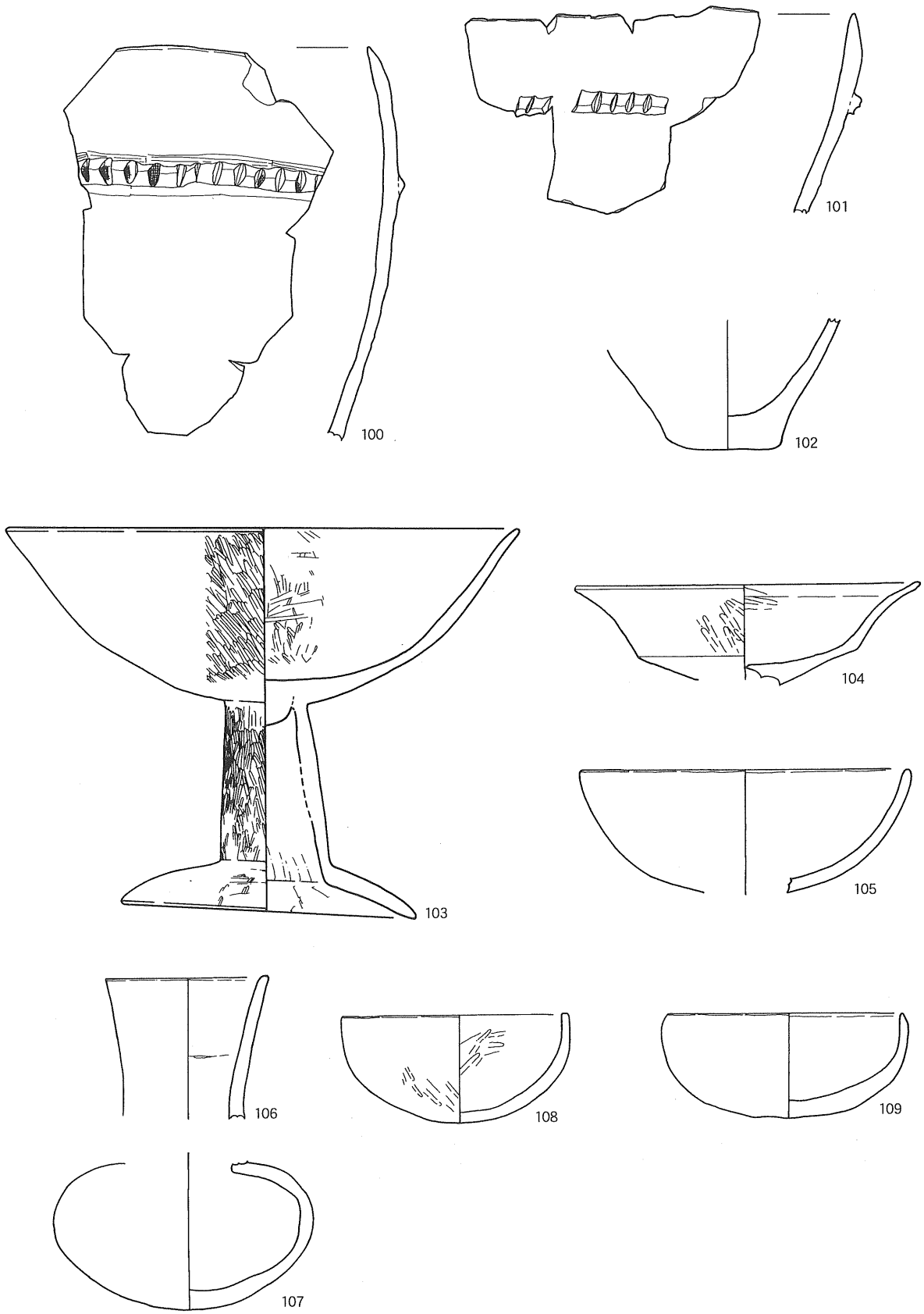
第51図　B区12号竪穴住居跡出土土器実測図３（1/3）



第52図　B区13号竪穴住居跡実測図（1/40）



第53図　B区13号竪穴住居跡出土土器実測図1（1/3）



第54図　B区13号竪穴住居跡出土土器実測図２（1/3）

13号竪穴住居跡

調査区の南側において検出された。12号竪穴住居跡の東側に位置する。埋土は黒色土一層である。平面形態は長方形を呈し、長軸約5.2m、短軸約4.0m検出面からの深さ約0.16mを測る。ピットは計15本検出され、主柱穴はP-1、2の2本と考えられる。埋土中より土師器、須恵器が出土している。

94から109は土師器である。94、96、97、100、101は刻目突帯を施す甕である。94、97は胴部が膨らみをもち、口縁部は内湾する。96はレンズ状の平底で、胴部は大きく開きながら直線的に立ち上がる。96、100、101の刻目は布目圧痕をもち、94の刻目には布目圧痕のもつものともたないものの2種類が確認された。100は94、97と、101は96と同様の器形と考えられる。95、98、99は刻目突帯をもたない甕で、95、98は頸部において緩く屈曲し口縁部は外反する。99は頸部において内湾し口縁部は短く直立気味である。102は底部で平底である。103から105は高坏である。104は受部と口縁部との境に明瞭な稜線をもち、口縁部が外反しながら大きく開く坏部である。103は受部と口縁部との境は不明瞭で、口縁部がやや外反する受部に、直線的に開く脚部、内湾する裾部が付く。105は坏状を呈する坏部で内外面に赤色顔料を施す。106は外反しながら立ち上がる坩口縁部。107は偏球状を呈する坩胴部で、106、107は同一個体と考えられる。108は丸底、109は広めの丸底で、口縁部が内湾する坏である。

14号竪穴住居跡

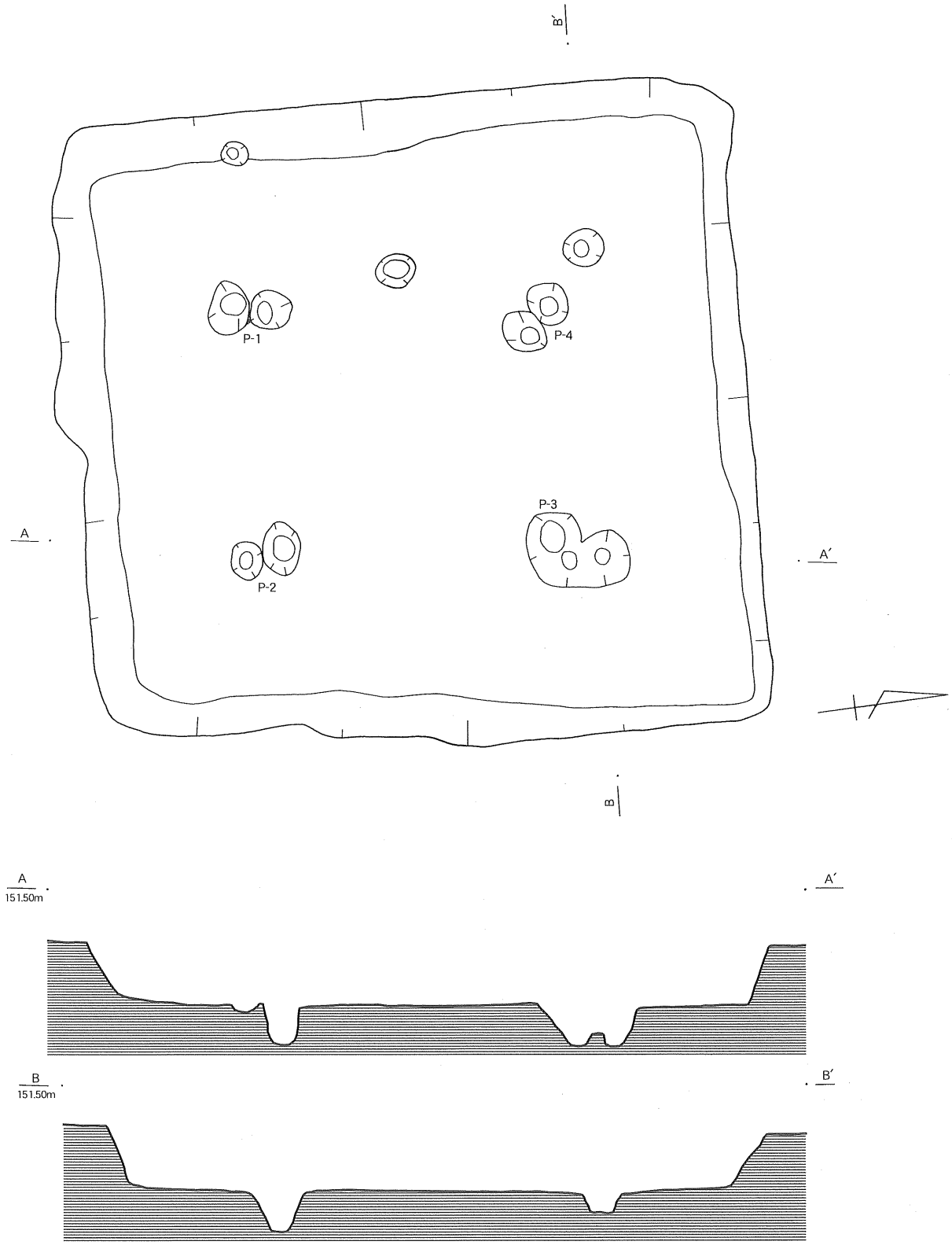
調査区の北東隅において検出された。平面形態は方形を呈し、長軸約7.0m、短軸約6.4m、検出面からの深さ約0.6mを測る。床面は平坦である。ピットは計12本検出され、主柱穴はP-1～4の4本と考えられる。埋土中より土師器、須恵器が出土している。

110から126は土師器である。110から112、117から119は甕である。110は小型甕で頸部において緩く屈曲し口縁部は短く外反する。111、112はやや内湾する口縁部で刻目突帯を施す。刻目は布目圧痕を有する。117～119は底部でいずれも平底である。113から116、126は壷である。113、114、126は頸部に刻目突帯を施す壷で、113、114は口縁部がやや外反する。126は大型の球形胴壷で口縁部はやや外反する。114、126の刻目は布目圧痕を有する。116は底部でレンズ状の平底を呈する。120から122は高坏である。120は坏部で受部と口縁部との境は不明瞭であるが、一部に稜線を確認できる。121はラッパ状に開く脚部、122は直線的に若干開く脚部と考えられる。123は脚台付鉢で口縁部は内湾する。内外面に赤色顔料を施す。124は椀で内外面に赤色顔料を施す。125は坏口縁部である。

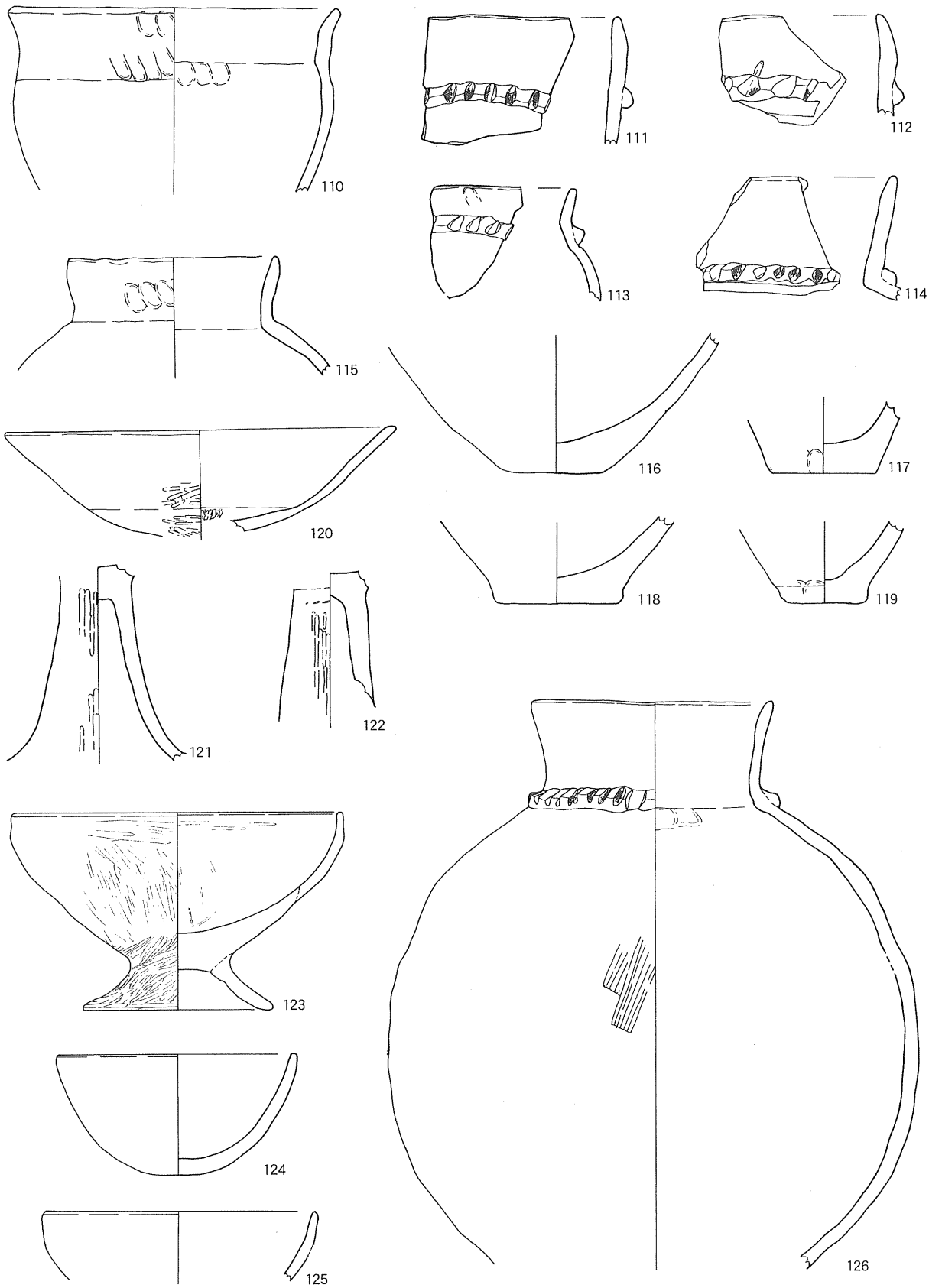
15号竪穴住居跡

調査区のほぼ中央において検出された。９号竪穴住居跡の東側に位置する。平面形態は方形を呈し、長軸約4.0m、短軸約3.8m、検出面からの深さ約0.3mを測る。床面は平坦である。ピットは計9本が検出され、主柱穴はP-1、2の2本と考えられる。埋土中より土師器が出土している。132、135は床面付近からの出土である。

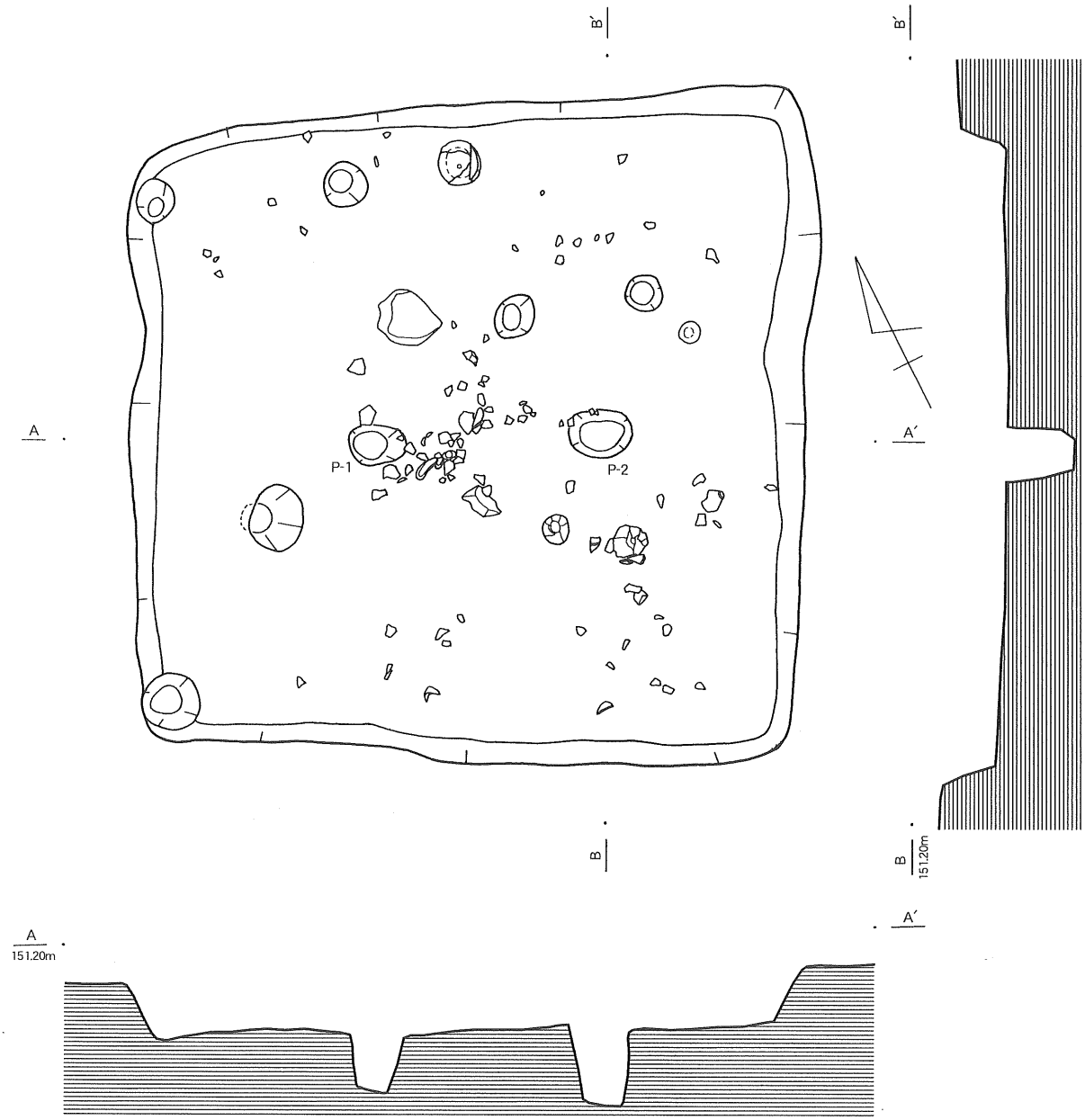
127は鉢でレンズ状の平底から大きく開きながら立ち上がり、口縁部は若干内湾する。129、130は甕口縁部で、129はやや内湾しヘラ状工具による刻目突帯をもつ。130は頸部において屈曲し口縁部は外傾する。壷口縁部の可能性もある。128、131は壷である。128は小型壷で丸みを帯びた尖底からやや膨らみをもって立ち上がり、胴部の3分の2のあたりで最大径を測ると考えられる。また128は接合資料であるが、胴部最大径より下部は16号竪穴住居跡からの出土である。131は頸部に刻目突帯を施す。刻目は布目圧痕を有する。132から134は高坏である。132は坏部でやや小さめの受部と口縁部との境に明瞭な稜をもち口縁部は大きく外反しながら開く。133はラッパ状に開く脚部、134はエンタシス状の脚部である。135は外反する口縁部で坩口縁部と考えられる。内外面に赤色顔料を施す。136は椀で丸底気味の底部より直線的に開き、口縁部はほぼ直立する。端部は平坦に仕上げる。内外面に赤色顔料を施す。



第55図　B区14号竪穴住居跡実測図（1/60）



第56図　B区14号竪穴住居跡出土土器実測図（1/3）



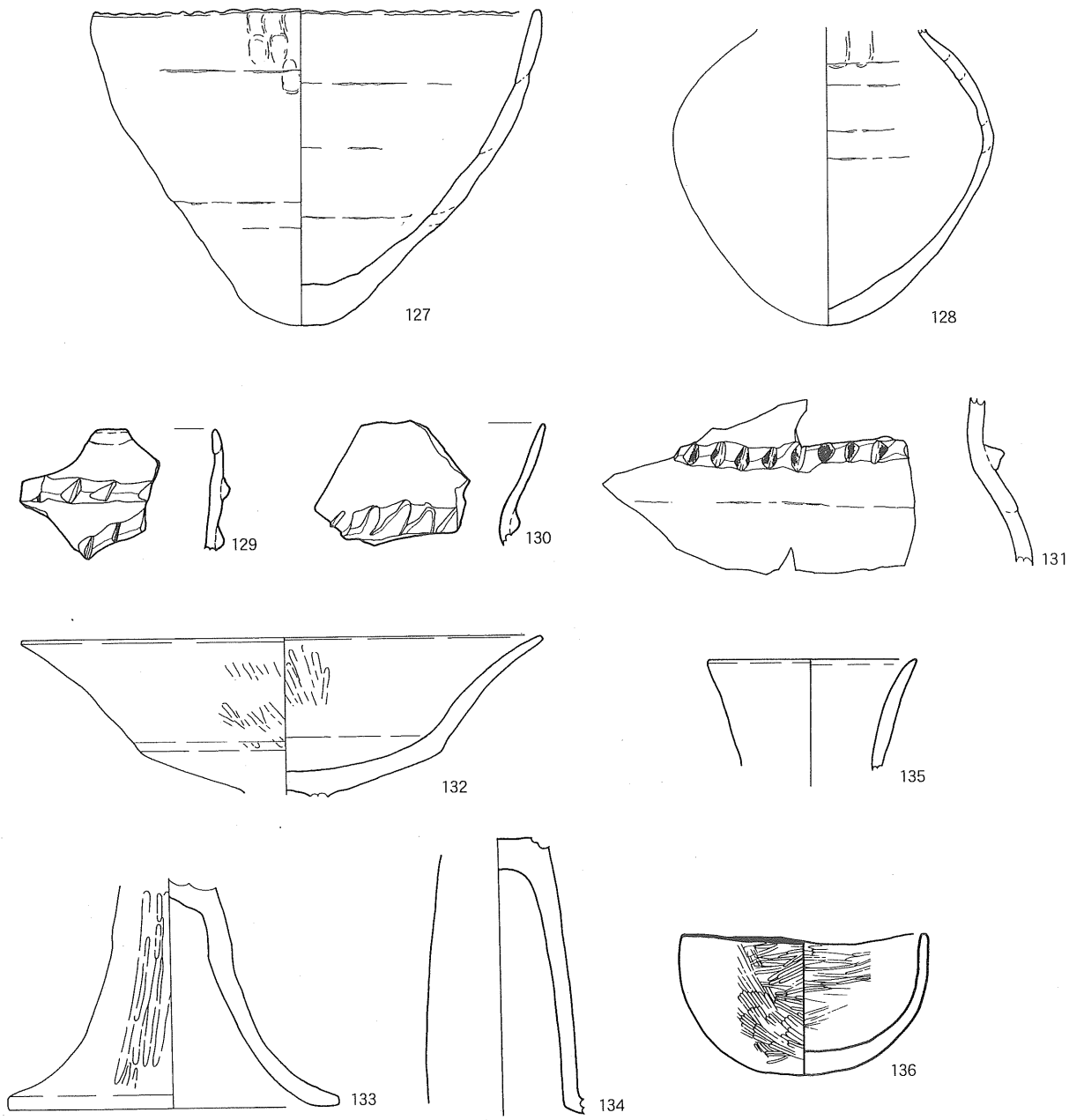
第57図　B区15号竪穴住居跡実測図（1/40）

16号竪穴住居跡

調査区の北側において検出された。16号竪穴住居跡の南西に位置する。平面形態は方形を呈し、長軸約5.7m、短軸約5m、検出面からの深さ約0.5mを測る。ピットは計9本が検出されている。中央より長径36cm、短径20cm、高さ3cmの範囲にわたり固い御池軽石のブロックが検出された。埋土中より土師器が出土している。

137は壷で口縁部は外反する。138は頸部に刻目突帯を施す壷で口縁部はやや外反する。刻目は布目圧痕を有する。139、140は甕底部で139はレンズ状の平底、140は平底である。141、142は高坏である。141は口縁部で外反し大きく開く。142は坏部で受け部と口縁部との稜は不明瞭で丸みを帯びた屈曲となり、口縁部はやや外反する。

またミニチュア土器の椀口縁部が17号住居出土のミニチュア土器と接合している。

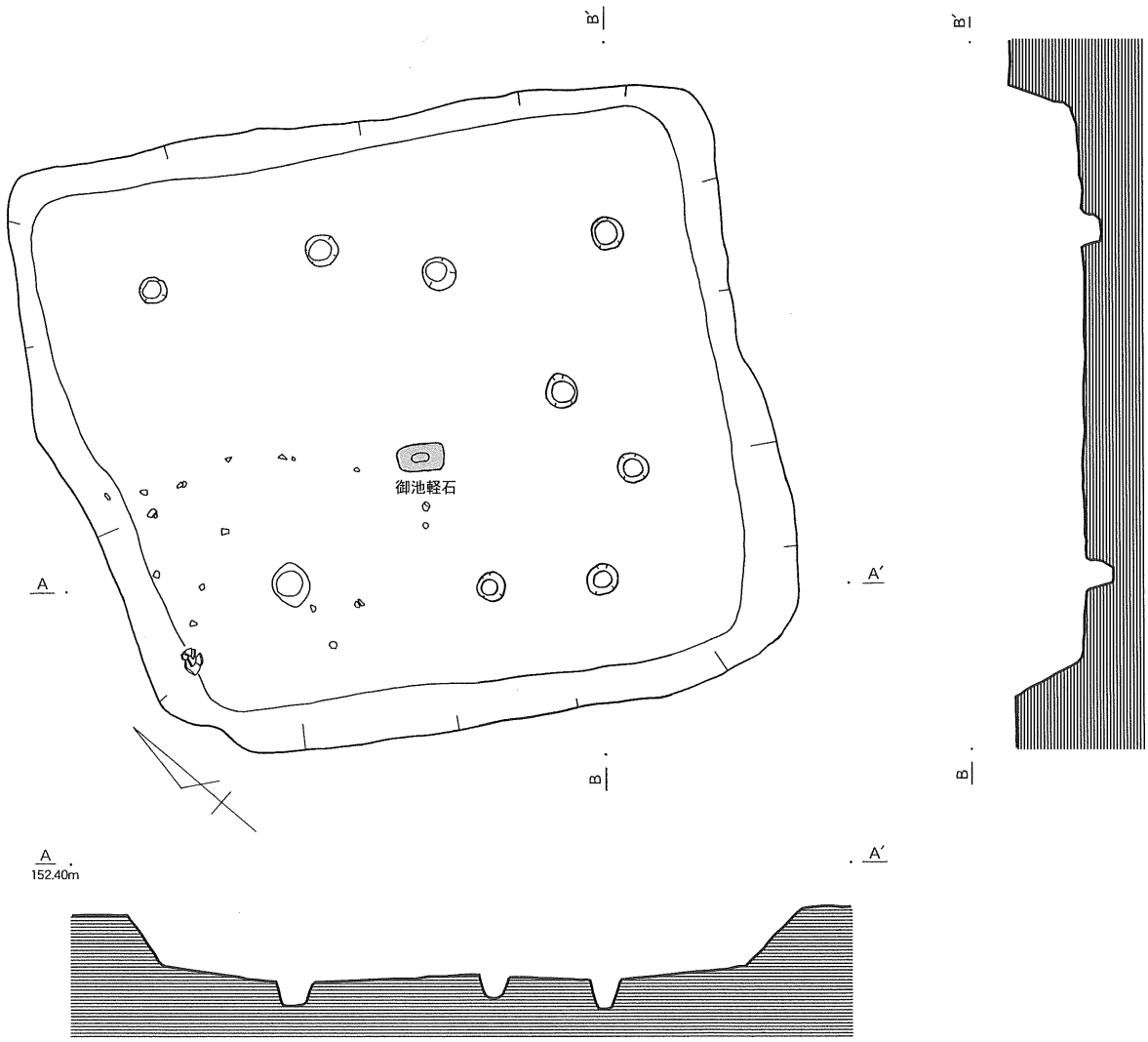


第58図　B区15号竪穴住居跡出土土器実測図（1/3）

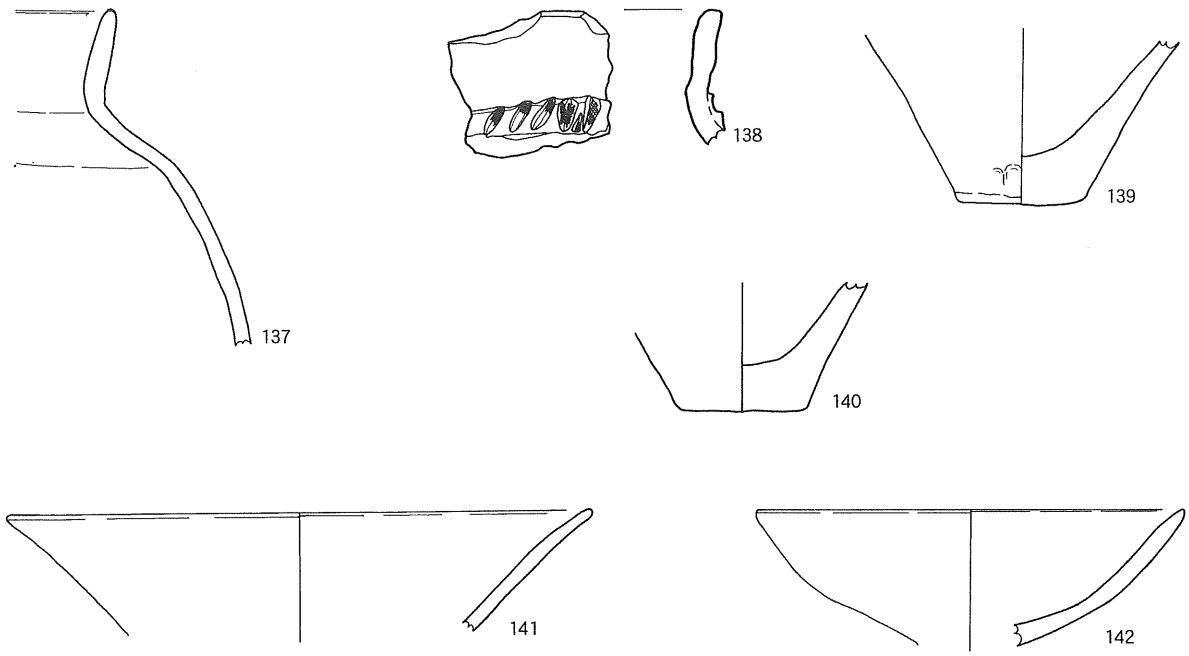
17号竪穴住居跡

調査区のほぼ中央北西側において検出された。平面形態は方形を呈し、長軸約4.4m、短軸約4.0m、検出面からの深さ約0.5mを測る。床面は平坦で、ピットは計4本が確認されている。埋土中より土師器、須恵器が出土している。また床面より炭化材が出土している。

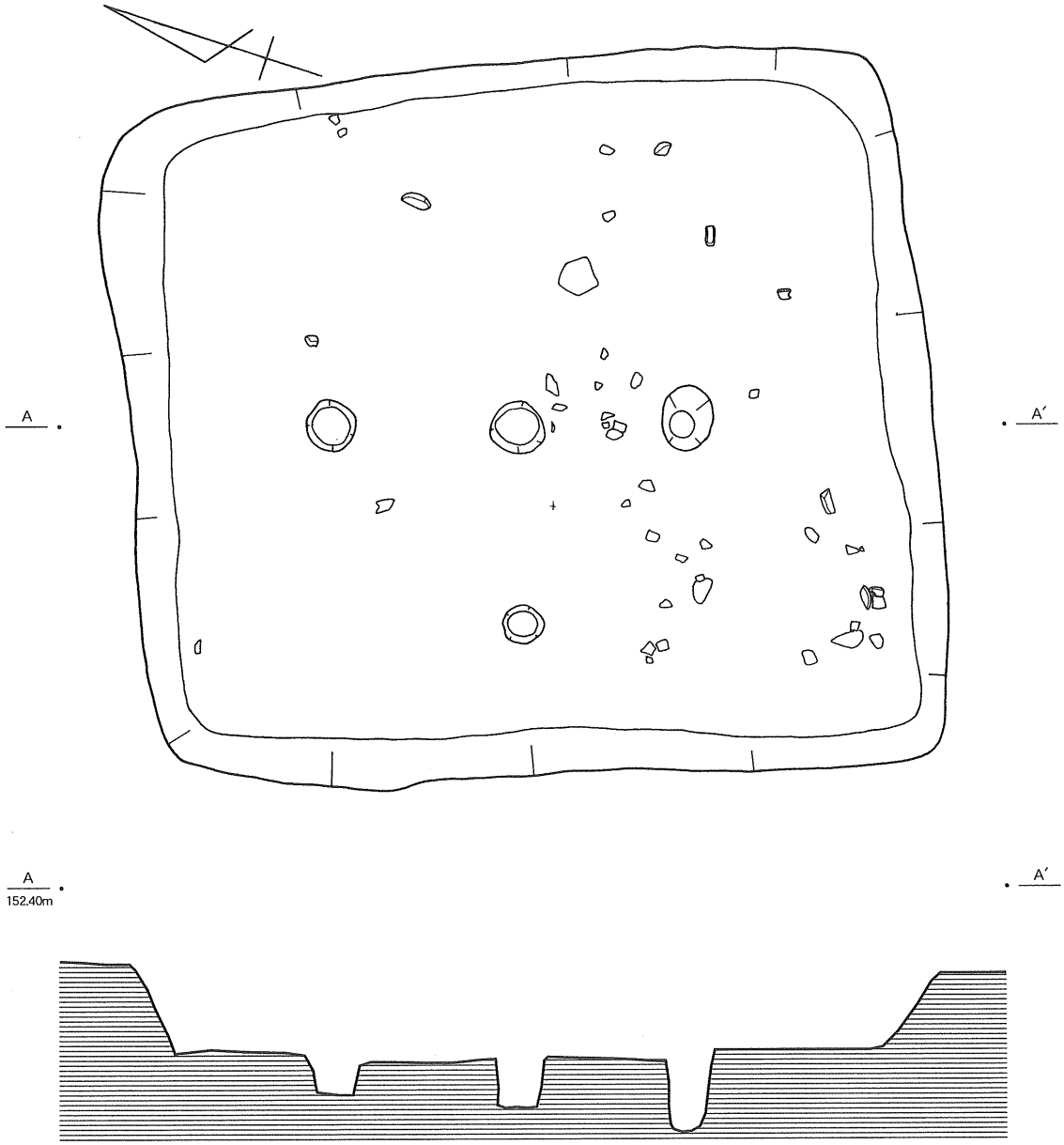
143から153は土師器である。143、145、147は刻目突帯を施す甕である。143はレンズ状底部の底部より若干の膨らみをもちながら立ち上がり、口縁部において内湾する。胴部の所々に布目痕が残る。145、147共に内湾する口縁部と考えられる。いずれの刻目も布目圧痕を有する。144、146は刻目突帯をもたない甕で、144は頸部においてわずかに屈曲し口縁部は緩やかに外反する。



第59図　B区16号竪穴住居跡実測図（1/60）



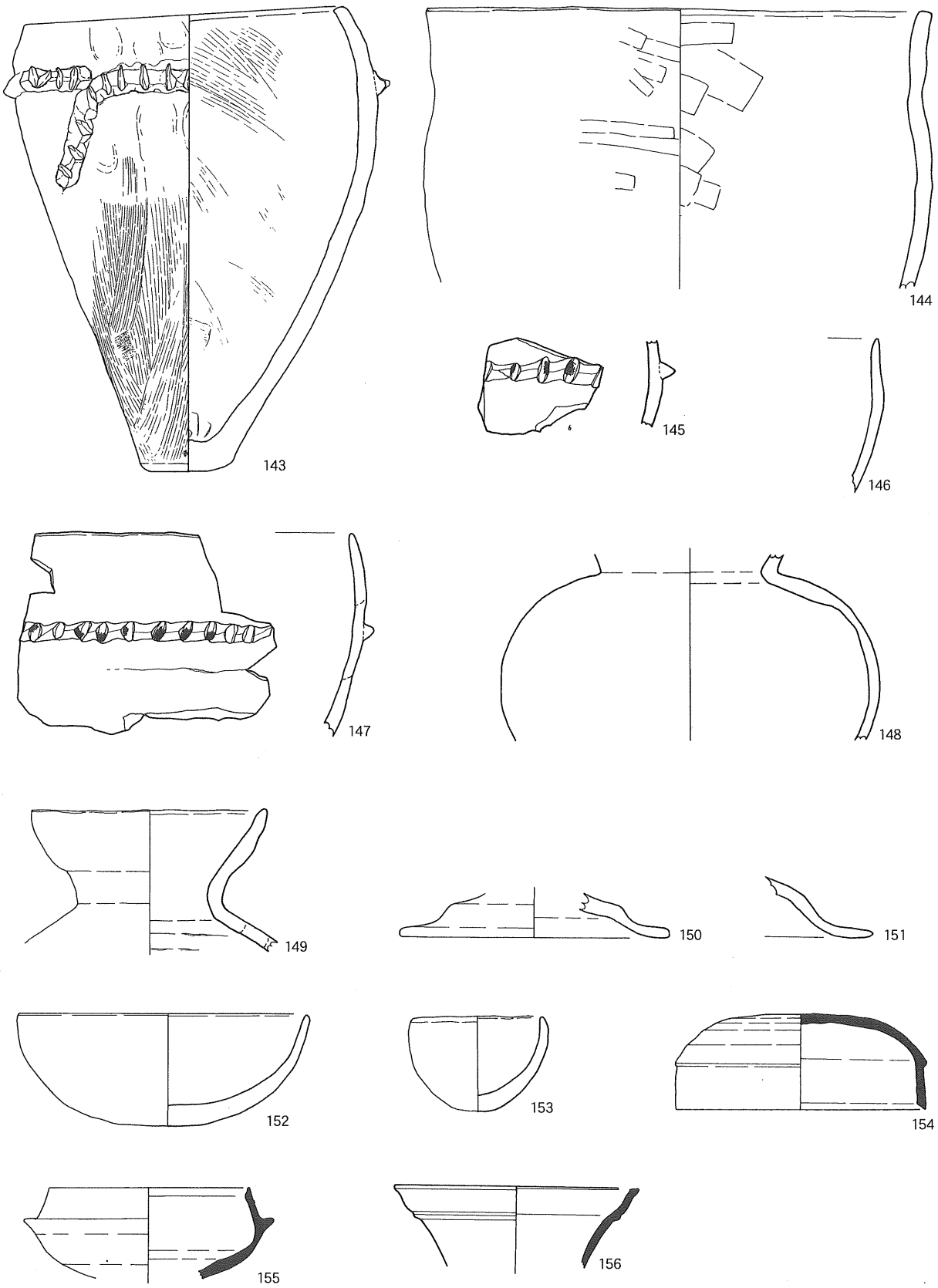
第60図　B区16号竪穴住居跡出土土器実測図（1/3）



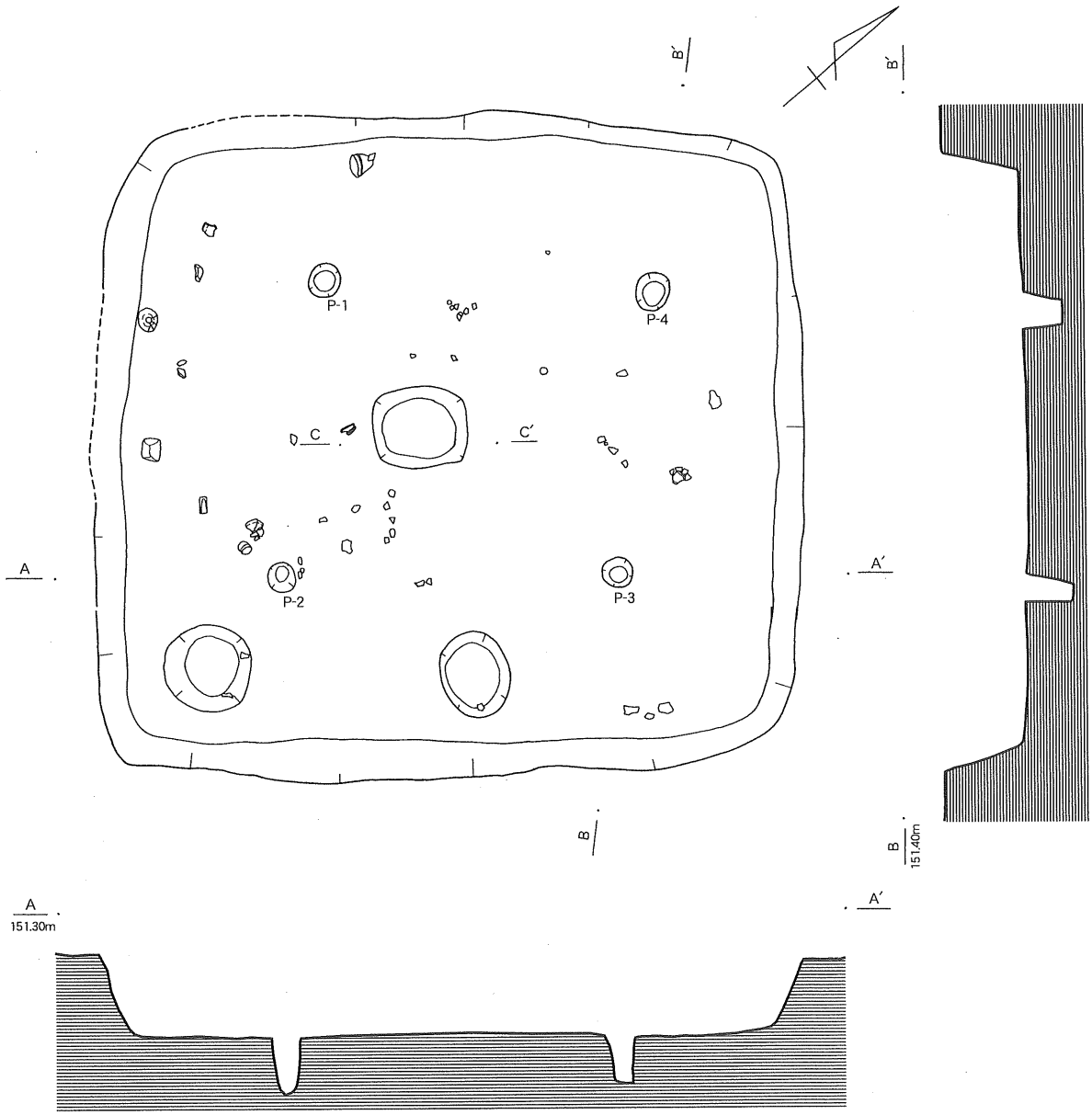
第61図　B区17号竪穴住居跡実測図（1/40）

148は偏球形の胴部に外反する口縁部が付く壷と考えられる。外面に赤色顔料を施す。150、151は高坏裾部である。脚部と底端部との間に明瞭な段をもち、端部は外反する。150は外面に赤色顔料を施す。152は坏で丸底の底部よりゆるく立ち上がり、口縁部はやや内湾する。内外面に赤色顔料を施す。153はミニチュア土器の椀で接合資料であるが、口縁部は16号竪穴住居跡からの出土である。

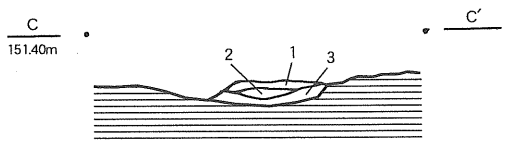
154は須恵器坏蓋である。11号竪穴住居跡出土67坏蓋と接合する。155は坏身である。156は甕口縁部と考えられる。



第62図　B区17号竪穴住居跡出土土器実測図（1/3）



第63図　B区18号竪穴住居跡実測図（1/60）

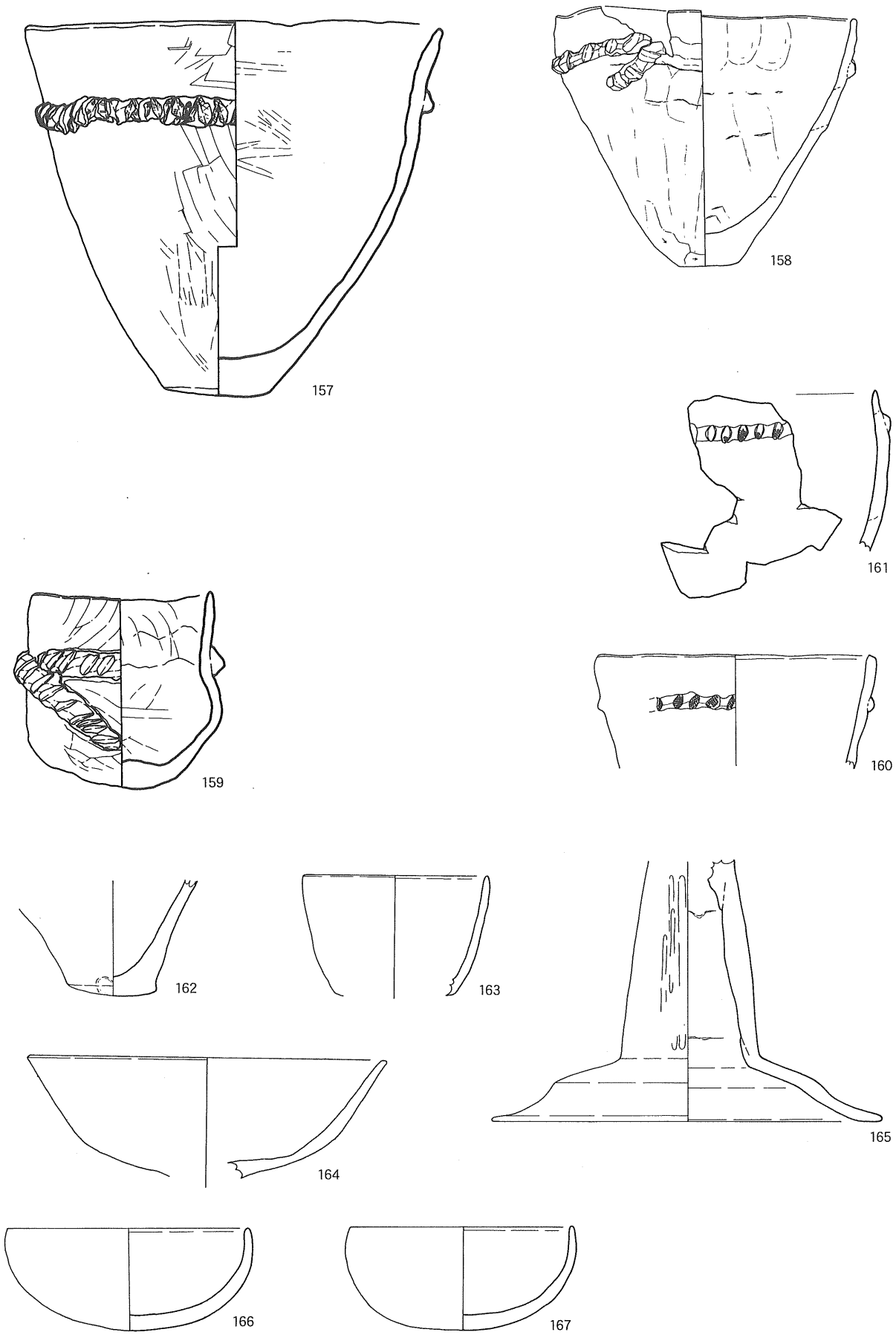


1　黒色土　軽石を含む。やわらかい。
2　赤色灰
3　赤色灰　アカホヤ火山灰。炭化物を含む。

第64図　B区18号竪穴住居跡出土炉跡土層図（1/30）

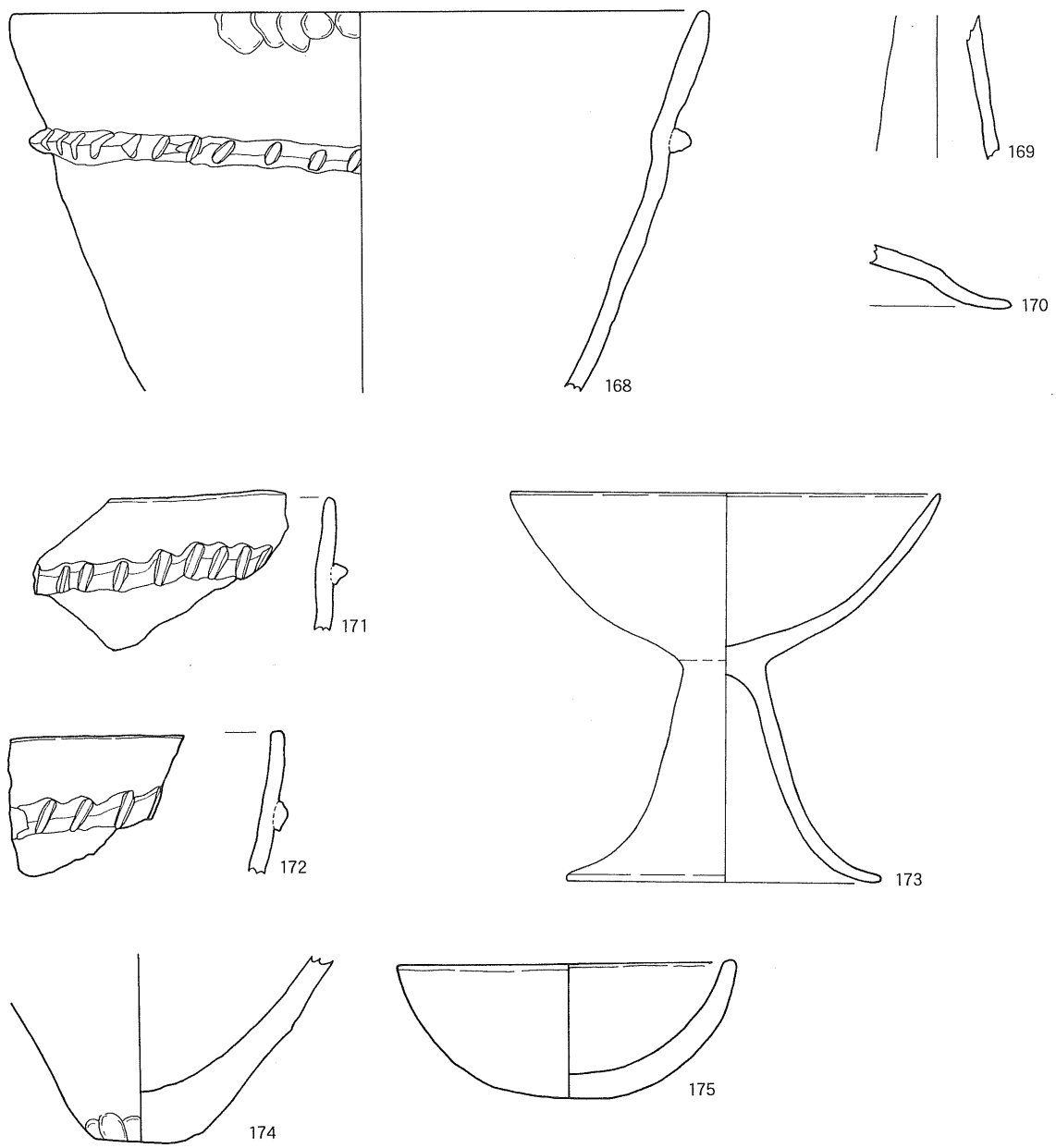
18号竪穴住居跡

調査区の北西側において検出された。平面形態は方形を呈し、長軸約6.2m、短軸約5.6m、検出面からの深さ約0.7mを測る。床面は平坦である。ピットは計6本確認され、P-1～4の4本が主柱穴と考えられる。中央に円形を呈し長径約80cm、短径約70cm、約深さ8cmの土坑が出土した。土坑内には焼けた硬化面及び焼土が確認されている。当住居の炉跡と考えられる。埋土中より土師器が出土している。164、165は床面直上からの出土であり、他は床面からやや浮いた状態での出土である。



第65図　B区18号竪穴住居跡出土土器実測図（1/3）

157、158、160、161は刻目突帯を施す甕である。157は中型甕で平底から膨らみをもって立ち上がり、頸部の刻目突帯において若干屈曲し、口縁部は外反する。158は小型甕で平底から大きく開きながら立ち上がり、口縁部は内湾する。160、161は小型甕で口縁部は内湾する。いずれもの刻目も布目圧痕を有する。162は小型甕の底部でレンズ状の平底を呈する。159は小型壷である。丸底で球形胴部の最大径と口縁部径がほぼ同じであり、頸部に刻目突帯を施す。口縁部はほぼ直立する。164、165は高坏である。164は坏部で受部と口縁部との稜線は不明瞭で丸みを帯びた屈曲となり、口縁部はやや外反する。165は直線的に開く脚部に、脚部と底端部との間に明瞭な段をもち端部が外反する裾部が付く。163は椀で口縁部はやや内湾する。166、167はやや広めの丸底で口縁部が若干内湾する坏である。166は内外面に赤色顔料を施す。



第66図　B区６号土坑出土土器実測図（1/3）

6号土坑

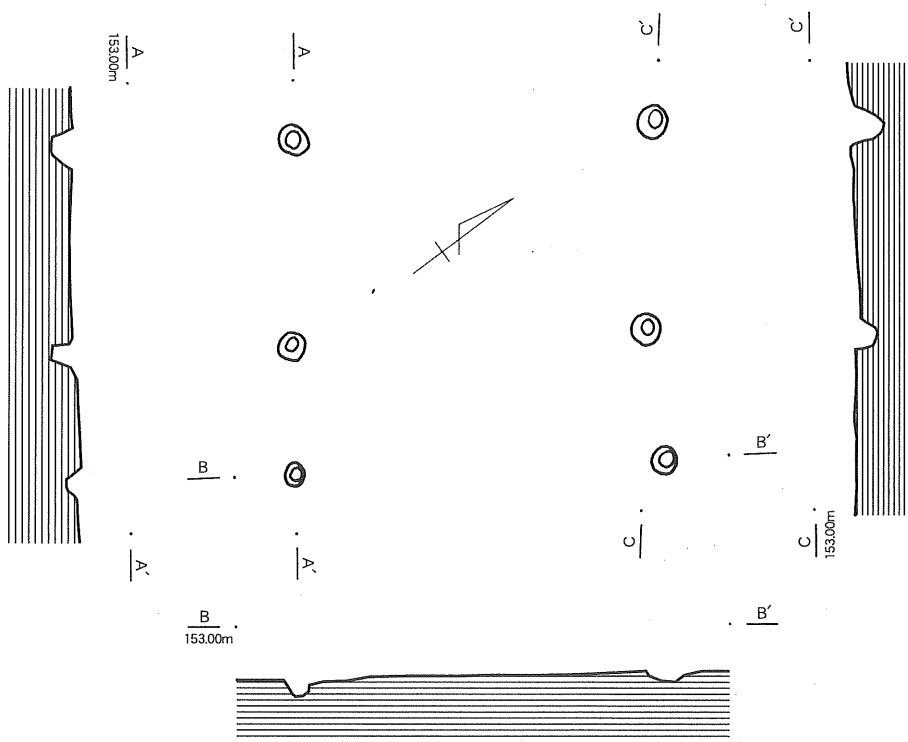
調査区の北東隅において検出された。14号竪穴住居跡の北側に隣接する。平面形態は円形を呈し、長径約0.86m、短径約0.84m、検出面からの深さ約0.3mを測る。土師器のほか、炭化物が出土している。

168、171、172は刻目突帯を施す甕で168は口縁部が外反、171、172は口縁部がわずかに内湾する。174は甕底部で平底である。169、170、173は高坏である。169は直線的でやや開き気味の脚部。170は脚部と裾端部との間に明瞭な段をもつ裾部である。173は坏状を呈する坏部にラッパ状に開く脚部が付く。175は坏で丸底の底部よりやや開きながらに立ち上がり、口唇部は丸く仕上げる。内外面ともにミガキ・赤色顔料を施すが剥落が酷い。全体的に肉厚である。

中世の遺構

1号掘立柱建物跡

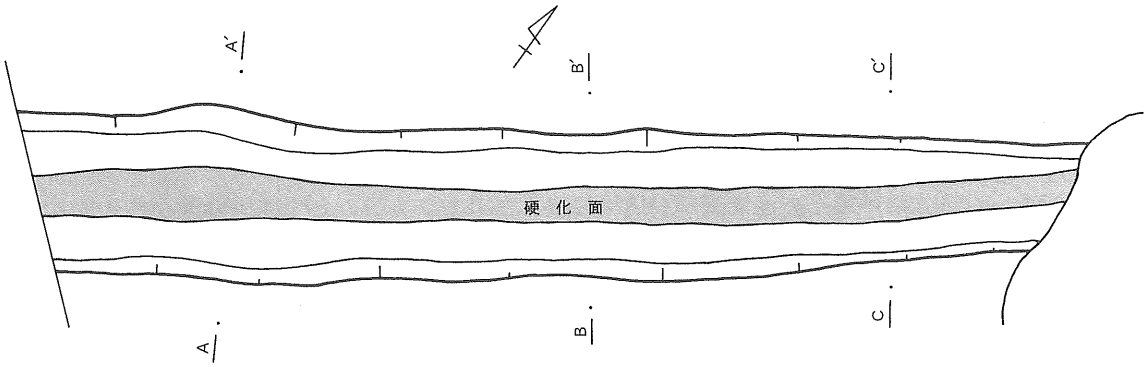
調査区の北東隅において検出された。主軸方向はN－55°－Wをとる。1間×2間の側柱式の掘立柱建物になると考えられ、梁行約3.7m、桁行約3.5mを測る。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は約20～30cm、検出面からの深さは約25～15cmを測る。



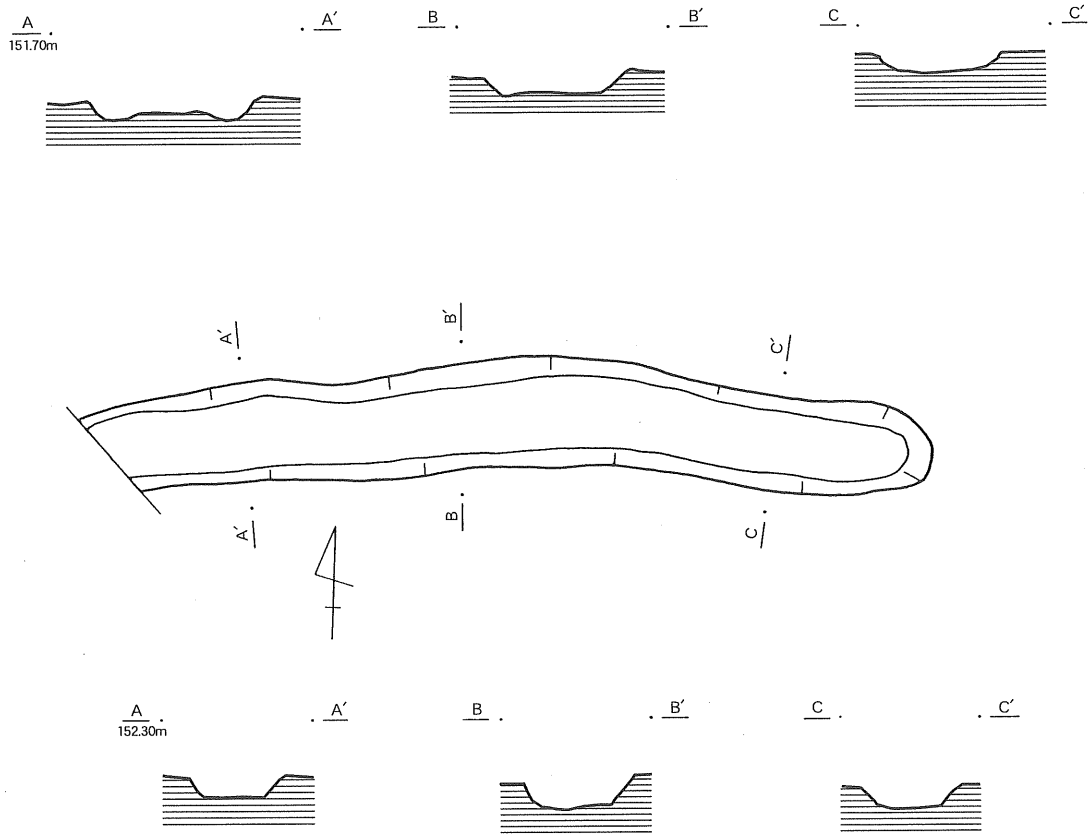
第67図　B区1号掘立柱建物跡実測図（1/100）

1号道路状遺構

調査区の南側に位置し、東西方向に長さ約13.5mにわたり検出された。西側は調査区外へと延びる。東側は11号竪穴住居跡と重複する。溝幅は上場約2m、下場約1.5m、検出面からの深さ約0.3mを測る。溝中央に幅約0.5mの硬化面をもつ。



第68図　B区１号道路状遺構実測図（1/100）



第69図　B区２号溝状遺構実測図（1/100）

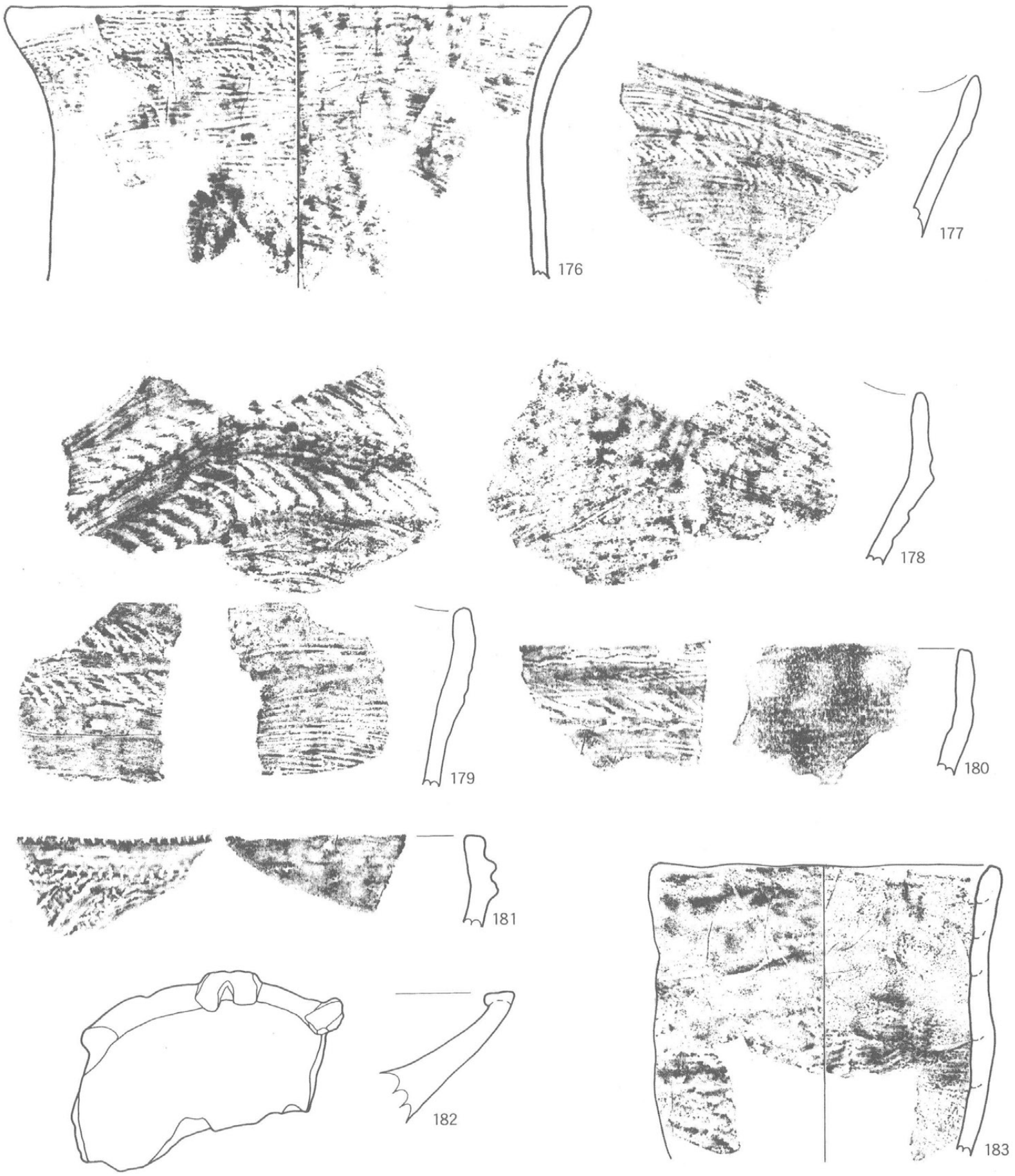
２号溝状遺構

調査区のほぼ中央に位置し、東西方向に長さ約11mにわたって検出された。西側は調査区外へと延びる。溝幅は上場約1.5m、下場約1m、検出面からの深さ約0.25mを測る。

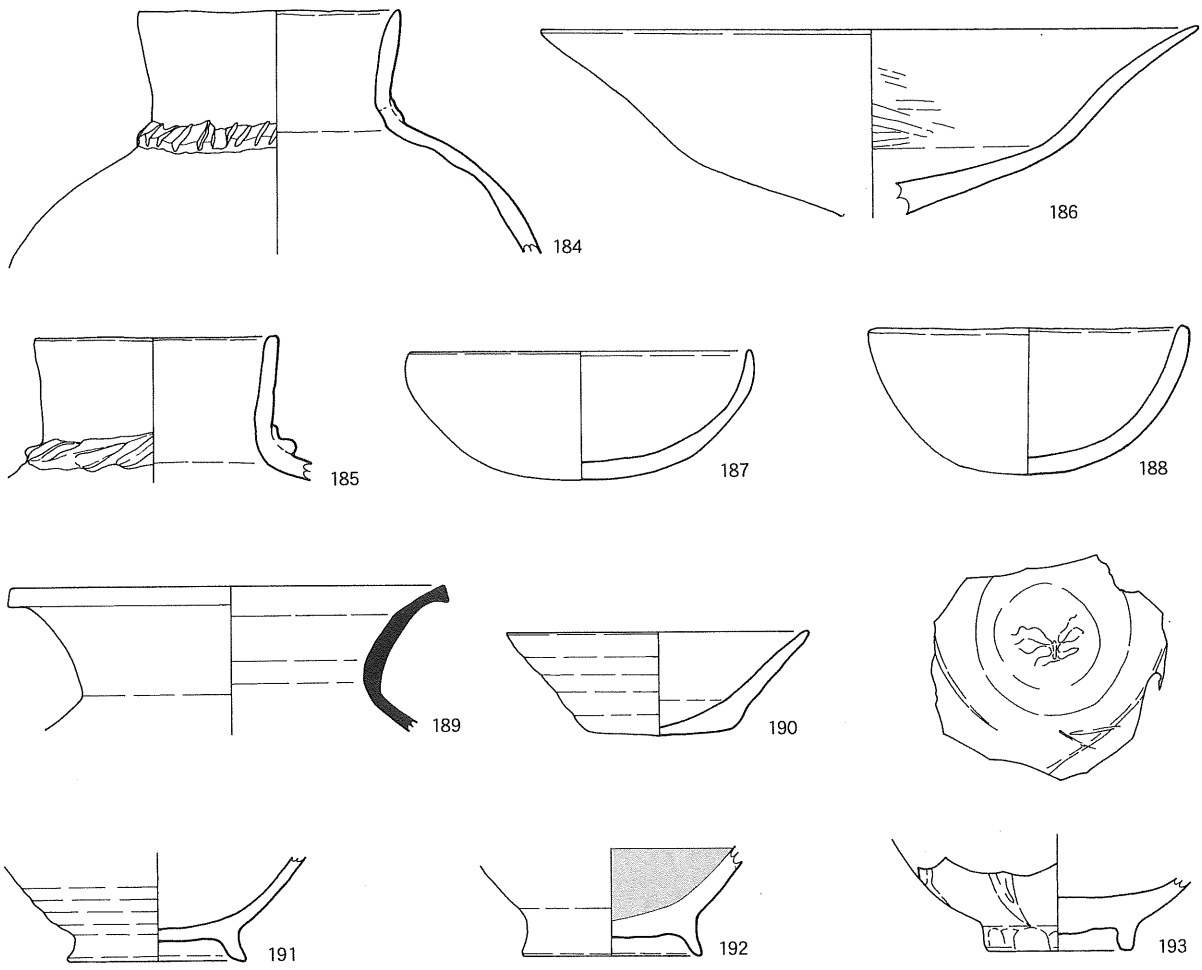
その他の遺構

5号土坑

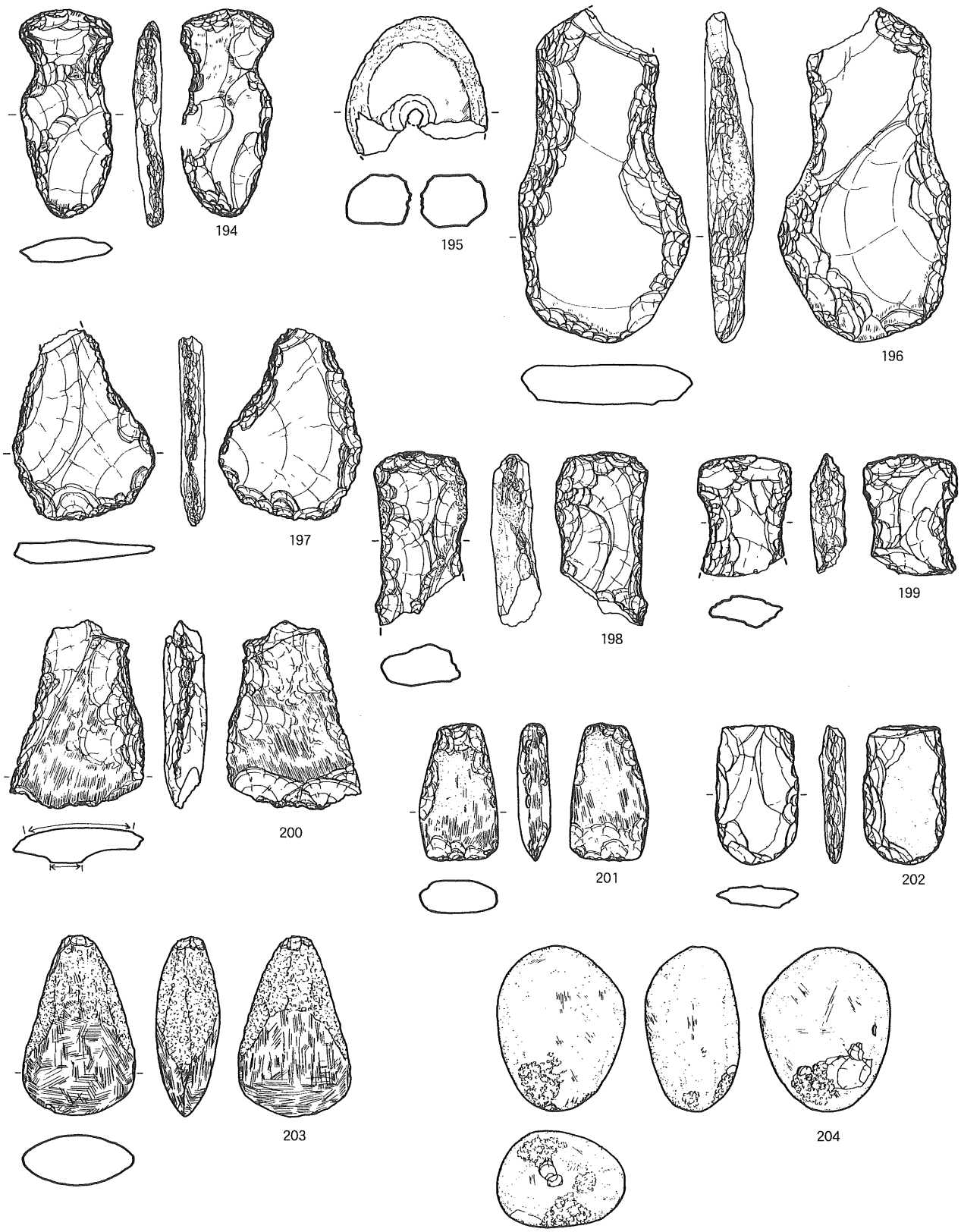
調査区のほぼ中央において検出された。１、17号竪穴住居跡に隣接する。平面形態は隅丸方形を呈し、長軸約2.06m、短軸約1.3m、検出面からの深さ約0.3mを測る。底面はほぼ平らで、中央に直径約14cm、深さ約16cmのピットが検出されている。赤色顔料を施す土師器片、土師器高坏の破片のほか貝殻条痕文、貝殻腹縁刺突文を施す縄文土器が出土している。



第70図　B区包含層出土土器拓影図（1/3）



第71図　B区包含層出土土器実測図（1/3）



第72図　B区包含層出土石器実測図（1/3）

表2　上原第1遺跡B区出土遺物観察表1

単位：cm

No.	出土位置	種別	器種	法量(上：土器　下：石器) 口径 最大長	底径 最大幅	器高 最大厚	手法・文様 外器面	内器面	色調 外面	内面	胎土	備考
1	1号住居	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	褐色	黒褐色	黒色・白色・茶褐色粒子微量。	
2	1号住居	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	暗褐色	明褐	1㎜程度の白色粒少量。	
3	1号住居	縄文土器	深鉢				貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	明褐	明褐	1㎜程度の黒色・白色・茶褐色粒ごく少量。	
4	1号住居	縄文土器	甕				貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	黒褐	明褐	1～2㎜の黒色・白色・茶褐色粒ごく少量。	
5	1号住居	縄文土器	浅鉢				ナデ。	丁寧なナデ。	にぶい褐	褐	1～2㎜の黒色・白色・茶褐色粒ごく少量。	
6	1号住居	縄文土器	台付皿型土器				ナデ。	ナデ。	橙	にぶい橙	1～2㎜の黒色・白色・茶褐色粒ごく少量。	
7	1号住居	縄文土器	深鉢		(8)		ナデ。	ナデ。	褐色	明褐	1㎜程度の石英粒微量。1～2㎜の黒色・茶褐色粒微量。	
8	2号住居	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	明赤褐	暗褐	1㎜以下の石英粒ごく少量。1～2㎜の黒色・茶褐色粒少量。	
9	2号住居	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。ナデ。	ナデ。	黒褐	にぶい褐	1～2㎜の黒色・白色・茶褐色粒ごく少量。	
10	2号住居	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	にぶい黄橙	黒褐色	1～2㎜の黒色・白色・茶褐色粒ごく少量。	
11	2号住居	縄文土器	浅鉢				ナデ。	棒状工具による連続刺突文。	にぶい褐	にぶい橙	1～3㎜の黒色・白色・茶褐色粒ごく少量。	
12	2号住居	縄文土器	深鉢				ナデ。スス付着。	ナデ。	橙	にぶい橙	1㎜程度の石英粒ごく少量。1～2㎜の黒色・茶褐色粒ごく少量。	
13	2号住居	石器	有孔石	5.3	4.15	0.9						29g・砂岩
14	3号住居	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。	ナデ。	明褐	明赤褐	1～3㎜の黒色・白色・茶褐色粒ごく少量。	
15	3号住居	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。	ナデ。	黒褐	黒褐	1㎜程度の黒色・白色・茶褐色粒少量。	
16	3号住居	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。	ナデ。	にぶい赤褐	にぶい赤褐	1㎜以下の黒色・白色・茶褐色粒微量。	
17	3号住居	縄文土器	浅鉢				貝殻腹縁刺突文。沈線文。	ナデ。	明褐	黒褐	1～2㎜の黒色・白色・茶褐色粒ごく少量。	
18	4号住居	縄文土器	台付皿型土器				沈線文。ナデ。	ナデ。	明赤褐	暗褐	1㎜以下の石英粒ごく少量。1～2㎜の黒色・茶褐色粒少量。	
19	4号住居	縄文土器	台付皿型土器				沈線文。ナデ。	ナデ。	明赤褐	暗褐	1㎜以下の石英粒ごく少量。1～2㎜の黒色・茶褐色粒少量。	
20	4号住居	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	にぶい褐	にぶい橙	1㎜程度の黒色・白色粒微量。	
21	5号住居	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。	ナデ。	にぶい褐	にぶい橙	1㎜以下の黒色・白色・茶褐色粒微量。	
22	1号土坑	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	暗褐	にぶい黄橙	1～2㎜の黒色・白色・茶褐色粒少量。雲母少量。	
23	1号土坑	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	橙	橙	1㎜程度の白色粒少量。	
24	1号土坑	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。	ナデ。	暗褐	にぶい黄橙	1～2㎜の黒色・白色・茶褐色粒少量。雲母少量。	
25	3号土坑	石器	石錘	5.8	5.7	1.35						66g・砂岩
26	9号住居	土師器	甕	(25)			刻目突帯。ナデ。	ハケ目。ナデ。	暗褐色	褐色	1㎜以下の石英粒微量。1㎜以下の黒色・茶褐色粒ごく微量。	
27	9号住居	土師器	甕	13	23	(10)	刻目突帯。ハケ目。一部ミガキ。ナデ。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	白色・黒色・茶褐色粒子ごく微量。	
28	9号住居	土師器	甕				刻目突帯。板ナデ。	ナデ。	にぶい黄橙	浅黄橙	1㎜以下の石英粒微量。1㎜以下の黒色・茶褐色粒ごく微量。	
29	9号住居	土師器	甕				刻目突帯。ナデ。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1㎜程度の石英粒微量・1㎜以下の黒色・茶褐色粒ごく微量。	
30	9号住居	土師器	甕				刻目突帯。ナデ。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1～2㎜の黒色・茶褐色粒少量。	
31	9号住居	土師器	甕				刻目突帯。ナデ。スス付着。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1～2㎜の石英粒微量。1㎜程度の黒色・茶褐色粒微量。	
32	9号住居	土師器	甕				刻目突帯。ナデ。スス付着。	ナデ。	にぶい黄橙	灰	1㎜程度の石英粒ごく少量。1㎜程度の黒色・茶褐色粒微量。	
33	9号住居	土師器	甕		5		ナデ。木葉痕。	ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1㎜程度の石英粒微量。1㎜程度の黒色・茶褐色粒微量。	
34	9号住居	土師器	壷	11			刻目突帯。ナデ。	ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1㎜以下の黒色・茶褐色粒子ごく微量。	
35	9号住居	土師器	壷				刻目突帯。ナデ。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1㎜以下の黒色・茶褐色粒ごく微量。	
36	9号住居	土師器	壷	8.3		16.7	刻目突帯。ナデ。	ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1㎜以下の黒色・茶褐色粒ごく微量。	

表3　上原第1遺跡B区出土遺物観察表2

単位：cm

No.	出土位置	種別	器種	法量(上：土器　下：石器) 口径 / 最大長	底径 / 最大幅	器高 / 最大厚	手法・文様 外器面	手法・文様 内器面	色調 外面	色調 内面	胎土	備考
37	9号住居	土師器	高坏				ナデ。	ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1mm以下の白色粒ごく微量。	
38	9号住居	土師器	椀	(16.4)			ミガキ。赤色顔料。	ミガキ。赤色顔料。	赤褐	赤褐	白色粒子ごく微量。	
39	9号住居	土師器	坏				ミガキ。	ミガキ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	白色・茶褐色粒子ごく微量。	
40	9号住居	須恵器	甕				波状文		灰色	灰色	1mm以下の白色粒子微量。	
41	10号住居	土師器	高坏	(26.5)			ミガキ。	ナデ。一部ミガキ。一部黒変。	浅黄橙	にぶい黄橙	黒色・茶褐色粒子微量。	
42	10号住居	土師器	高坏	28			ミガキ。	ミガキ。	浅黄橙	浅黄橙	1mm程度の黒色・茶褐色粒微量。	
43	10号住居	土師器	高坏	15.5	9.5	11	ミガキ。赤色顔料。	ミガキ。赤色顔料。	赤褐	赤褐	黒色・白色粒微量。	
44	10号住居	土師器	高坏			(13)	ミガキ。赤色顔料。	ミガキ。赤色顔料。	赤褐	赤褐	1mm程度の白色・黒色・茶褐色粒微量。	
45	10号住居	土師器	鉢	15.5			ミガキ。	ミガキ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm程度の黒色・茶褐色粒微量。	
46	10号住居	土師器	高坏		19		ミガキ。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm程度の白色・黒色・茶褐色粒微量。	
47	10号住居	土師器	甕				刻目突帯。ナデ。	ナデ。	褐色	褐色	1mm程度の石英粒ごく少量。1mm程度の黒色・茶褐色粒ごく少量。	
48	10号住居	土師器	台付坏	13.5	5.5	7.5	ミガキ。赤色顔料。	ミガキ。赤色顔料。	赤褐	赤褐	黒色粒子微量。	
49	10号住居	土師器	甕	11.5		11	ミガキ。赤色顔料。	ミガキ。赤色顔料。	赤褐	赤褐	黒色粒子微量。	
50	10号住居	土師器	坏・完形	14	5.3	5	ミガキ。赤色顔料。	ミガキ。赤色顔料。	暗赤色	暗赤色	黒色粒子微量。	
51	11号住居	土師器	甕	(15.5)			ナデ。スス付着。	ナデ。	にぶい橙	浅黄橙	1mm程度の石英粒ごく少量。1～2mmの黒色・茶褐色粒ごく少量。	
52	11号住居	土師器	甕				刻目突帯。ナデ。	ナデ。	浅黄	浅黄	1mm程度の石英粒少量。1mm程度の黒色・茶褐色粒少量。	
53	11号住居	土師器	甕				刻目突帯。ナデ。	ナデ。	浅黄	浅黄	1mm程度の石英粒少量。1mm程度の黒色・茶褐色粒少量。	
54	11号住居	土師器	甕				刻目突帯。ナデ。	ナデ。	にぶい黄橙	浅黄橙	1mm程度の茶褐色粒ごく微量。	
55	11号住居	土師器	甕				ナデ・スス付着。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1～2mm程度の石英粒少量。1～2mm程度の黒色・茶褐色粒少量。	
56	11号住居	土師器	甕		3		ナデ。	ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1～2mmの黒色・白色・茶褐色粒少量。	
57	11号住居	土師器	甕				突帯。ナデ。	ナデ。	浅黄橙	にぶい橙	1～2mmの石英粒少量。1～2mmの黒色・茶褐色粒少量。	
58	11号住居	土師器	甕			45	ナデ。スス付着。	ナデ。	にぶい褐	浅黄橙	1mm程度の石英粒少量。1mm程度の黒色・茶褐色粒微量。	
59	11号住居	土師器	高坏				ミガキ。	ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1mm程度の黒色・茶褐色粒微量。	
60	11号住居	土師器	高坏				ミガキ。一部スス付着。	ナデ。	にぶい黄橙	黒褐	黒色・白色粒子微量。	
61	11号住居	土師器	高坏				ミガキ。	ナデ。	にぶい浅黄	褐灰	1～2mmの茶褐色粒微量 。	
62	11号住居	土師器	高坏				ミガキ。工具痕。	ナデ。	浅黄橙	褐灰	1mm程度の黒色・茶褐色粒ごく微量。	
63	11号住居	土師器	高坏		(19.5)		ミガキ。	ナデ。	にぶい黄橙	褐灰	1mm程度の黒色・白色粒子微量。	
64	11号住居	土師器	高坏				ミガキ。スス付着。赤色顔料。	ナデ。	橙	にぶい浅黄	1～2mmの茶褐色粒ごく少量。黒色・白色粒子微量。	
65	11号住居	土師器	椀	14.5	(8)	5	ミガキ。赤色顔料。	ミガキ。赤色顔料。	明席褐色	橙	黒色・白色粒子微量	
66	11号住居	土師器	碗			6	ナデ。	ナデ。	淡黄	浅黄	1mm以下の黒色・白色粒ごく少量。	
67	11号住居	須恵器	坏蓋		(13)	4.8	回転ヘラケズリ。回転ナデ。	回転ヘラケズリ。回転ナデ。	暗灰色	青灰色	1mm程度の白色粒微量。	
68	11号住居	須恵器	坏身	(12.3)			回転ヘラケズリ。回転ナデ。	回転ヘラケズリ。回転ナデ。	青灰色	青灰色	1mm程度の白色粒微量。	
69	12号住居	土師器	甕	33	9	(27)	ナデ。突帯。スス付着。	ナデ・スス付着。	浅黄橙	淡黄	1mm程度の石英粒ごく少量。1～3mm程度の黒色・茶褐色粒少量。	
70	12号住居	土師器	甕			8	刻目突帯。ナデ。	ナデ。	淡黄	浅黄	1mm程度の石英粒ごく少量。1～2mmの黒色・茶褐色粒ごく少量。	
71	12号住居	土師器	甕				刻目突帯。ナデ。	ナデ。	浅黄橙	にぶい黄橙	1～2mmの石英粒微量。1～2mmの白色・黒色・茶褐色粒少量。	
72	12号住居	土師器	甕	21	7	31	板ナデ。ナデ。スス付着。	ナデ・スス付着。	淡黄	浅黄橙	1mm程度の石英粒少量。1～3mmの黒色・茶褐色粒少量。	

表4　上原第1遺跡B区出土遺物観察表3

単位：cm

No.	出土位置	種別	器種	法量(上：土器　下：石器) 口径 最大長	底径 最大幅	器高 最大厚	手法・文様 外器面	内器面	色調 外面	内面	胎土	備考
73	12号住居	土師器	甕				刻目突帯。ナデ。スス付着。	ナデ・スス付着。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1㎜程度の石英粒少量。1～3㎜の黒色・茶褐色粒少量。	
74	12号住居	土師器	甕				刻目突帯。ナデ。スス付着。	ナデ。スス付着。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1㎜程度の石英粒ごく少量。1～2㎜の黒色・茶褐色粒少量。	
75	12号住居	土師器	壺？	(12.7)			ナデ。スス付着。	ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1㎜程度の石英粒ごく少量。2～3㎜の黒色・茶褐色粒少量。	
76	12号住居	土師器	壺	(12.5)			刻目突帯。ナデ。	ナデ	浅黄橙	浅黄橙	1㎜程度の石英粒微量。2～3㎜の黒色・茶褐色粒少量。	
77	12号住居	土師器	壺		6		ナデ。	ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1㎜程度の石英粒ごく少量。2～3㎜の黒色・茶褐色粒少量。	
78	12号住居	土師器	壺？		7		ナデ。若干の上げ底。スス付着。	ナデ・スス付着。	黄橙	浅黄橙	1～2㎜の黒色・茶褐色粒少量。	
79	12号住居	土師器	壺		8		ナデ。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1㎜程度の石英粒ごく少量。2～3㎜の黒色・茶褐色粒少量。	
80	12号住居	土師器	高坏	(19.2)			ミガキ。	ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1㎜以下の白色・茶褐色粒微量。	
81	12号住居	土師器	高坏		10	15	ミガキ。赤色顔料。	ミガキ。赤色顔料。	にぶい赤褐	にぶい橙	1～2㎜の茶褐色粒微量。	
82	12号住居	土師器	高坏	(19.6)			ミガキ。	ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1㎜以下の黒色・白色・茶褐色粒子ごく微量。	
83	12号住居	土師器	高坏	17			ミガキ。	ナデ。一部ミガキ。一部黒変。	浅黄橙	浅黄橙	1㎜以下の黒色・白色・茶褐色粒微量。	
84	12号住居	土師器	高坏		16.5		ミガキ。赤色顔料。融着物。	ナデ。一部ミガキ。黒変。	明赤褐色	黒褐色	1㎜程度の黒色・白色・茶褐色粒微量。	
85	12号住居	土師器	高坏		14.5		ミガキ。赤色顔料。融着物。	ナデ。一部ミガキ。	にぶい橙	黒褐色	1㎜程度の黒色・白色・茶褐色粒微量。	
86	12号住居	土師器	高坏		14		ミガキ。融着物。	ナデ。	浅黄橙	にぶい黄橙	1㎜以下の黒色・白色・茶褐色粒子ごく微量。	
87	12号住居	土師器	高坏				融着物。ナデ。	ナデ。	浅黄橙	褐灰	1㎜以下の黒色・白色・茶褐色粒子ごく微量。	
88	12号住居	土師器	椀	12.8	3.6	7.2	板ナデ。ナデ。スス付着。	ケズリ。ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1㎜程度の石英粒少量。1㎜程度の黒色・茶褐色粒ごく少量。	
89	12号住居	土師器	坏	(14.3)			ミガキ	ナデ	にぶい黄橙	浅黄橙	1㎜以下の白色・茶褐色粒微量。	
90	12号住居	土師器	椀	(12.9)			ナデ	ナデ	浅黄橙	浅黄橙	1㎜以下の白色・茶褐色粒微量。	
91	12号住居	土師器	坏				ミガキ。	ミガキ。	浅黄橙	浅黄橙	1㎜以下の白色・茶褐色粒微量。	
92	12号住居	土師器	椀	7		5	ナデ。赤色顔料。	ナデ。	暗赤	浅黄橙	1㎜以下の白色・黒色粒微量。	
93	12号住居	土師器	坩	6.5			ナデ。	ナデ。	にぶい橙	にぶい橙	1㎜程度の石英粒ごく微量。1㎜以下の黒色・茶褐色粒子ごく微量。	
94	13号住居	土師器	甕	25			刻目突帯。板ナデ。ナデ。	ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1㎜程度の石英粒少量。2～4㎜の黒色・茶褐色粒少量。	
95	13号住居	土師器	甕	19	4	18	板ナデ。ナデ。	ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1㎜程度の石英粒少量。1～3㎜の黒色・茶褐色粒少量。	
96	13号住居	土師器	甕	24	5	22	刻目突帯。ナデ。	ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1㎜程度の石英粒少量。2～4㎜の黒色・茶褐色粒少量。	
97	13号住居	土師器	甕	(17.6)			刻目突帯。ナデ。スス付着。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1㎜程度の石英粒少量。1～3㎜の黒色・茶褐色ごく少量。	
98	13号住居	土師器	甕	24			ナデ。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1㎜程度の石英粒少量。1～2㎜の黒色・茶褐色粒少量。	
99	13号住居	土師器	甕	21			ナデ。	ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1㎜程度の石英粒微量。1～3㎜の黒色・茶褐色粒少量。	
100	13号住居	土師器	甕				刻目突帯。ナデ。スス付着。	ナデ。	暗褐色	浅黄橙	1㎜程度の石英粒少量。	
101	13号住居	土師器	甕				刻目突帯。ナデ。	ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1㎜程度の石英粒少量。1～3㎜の黒色・灰色粒少量。	
102	13号住居	土師器	甕		5		ナデ。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1㎜程度の石英粒少量。1～2㎜の黒色・灰色粒少量。	
103	13号住居	土師器	高坏	26.3	15.15	20.25	ミガキ。	ミガキ。	浅黄橙	浅黄橙	1㎜程度の白色・茶褐色粒ごく微量。	
104	13号住居	土師器	高坏	16.5			ミガキ。	ナデ。一部ミガキ。	にぶい黄橙	浅黄橙	1～2㎜の茶褐色粒・白色粒子ごく微量。	
105	13号住居	土師器	高坏	16		7	ミガキ。赤色顔料。	ミガキ。赤色顔料。	赤	赤	1㎜以下の黒色。茶褐色粒ごく微量。	
106	13号住居	土師器	坩	8			ナデ。	ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1㎜以下の白色・茶褐色粒ごく微量。	
107	13号住居	土師器	坩				ナデ。	ナデ。	橙	浅黄橙	1㎜以下の白色・茶褐色粒ごく微量。	
108	13号住居	土師器	椀	11.5	4	4.5	ミガキ。	ミガキ。	浅黄橙	浅黄橙	1㎜程度の茶褐色粒ごく微量。	
109	13号住居	土師器	坏	(12.7)	6	4	ナデ。	ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	黒色・白色・茶褐色粒子ごく微量。	
110	14号住居	土師器	甕	(17.3)			ナデ。指頭圧痕。スス付着。	ナデ。	浅黄	浅黄	1～2㎜の石英粒少量。1～3㎜の黒色、茶褐色粒ごく少量。	

表5　上原第1遺跡B区出土遺物観察表4

単位：cm

No.	出土位置	種別	器種	法量(上：土器　下：石器) 口径 最大長	底径 最大幅	器高 最大厚	手法・文様 外器面	内器面	色調 外面	内面	胎土	備考
111	14号住居	土師器	甕				刻目突帯。ナデ。スス付着。	ナデ	褐色	浅黄	1㎜程度の石英粒少量。1～2㎜の黒色、茶褐色粒ごく少量。	
112	14号住居	土師器	甕				刻目突帯。ナデ。	ナデ	褐色	褐色	1㎜程度の石英粒少量。1～2㎜の黒色、茶褐色粒ごく少量。	
113	14号住居	土師器	甕				刻目突帯。ナデ。指頭圧痕。スス付着。	ナデ	暗褐色	浅黄	1㎜程度の石英粒微量。1～2㎜の黒色、茶褐色粒ごく少量。	
114	14号住居	土師器	壷				刻目突帯。ナデ。	ナデ。	浅黄	浅黄	1㎜以下の白色・黒色粒子粒微量。1～3㎜の茶褐色粒ごく微量。	
115	14号住居	土師器	壷	(11)			ナデ。指頭圧痕。	ナデ。	浅黄	浅黄	1㎜以下の白色・黒色粒子粒微量。1～3㎜の茶褐色粒ごく微量。	
116	14号住居	土師器	壷		5		ナデ。	ナデ。	浅黄	浅黄	1㎜以下の白色・黒色粒子粒微量。1～3㎜の茶褐色粒ごく微量。	
117	14号住居	土師器	甕		5.5		指頭圧痕。ナデ。	ナデ。	明赤褐	にぶい褐	1～2㎜の石英粒少量。1～5㎜の黒色、茶褐色粒少量。	
118	14号住居	土師器	甕		6.5		ナデ。	ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1㎜程度の石英粒ごく少量。1～3㎜の黒色、茶褐色粒少量。	
119	14号住居	土師器	甕		4		指頭圧痕。ナデ。	ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1～2㎜の石英粒ごく少量。2～4㎜の黒色、茶褐色粒少量。	
120	14号住居	土師器	高坏	20			ミガキ。	ミガキ。	浅黄橙	浅黄橙	白色・黒色・茶褐色粒子ごく微量。	
121	14号住居	土師器	高坏				ミガキ。	ナデ。	浅黄橙	黒褐色	白色・黒色・茶褐色粒子ごく微量。	
122	14号住居	土師器	高坏				ミガキ。	ナデ。	にぶい黄橙	黒褐色	白色・黒色・茶褐色粒子ごく微量。	
123	14号住居	土師器	高台付鉢	(17.4)	9.5	9.5	ミガキ。赤色顔料。	ミガキ。赤色顔料。	暗赤色	暗赤色	1㎜程度の白色・茶褐色粒ごく微量。	
124	14号住居	土師器	坏	12.5	2.5	6.4	ミガキ。赤色顔料。	ミガキ。赤色顔料。	暗赤色	暗赤色	白色・黒色・茶褐色粒子ごく微量。	
125	14号住居	土師器	坏	(14.5)			ミガキ。	ミガキ。	浅黄	浅黄	白色・黒色・茶褐色粒子ごく微量。	
126	14号住居	土師器	壷	12.6			刻目突帯。ハケ目。ナデ。	ナデ。	淡黄	淡黄	1㎜程度の白色・黒色・茶褐色粒微量。	
127	15号住居	土師器	鉢	21	4	12	ナデ。指頭圧痕。口縁部にスス付着。	ナデ	にぶい黄橙	浅黄	1～2㎜の石英粒ごく少量。	
128	15号住居	土師器	壷				指頭圧痕。ナデ。	ナデ。	にぶい橙	浅黄橙	1～2㎜の石英粒少量。1～4㎜の茶褐色粒少量。	
129	15号住居	土師器	甕				刻目突帯。ナデ。	ナデ。	淡黄	淡黄	1～2㎜の石英粒微量。1～2㎜の黒色・茶褐色粒少量。	
130	15号住居	土師器	甕				刻目突帯。ナデ。スス付着。	ナデ。	褐色橙	浅黄橙	1㎜程度の石英粒微量。1～2㎜の黒色・茶褐色粒微量。	
131	15号住居	土師器	壷				刻目突帯。ナデ。スス付着。	ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1～2㎜の黒色・茶褐色粒ごく少量。	
132	15号住居	土師器	高坏	23			ミガキ。	ミガキ。	浅黄	浅黄	1㎜以下の黒色・茶褐色粒ごく少量。	
133	15号住居	土師器	高坏				ミガキ。	ナデ。	にぶい褐	灰褐色	1㎜以下の茶褐色・灰色粒ごく微量。	
134	15号住居	土師器	高坏				ミガキ。	ナデ。	浅黄	黒褐	1～4㎜の茶褐色粒微量。	
135	15号住居	土師器	坩?				ミガキ。赤色顔料。	ミガキ。赤色顔料。	暗赤色	暗赤色	1㎜以下の白色・茶褐色粒ごく微量。	
136	15号住居	土師器	椀	11.1		6.25	ミガキ。赤色顔料。	ミガキ。赤色顔料。	暗赤	赤	黒色・白色粒子微量。1㎜程度の黒色・茶褐色粒ごく微量。	
137	16号住居	土師器	壷				ナデ。	板ナデ。ナデ。	浅黄	浅黄	1～2㎜程度の茶褐色粒微量。	
138	16号住居	土師器	壷				刻目突帯。ナデ。	ナデ。	浅黄	浅黄	1～3㎜の白色・黒色・茶褐色粒ごく少量。	
139	16号住居	土師器	甕		5		指頭圧痕。ナデ。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1～3㎜の石英粒少量。1～4㎜の白色・黒色粒少量。	
140	16号住居	土師器	甕		5		ナデ。	ナデ。	浅黄	にぶい黄橙	1～3㎜の石英粒少量。1～4㎜の黒色・茶褐色粒少量。	
141	16号住居	土師器	高坏				ナデ。	ナデ。	浅黄	浅黄	雲母微量。	
142	16号住居	土師器	高坏	17		5	ミガキ。スス付着。	ミガキ。	浅黄	浅黄	1㎜程度の白色・茶褐色粒微量。	
143	17号住居	土師器	甕	(16)	5	24	刻目突帯。ハケ目。ナデ。布目痕。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1～2㎜の黒色・茶褐色・白色粒ごく少量。	
144	17号住居	土師器	甕	(26)			板ナデ。ナデ。スス付着。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1～2㎜の石英粒少量。	
145	17号住居	土師器	甕				刻目突帯。ナデ。スス付着。	ナデ。	暗褐色	浅黄	1～2㎜の石英粒微量。1～4㎜の黒色・灰色・茶褐色粒・軽石粒少量。	
146	17号住居	土師器	壷?				ナデ。スス付着。	ナデ。	黒褐	にぶい黄橙	1㎜程度の黒色・白色粒微量。	

表6　上原第1遺跡B区出土遺物観察表5

単位：cm

No.	出土位置	種別	器種	法量(上：土器　下：石器) 口径 最大長	底径 最大幅	器高 最大厚	手法・文様 外器面	内器面	色調 外面	内面	胎土	備考
147	17号住居	土師器	甕				刻目突帯。ナデ。スス付着。	ナデ。	浅黄	淡赤橙	1～2㎜の石英粒少量。1～4㎜の黒色・灰色・茶褐色粒少量。	
148	17号住居	土師器	壺				ミガキ。赤色顔料。	ナデ。口縁部内側のみミガキ・赤色顔料。	赤褐色	浅黄	1～2㎜茶褐色粒微量。	
149	17号住居	土師器?	壺?				ナデ。	ナデ。	橙	褐灰	1㎜程度の石英粒微量。1～2㎜の黒色・茶褐色・白色粒ごく少量。	
150	17号住居	土師器	高坏				ミガキ。赤色顔料。	ナデ。	暗赤色	黒色	1㎜程度の石英粒ごく微量。	
151	17号住居	土師器	高坏				ミガキ。	ナデ。	浅黄	にぶい黄橙	黒色・茶褐色・白色粒子ごく微量。	
152	17号住居	土師器	坏	15	5.8	3	ミガキ。赤色顔料。	ミガキ。ナデ。赤色顔料。	赤褐	赤褐色	1㎜程度の黒色・茶褐色・白色粒少量。	
153	17号住居	土師器	椀				ナデ。一部赤色顔料残存。	ナデ。	にぶい赤褐	にぶい黄橙	黒色・白色粒子ごく微量。	
154	17号住居	須恵器	坏蓋				回転ヘラケズリ。回転ナデ。	回転ヘラケズリ。回転ナデ。	灰	灰	白色粒子ごく微量。	
155	17号住居	須恵器	坏身				回転ヘラケズリ。回転ナデ。	回転ヘラケズリ。回転ナデ。	灰	灰	白色粒子ごく微量。	
156	17号住居	須恵器	甕				波状文		灰	灰	白色粒子ごく微量。	
157	18号住居	土師器	甕	22	5.5		刻目突帯。板ナデ。ナデ。スス付着。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1～2㎜の石英粒微量。1～3㎜の黒色・茶褐色粒少量・雲母微量。	
158	18号住居	土師器	甕	15	2.5	14	刻目突帯。ナデ。	ナデ。	暗褐色	暗褐色	1㎜程度の石英粒微量。1～2㎜の黒色・茶褐色粒微量。	
159	18号住居	土師器	壺	10	10.5	10	刻目突帯。ナデ。	ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1～2㎜の石英粒少量。1～3㎜の黒色・茶褐色粒少量。	
160	18号住居	土師器	壺	(16)			刻目突帯。ナデ。	ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1～2㎜の石英粒少量。1～3㎜の黒色・茶褐色粒少量。	
161	18号住居	土師器	壺				刻目突帯。ナデ。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1～2㎜の石英粒少量。1～3㎜の黒色・茶褐色粒少量。	
162	18号住居	土師器	壺		5		ナデ・指頭圧痕。	ナデ・工具痕。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1～3㎜の石英粒少量。1～3㎜の黒色・茶褐色粒少量。	
163	18号住居	土師器	坏	(10)			ミガキ。	ミガキ。	浅黄	浅黄	1㎜程度の黒色・茶褐色粒ごく微量。	
164	18号住居	土師器	高坏	(19)			ミガキ。	ミガキ。	浅黄	浅黄	黒色・白色粒子ごく微量。	
165	18号住居	土師器	高坏		21		ミガキ。	ナデ	浅黄	黄灰	黒色・白色粒子ごく微量。3㎜程度の茶褐色粒ごく微量。	
166	18号住居	土師器	坏	13		6	ミガキ・赤色顔料。	ナデ。一部ミガキ。一部赤色顔料が残る。	赤褐	橙	黒色・白色粒子微量。	
167	18号住居	土師器	坏	13		5	ミガキ。	ミガキ。	赤褐	赤褐	1㎜程度の石英粒・黒色・茶褐色粒ごく少量。	
168	6土坑	土師器	甕	(30)			刻目突帯。ナデ。口唇部に指頭痕。	ナデ。	明黄褐	にぶい黄橙	1㎜程度の石英粒少量。1～2㎜の黒色・茶褐色粒少量。	
169	6土坑	土師器	高坏				ミガキ。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	黒色・白色・茶褐色粒子微量。1～2㎜の茶褐色粒ごく微量。	
170	6土坑	土師器	高坏				ミガキ。	ナデ	にぶい黄橙	黒褐色	黒色・白色・茶褐色粒子微量。1～2㎜の茶褐色粒ごく微量。	
171	6土坑	土師器	甕				刻目突帯。ナデ。	ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1㎜程度の黒色・白色・茶褐色粒少量。	
172	6土坑	土師器	甕				刻目突帯。ナデ。スス付着。	ナデ	にぶい黄橙	浅黄橙	1㎜程度の黒色・白色・茶褐色粒少量。	
173	6土坑	土師器	高坏	(18.5)	(13.5)	16	ミガキ。赤変。	ミガキ。赤変。	明赤褐	明赤褐	1㎜程度の黒色・白色・茶褐色粒微量。	
174	6土坑	土師器	甕		4.5		ナデ。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1㎜程度の石英粒少量。1～2㎜の黒色・茶褐色粒少量。	
175	6土坑	土師器	坏	13	5	5.5	ミガキ。赤色顔料。	ミガキ。赤色顔料。	赤褐	赤褐	黒色・白色・茶褐色粒子微量。	
176	包含層	縄文土器	深鉢	(27.2)			貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	暗褐	暗褐	1㎜以下の白色粒少量。雲母少量。	
177	包含層	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	にぶい黄橙	暗褐	1㎜以下の白色粒少量。雲母ごく微量。	
178	包含層	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	暗褐	暗褐	1㎜以下の白色粒少量。雲母少量。	
179	包含層	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	にぶい橙	橙	1～2㎜の黒色・茶褐色粒ごく少量。	
180	包含層	縄文土器	深鉢				刺突文。沈線文。ナデ。	ナデ。	にぶい褐	橙	1～2㎜の白色・茶褐色粒少量。雲母ごく少量。	
181	包含層	縄文土器	深鉢				刻目。隆線文。	ナデ。	にぶい橙	橙	1㎜以下の白色・茶褐色粒微量。	
182	包含層	縄文土器	台付皿				口唇部に「U」字状の装飾。ナデ。	ナデ。	橙	橙	1㎜以下の黒色・白色粒ごく少量。雲母微量。	

表7　上原第1遺跡B区出土遺物観察表6

単位：cm

No.	出土位置	種別	器種	法量(上：土器　下：石器)			手法・文様		色調		胎土	備考
				口径	底径	器高						
				最大長	最大幅	最大厚	外器面	内器面	外面	内面		
183	包含層	縄文土器	深鉢				ナデ。スス付着。	ナデ。	橙	褐灰	1mm以下の白色粒微量。	
184	包含層	土師器	壷	(10.5)			刻目突帯。ナデ。	ナデ。	褐色		1～2mmの石英粒少量。1～2mmの黒色・白色・茶褐色粒少量。	
185	包含層	土師器	壷	10			刻目突帯。ナデ。	ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1～2mmの石英粒ごく少量。1mm程度の黒色・白色・茶褐色粒ごく少量。	
186	包含層	土師器	壷	9.5			刻目突帯。ナデ。	ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1mm以下の黒色、白色粒子微量。1～3mmの茶褐色粒ごく少量。	
187	包含層	土師器	坏	(13.6)		5.1	ミガキ。赤色顔料。	ミガキ。赤色顔料。	赤褐	赤褐	1mm以下の黒色・白色粒微量。	
188	包含層	土師器	坏	(12.6)		5.9	ナデ。一部ミガキ。	ナデ。一部ミガキ。	浅黄橙	浅黄橙	1mm以下の黒色・白色粒子微量。	
189	包含層	須恵器	甕	17			回転ナデ。一部自然釉。	回転ナデ。一部自然釉。	灰	灰	1mm以下の白色粒微量。	
190	包含層	土師器	高台付坏		7	4.2	回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。	橙	にぶい橙	1～2mmの茶褐色粒ごく微量。	
191	包含層	土師器	高台付坏		7	4.2	回転ナデ。	回転ナデ。	橙	にぶい橙	1～2mmの茶褐色粒ごく微量。	
192	包含層	土師器	高台付坏		7.2		回転ナデ。ナデ。	ミガキ。	橙	黒	1mm以下の茶褐色粒微量。	黒色土器
193	包含層	青磁	碗		6.2				オリーブ灰	灰白	1mm以下の黒色・白色粒子ごく微量。	
194	包含層	石器	石匙	10.6	4.4	1.2						84g・フォルンフェルス
195	包含層	石器	環状石斧	(7.5)	7.2	2.8						175g・フォルンフェルス
196	包含層	石器	打製石斧	16.9	8.5	2.5						451g・フォルンフェルス
197	包含層	石器	打製石斧	(9.5)	6.9	1.2						104g・フォルンフェルス
198	包含層	石器	打製石斧	(8.7)	4.6	2.1						95g・フォルンフェルス
199	包含層	石器	打製石斧	(6)	4.9	1.6						56g・フォルンフェルス
200	包含層	石器	打製石斧	9.5	5.7	2.15						162g・頁岩
201	包含層	石器	打製石斧	7.1	4.05	1.6						76g・フォルンフェルス
202	包含層	石器	打製石斧	7.2	4.3	1.3						55g・フォルンフェルス
203	包含層	石器	磨製石斧	9.2	5.85	3.2						218g・砂岩
204	包含層	石器	磨石	8.5	6.8	4.85						416g・頁岩

まとめ

上原第1遺跡においては縄文時代の竪穴住居跡8軒、土坑4基、古墳時代の竪穴住居跡14軒、土坑1基、中世の遺構として掘立柱建物跡10軒、道路状遺構1本、溝状遺構１本、時期の特定ができなかった遺構としては竪穴住居跡1軒、土坑1基、溝状遺構1本のほか多数のピットが検出された。遺物は縄文時代後期、古墳時代、古代の遺物が出土している。

縄文時代の竪穴住居跡は計8軒の出土をみた。いずれの住居も円形を呈し、掘り込みは浅く、住居に伴うと考えられるピットが多数検出されたが、主柱穴の確認には至らなかった。住居に伴う出土遺物は口縁部が外反もしくは「く」の字状を呈し、頸部に貝殻腹縁による連続刺突文を施す土器が大半を占める。これらの土器群は市来式系の流れをくみ、後期中葉に位置付けられる丸尾式に相当すると考えられる。縄文時代の遺物を伴う土坑についてはB区において4基出土しているが、1、3号土坑を除き、いずれも小片であり図化には至らなかった。1号土坑出土の土器については住居址出土の土器群と同じ丸尾式に相当すると考えられる。いずれの土坑も用途等は不明である。

古墳時代の竪穴住居跡は計14軒が出土した。いずれも平面形態は方形を呈し、主柱穴を確定できた住居においては2本柱が3軒、4本柱が6軒であった。壁面下の周溝はB区10、11号竪穴住居跡において一部が確認され、炉跡はB区18号竪穴住居跡でのみ確認されている。住居に伴う土器は頸部に刻目突帯をもち口縁部が若干の内湾もしくは外反する甕など、薩摩・大隈地方における「成川式」と呼称される土器群の影響が想定される土器を中心とし、胴部に膨らみをもち、頸部において屈曲し口縁部が外反する甕など宮崎平野部系の土器が混在する。須恵器については瓮、坏蓋、坏身等が出土し、B区11、17号竪穴住居跡から出土した須恵器坏はTK-23、TK-47に相当すると考えられ、5世紀後半に位置付けられる。住居間の接合状況としてはＢ区11号、17号竪穴住居跡出土の須恵器坏蓋、Ｂ区16号、17号竪穴住居跡出土のミニチュア土器椀、Ｂ区15号、16号竪穴住居跡出土の小形甕がそれぞれ接合している。その他、特筆すべき遺物としては12号竪穴住居跡より出土した高坏4点が上げられる。これらの高坏脚部は上部に二次被熱により色調が変化しており、端部には融着物が確認でき、ふいごの羽口としての転用が想定された。そのため鍛冶遺構の存在する可能性も考えられたが、遺構面においてはそれを示すような状況は確認されていない。また図化はならなかったがＢ区15号、17号竪穴住居跡より鉄滓が出土している。

中世の遺構としては掘立柱建物跡10軒、道路状遺構1本、溝状遺構1本が出土した。掘立柱建物跡については総廂をもつ4号掘立柱建物跡を中心とした建物群と捉えるのが妥当と考えられるが、個々の建物の時期差、変遷について明確にすることはできなかった。

時期の特定のできなかった遺構として、Ｂ区5号土坑では縄文土器、土師器が出土しており、流れ込みと考えられる。用途等は不明である。そのほか多数のピットが検出されているが建物等の構成はならなかった。

包含層出土の遺物については縄文時代においては市来式、丸尾式、北久根山式に相当すると考えられる土器が出土し、石器は多数の打製石斧のほか環状石斧1点が出土している。古墳時代においては住居址群と同様の土師器、須恵器が出土し、古代の遺物は土師器の坏、高台付坏のほか、青磁も数点出土している。

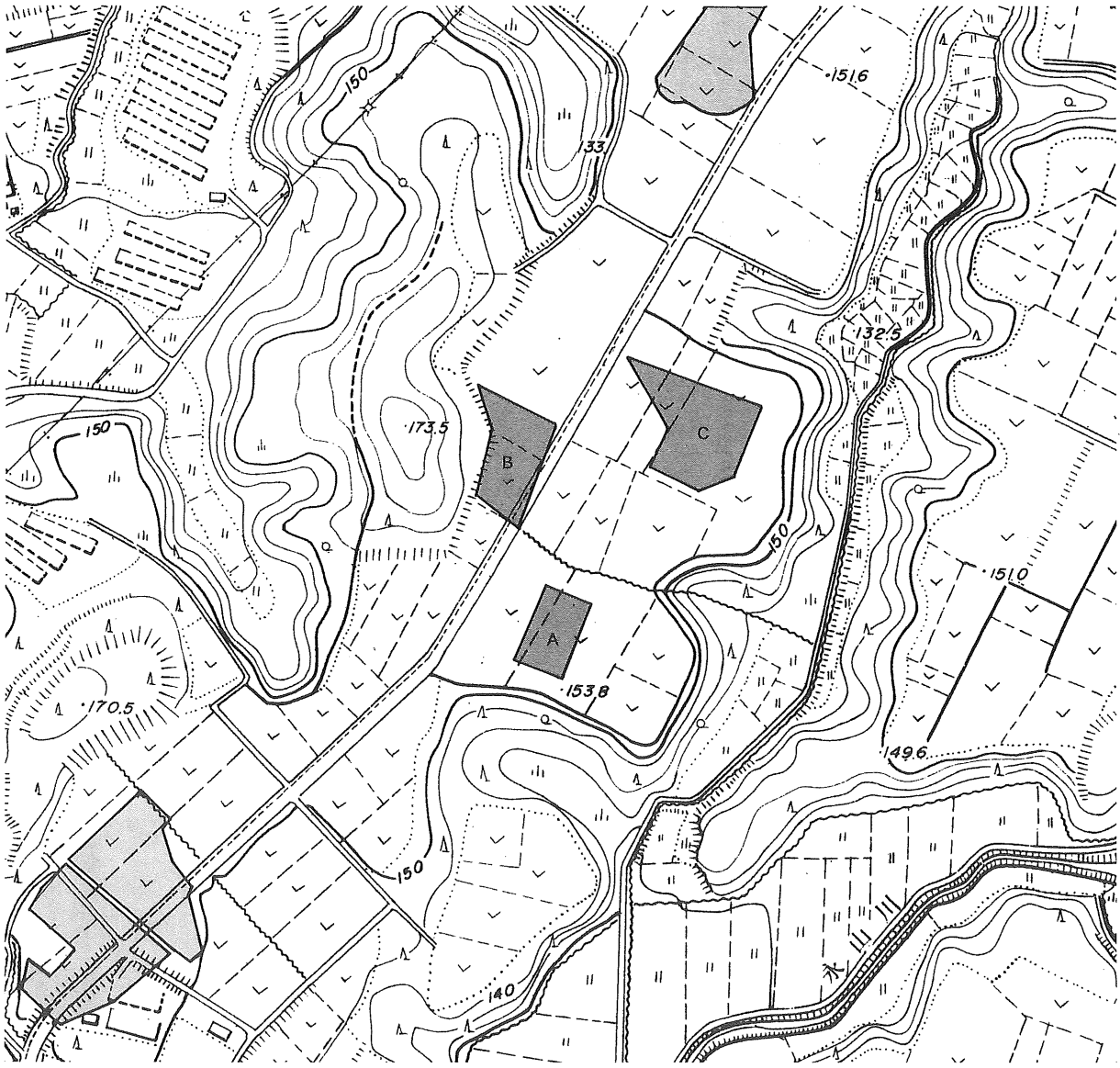
上原第2遺跡

発掘調査に至る経緯

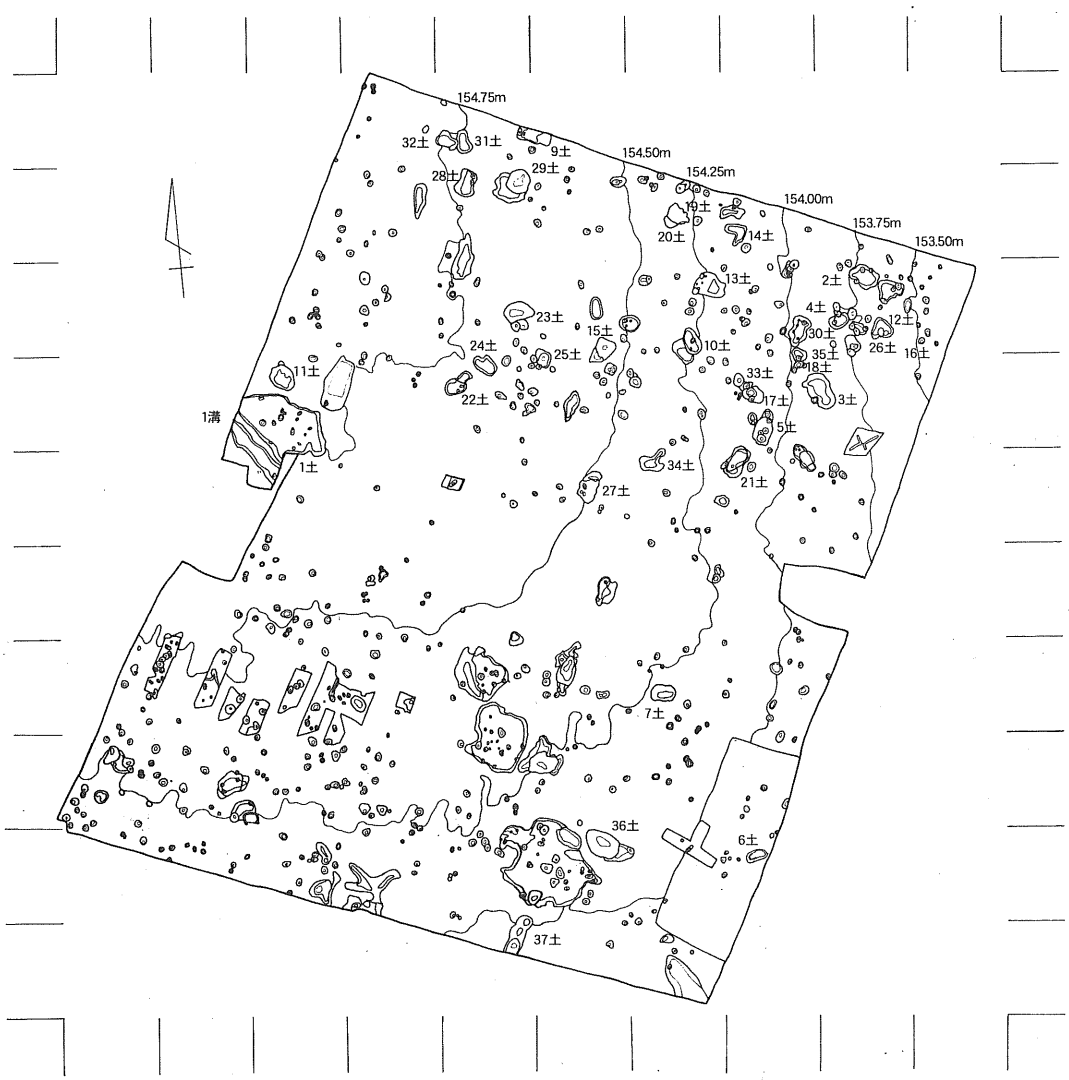
本調査は平成4年度より平成15年度にかけて高城町大字有水において実施された、宮崎県北諸県農林振興局による細井地区県営農業基盤整備事業・平成6年度事業実施予定地における埋蔵文化財発掘調査である。平成5年4月より宮崎県文化課石川悦雄、東憲章、高城町社会教育課白谷健一の三者による踏査を行い、その結果を元に協議がかさねられ、平成5年12月8日より平成6年3月30日にかけて発掘調査が実施された。調査対象面積は約7.800㎡であり、調査の進行に従いA～C区の3区に設定された。

立地と環境

本調査区は上原遺跡群の所在する台地上のほぼ中央に位置する。南側は上原第１遺跡、北側は第３遺跡が位置している。東側は台地縁辺となり谷に面し、西側は丘陵下に位置する。南からA、B、C区に設定されている。



第１図　上原第２遺跡調査区位置図（1/5,000）



第３図　A区遺構分布図（1/400）

A区の調査

層序

調査区の標高は153.50m～154.50mで、西側が高く東側に向け傾斜している。台地縁辺に位置し南側は谷に面している。層序は1層・表土、2層・高原スコリア、3層・黒褐色土、4層・黒褐色土、5層・黒褐色土、6層・御池軽石である。調査以前は畑地として利用されていた。

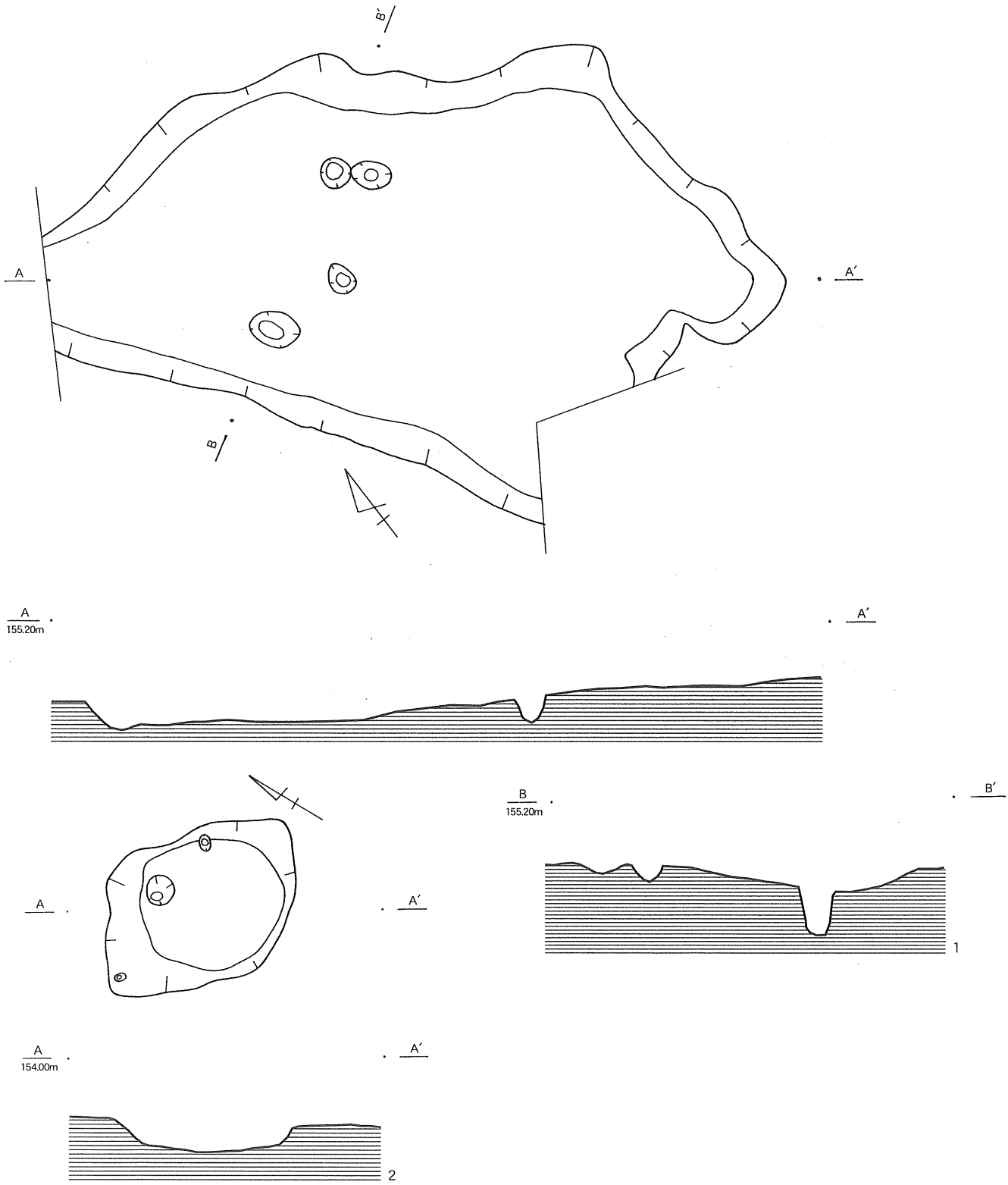
遺構と遺物

縄文時代の遺構として土坑2基、古代の遺構として土坑4基が出土した。時期を確定できなかった遺構は土坑30基、溝状遺構１本であった。

縄文時代の遺構と遺物

1号土坑

調査区のほぼ中央西端において検出された。北西、南東側は調査区外である。平面形態は楕円形を呈し、長径約5.2m、短径約3.2m、検出面からの深さ約0.1mを測る。土坑の底面は平らで西から東に向けやや上がる。縄文土器の小片が出土している。



第４図　A区土坑実測図１（1/40）

2号土坑

調査区の北東隅において検出された。平面形態は不整円形を呈し、長軸約1.2m、短軸約1.1m、検出面からの深さ約0.25mを測る。縄文土器の小片が出土している。

古代の遺構と遺物

3号土坑

調査区の北東部において検出された。平面形態は楕円形を呈し、長軸約2.05m、短軸約1.2m、検出面からの深さ約0.28mを測る。土師器の小片が出土している。

4号土坑

調査区の東北側において検出された。平面形態は不整円形を呈し、長径約0.8m、短径約0.6m、検出面からの深さ約0.3mを測る。土師器の小片が出土している。

5号土坑

調査区の東北側において検出された。平面形態は楕円形を呈し、長径約1.5m、短径約0.82m、検出面からの深さ約0.3mを測る。南側にピット1本を伴う。土師器の小片が出土している。

6号土坑

調査区の南東隅において検出された。平面形態は楕円形を呈し、長径約1.0m、短径約0.5m、検出面からの深さ約0.1 mを測る。土師器5点のほか刀子１点が出土している。

当遺構は検出面からの深さ約0.1mであるが、本来はやや高い位置、3層から掘り込まれていたと考えられ、高原スコリア直下に位置する。

1～5は坏で底部から口縁部にかけ直線的にやや大きく開く。底部はいずれもヘラ切りの後ナデ調整を施す。6は高台付坏で口縁部は大きく開き、直線的に立ち上がる。

その他の遺構

7号土坑

調査区のほぼ中央東よりにおいて検出された。平面形態は楕円形を呈し、長軸約1.7m、短軸約1.2m、検出面からの深さ約0.5mを測る。底面はほぼ平らである。

8号土坑

平面形態は楕円形を呈し、長径約1.4m、短径約0.7m、検出面からの深さ約0.3mを測る。土坑の底面は平らで西から東に向けやや上がる。

9号土坑

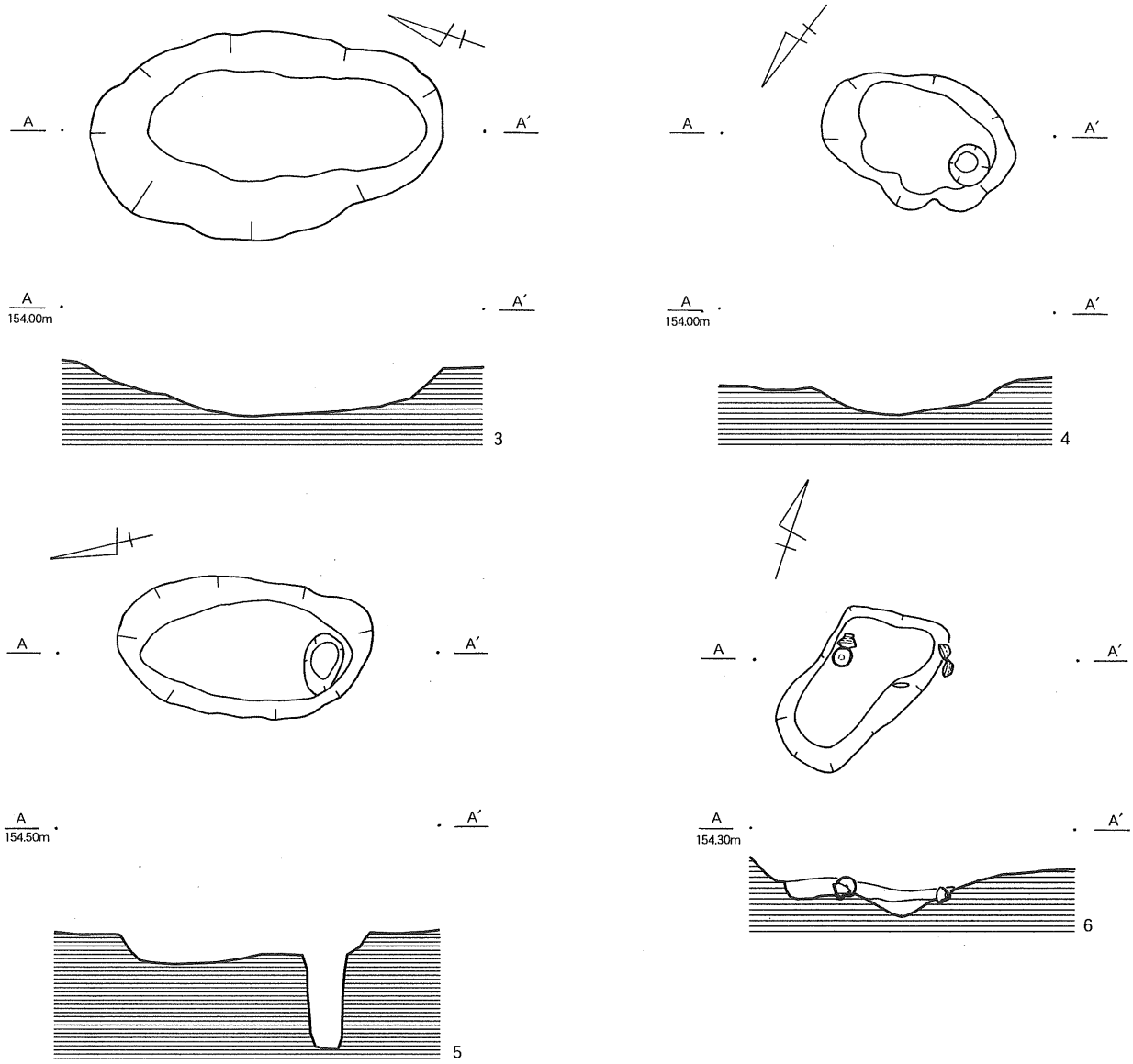
調査区の北側隅において検出された。平面形態は楕円形を呈し、長径約1.5m、短径約0.5m、検出面からの深さ約0.2mを測る。

10号土坑

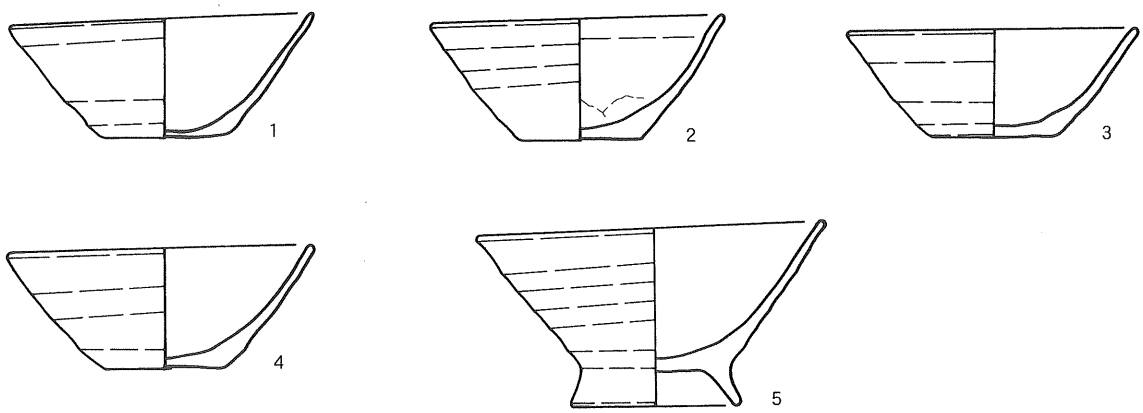
調査区のほぼ中央北よりにおいて検出された。平面形態は楕円形を呈し長径約1.2m、短径約0.84m、検出面からの深さ約0.3mを測る。

11号土坑

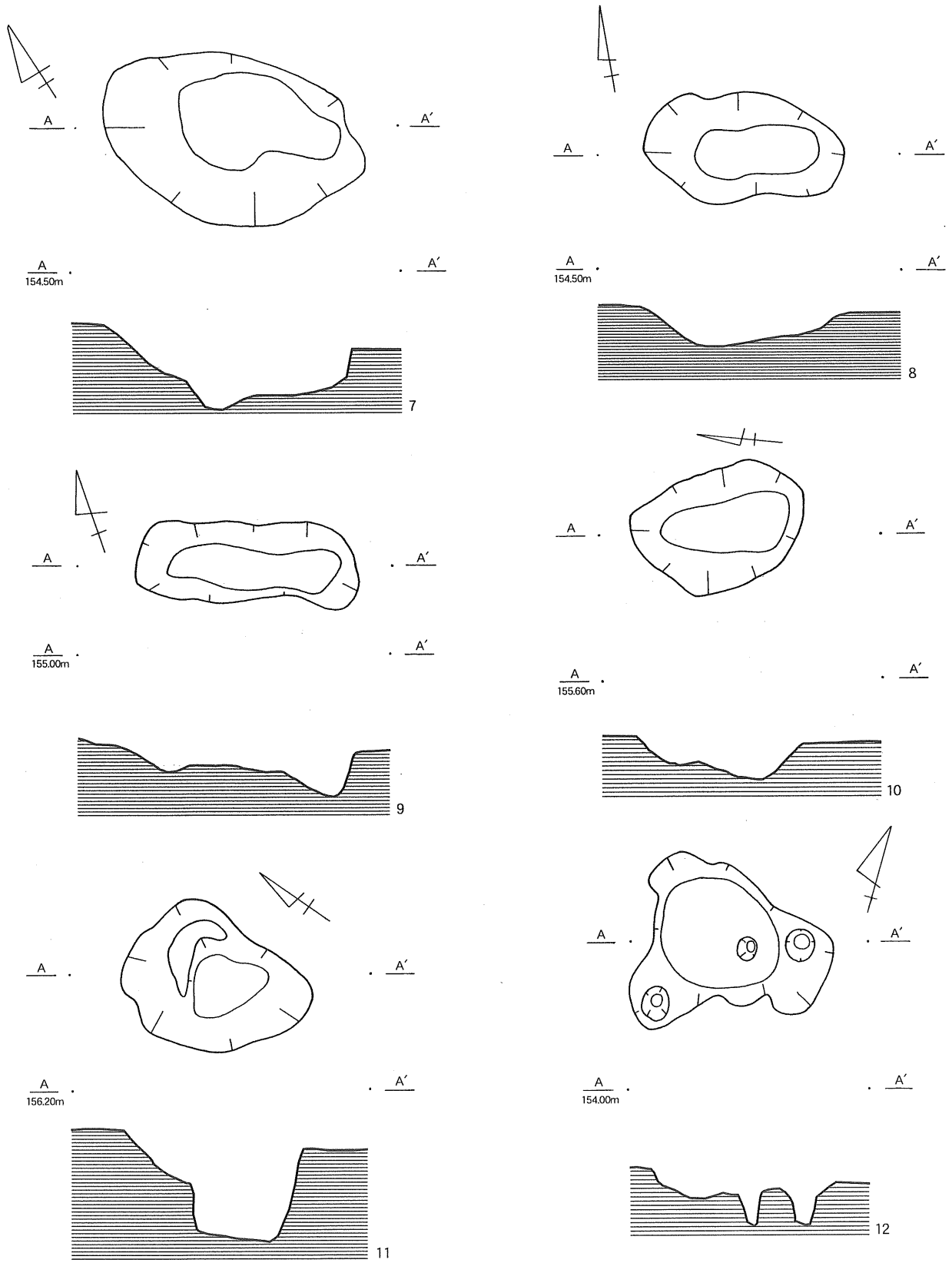
調査区の西側隅において検出された。平面形態は不整円形を呈し、長径約1.3m、短径約1.0m、検出面からの深さ約0.58mを測る。二段の掘り込みを持つ。



第５図　A区土坑実測図２（1/40）



第６図　A区６号土坑出土土器実測図（1/3）



第７図　A区土坑実測図３（1/40）

12号土坑

調査区の北東隅において検出された。平面形態は不整円形を呈し、長径約1.3m、短径約0.92m、検出面からの深さ約0.2mを測る。3本のピットが伴う。

13号土坑

調査区のほぼ中央北より、10号土坑の北側において検出された。平面形態は不整楕円形を呈し長径約1.5m、短径約1.1m、検出面からの深さ約0.3mを測る。

14号土坑

調査区の北側隅において検出された。平面形態は楕円形を呈し、長径約1.4m、短径約0.5m、検出面からの深さ約0.3mを測る。

15号土坑

調査区の中央部北側において検出された。平面形態は不整円形を呈し、長径約1.3m、短径約1.0m、検出面からの深さ約0.58mを測る。二段の掘り込みを持つ。

16号土坑

調査区の北東隅において検出された。平面形態は不整円形を呈し、長径約1.12m、短径約0.84m、検出面からの深さ約0.16mを測る。

17号土坑

調査区の東北隅において検出された。平面形態は楕円形を呈し、長径約1.14m、短径約0.8m、検出面からの深さ約0.15mを測る。

18号土坑

調査区の東北隅において検出された。平面形態は楕円形を呈し、長径約0.8m、短径約0.5m、検出面からの深さ約0.1mを測る。

19号土坑

調査区の北側隅において検出された。平面形態は不整円形を呈し、長径約0.66m、短径約0.48m、検出面からの深さ約0.26mを測る。二段の掘り込みを持つ。

20号土坑

調査区の北側隅において検出された。平面形態は不整円形を呈し、長径約1.12m、短径約0.64m、検出面からの深さ約0.16mを測る。

21号土坑

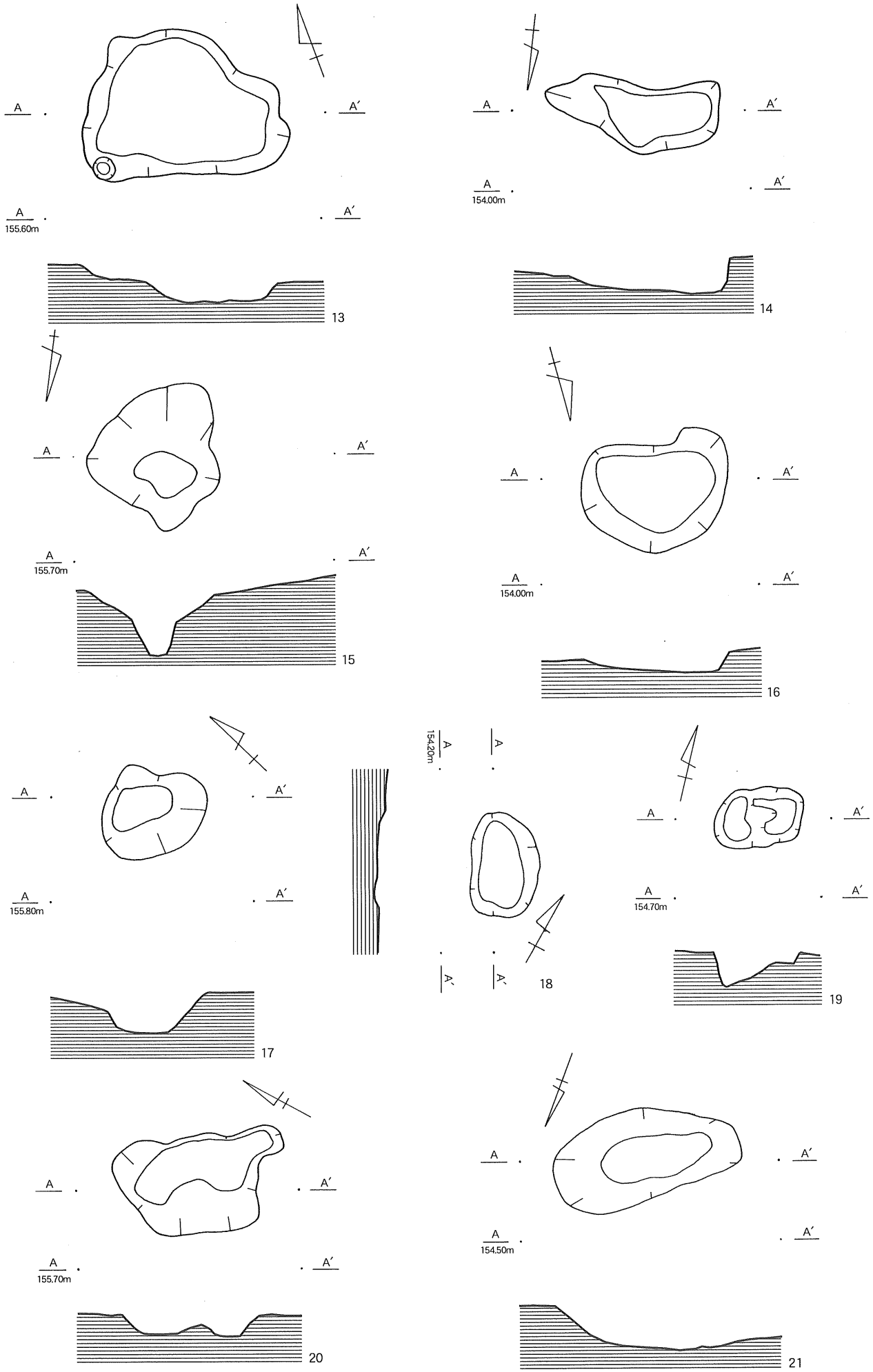
調査区の東側において検出された。平面形態は不整円形を呈し、長径約1.44m、短径約0.7m、検出面からの深さ約0.34mを測る。

22号土坑

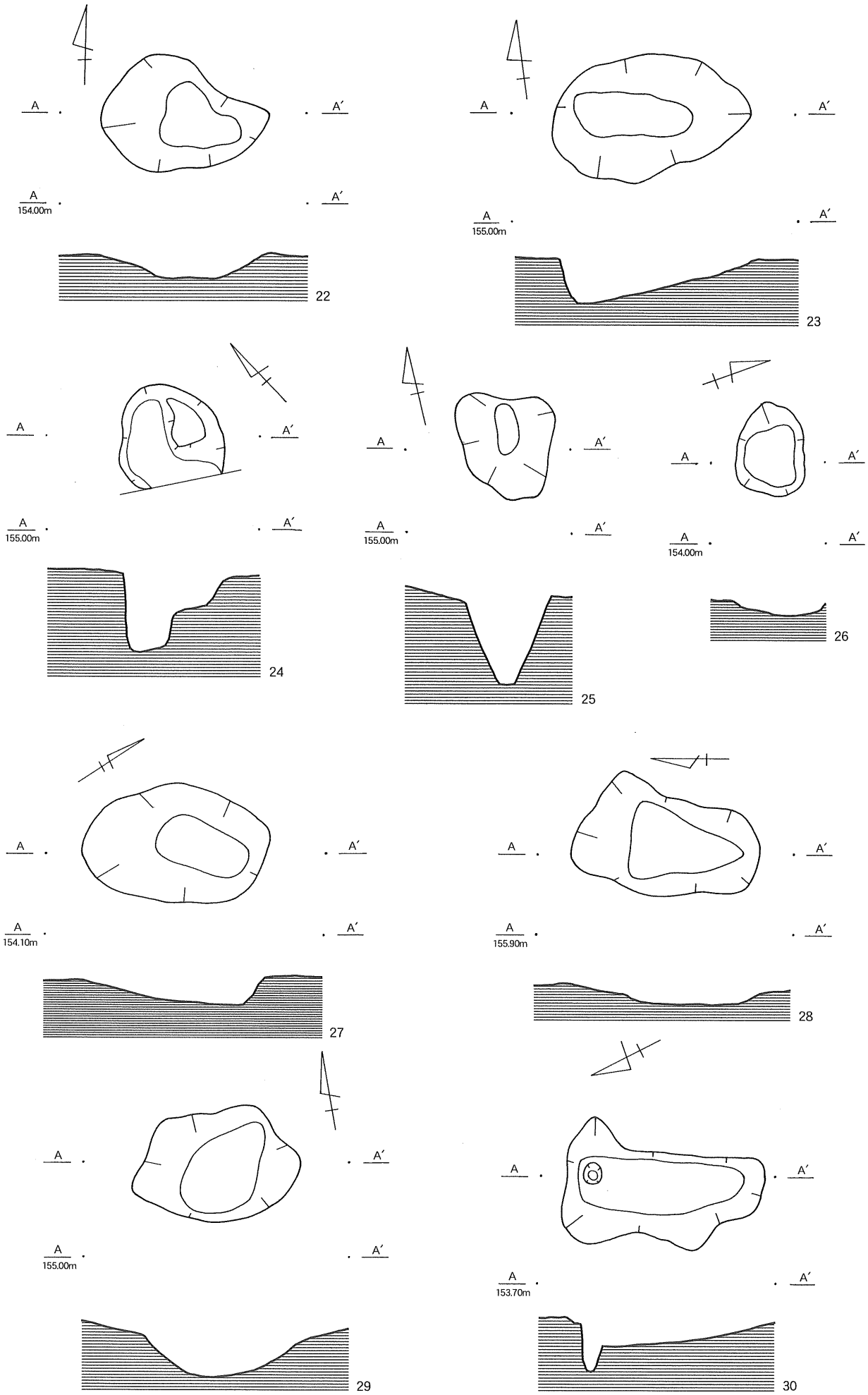
調査区のほぼ中央において検出された。平面形態は楕円形を呈し、長径約1.24m、短径約0.9m、検出面からの深さ約0.2mを測る。

23号土坑

調査区のほぼ中央において検出された。平面形態は楕円形を呈し、長径約1.78m、短径約0.96m、



第８図　A区土坑実測図４（1/40）



第９図　A区土坑実測図５（1/40）

検出面からの深さ約0.3mを測る。

24号土坑

調査区のほぼ中央において検出された。平面形態は不整円形を呈し、径約0.8m、検出面からの深さ約0.28mを測る。二段の掘り込みを持ち、南西側は後世の攪乱により破壊されている。

25号土坑

調査区のほぼ中央において検出された。平面形態は不整円形を呈し、長径約0.88m、短径約0.66m、検出面からの深さ約0.7mを測る。

26号土坑

調査区の北東隅において検出された。平面形態は不定形を呈し、長径約1.4m、短径約0.9m、検出面からの深さ約0.1mを測る。

27号土坑

調査区のほぼ中央において検出された。平面形態は楕円形を呈し、長径約1.38m、短径約0.88m、検出面からの深さ約0.2mを測る。

28号土坑

調査区の北西隅において検出された。平面形態は不整楕円形を呈し、長径約1.42m、短径約0.88m、検出面からの深さ約0.12mを測る。

29号土坑

調査区の北西隅において検出された。平面形態は不整円形を呈し、長径約1.18m、短径約0.86m、検出面からの深さ約0.4mを測る。

30号土坑

調査区の北東隅において検出された。平面形態は長楕円形を呈し、長径約1.5m、短径約0.6m、検出面からの深さ約0.25mを測る。北側にピット1本を持つ。

31号土坑

調査区の北西隅において検出された。平面形態は楕円形を呈し、長径約1.12m、短径約0.7m、検出面からの深さ約0.84mを測る。

32号土坑

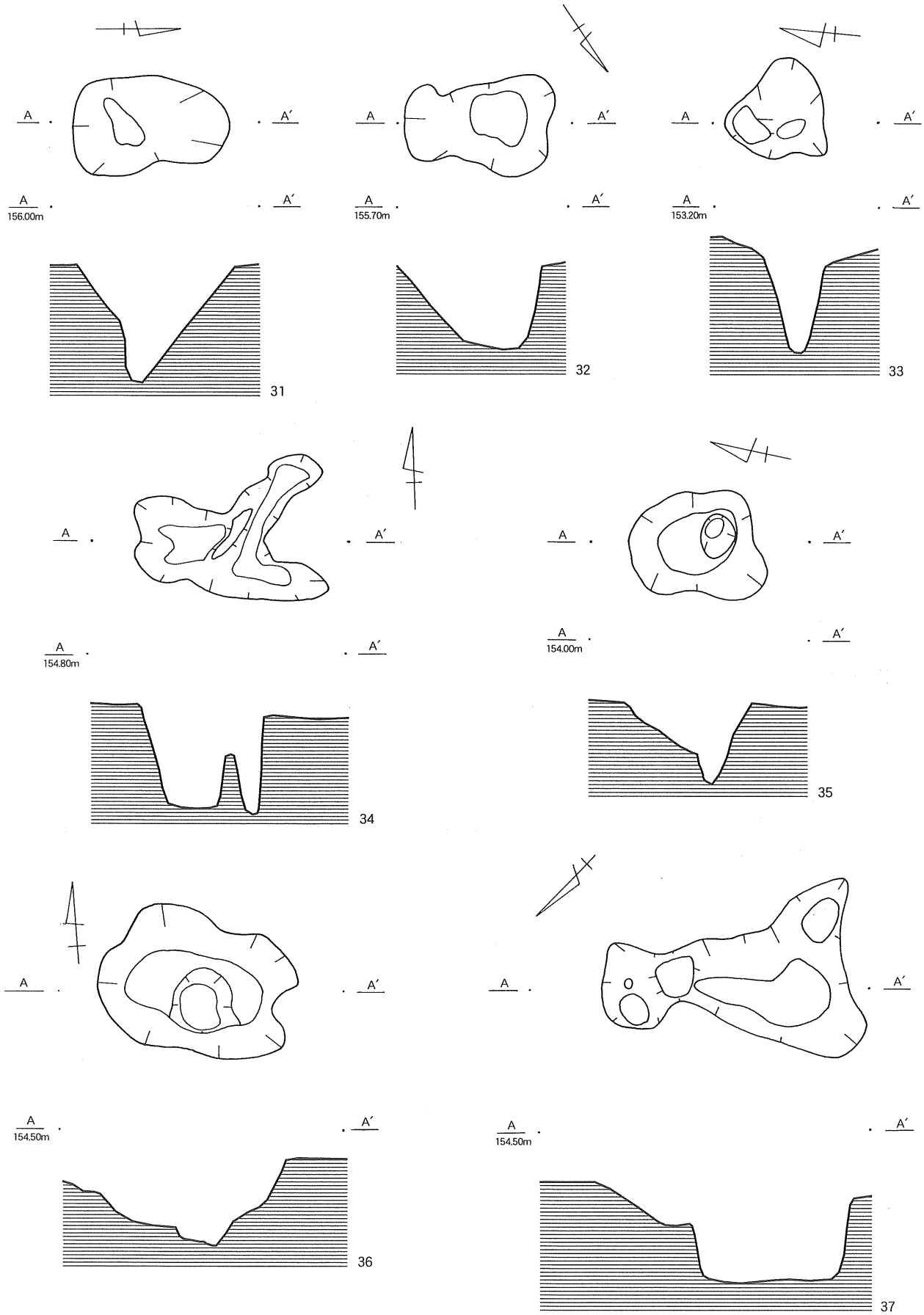
調査区の北西隅において検出された。平面形態は不整楕円形を呈し、長径約1.04m、短径約0.7m、検出面からの深さ約0.6mを測る。

33号土坑

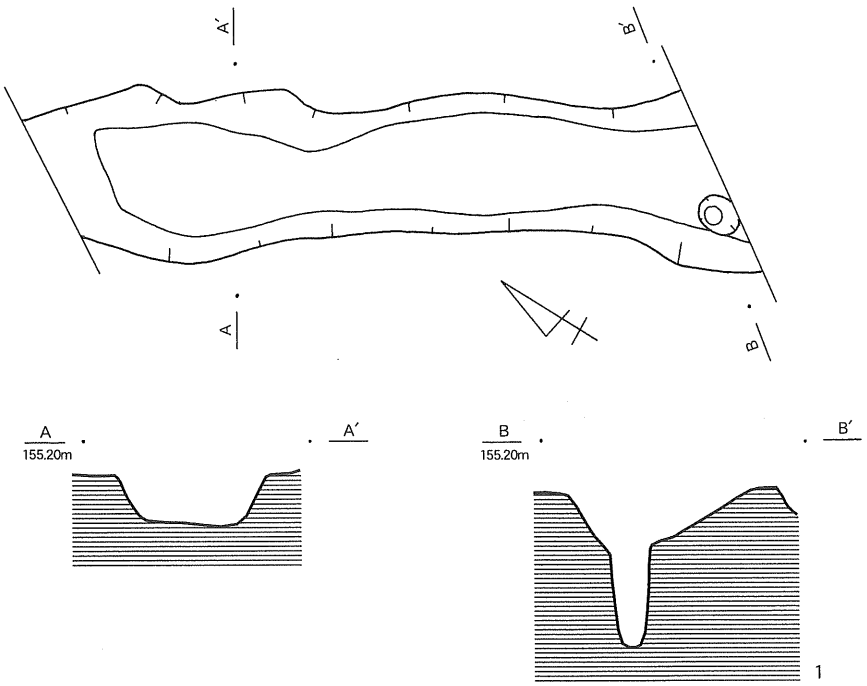
調査区の北東隅において検出された。平面形態は不整円形を呈し、径約0.7m、検出面からの深さ約0.84mを測る。

34号土坑

調査区のほぼ中央において検出された。平面形態は不整形を呈し、長径約1.12m、短径約0.9m、検出面からの深さ約0.74mを測る。土器の小片数点が出土している。



第10図　A区土坑実測図６（1/40）



第11図　A区溝状遺構実測図（1/40）

35号土坑

調査区の北東隅において検出された。平面形態は不整円形を呈し、長径約0.9m、短径約0.7m、検出面からの深さ約0.4mを測る。南側にピット１本を持つ。

36号土坑

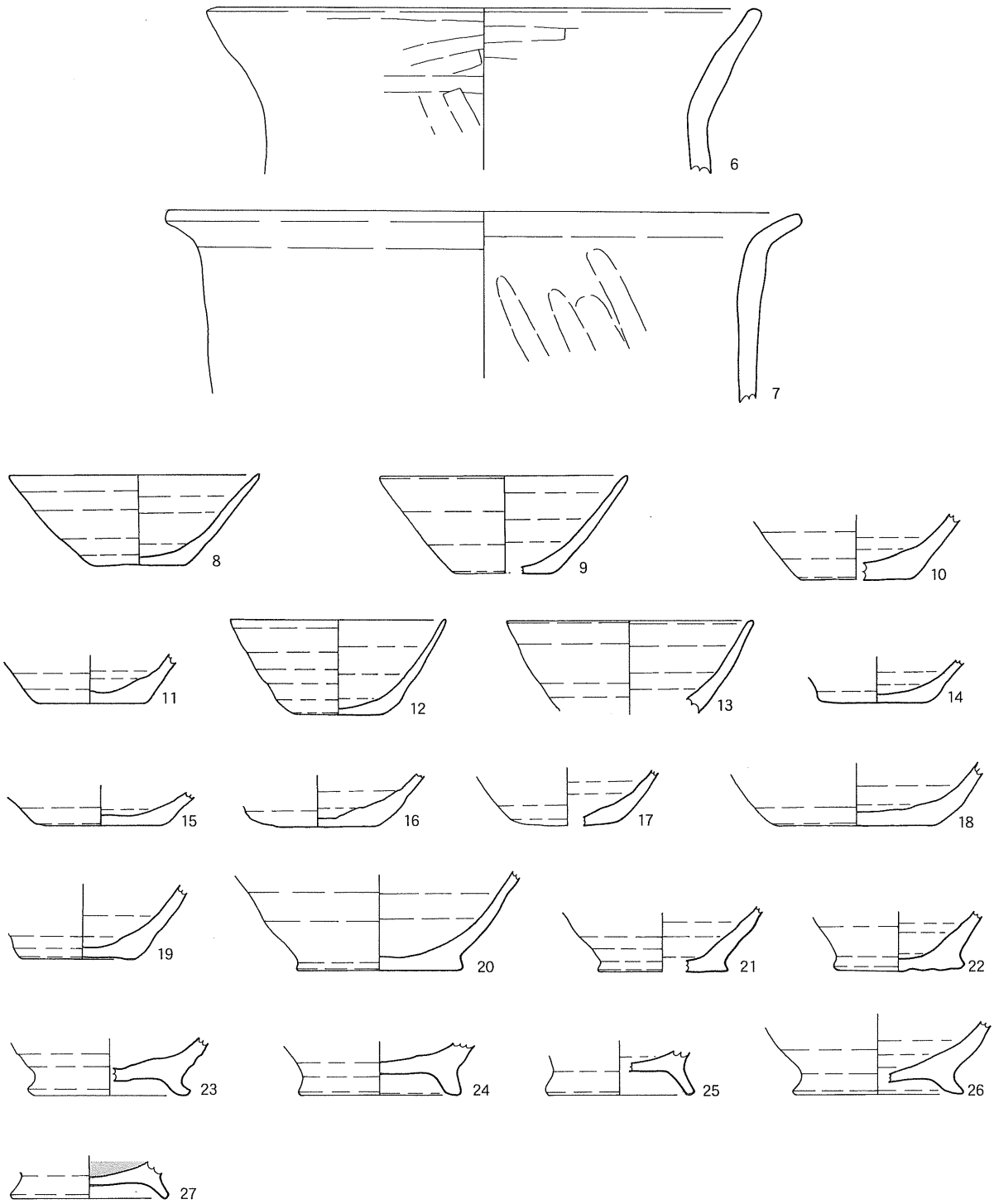
調査区の南東隅において検出された。平面形態は円形を呈し、長軸約1.3m、短軸約1m、検出面からの深さ約0.6mを測る。土器の小片が出土している。

37号土坑

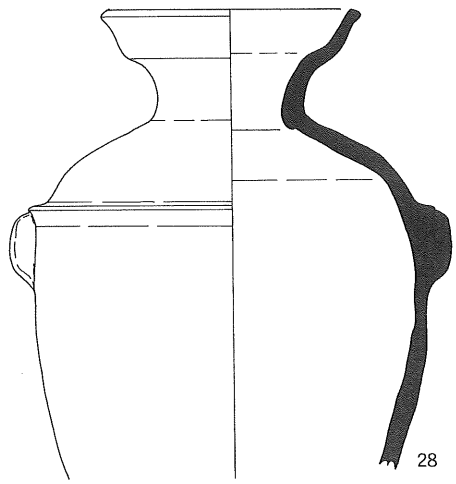
調査区の南東部において検出された。平面形態は長楕円形を呈し、長軸約1.8m、短軸約1.2m、検出面からの深さ約0.6mを測る。土器の小片が出土している。

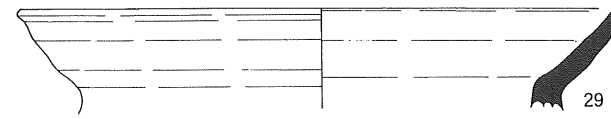
１号溝状遺構

調査区のほぼ中央西側において検出された。幅約0.9mを測り、長さは北西から南東にむけ約2.2mが確認された。北西側、南東側ともに調査区外である。



第12図　A区包含層出土土器実測図（1/3）





第13図　A区包含層出土須恵器実測図（1/4）

表8　上原第2遺跡A区出土遺物観察表

単位：cm

No.	出土位置	種別	器種	法量(上：土器　下：石器) 口径 最大長	底径 最大幅	器高 最大厚	手法・文様 外器面	内器面	色調 外面	内面	胎土	備考
1	6号土坑	土師器	坏	12	5	5	回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	橙	橙	1㎜以下の黒色、白色、茶褐色粒少量	
2	6号土坑	土師器	坏	11.7	4.7	4.9	回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	橙	橙	1㎜以下の黒色、白色、茶褐色粒ごく少量。	
3	6号土坑	土師器	坏	11.6	4.8	4.4	回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	橙	橙	1㎜以下の白色、茶褐色粒ごく少量。	
4	6号土坑	土師器	坏	12.1	4.6	4.9	回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	橙	橙	1㎜以下の黒色、白色、茶褐色粒微量。	
5	6号土坑	土師器	坏	13.9	6.7	7.3	回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	橙	橙	1㎜以下の黒色、白色、茶褐色粒微量。	
6	包含層	土師器	甕	27			板ナデ。ナデ。	口縁部板ナデ。ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1～2㎜の黒色・白色・茶褐色粒少量。	
7	包含層	土師器	甕	(31)			ナデ。	ケズリ。ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1～3㎜の黒色・白色・茶褐色粒少量。	
8	包含層	土師器	坏	(12)	4.6	4.4	回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	にぶい橙	橙	1㎜以下の黒色・白色・茶褐色粒ごく微量。	
9	包含層	土師器	坏	(12)	(5)	4.7	回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	橙	橙	1㎜以下の黒色・白色・茶褐色粒ごく微量。	
10	表採	土師器	坏		(5.5)		回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	にぶい橙	にぶい橙	1㎜程度の黒色・白色・茶褐色粒微量。	
11	包含層	土師器	坏		(5.5)		回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	橙	橙	1㎜以下の黒色・茶褐色粒ごく微量。	
12	包含層	土師器	坏	(11)	(4.5)	4.6	回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	橙	橙	1㎜以下の黒色・茶褐色粒ごく微量。	
13	包含層	土師器	坏	(11.9)			回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	橙	橙	1㎜以下の黒色・茶褐色粒微量。	
14	包含層	土師器	坏		(5.8)		回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	にぶい橙	橙	1㎜以下の黒色・白色粒ごく微量。	
15	包含層	土師器	坏		5.6		回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	にぶい橙	にぶい橙	1㎜以下の黒色粒子微量。	
16	包含層	土師器	坏		6		回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	橙	橙	1㎜程度の黒色・茶褐色粒ごく少量。	
17	包含層	土師器	坏		(5)		回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	にぶい橙	にぶい橙	1㎜以下の黒色粒ごく微量。	
18	包含層	土師器	坏		(7.8)		回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1㎜以下の黒色・白色・茶褐色粒ごく微量。	
19	包含層	土師器	坏		5.6		回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	にぶい橙	にぶい橙	1㎜以下の黒色・白色・茶褐色粒ごく微量。	
20	包含層	土師器	坏		7.7		回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1～2㎜の黒色・茶褐色粒ごく少量。	
21	包含層	土師器	坏		(6.4)		回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	にぶい橙	にぶい橙	1㎜以下の黒色・白色・灰色粒子ごく微量。	
22	包含層	土師器	坏		6.2		回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	にぶい橙	にぶい橙	1㎜以下の白色・灰色・茶褐色粒ごく微量。	
23	包含層	土師器	高台付坏		(7.5)		回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	にぶい橙	にぶい橙	1㎜程度の黒色・白色・茶褐色粒少量。	
24	包含層	土師器	高台付坏		7.6		回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	にぶい橙	淡橙	1～2㎜程度の黒色・白色・茶褐色粒少量。	
25	包含層	土師器	高台付坏		(6)		回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1㎜程度の黒色・白色・茶褐色粒微量。	
26	包含層	土師器	高台付坏		(8)		回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	にぶい橙	にぶい橙	1㎜程度の黒色・白色・茶褐色粒ごく少量。	
27	包含層	黒色土器	高台付坏		7.8		回転ナデ。ナデ。	ミガキ	浅黄橙	黒	1㎜程度の黒色・茶褐色粒微量。	黒色土器
28	包含層	須恵器	壺	(13.5)			回転ナデ。格子目タタキ。タテ方向のケズリ。	回転ナデ。ナデ。	灰	灰	1㎜以下の白色粒ごく微量。	
29	包含層	須恵器	甕	(32)			回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	灰	灰	1㎜以下の白色粒ごく微量。	

第14図　B区遺構分布図（1/400）

B区の調査

層序

調査区の標高は153.50m～155.75mで、西側が高く東側に向け傾斜している。層序は1層・表土、2層・高原スコリア、3層・黒褐色土、4層・黒褐色土、5層・黒褐色土、6層・御池軽石である。調査以前は畑地として利用されていた。

遺構と遺物

縄文時代の遺構として土坑8基が出土し、時期を確定できなかった遺構は土坑8基、溝状遺構2本であった。

縄文時代の遺構

1号土坑

調査区のほぼ中央南側において検出された。平面形態は楕円形を呈し、長径約1.3m、短径約1.0m、検出面からの深さ約0.3mを測る。縄文土器が出土している。

1は浅鉢口縁部で口唇部に突帯を施す。2は浅鉢で口縁部内外に一条の沈線をめぐらせ、口唇部にリボン状突起を持つ。

2号土坑

平面形態は円形を呈し、長径約1.2m、短径約1.0m、検出面からの深さ約0.7mを測る。東側にピット1本を持つ。縄文土器が出土している。

3、4共に直線的に立ち上がり口縁部が大きく開く浅鉢と考えられる。

3号土坑

調査区のほぼ中央南側において検出された。平面形態は不整円形を呈し、長軸約1.3m、短軸湾約1.0m、検出面からの深さ約0.15mを測る。2本のピットを持つ。縄文土器の小片が出土している。

4号土坑

調査区のほぼ中央南側において検出された。平面形態は不整円形を呈し、長径約1.4m、短径約1.2m、検出面からの深さ約0.5mを測る。縄文土器、打製石斧、剥片が出土している。

5は深鉢で口唇部にリボン状突起を1ヶ所のみもつ。焼成後内外両面より穿孔を施す。補修孔と考えられる。

5号土坑

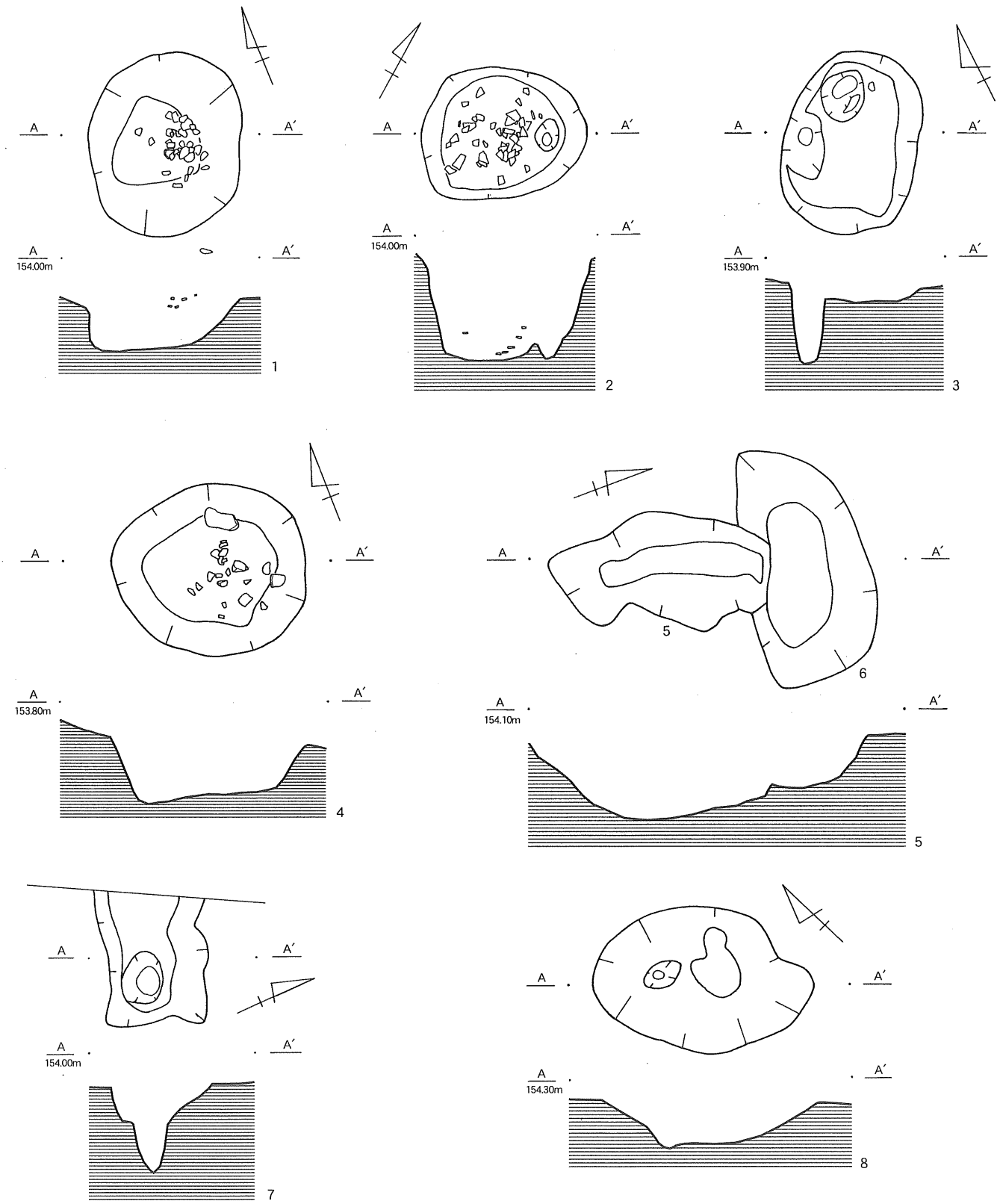
調査区のほぼ中央南側において検出された。平面形態は楕円形を呈し長径約1.5m、短径約0.8m、検出面からの深さ約0.4mを測る。4号土坑と切りあっている。縄文土器の小片が出土している。

6号土坑

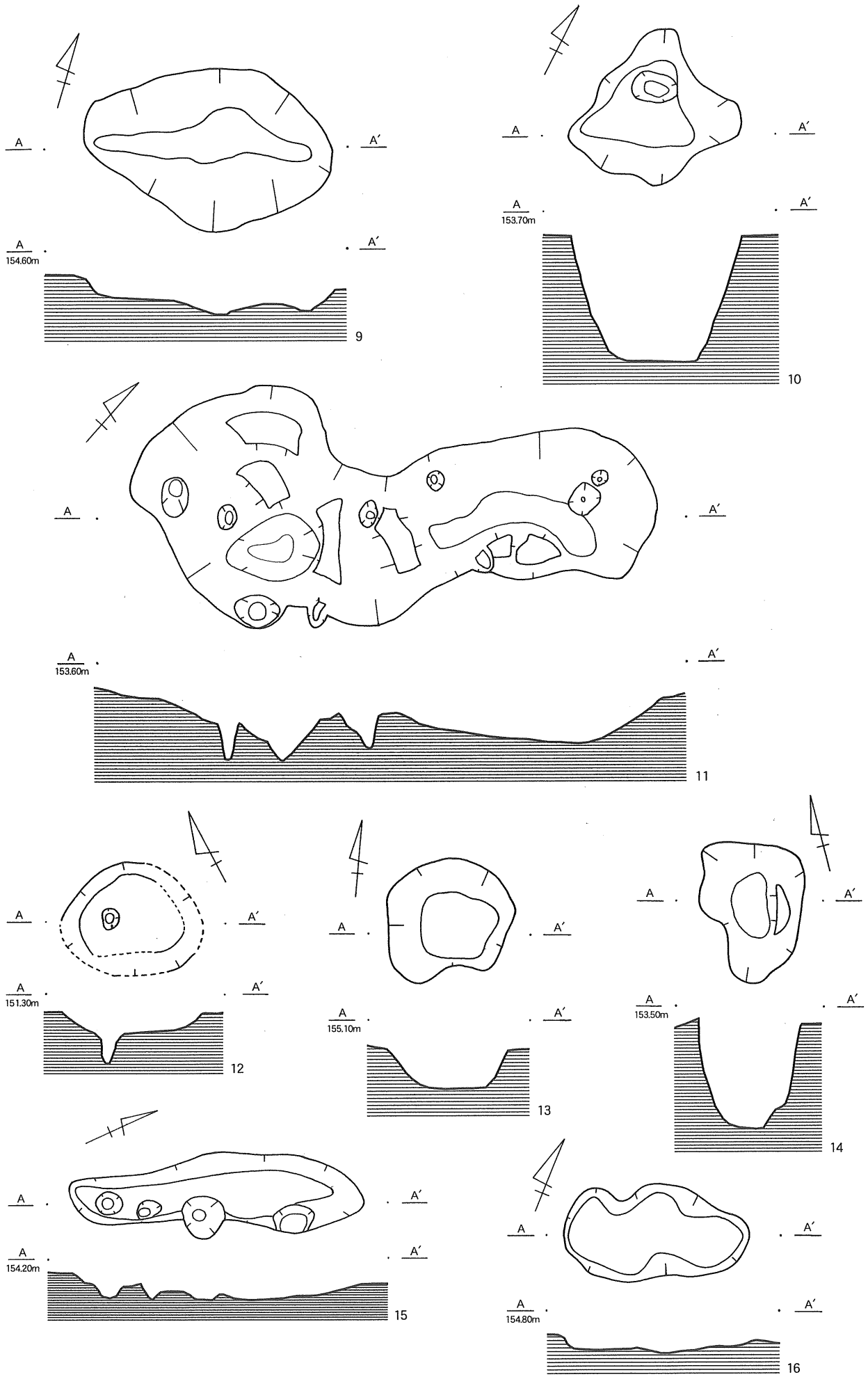
調査区のほぼ中央南側において検出された。平面形態は楕円形を呈し長径約1.7m、短径約0.8m、検出面からの深さ約0.4mを測る。5号土坑と切りあっている。縄文土器の小片が出土している。

7号土坑

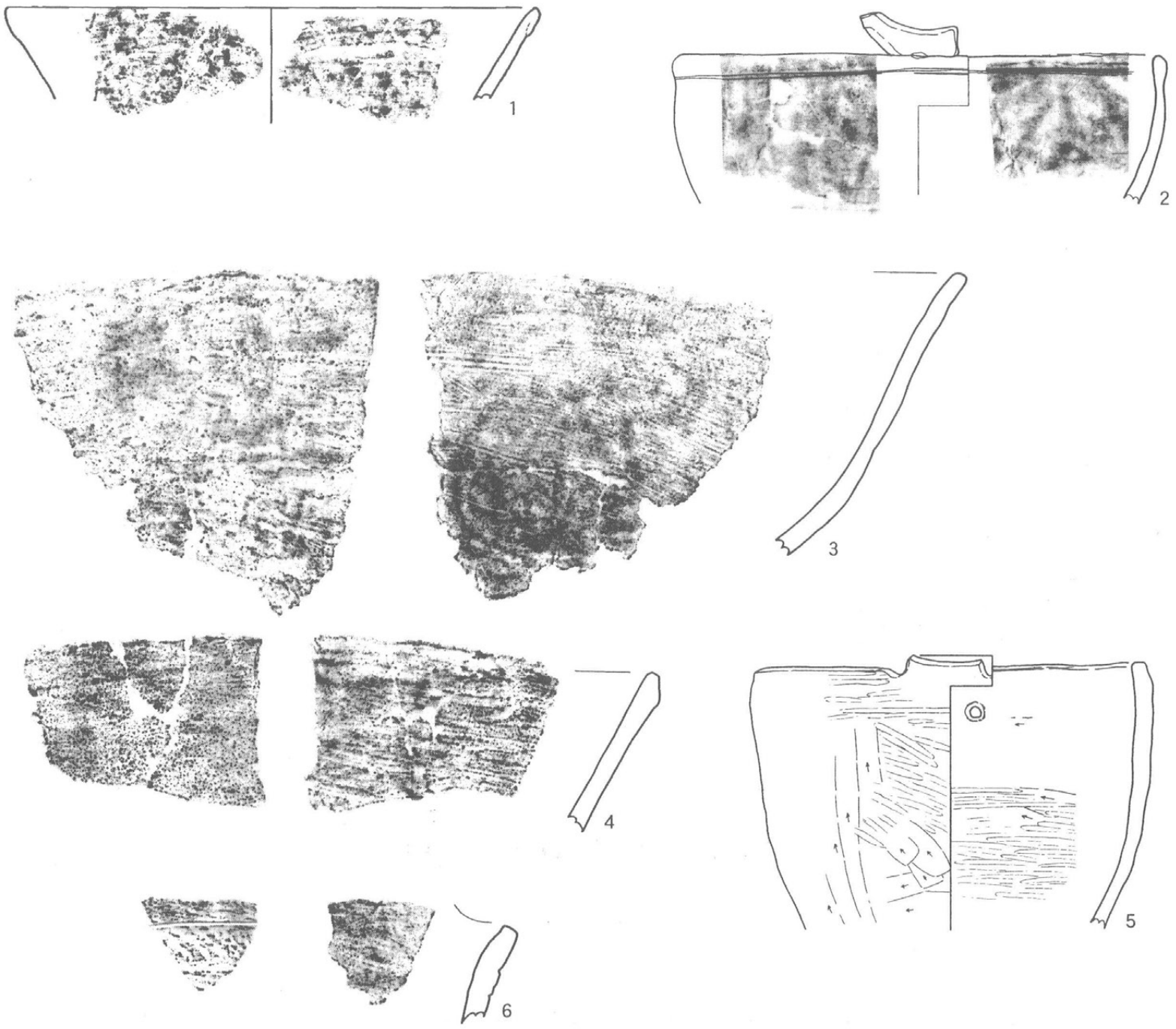
調査区の北西側において検出された。北西側は調査区外である。平面形態は不整楕円形を呈し現存



第15図　B区土坑実測図１（1/40）



第16図　B区土坑実測図２（1/4）



第17図　B区１・２・４・８号土坑出土土器拓影図(1/3)

長約1.0m、短径約0.7m、検出面からの深さ約0.3mを測る。ピットを１本持つ。縄文土器の小片が出土している。

8号土坑

南側調査区の北東において検出された。平面形態は円形を呈し、長径約1.5m、短径約1.1m、検出面からの深さ約0.3mを測る。ピットを１本持つ。6は深鉢口縁部である。貝殻腹縁による連続刺突文を施す。

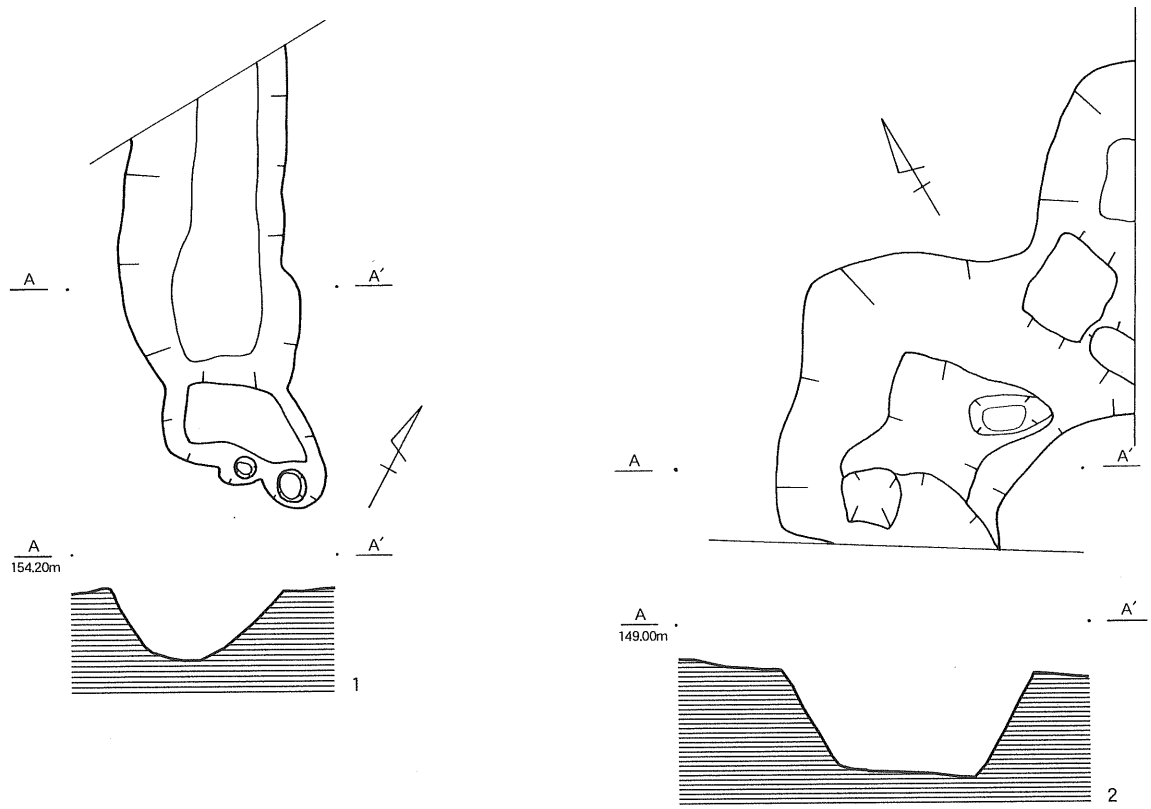
その他の遺構

9号土坑

調査区の南端において検出された。平面形態は楕円形を呈し、長径約1.9m、短径約1.2m、検出面からの深さ約0.2mを測る。

10号土坑

平面形態は不整円形を呈し、長径約1.3m、短径約1.3m、検出面からの深さ約1.0mを測る。



第18図　B区溝状遺構実測図（1/40）

11号土坑

調査区の北東側において検出された。平面形態は不整楕円形を呈し長径約3.8m、短径約1.8m、検出面からの深さ約0.4mを測る。10本のピットを持つ。

12号土坑

調査区のほぼ中央南側において検出された。平面形態は不整円形を呈し、長軸約1.0m、短軸約0.9m、検出面からの深さ約0.2mを測る。中央西側にピット１本を持つ。

13号土坑

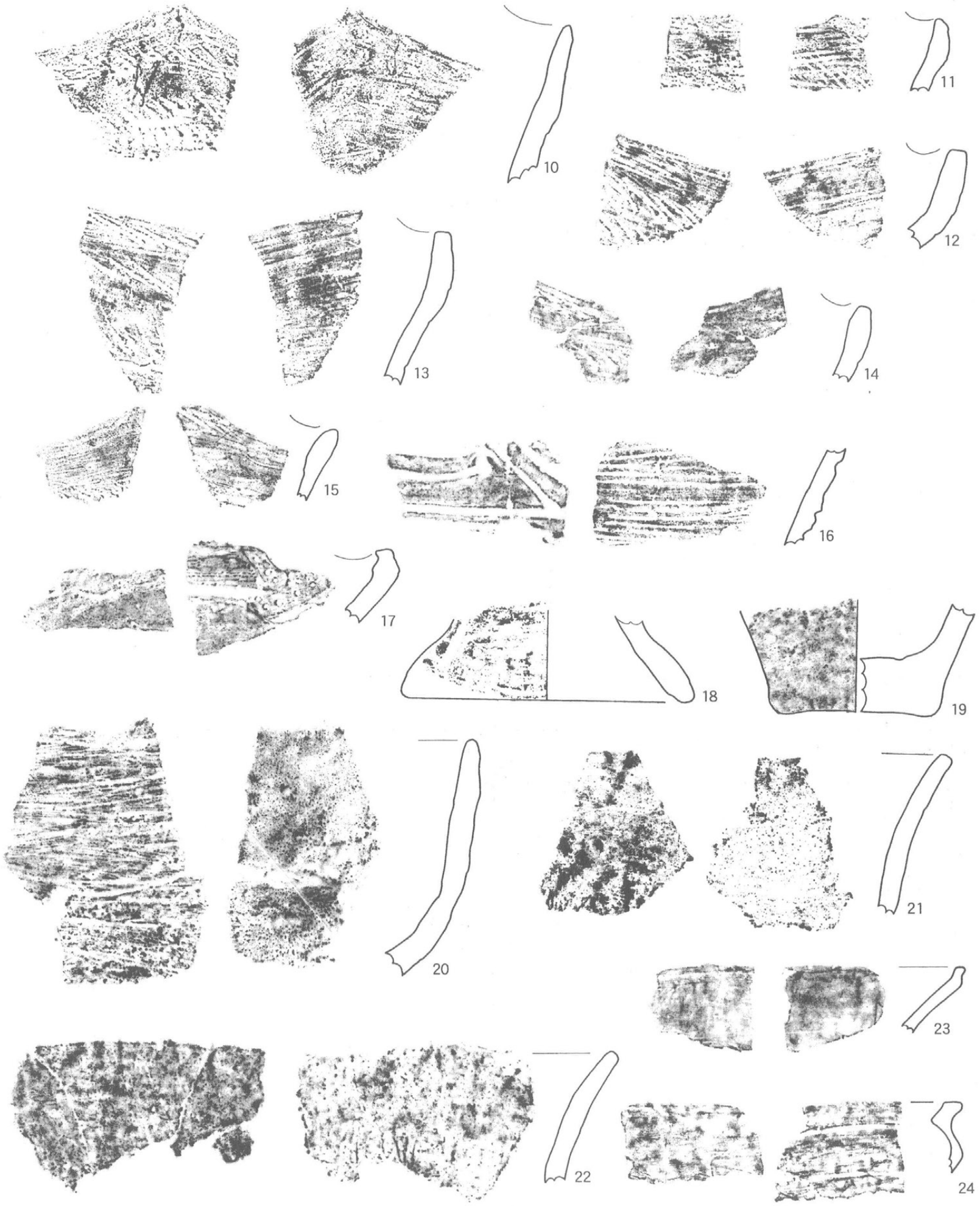
調査区の南側において検出された。平面形態は不整円形を呈し長径約0.9m、短径約0.8m、検出面からの深さ約0.3mを測る。

14号土坑

調査区の北東側において検出された。平面形態は不整円形を呈し長径約1.1m、短径約0.8m、検出面からの深さ約0.8mを測り、二段の掘り込みを持つ。

15号土坑

調査区のほぼ中央西側において検出された。平面形態は長円形を呈し、長径約2.2m、短軸約0.7m、検出面からの深さ約0.15mを測る。4本のピットと中央北側に硬化面を持つ。



第19図　B区包含層出土土器拓影図（1/3）

16号土坑

調査区の南側において検出された。平面形態は楕円形を呈し、長径約1.4m、短径約0.7m、検出面からの深さ約0.1mを測る。土坑の底面は平らで土器片が出土している。

1号溝状遺構

調査区の北側隅において検出された。幅約0.9mを測り、長さは南北方向にむけ約2.2mにわたる。北側は調査区外である。

2号溝状遺構

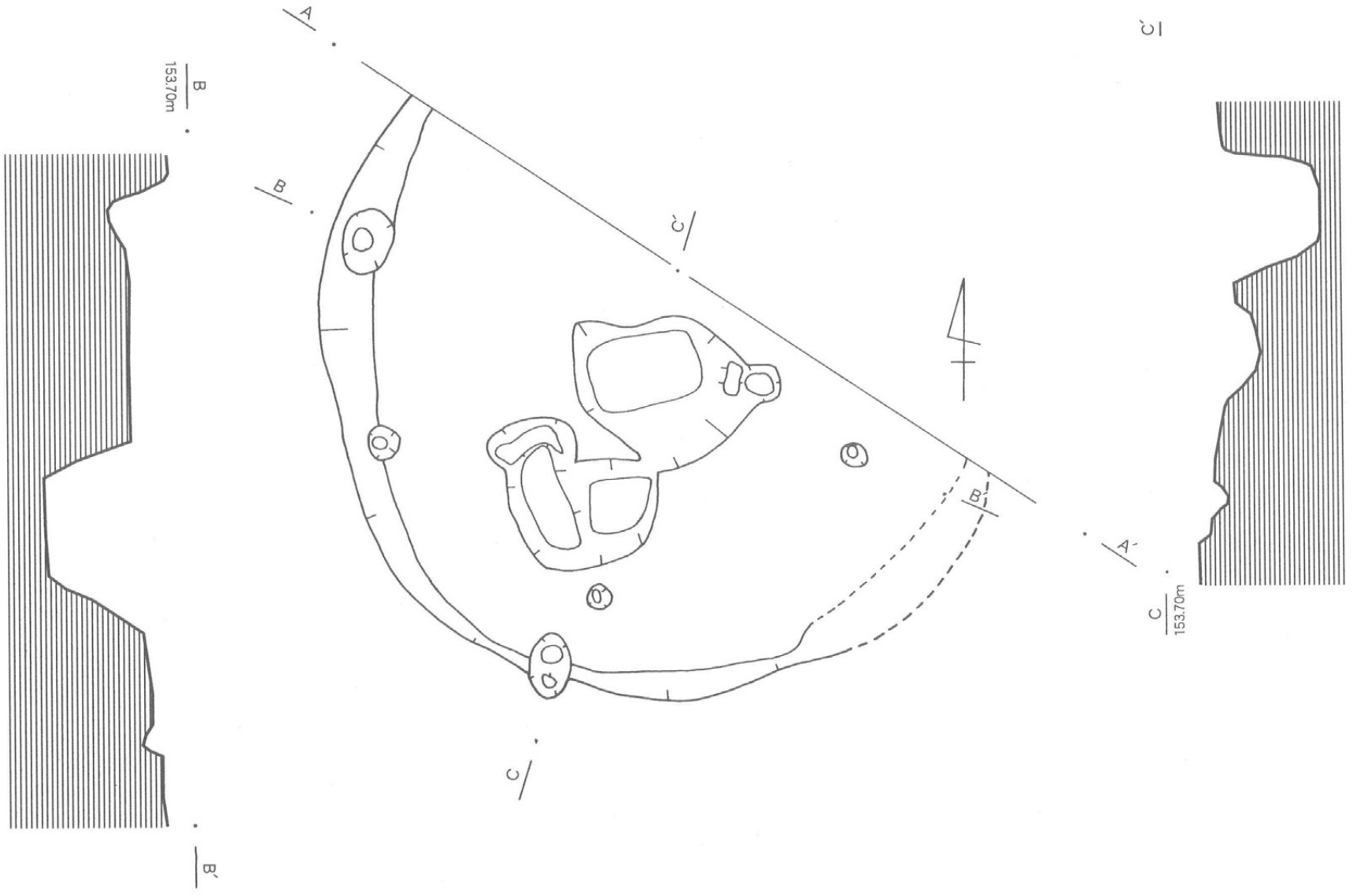
調査区の南側において検出された。幅約1.3mを測り、長さは約2m、南から西へとほぼ90度に曲がる。南側及び北側は調査区外である。

表9　上原第2遺跡Ｂ区出土遺物観察表

単位：cm

No.	出土位置	種別	器種	法量(上：土器　下：石器)			手法・文様		色調		胎土	備考
				口径	底径	器高						
				最大長	最大幅	最大厚	外器面	内器面	外面	内面		
1	1号土坑	縄文土器	浅鉢	(21)			突帯。ナデ。	ナデ。	赤褐	暗赤褐	1～2mmの黒色・白色粒少量。	
2	1号土坑	縄文土器	浅鉢	(20)			リボン状突起。ミガキ。スス付着。	ミガキ。	灰黄褐	褐灰	1mm以下の白色粒ごく少量。雲母微量。	
3	2号土坑	縄文土器	浅鉢				ナデ。スス付着。	工具ナデ。	暗褐	にぶい褐	1mm程度の石英粒微量。1mm程度の黒色粒ごく少量。雲母微量。	
4	2号土坑	縄文土器	浅鉢				ナデ。スス付着。	ナデ。	にぶい黄褐	灰黄褐	1mm以下の石英粒微量。1～2mmの黒色・白色・茶褐色粒少量。	
5	4号土坑	縄文土器	深鉢	15.6			リボン状突起。穿孔・ケズリ一部ミガキ。スス付着。	ヨコナデ。一部ミガキ。	浅黄橙	浅黄	1mm程度の石英粒少量・1～2mmの黒色・白色・茶褐色粒、雲母微量。	
6	8号土坑	縄文土器	深鉢				ナデ。貝殻腹縁刺突文。スス付着。	ナデ	にぶい橙	にぶい褐	1mm以下の黒色・白色粒ごく少量。	
10	包含層	縄文土器	深鉢				ナデ。貝殻腹縁刺突文。スス付着。	ナデ。	にぶい褐	にぶい橙	1mm以下の黒色・茶褐色粒ごく少量。雲母ごく少量。	
11	包含層	縄文土器	深鉢				ナデ。貝殻腹縁刺突文。スス付着。	ナデ。	暗赤褐	にぶい赤褐	1mm以下の石英粒微量。1mm以下の白色粒少量。	
12	包含層	縄文土器	深鉢				貝殻条痕。貝殻腹縁刺突文。	ナデ。貝殻条痕。	暗赤褐	にぶい赤褐	1mm以下の黒色・白色粒ごく少量。雲母微量。	
13	包含層	縄文土器	深鉢				ナデ。貝殻腹縁刺突文。	ナデ。	にぶい橙	にぶい橙	1mm以下の石英粒ごく少量。1mm程度の白色・茶褐色粒ごく少量。	
14	包含層	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。スス付着。	ナデ。	暗褐	にぶい褐	1mm以下の石英粒微量。1mm以下の白色粒微量。	
15	包含層	縄文土器	深鉢				貝殻条痕。貝殻腹縁刺突文。スス付着。	ナデ。貝殻条痕。	褐	明赤褐	1mm以下の白色・茶褐色粒ごく少量。	
16	包含層	縄文土器					ナデ。沈線文。	貝殻条痕。	にぶい赤褐	にぶい赤褐	1mm以下の石英粒微量。1mm以下の白色粒微量。	
17	包含層	縄文土器	浅鉢				ナデ。	ナデ。沈線文。刺突文。	にぶい赤褐	にぶい赤褐	1mm以下の白色粒微量。	
18	包含層	縄文土器	台付皿型土器				ナデ。	ナデ。	明褐	暗褐	1mm程度の石英粒少量。1mm以下の白色粒少量。	
19	包含層	縄文土器	深鉢		(8.5)		ナデ。	ナデ。	にぶい黄橙	灰黄褐	1～2mmの石英粒少量。1～2mmの黒色・茶褐色粒少量。	
20	包含層	縄文土器	浅鉢				工具ナデ。スス付着。	ナデ。	にぶい黄褐	にぶい黄橙	1～2mmの石英粒少量。1～2mmの黒色・茶褐色粒少量。	
21	包含層	縄文土器	深鉢				ナデ。	ナデ。	橙	にぶい橙	1mm程度の石英粒少量。1mm程度の黒色・茶褐色粒少量。	
22	包含層	縄文土器	深鉢				ナデ。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1～2mmの黒色・白色。茶褐色粒少量。	
23	包含層	縄文土器	浅鉢				ミガキ。	ミガキ。	にぶい褐	褐灰	1mm以下の白色・茶褐色粒ごく微量。	
24	包含層	縄文土器	浅鉢				ミガキ。	ミガキ。	にぶい黄褐	にぶい黄橙	1mm程度の黒色・茶褐色粒ごく微量。	

第20図　C区遺構分布図（1/400）



第21図　C区１号竪穴住居跡実測図（1/40）

C区の調査

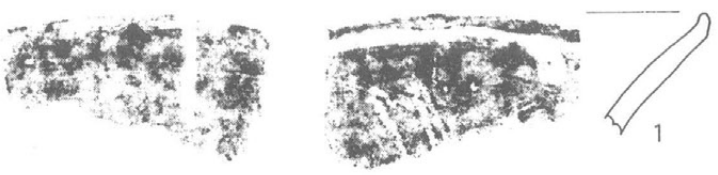
層序

調査区の標高は152.75m～153.75mで、南側が高く北側に向け傾斜している。台地の縁辺に位置し北側は谷に面している。層序は1層・表土、2層・高原スコリア、3層・黒褐色土、4層・黒褐色土、5層・黒褐色土、6層・御池軽石である。調査以前は畑地として利用されていた。

遺構と遺物

縄文時代の遺構として竪穴住居跡1軒、弥生時代の遺構として竪穴住居跡1軒が出土した。

縄文時代の遺構

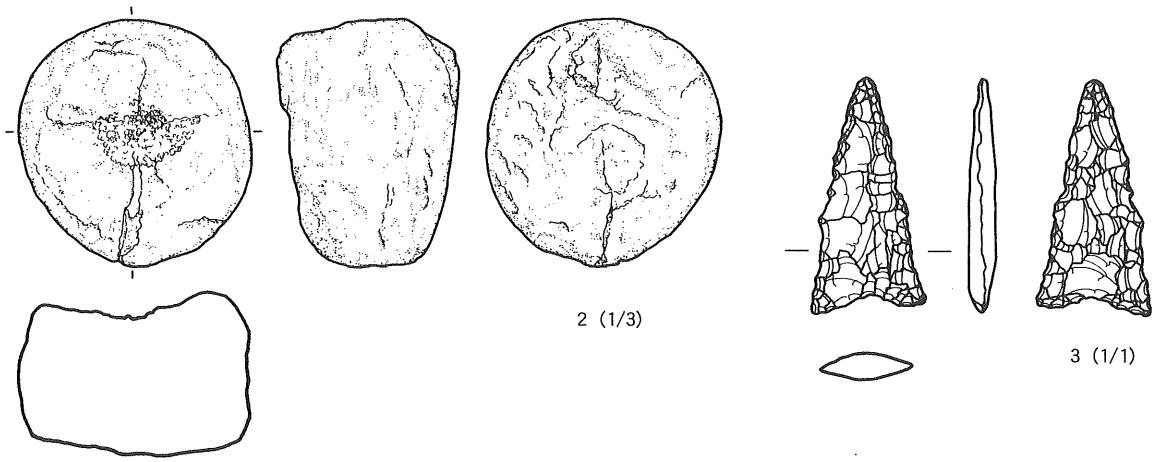


第22図　C区１号竪穴住居跡出土土器拓影図（1/3）

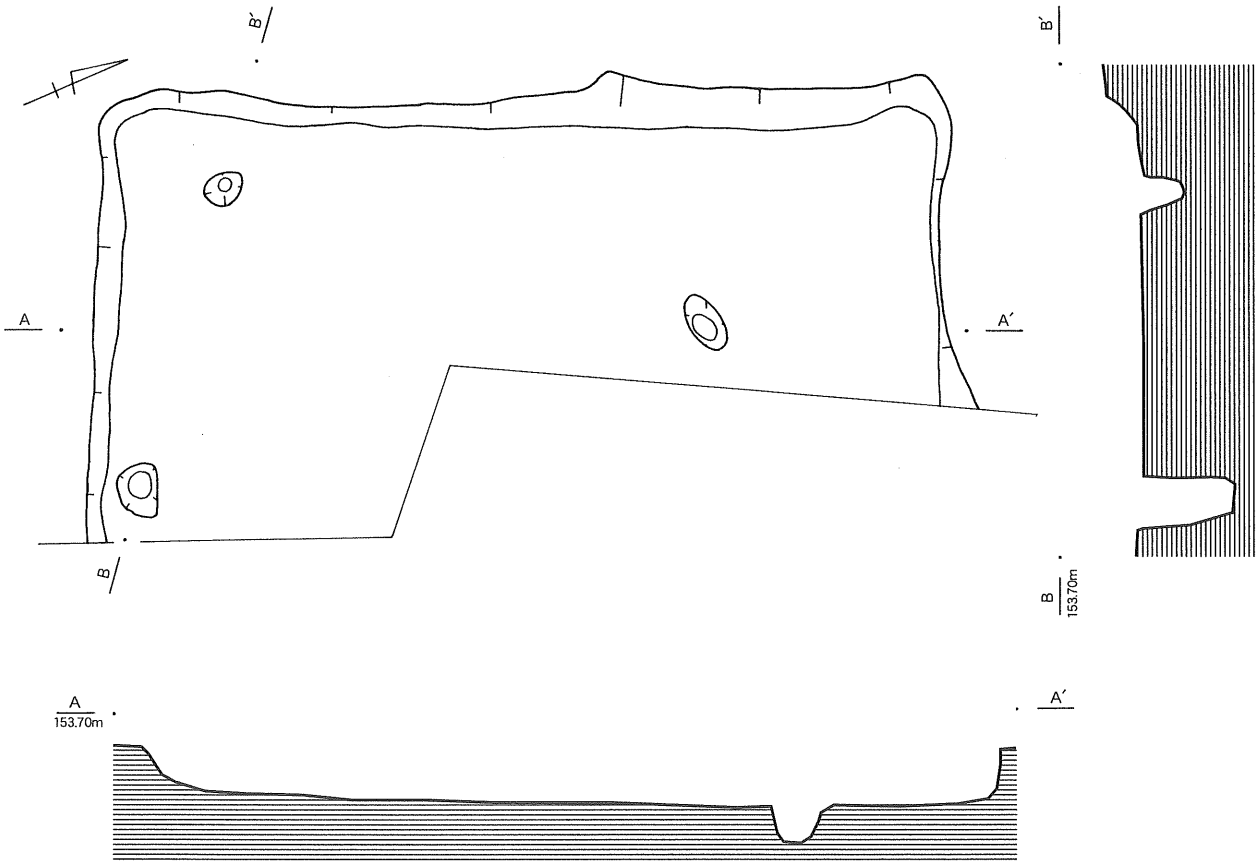
1号竪穴住居跡

調査区の南側において検出された。平面形態は円形で、直径約3.4m、短径約3.5m、検出面からの深さ約0.2mを測る。北側は調査区外となる。床面はほぼ平坦で、中央に長径約1m、短径約0.7m、床面

からの深さ約0.5m。長径約1m、短径約0.6m、床面からの深さ約0.6mの土坑2基をもつ。ピットは計6本が確認された。1は浅鉢口縁部である。やや外反しながら大きく開き、口縁部には1条の沈線文を施す。2は凹石である。上下両面中央に敲打による凹みをもつ。石材は頁岩である。3は石鏃である。平面形態は二等辺三角形を呈し抉りの浅い凹基である。石材はチャートである。



第23図　C区１号竪穴住居跡出土石器実測図

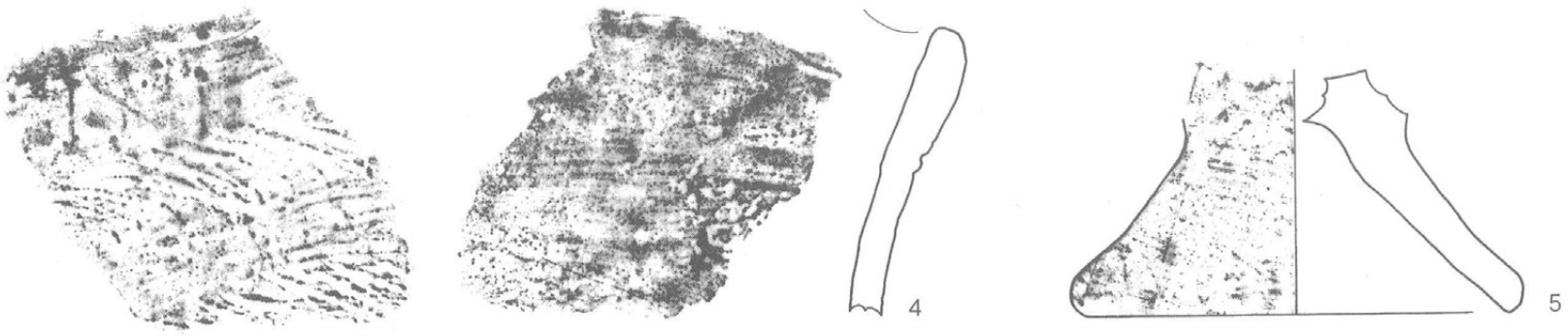


第24図　C区２号竪穴住居跡実測図（1/40）

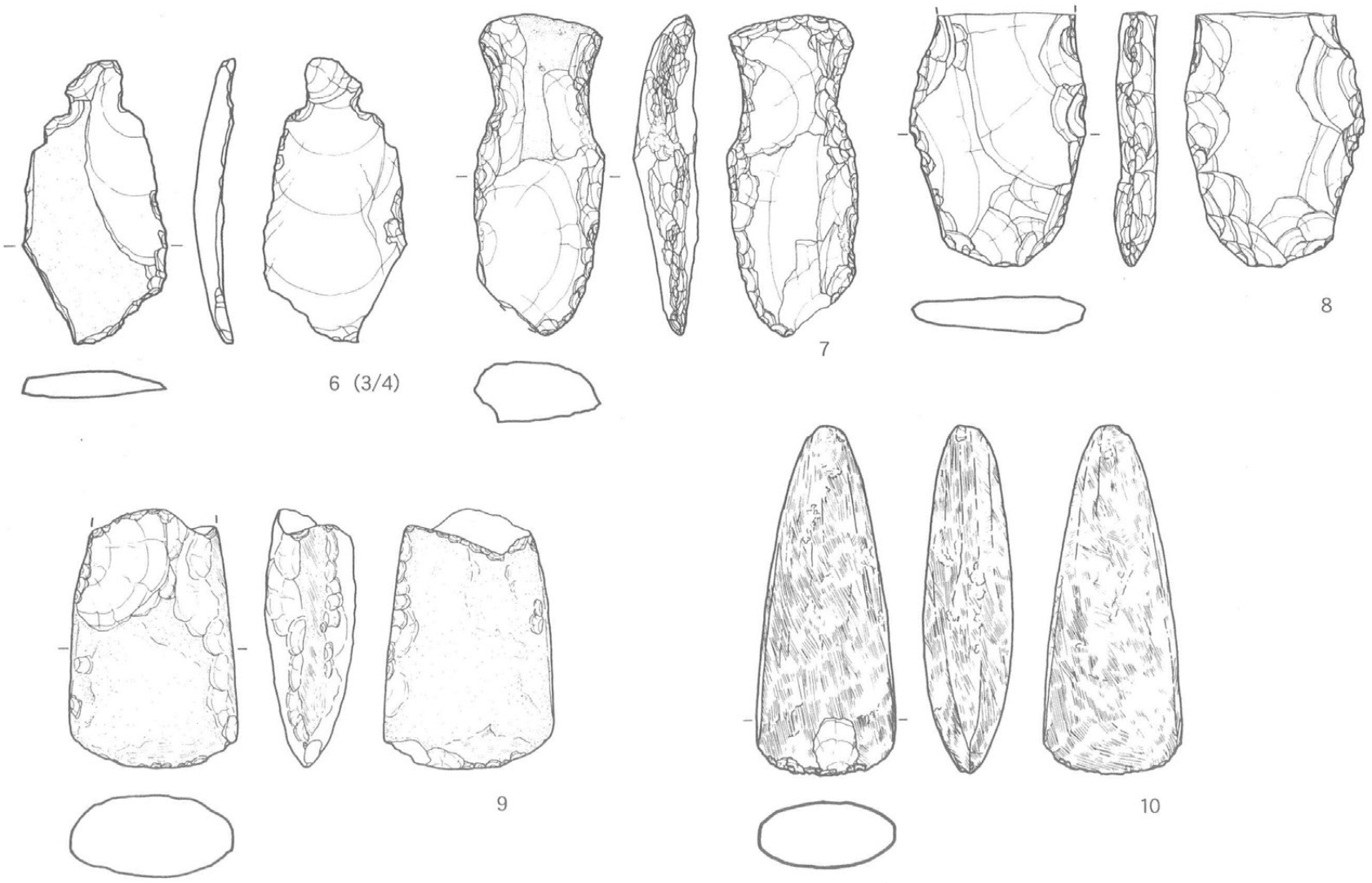
弥生時代の遺構

2号竪穴住居跡

調査区のほぼ中央、南よりにおいて検出された。平面形態は方形で、長軸約4.5m、検出面からの深さ約0.3mを測る。東側半分は調査区外となる。ピットは計3本が確認された。



第25図　C区包含層出土土器拓影図（1/3）



第26図　C区包含層出土石器実測図（1/3）

表10　上原第２遺跡Ｃ区出土遺物観察表

単位：cm

No.	出土位置	種別	器種	法量(上：土器　下：石器)			手法・文様		色調		胎土	備考
				口径	底径	器高						
				最大長	最大幅	最大厚	外器面	内器面	外面	内面		
1	1号住居	縄文土器	浅鉢				ナデ。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の白色粒少量。	
2	1号住居	石器	凹石	14.7	13.15	7.35						2.1kg・頁岩
3	1号住居	石器	石鏃	3.0	1.5	0.4						1g・チャート
4	包含層	縄文土器	深鉢				ナデ。貝殻腹縁刺突文。	ナデ。貝殻条痕。	にぶい橙	にぶい橙	1mm以下の白色粒少量。	
5	包含層	縄文土器	台付皿型土器		(14)		ナデ。	ナデ。	明赤褐	にぶい橙	1mm以下の白色粒少量。	
6	包含層	石器	石匙	5.2	2.6	0.5						7g・頁岩
7	包含層	石器	打製石斧	11.5	4.7	2.2						125g・砂岩
8	包含層	石器	打製石斧	9.15	6.5	1.2						113g・フォルンフェルス
9	包含層	石器	打製石斧	(8.9)	6.1	3.2						238g・フォルンフェルス
10	包含層	石器	磨製石斧	12.5	4.9	3.3						271g・フォルンフェルス

まとめ

上原第2遺跡においては縄文時代の竪穴住居跡1軒、土坑12基、弥生時代の竪穴住居跡1軒、古代の土坑4基、時期を特定できなかった遺構として土坑38基、溝状遺構3本が検出された。遺物は縄文時代後期、晩期、古墳時代、古代の遺物が出土している。

縄文時代の竪穴住居跡についてはC区において１軒のみの出土であった。平面形態は円形を呈し、掘り込みは浅く、中央より土坑2基が出土している。ピットは計6本が検出されたが主柱穴の確定はできていない。土坑についてはA区で4基、B区で8基が検出されたが、形態は様々であり用途は不明である。B区8号土坑では後期中葉に位置付けられる市来式系の草野式土器と考えられる土器が出土し、1、2号土坑では精製土器・粗製土器の浅鉢が出土しており、縄文時代晩期に位置付けられると考えられる。

弥生時代の遺構としてはC区において竪穴住居跡1軒が検出された。平面形態は方形を呈すると考えられ、ピットは計3本が確認されている。

古代の遺構としてはA区より土坑4基が検出された。いずれも用途は不明であるが、6号土坑については完形の坏、高台付坏、刀子が出土し、概報において土坑墓の可能性が指摘されている。6号土坑は10～13世紀にかけての降下と考えられている高原スコリア直下層において検出され、出土土師器については口径・器高に比べ底径が小さいという器形を呈し9世紀末から10世紀初頭に位置すると考えられる。

時期の特定のできなかった遺構として、Ａ区において土坑30基、溝状遺構1本、Ｂ区において土坑8基、溝状遺構2本が検出された。また全ての調査区において多数のピットが検出されているが建物等の構成はならなかった。

包含層出土の土器については縄文土器が市来式系の丸尾式土器を中心に、後期中葉から晩期にかけての出土をみた。石器は石匙、石斧等が出土している。古代の土師器は包含層からも多数の出土があり、20、21、22のように9世紀後半から10世紀前半にかけて盛行するとされる円盤高台土器も確認され、また須恵器では9世紀代に位置すると考えられている二重口縁を呈し、肩部に突帯及び縦耳を施す壷も出土している。

上原第3遺跡

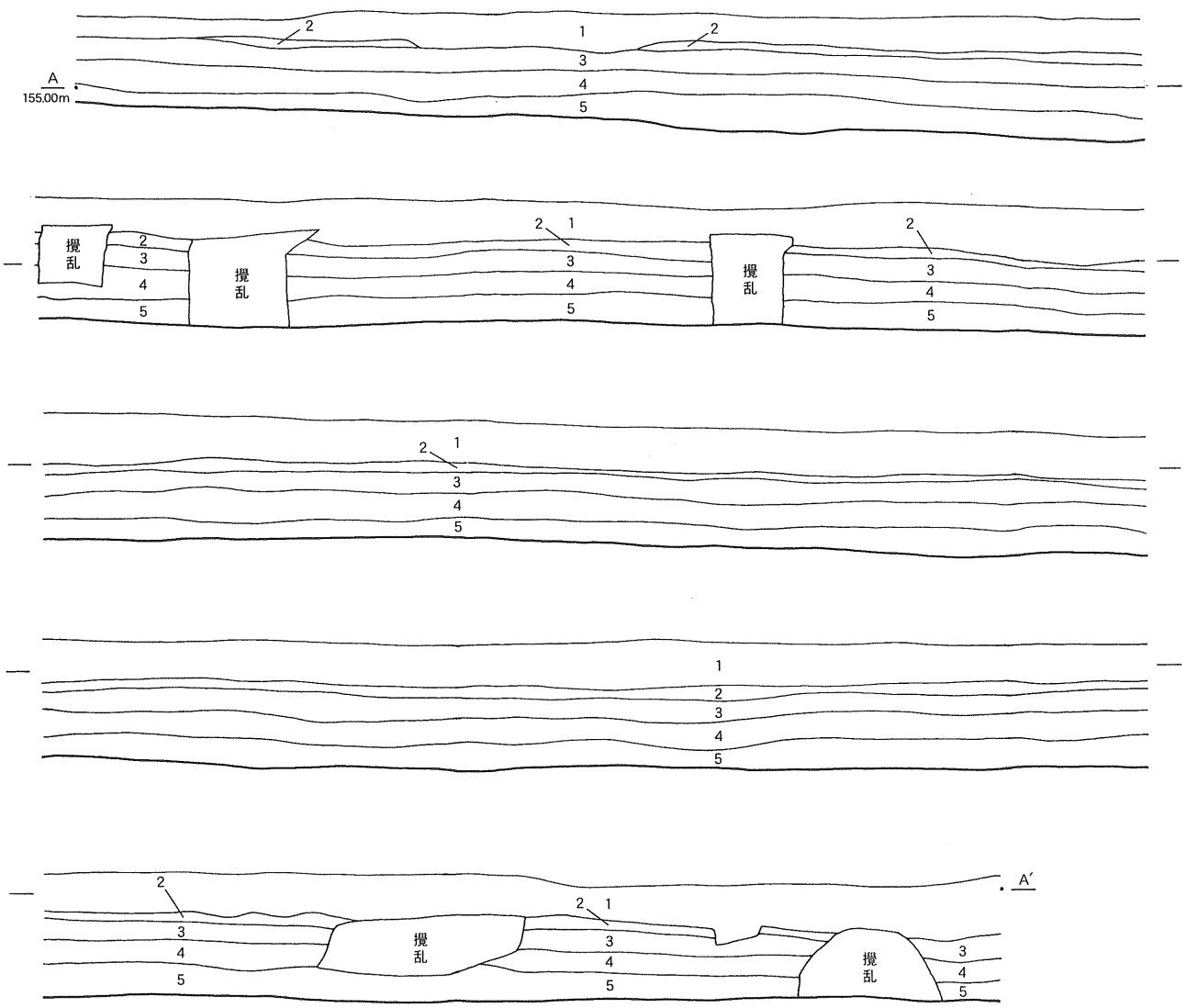
第１図　上原第３遺跡調査区位置図（1/5,000）

発掘調査に至る経緯

本調査は平成4年度より平成15年度にかけて高城町大字有水において実施された、宮崎県北諸県農林振興局による細井地区県営農業基盤整備事業・平成6年度事業実施予定地における埋蔵文化財発掘調査である。細井地区土地改良区、宮崎県北諸県農林振興局、高城町耕地課(現農村整備課)、宮崎県教育庁文化課、高城町教育委員会社会教育課による協議の結果、平成6年9月1日より平成3年1月20日にかけて発掘調査が実施された。調査対象面積は約10,000㎡であり、調査の進行に従いA～D区の4区に設定された。

立地と環境

本調査区は上原遺跡群の所在する台地の北端に位置する。北は雁寺第2遺跡が在する台地へと続き、南は上原第2遺跡の在する台地中央へと続く。台地中央にＡ区が位置し、Ａ区の北側にＢ区、Ａ区の



第２図　C区土層断面図（1/50）

西側にＢ区、Ｂ区の西側にD区が位置する。

層序

本遺跡の基本土層はC区北側東－西壁にて確認した土層堆積において代表させる。土層断面図に見られる攪乱の多くは後世に芋貯蔵穴を掘削したさいのものである。

1　耕作土

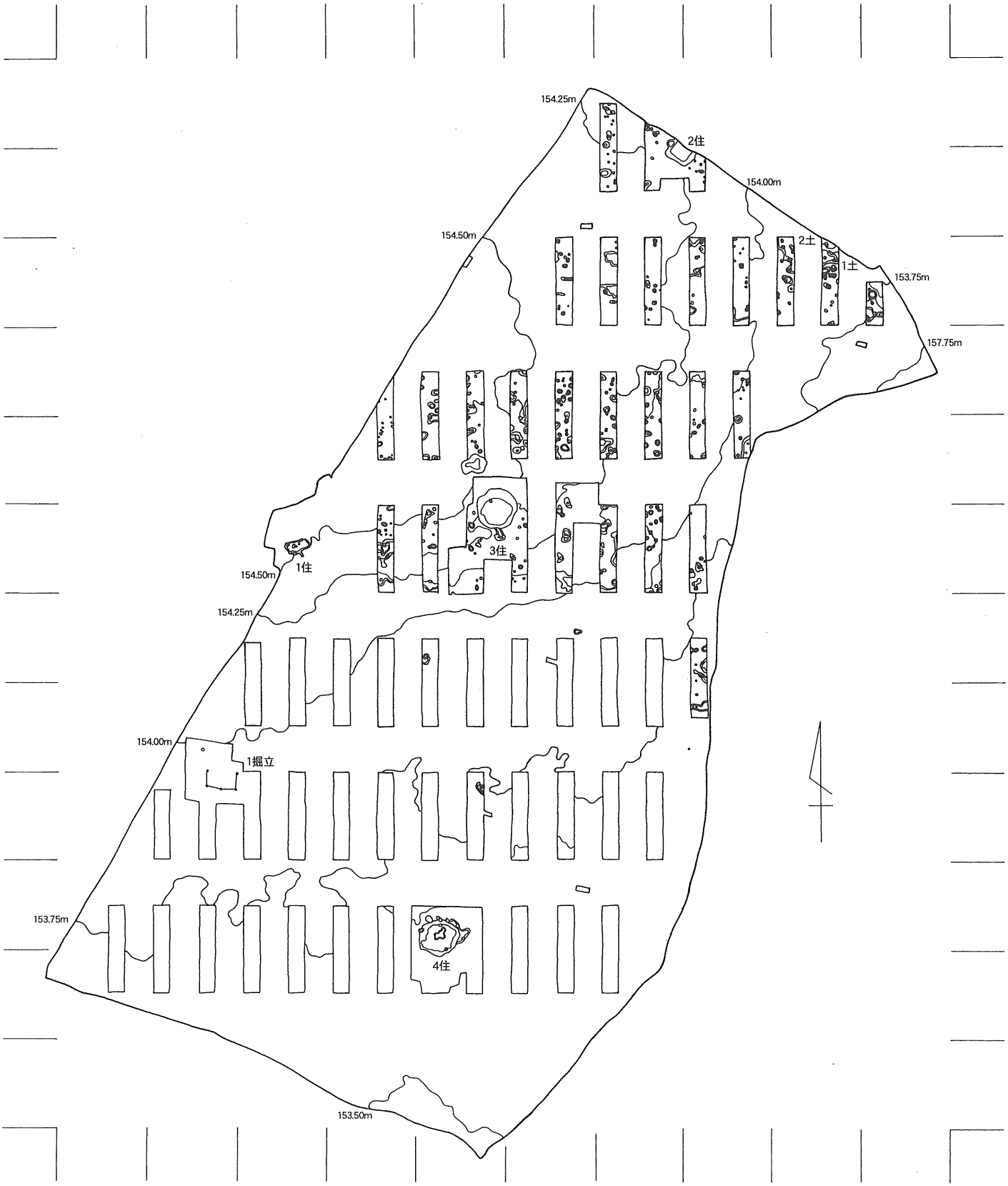
2　高原スコリア

3　黒褐色土　　高原スコリアを含む。Hue10YR3/2

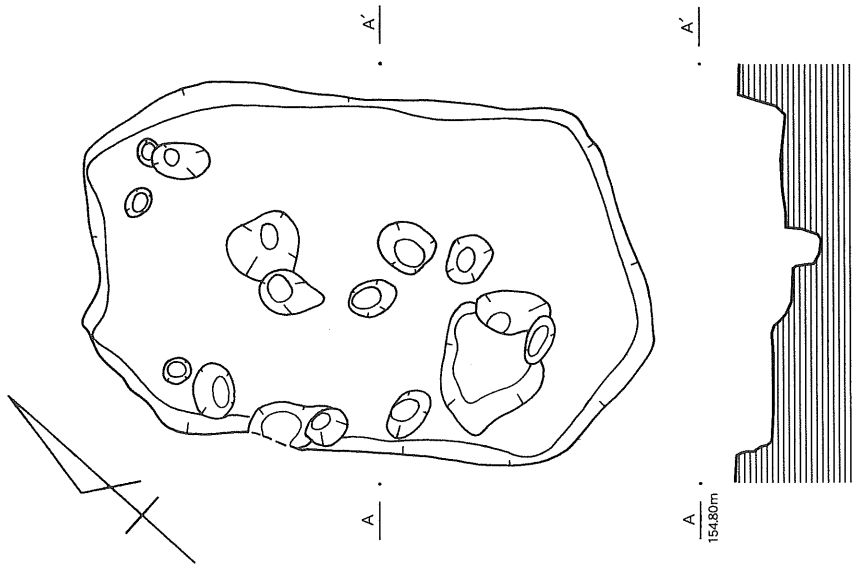
4　黒褐色土　　御池軽石をごく少量含む。Hue10YR3/2

5　黒褐色土　　御池軽石を多量に含む。御池軽石含有量は下層に向かい増加する。Hue7.5YR 2/1

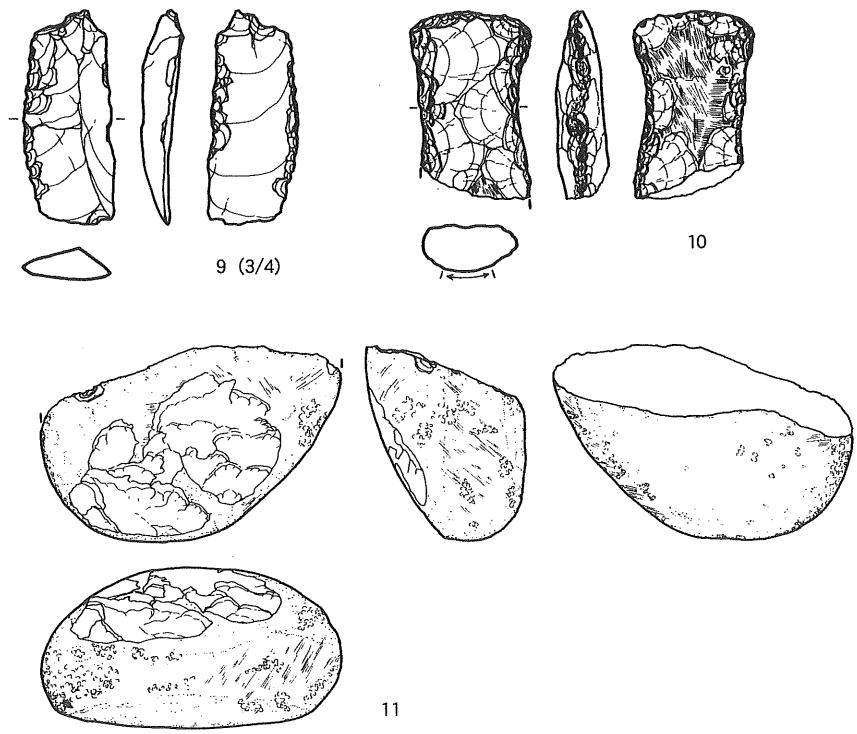
6　御池軽石



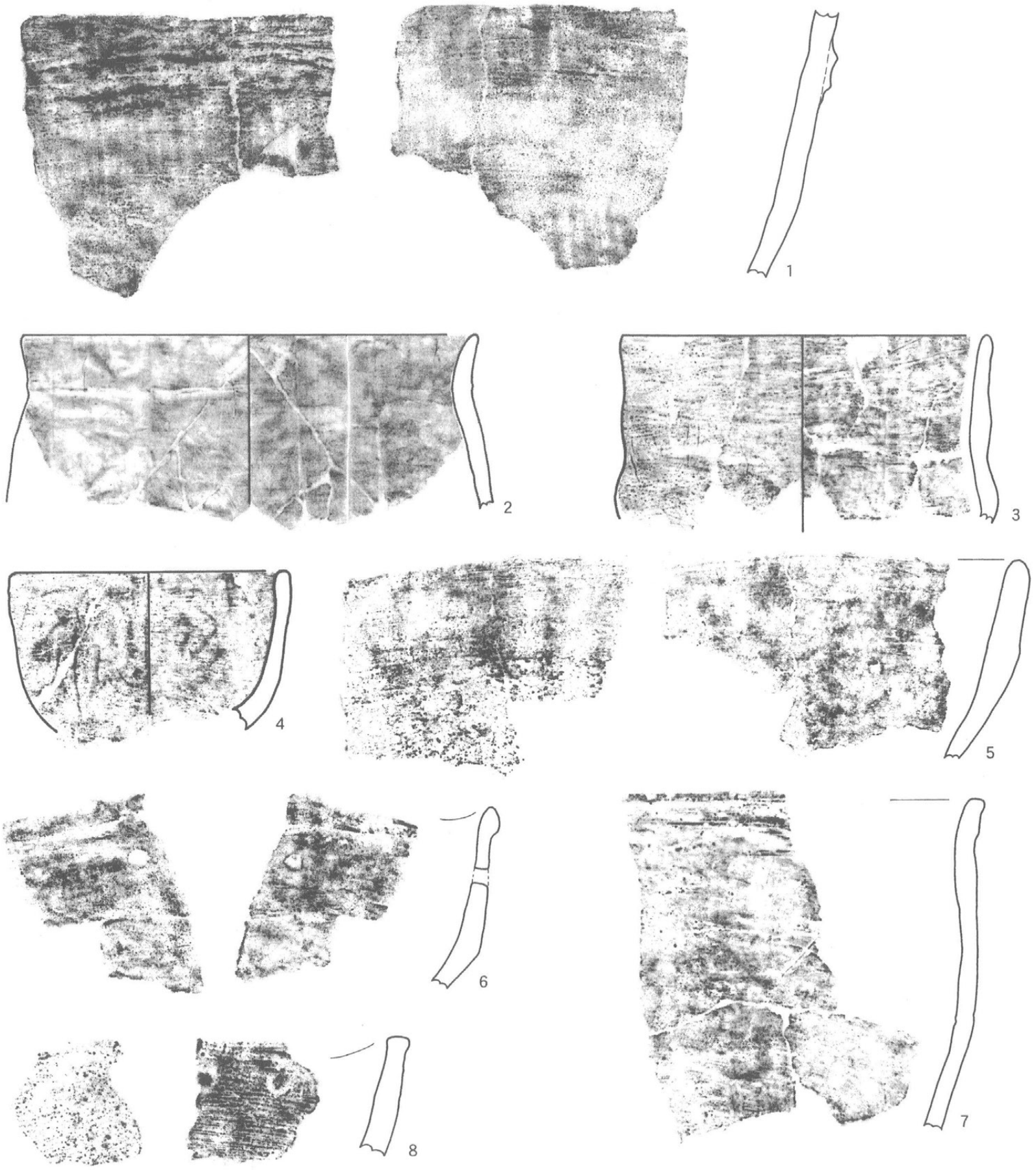
第３図　A区遺構分布図（1/600）



第４図　A区１号竪穴住居跡実測図（1/40）



第５図　A区１号竪穴住居跡出土石器実測図（1/3）



第６図　A区１号竪穴住居跡出土土器拓影図（1/3）

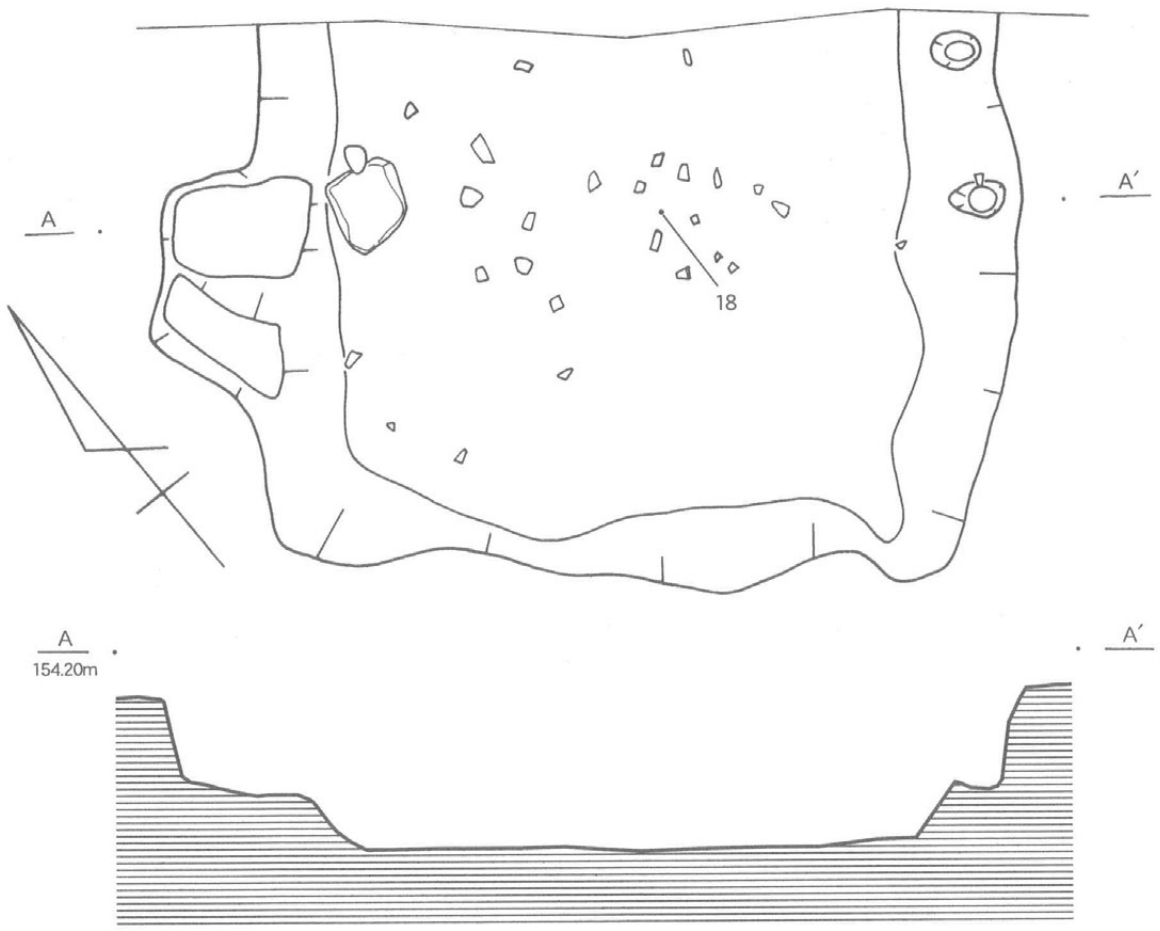
A区の調査

層序

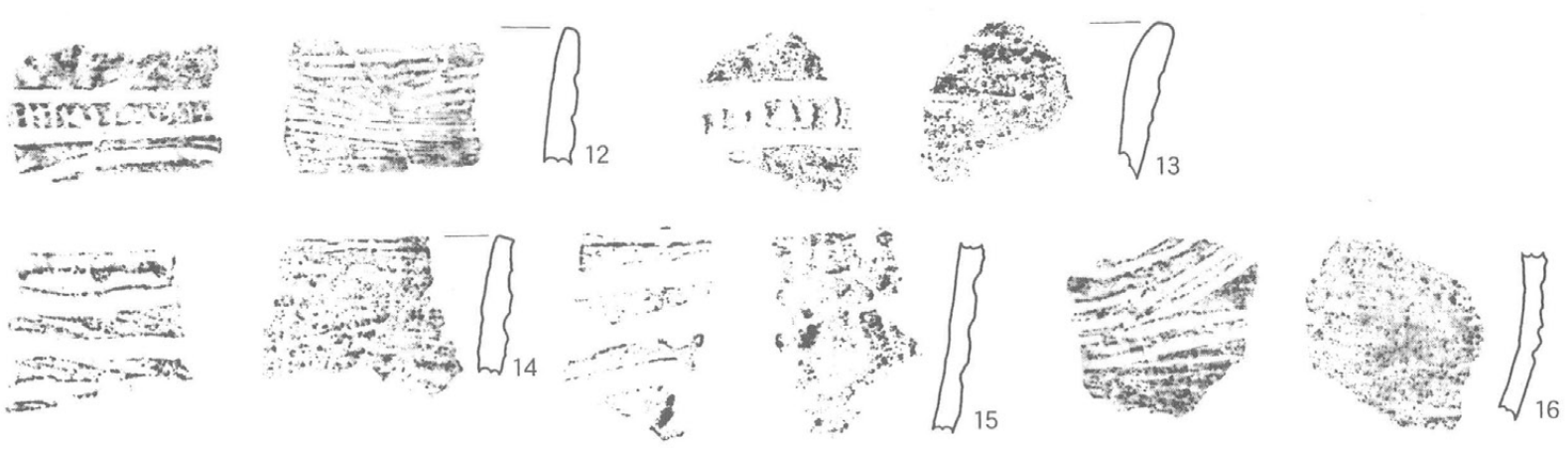
調査区の標高は153.50m～157.75mで、北東側が高く南側に向け傾斜している。層序は1層・耕作土、2層・高原スコリア、3層・黒褐色土、4層・黒褐色土、5層・黒褐色土、6層・御池軽石である。調査以前は畑地として利用されていた。

遺構と遺物

A区においては縄文時代の竪穴住居跡4軒、土坑1基、古代の掘立柱建物跡1軒、時期不明の土坑1基、ピット多数が検出された。



第７図　A区２号竪穴住居跡実測図（1/40）



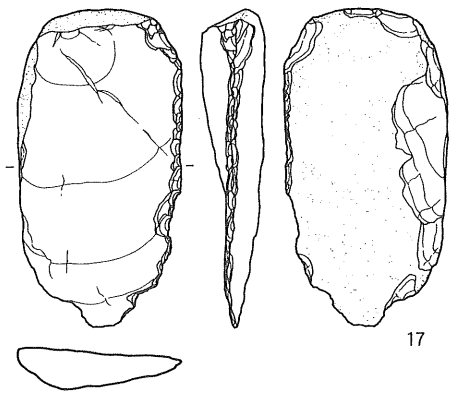
第８図　A区２号竪穴住居跡出土土器拓影図（1/3）

縄文時代の遺構と遺物

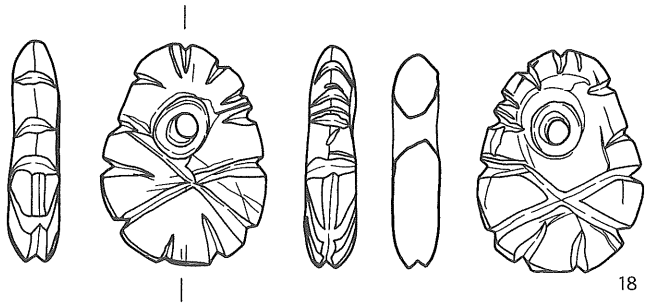
１号竪穴住居跡

調査区のほぼ中央西端において検出された。平面形態は隅丸方形と考えられ、一辺約3m、検出面からの深さ約.02mを測る。床面はほぼ平坦で、東北側に不整円形を呈し長径約0.6m、短径約0.4m、床面からの深さ約0.3mの土坑をもつ。床面はほぼ平坦で、ピットは計15本が確認されている。埋土中より縄文土器が出土している。

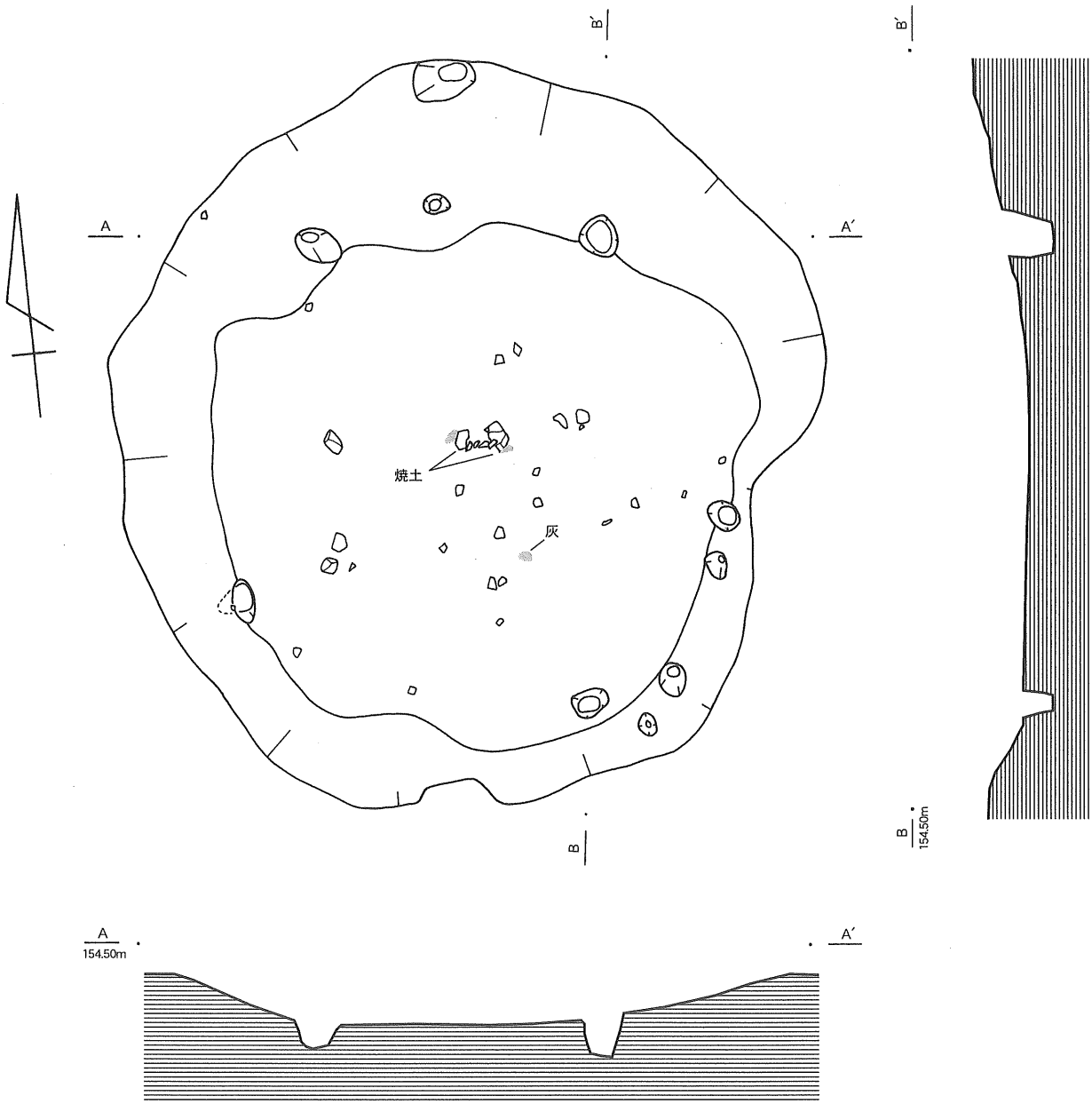
1は底部付近で屈曲しやや開き気味に立ち上がる浅鉢と考えられる。外面に一条の突帯を施す。2は深鉢で頸部において屈曲し口縁部は外反する。内外面ともにミガキを施す精製土器である。3、4共に小型の浅鉢でいずれも底部付近で屈曲し、3はやや外反しながら、4は内湾しながら立ち上がる。5は胴部において屈曲し、口縁部が大きく開く大型の浅鉢と考えられる。6は胴部において屈曲し、外反しながら立ち上がる浅鉢の口縁部である。波状口縁で端部に突帯を施し肥厚させる。焼成後に施した穿孔を有する。7、8は孔列文土器である。いずれも穿孔は貫通していない。7は深鉢、８は浅鉢口縁



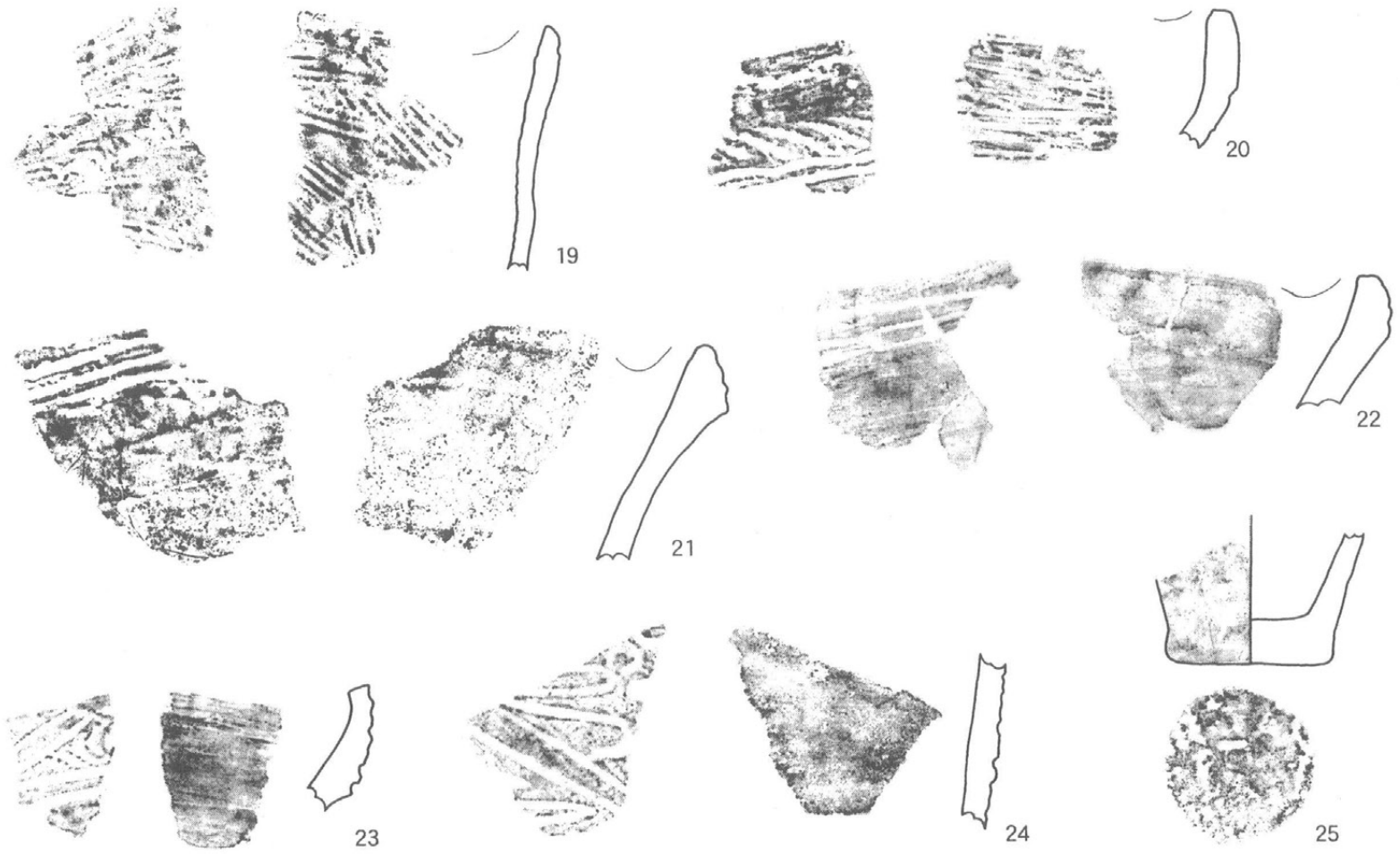
第９図　A区２号竪穴住居跡出土石器実測図（1/2）



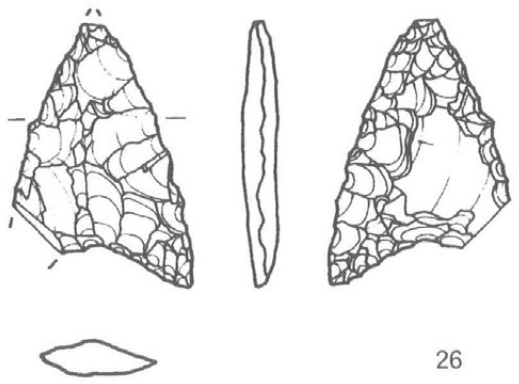
第10図　A区２号竪穴住居跡出土垂飾実測図（1/1）



第11図　A区３号竪穴住居跡実測図（1/40）



第12図　A区３号竪穴住居跡出土土器拓影図（1/3）



第13図　A区３号竪穴住居跡出土石器実測図（1/1）

部と考えられる。9はつまみ部を欠損した縦型の石匙と考えられる。左右の両長辺に刃部を作り出す。石材は頁岩である。10は打製石斧である。下半を欠損し、背面の一部を磨いている。石材は砂岩である。11は高支石である。石材は砂岩で被熱により全体的に赤化している。

２号竪穴住居跡

調査区の北端において検出された。北側は調査区外である。平面形態は方形と考えられ、一辺約3m、検出面からの深さ約0.5mを測る。床面はほぼ平坦で、西側に壁面を掘り込んだ張り出し状の段を持つ。ピットは計2本が確認されている。埋土中より縄文土器とスクレイパー1点の他、垂飾１点が出土している。15は床面付近からの出土である。

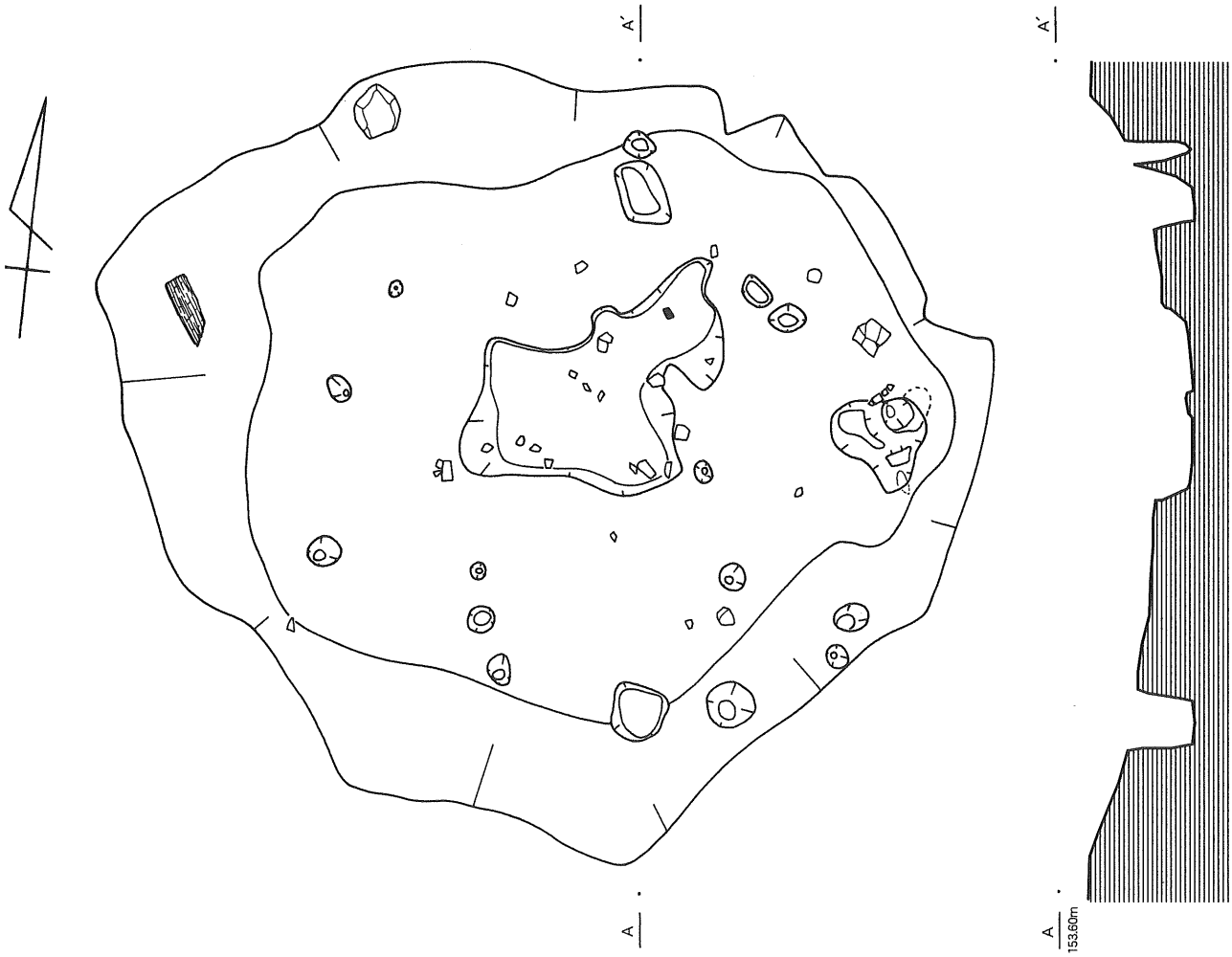
13、12は深鉢口縁部で、横位の二本の沈線文間に貝殻腹縁による縦位の連続刺突文を施す。15、14、16は棒状工具による横位の沈線文及び刺突文を施す。14は口縁部、他は胴部である。17はスク

レイパーである。石材は頁岩である。18は垂飾である。上半部に穿孔、周縁に刻み、下半部に周縁の刻みから続く「×」状の線刻を施す。また側面下半には溝を巡らせる。石材は頁岩である。

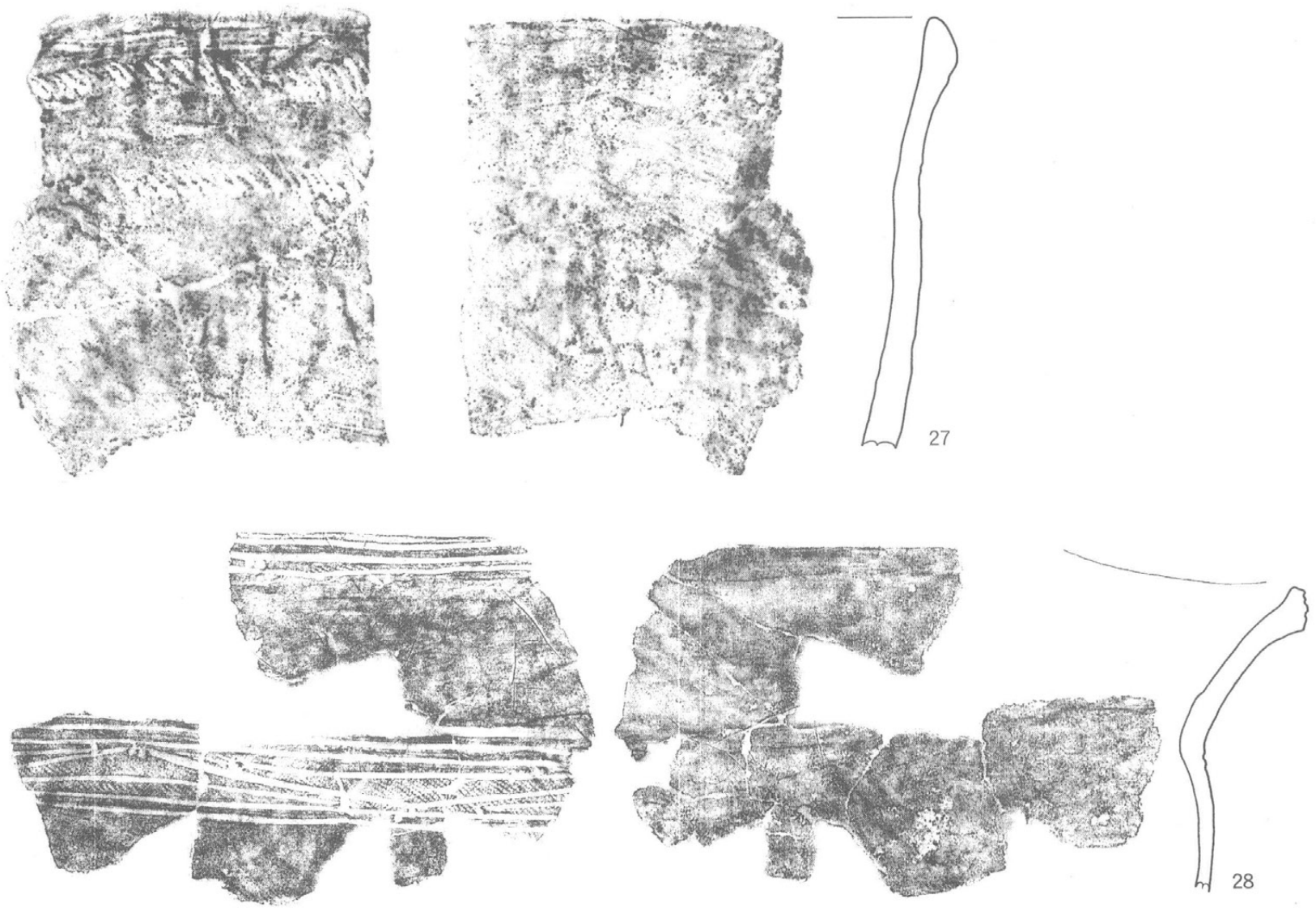
3号竪穴住居跡

調査区のほぼ中央において検出された。平面形態は円形を呈し、直径約4.2m、検出面からの深さ約0.3mを測る。壁面に沿って計10本のピットが確認された。また床面のほぼ中央より焼土が検出されている。埋土中より縄文土器が出土している。

19は口縁部がやや外反し、わずかに肥厚する。口唇部は平坦に仕上る。貝殻腹縁による刺突文を施す。20は内湾する口縁部で沈線文及び貝殻腹縁による連続刺突文を施す。21、22は口縁部がノミの刃状に肥厚する。口唇部は平坦に仕上げ、沈線文を施す。23は浅鉢口縁部と考えられる。24は深鉢胴部で沈線文を施す。25は深鉢底部で網代痕を有する。26は石鏃で平面形態は二等辺三角形を呈し抉りの浅い凹基である。石材はチャートである。



第14図　A区4号竪穴住居跡実測図（1/40）



第15図　A区４号竪穴住居跡出土土器拓影図（1/3）

４号竪穴住居跡

調査区の南側において検出された。平面形態は不整楕円形を呈し、長径約4.9m、短径約4m、検出面からの深さ約0.4mを測る。ピットは計17本が確認された。床面のほぼ中央に不整楕円形を呈し、長径約1.6m、短径約0.9m、検出面からの深さ約0.2mを測る土坑を持つ。この土坑の上部には焼土が広がっていたとされる。縄文土器が出土している。

27は深鉢で口縁部がノミの刃状に肥厚する。口唇部は平坦に仕上げ、沈線文を施す。口縁部には上下二段に貝殻腹縁による連続刺突文を施す。28は黒色磨研土器の深鉢で頸部において屈曲し口縁部は外反しながら大きく開く波状口縁である。口唇部は肥厚し沈線文、磨消縄文を施す。また胴部上半に沈線文、磨消縄文による文様帯をもつ。

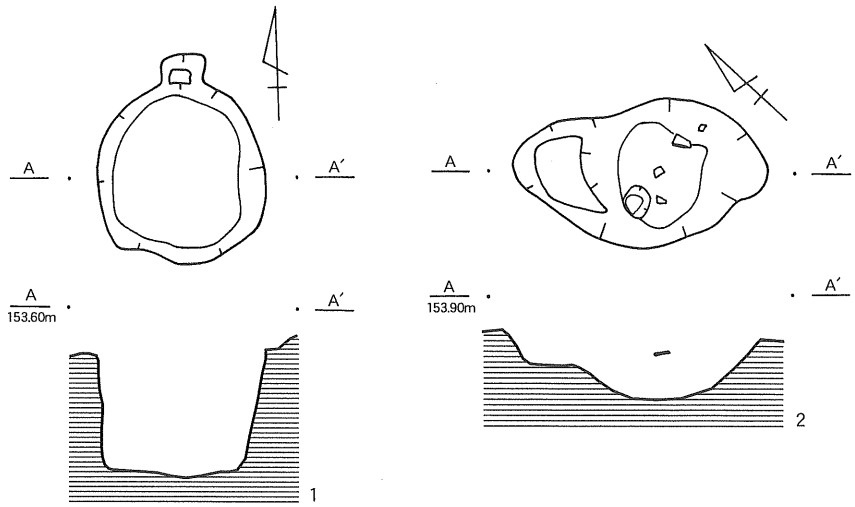
１号土坑

調査区の北東隅において検出された。平面形態は円形を呈し、直径約0.9m、検出面からの深さ約0.6mを測る。縄文土器の小片が出土している。

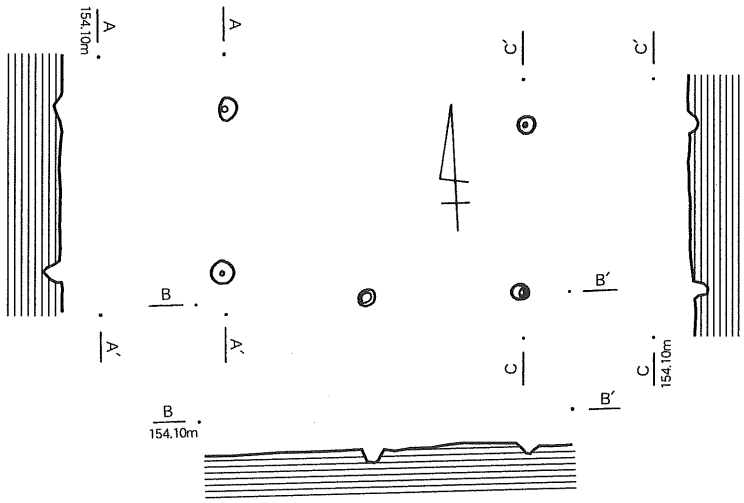
古代の遺構

１号掘立柱建物跡

調査区の南側において検出された。主軸方向はＮ－88°－Ｅをとる。1間×2間の側柱式の掘立柱建物になると考えられる。梁行約1.8m、桁行約3.2mを測る。柱穴の平面形態は円形を呈し、直径は約10～20cm、検出面からの深さは約10～20cmを測る。柱穴の埋土は高原スコリア混じりの茶褐色土とされる。



第16図　A区土坑実測図（1/40）

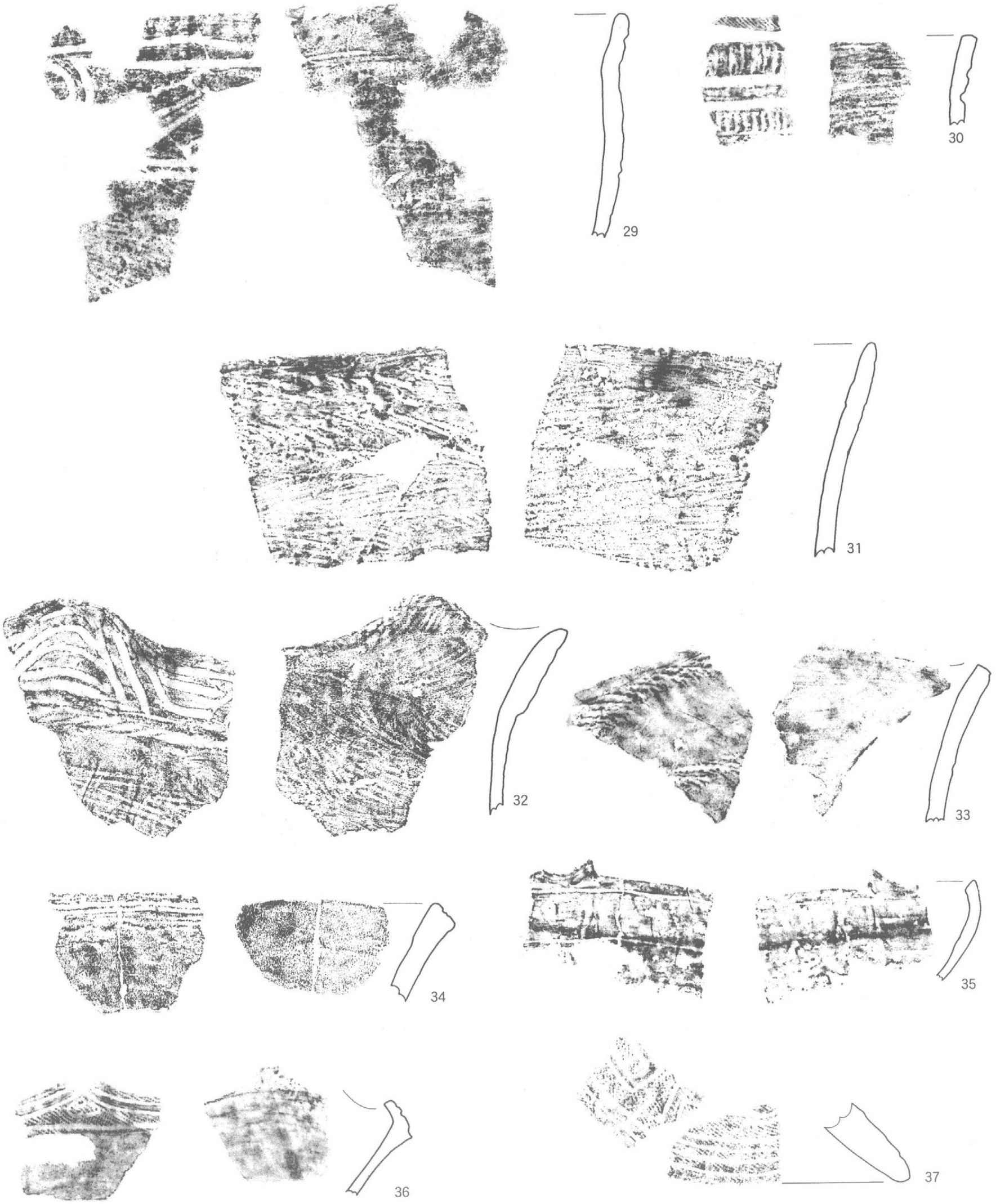


第17図　A区１号掘立柱建物跡実測図（1/100）

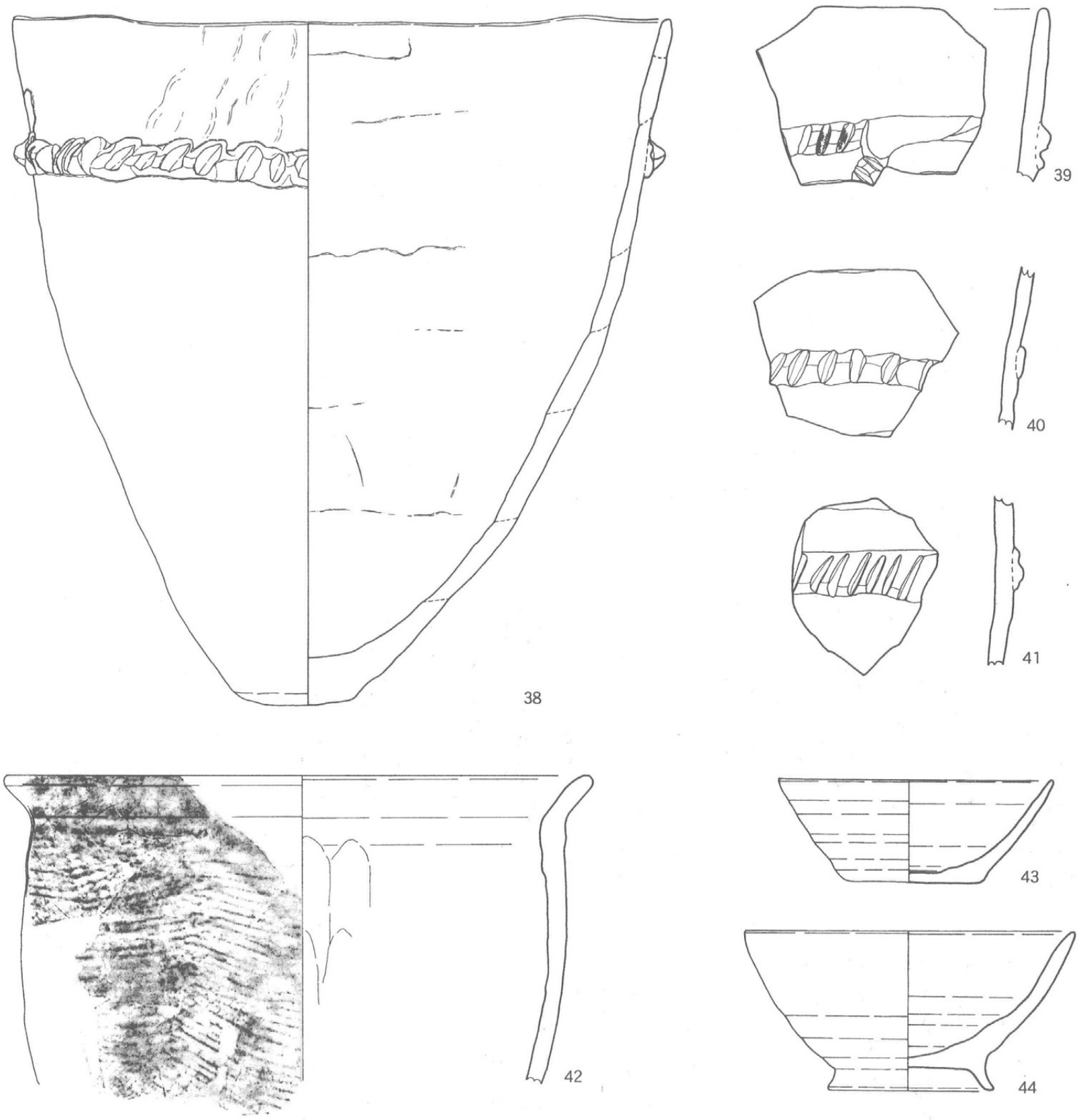
その他の遺構

２号土坑

調査区の北東隅、9号トレンチにおいて検出された。平面形は楕円形を呈し、長径約1.3m、短径約0.8m、検出面からの深さ約0.3mを測る。二段の掘り込みをもつ。



第18図　A区包含層出土土器拓影図（1/3）

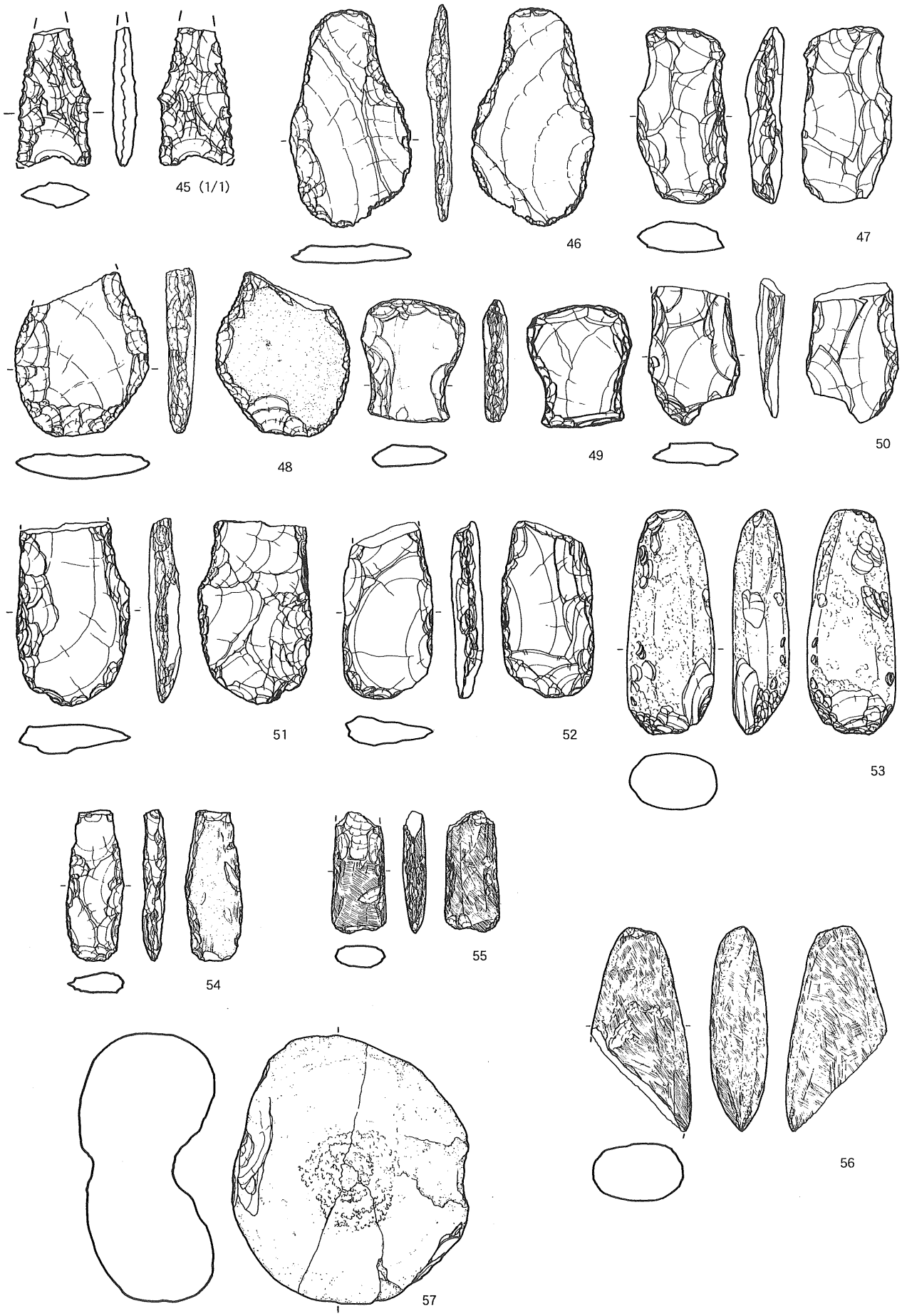


第19図　A区包含層出土土器実測図（1/3）

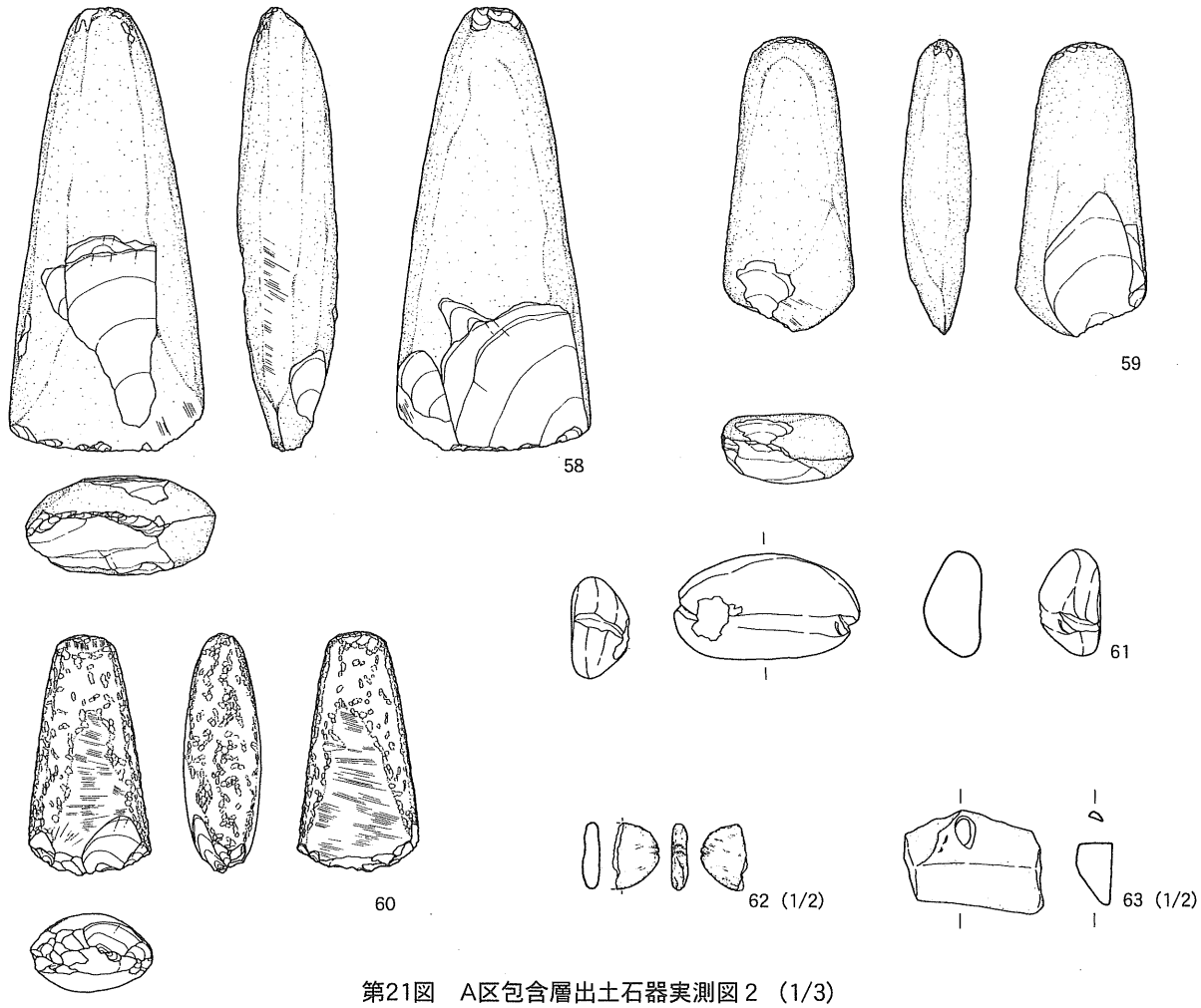
表11　上原第3遺跡A区出土遺物観察表1

単位：cm

No.	出土位置	種別	器種	法量(上：土器　下：石器)			手法・文様		色調		胎土	備考
				口径	底径	器高						
				最大長	最大幅	最大厚	外器面	内器面	外面	内面		
1	1号住居	縄文土器	浅鉢				ナデ。突帯。スス付着。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm程度の石英粒少量。1mmの白色・茶褐色粒少量。	
2	1号住居	縄文土器	深鉢	(21)			ミガキ。	ミガキ。	褐灰	褐灰	1mm程度の石英粒少量。1mmの黒色・白色・茶褐色粒少量。	
3	1号住居	縄文土器	浅鉢	(16.5)			ナデ。	ナデ。	浅黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の黒色・茶褐色粒少量。	
4	1号住居	縄文土器	浅鉢	(13)			工具ナデ	工具ナデ	にぶい橙	にぶい橙	1mm程度の石英粒ごく少量。1mm程度の白色・茶褐色粒少量。	
5	1号住居	縄文土器	浅鉢				ナデ。突帯。穿孔。スス付着。	ミガキ。	にぶい黄橙	褐灰	1mm程度の黒色・白色・茶褐色粒少量。雲母微量。	
6	1号住居	縄文土器	浅鉢				孔列文。ナデ。スス付着。	ナデ。スス付着。	にぶい黄橙	黒褐	1mm程度の石英粒少量。1～2mmの白色・茶褐色粒少量。	
7	1号住居	縄文土器	深鉢				ナデ。孔列文。	ミガキ。一部ナデ。	にぶい黄橙	褐灰	1～2mmの白色・黒粒少量。	



第20図　A区包含層出土石器実測図１（1/3）



第21図　A区包含層出土石器実測図２（1/3）

表12　上原第3遺跡A区出土遺物観察表2

単位：cm

No.	出土位置	種別	器種	法量(上：土器　下：石器) 口径 最大長	底径 最大幅	器高 最大厚	手法・文様 外器面	内器面	色調 外面	内面	胎土	備考
8	1号住居	縄文土器	浅鉢				ナデ。孔列文。スス付着。	ナデ。ハケ目。	褐灰	浅黄橙	1mm程度の石英粒少量。1mmの黒色・白色・茶褐色粒少量。	
9	1号住居	石器	石匙	4.2	1.8	0.7						6g・頁岩
10	1号住居	石器	打製石斧	7.7	4.6	1.8						85g・砂岩
11	1号住居	石器	凹石	12.2	6.8	6.0						594g・砂岩
12	2号住居	縄文土器	深鉢				沈線文。貝殻腹縁刺突文。ナデ。スス付着。	貝殻条痕。	にぶい黄橙	にぶい黄褐	1mm程度の白色粒ごく少量。雲母少量。	
13	2号住居	縄文土器	深鉢				沈線文。貝殻腹縁刺突文。ナデ。スス付着。	ナデ。	にぶい橙	橙	1mm以下の黒色・白色・茶褐色粒少量。	
14	2号住居	縄文土器	深鉢				沈線文。ナデ。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm程度の黒色・茶褐色粒少量。	
15	2号住居	縄文土器	深鉢				沈線文。ナデ。	ナデ。	にぶい黄褐	にぶい黄褐	1mm以下の白色・茶褐色粒ごく少量。雲母少量。	
16	2号住居	縄文土器	深鉢				沈線文。ナデ。	粗いナデ。	にぶい黄褐	にぶい黄褐	1mm程度の黒色・茶褐色粒少量。	
17	2号住居	石器	スクレイパー	8.5	4.4	1.7						63g・頁岩
18	2号住居	石器	垂飾	2.9	2.1	1.7	線刻。穿孔。	線刻。穿孔。				6g・頁岩
19	3号住居	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1～2mm程度の茶褐色粒ごく少量。	
20	3号住居	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。沈線文。ナデ。	貝殻条痕。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm程度の白色・茶褐色粒少量。雲母少量。	
21	3号住居	縄文土器	深鉢				沈線文。ナデ。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1～2mmの白色・茶褐色粒少量。雲母少量。	

表13　上原第3遺跡Ａ区出土遺物観察表3

単位：cm

No.	出土位置	種別	器種	法量(上：土器　下：石器)			手法・文様		色調		胎土	備考
				口径	底径	器高						
				最大長	最大幅	最大厚	外器面	内器面	外面	内面		
22	3号住居	縄文土器	深鉢				沈線文。ナデ。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の黒色・白色・茶褐色粒ごく少量。	
23	3号住居	縄文土器	浅鉢?				沈線文。磨消縄文。ナデ。	貝殻条痕。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm程度の白色・茶褐色粒少量。雲母少量。	
24	3号住居	縄文土器	深鉢				沈線文。磨消縄文。ナデ。スス付着。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm程度の白色・茶褐色粒少量。	
25	3号住居	縄文土器	深鉢		(6)		網代痕。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm程度の黒色・白色・茶褐色粒少量。雲母微量。	
26	3号住居	石器	石鏃	2.7	1.6	0.3						1g・黒曜石
27	4号住居	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。	ナデ。スス付着。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm程度の黒色・白色・茶褐色粒少量。雲母微量。	
28	4号住居	縄文土器	深鉢				沈線文。刺突文。磨消縄文。ミガキ。	ミガキ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1～2mmの黒色・白色粒少量。	
29	包含層	縄文土器	深鉢				沈線文。ナデ。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1～2mmの黒色・白色・茶褐色粒少量。	
30	包含層	縄文土器	深鉢				沈線文。貝殻腹縁刺突文。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm程度の黒色・白色・茶褐色粒ごく少量。	
31	包含層	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕の上をナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の茶褐色粒少量。	
32	包含層	縄文土器	深鉢				短沈線文。貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。。	ナデ。貝殻条痕。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の白色・茶褐色粒少量。雲母微量。	
33	包含層	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。ナデ。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の黒色・白色・茶褐色粒微量。	
34	包含層	縄文土器	深鉢				沈線文。ナデ。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の石英粒ごく少量。1～2mmの黒色・白色粒ごく少量。	
35	包含層	縄文土器	浅鉢				沈線文。リボン状突起。ミガキ。	ミガキ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の白色粒ごく少量。	
36	包含層	縄文土器	深鉢				沈線文。刺突文。磨消縄文。ミガキ。	ミガキ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の白色粒少量。	
37	包含層	縄文土器	台付皿型土器				沈線文。磨消縄文。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1～2mmの石英粒少量。1～2mmの黒色・白色粒少量。	
38	包含層	土師器	甕	29.3	5.1	30.4	刻目突帯。ナデ。	ナデ。	黄橙	黄橙	1mm程度の黒色粒、1～3mmの茶褐色粒少量。	
39	包含層	土師器	甕				刻目突帯。ナデ。	ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1mm程度の黒色・白色・茶褐色粒少量。	
40	包含層	土師器	甕				刻目突帯。ナデ。	ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1～2mmの黒色・白色・茶褐色粒少量。	
41	包含層	土師器	甕				刻目突帯。ナデ。	ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1～2mmの黒色・白色・茶褐色粒少量。	
42	包含層	土師器	甕	(26.4)			格子目タタキ。ナデ。	ナデ。ケズリ。	浅黄橙	浅黄橙	1～2mmの黒色・白色・茶褐色粒少量。	
43	包含層	土師器	坏	12.2	4.3	5.9	回転ナデ。	回転ナデ。	橙	橙	1mm以下の黒色・茶褐色粒ごく少量。	
44	包含層	土師器	高台付坏	15	7.2	8.3	回転ナデ。	回転ナデ。	橙	橙	1mm程度の黒色・茶褐色粒ごく少量。	
45	包含層	石器	石鏃	2.5	1.4	0.4						1g・無斑晶流紋岩?
46	包含層	石器	打製石斧	11.5	6.7	1.3						101g・砂岩
47	包含層	石器	打製石斧	9.5	5.0	2.0						124g・砂岩
48	包含層	石器	打製石斧	(8.9)	7.4	1.5						127g・砂岩
49	包含層	石器	打製石斧	(6.7)	5.7	1.2						71g・フォルンフェルス
50	包含層	石器	打製石斧	(7.4)	5.1	1.4						63g・フォルンフェルス
51	包含層	石器	打製石斧	(9.9)	6.4	1.9						127g・砂岩
52	包含層	石器	打製石斧	9.7	5.0	1.3						112g・フォルンフェルス
53	包含層	石器	打製石斧	12.2	4.9	3.1						289g・フォルンフェルス
54	包含層	石器	打製石斧	8.2	3.0	1.1						42g・頁岩
55	包含層	石器	磨製石斧	6.6	3.0	1.2						40g・頁岩
56	包含層	石器	磨製石斧	(11.1)	5.5	3.3						282g・頁岩?
57	包含層	石器	凹石	14.7	13.15	7.35						2.1kg・頁岩
58	包含層	石器	打製石斧	16.4	7.5	3.9						640g・フォルンフェルス
59	包含層	石器	打製石斧	12.8	5.75	3.05						400g・フォルンフェルス
60	包含層	石器	打製石斧	9.5	4.8	3.1						189g・砂岩
61	包含層	石器	切目石錘	4.7	2.65	1.55						24.6g・砂岩
62	包含層	石器	切目石錘	(3.5)	5.2	1.3						32g・砂岩
63	包含層	石器	有孔石	4.7	6.9	1.7						82g・砂岩

第22図　B区遺構分布図（1/500）

B区の調査

層序

調査区の標高は150.70m～153.80mで、調査区西側が高く東側に向け傾斜している。層序は1層・表土、2層・高原スコリア、3層・黒色土、4層・黒褐色土1、5層・黒褐色土2、6層・御池軽石層である。調査以前は畑地として利用されていた。

遺構と遺物

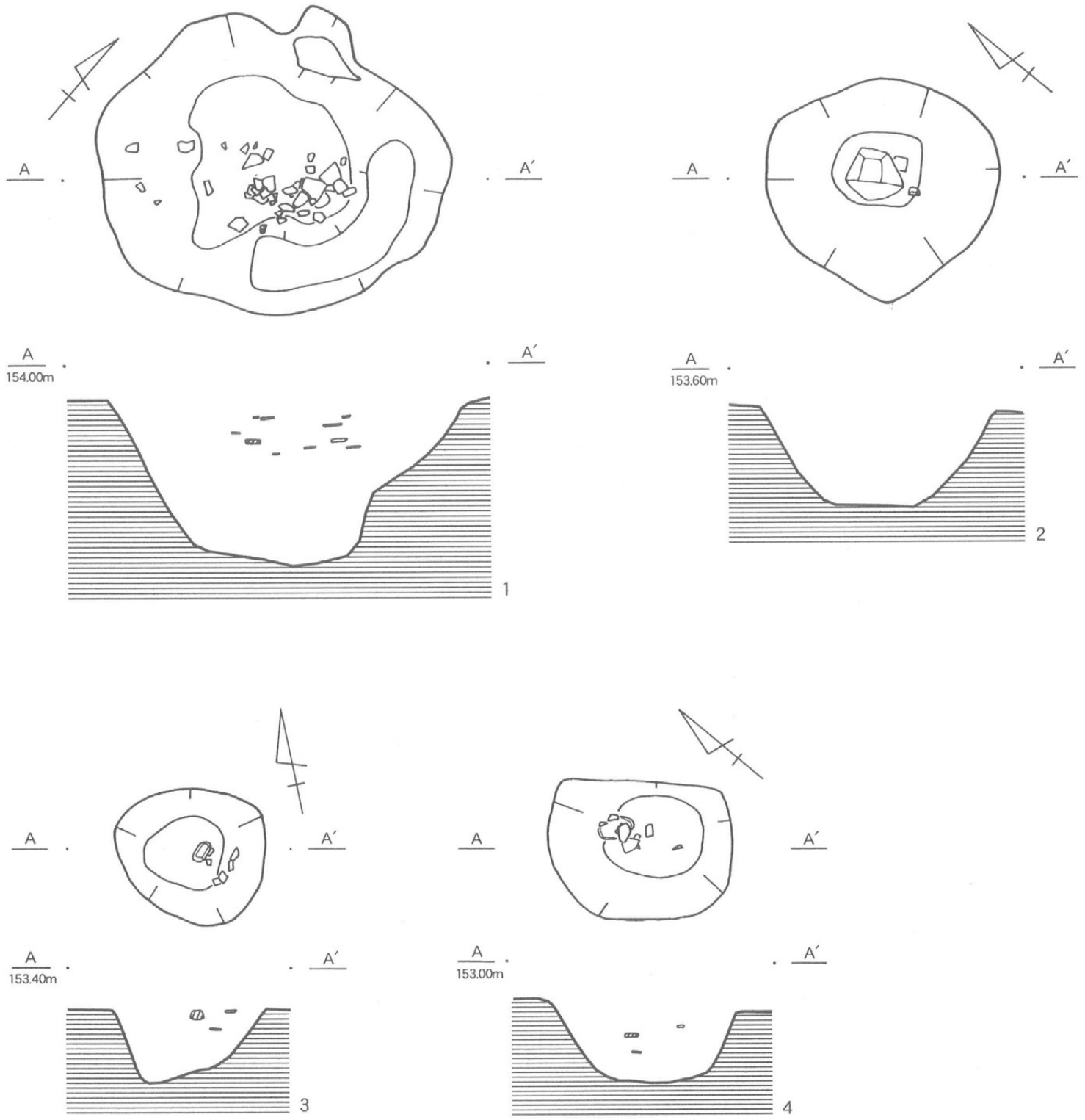
B区においては縄文時代の土坑4基、溝状遺構1基、時期不明の溝状遺構1基、ピット多数が検出された。

縄文時代の遺構

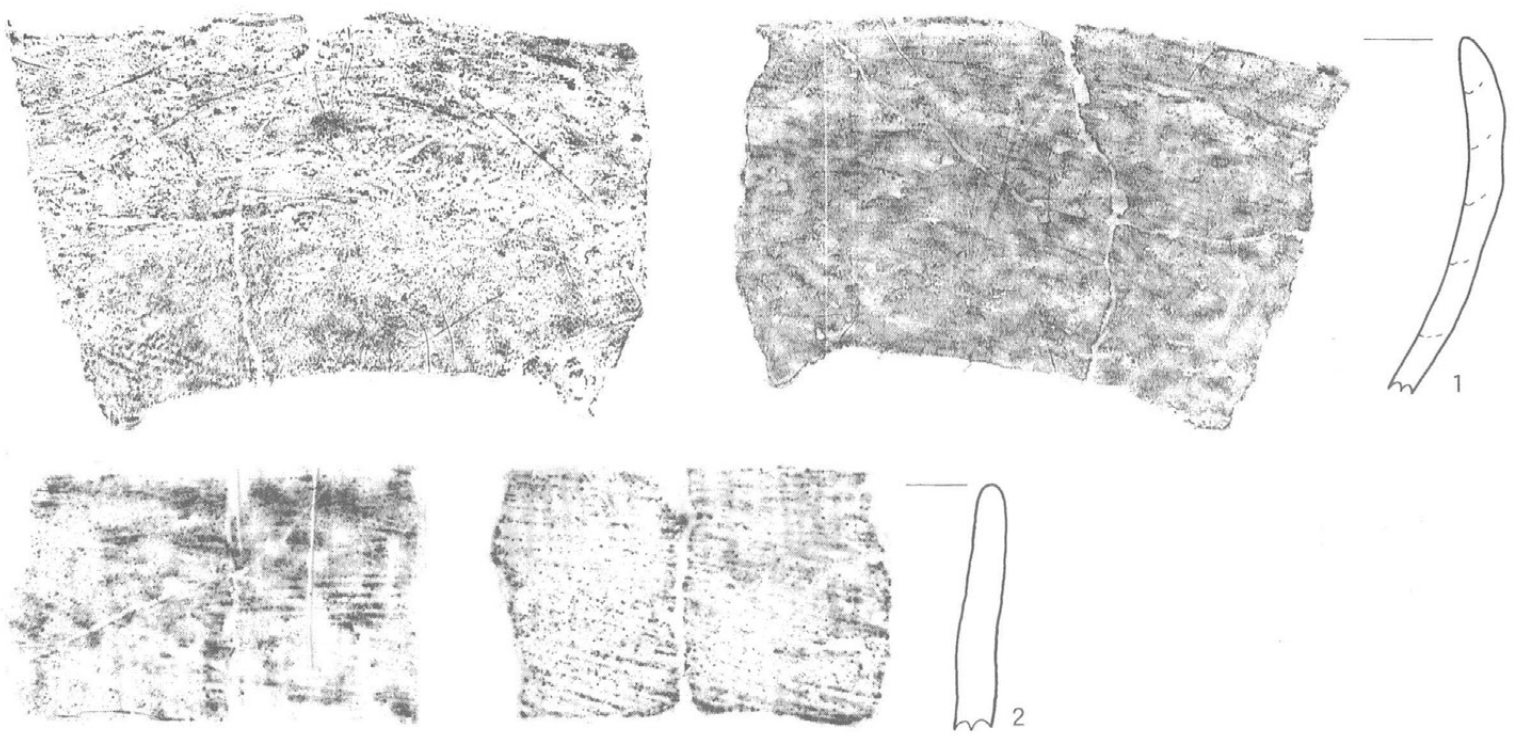
1号土坑

調査区の北西隅において検出された。平面形態は不整円形を呈し、長径約1.9m、短径約1.5m、検出面からの深さ約0.9mを測る。

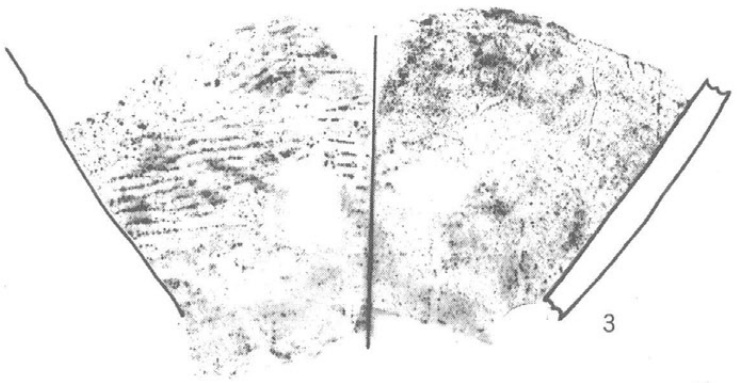
1は浅鉢で内湾する口縁部である。2は深鉢口縁部と考えられる。



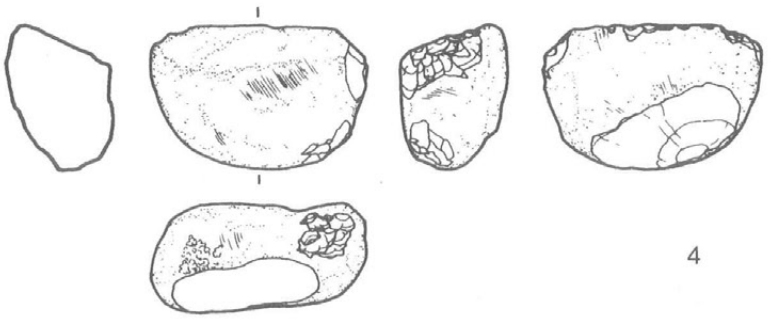
第23図　B区土坑実測図（1/40）



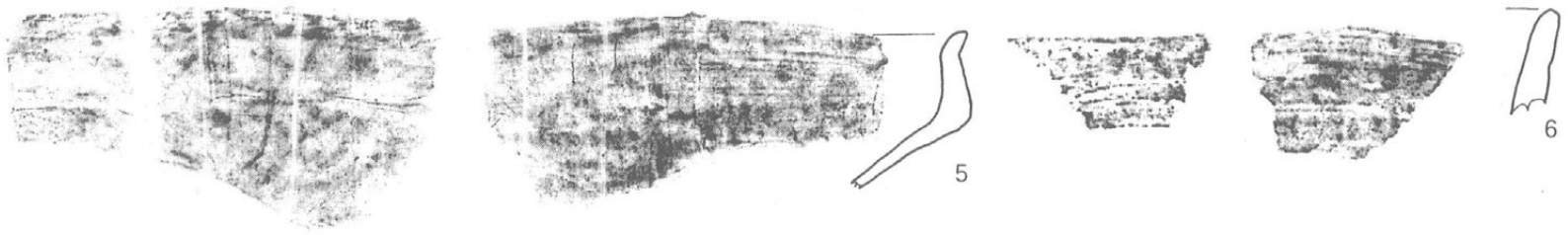
第24図　B区１号土坑出土土器拓影図（1/3）



第25図　B区２号土坑出土土器拓影図（1/3）

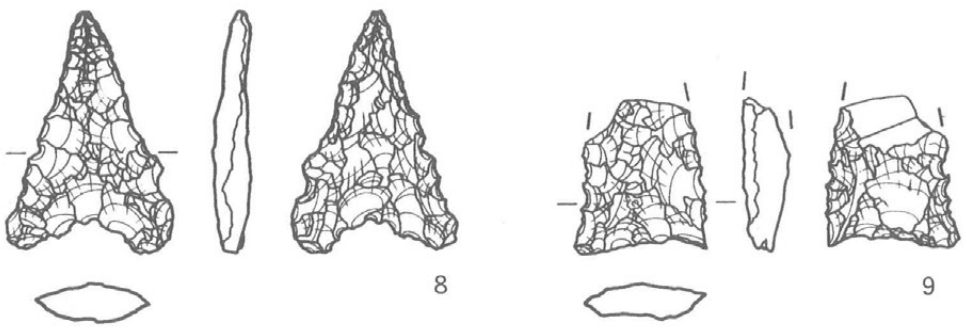


第26図　B区２号土坑出土石器実測図（1/3）



第27図　B区３号土坑出土土器拓影図（1/3）

第28図　B区土器加工円盤拓影図（1/3）



第29図　B区出土石器実測図（1/1）

２号土坑

調査区の北西側において検出された。平面形態は不整円形を呈し、長径約1.3m、短径約1.2m、検出面からの深さ約0.5mを測る。底面にピット1本を持つ。縄文土器、敲石のほか、土坑中央より石が出土している。

3は深鉢胴部で開きながら立ち上がる。貝殻条痕による調整を施す。4は敲石である。石材は砂岩で破熱により全体的に赤化している。

３号土坑

調査区の北西側において検出された。２号土坑の東側に位置する。平面形態は円形を呈し、直径約0.8m、検出面からの深さ約0.4mを測る。埋土中より縄文土器が出土している。

5は精製土器の浅鉢口で、口縁部は短く外反する。6は深鉢口縁部である。

４号土坑

平面形態は楕円形を呈し、長径約1.0m、短径約0.75m、検出面からの深さ約0.4mを測る。縄文土器の小片が出土している。

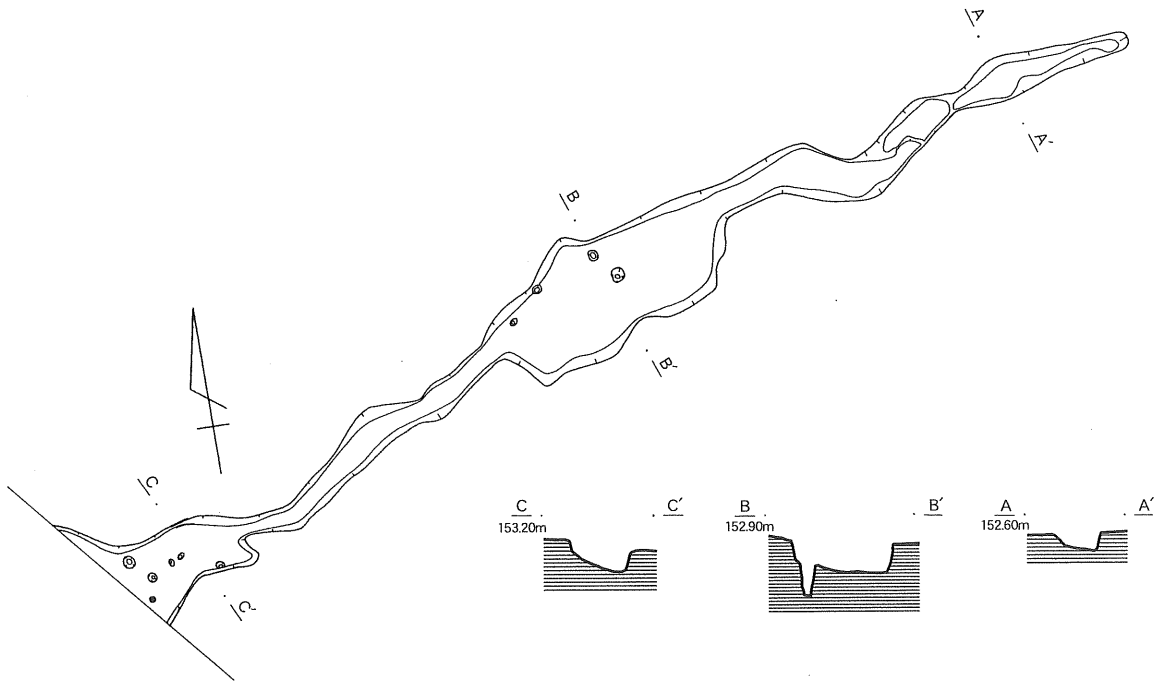
1号溝状遺構

調査区のほぼ中央に位置し、東西方向に長さ約23mにわたって検出された。南側は調査区外である。溝幅は約3.0mから約0.3mを測る。内部にピットを持ち、縄文土器の小片が出土している。

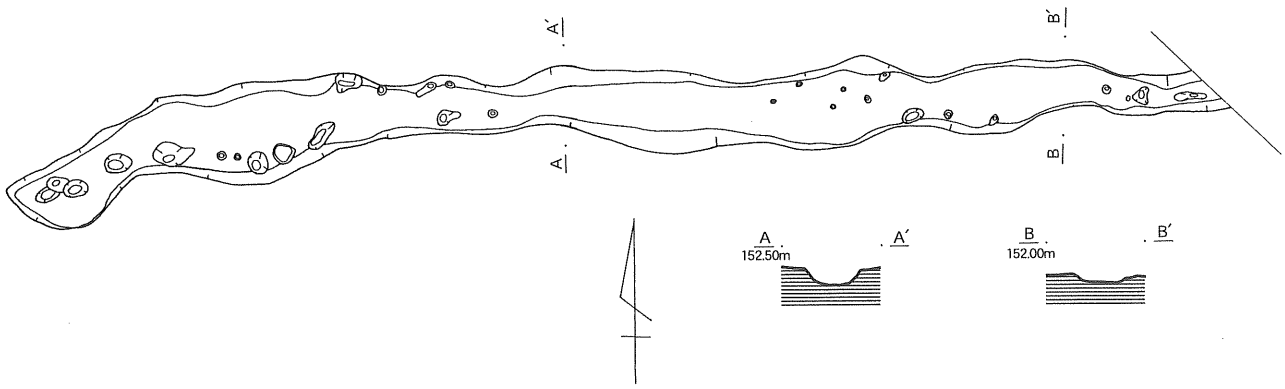
その他の遺構

2号溝状遺構

調査区のほぼ中央に位置し、東西方向に長さ約24mにわたって検出された。東側は調査区外である。溝は幅約2.0mから0.8mを測る。内部にピットを持つ。



第30図　B区１号溝状遺構実測図（1/150）

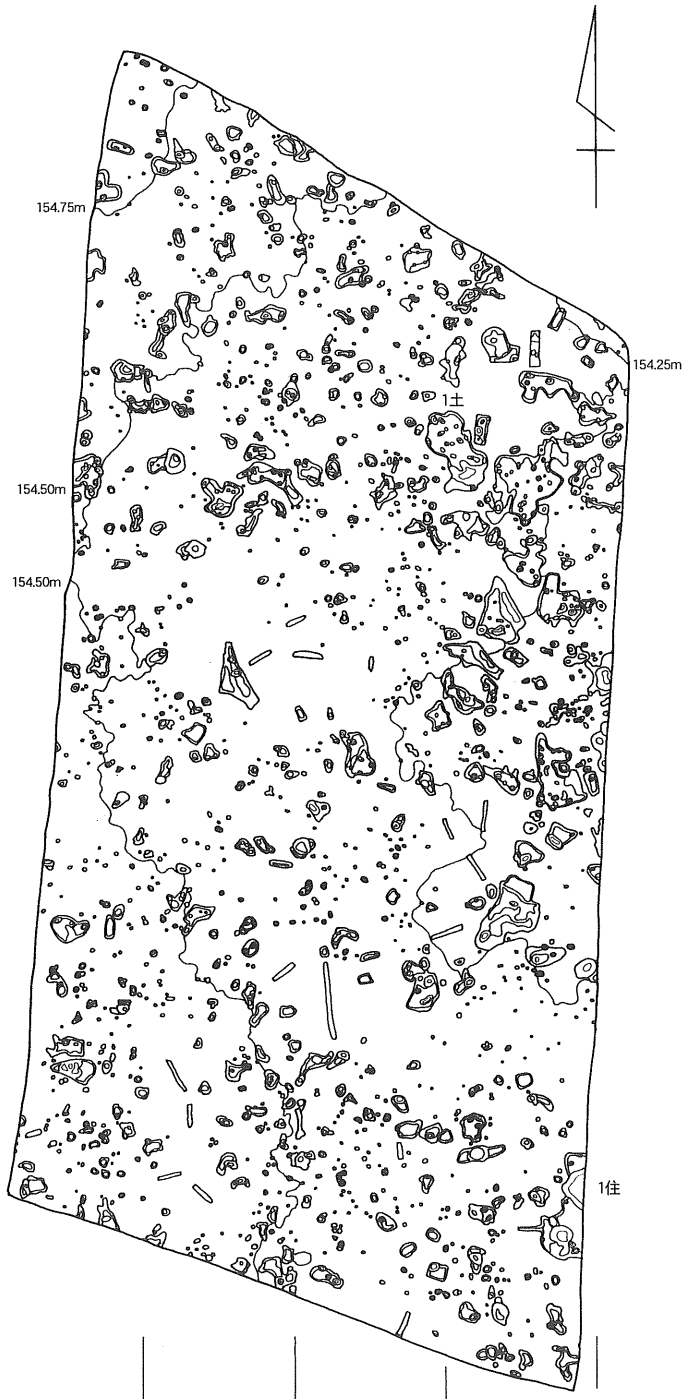


第31図　B区２号溝状遺構実測図（1/150）

表14　上原第3遺跡B区出土遺物観察表

単位：cm

No.	出土位置	種別	器種	法量(上：土器　下：石器)			手法・文様		色調		胎土	備考
				口径	底径	器高						
				最大長	最大幅	最大厚	外器面	内器面	外面	内面		
1	1号土坑	縄文土器	浅鉢				ナデ。スス付着。	ナデ。	浅黄橙	明褐	1mm程度の石英粒少量。1mm程度の黒色・白色・茶褐色粒少量。	
2	1号土坑	縄文土器	深鉢				貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	にぶい橙	にぶい黄橙	1mm程度の石英粒ごく少量。1mm以下の黒色・白色・茶褐色粒ごく少量。	
3	2号土坑	縄文土器	深鉢				貝殻条痕。ナデ。	ナデ。	明褐	褐灰	1mm以下の黒色・白色粒子少量。	
4	2号土坑	石器	敲石	6.45	3.85	3.0						119・砂岩
5	3号土坑	縄文土器	浅鉢				ミガキ。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の白色粒粒子ごく少量。	
6	3号土坑	縄文土器	深鉢				ナデ	ナデ。	褐灰	褐灰	1mm程度の石英粒少量。1mm程度の茶褐色粒ごく少量。	
7	包含層	土器加工円盤		4.7	4.3	1.0	沈線文	ナデ	明褐	にぶい橙	1mm以下の白色・茶褐色粒子ごく少量。雲母微量。	重量28g
8	ピット	石器	石鏃	2.4	1.65	0.4						0.9g・黒曜石
9	包含層	石器	石鏃	(1.55)	1.35	0.45						0.7g・黒曜石

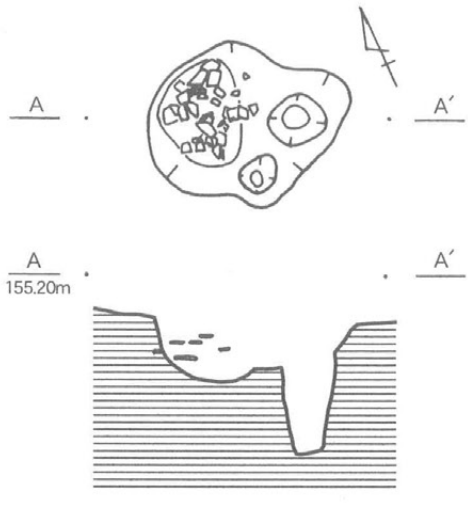


第32図　C区遺構分布図（1/500）

C区の調査

層序

調査区の標高は154.25m～154.75mで、調査区西側が高く東側に向けゆるやかに傾斜している。層序は1層・表土、2層・高原スコリア、3層・黒色土、4層・黒褐色土1、5層・黒褐色土2、6層・御池軽石層である。調査以前は畑地として利用されていた。



第33図　C区１号
土坑実測図（1/40）

遺構と遺物

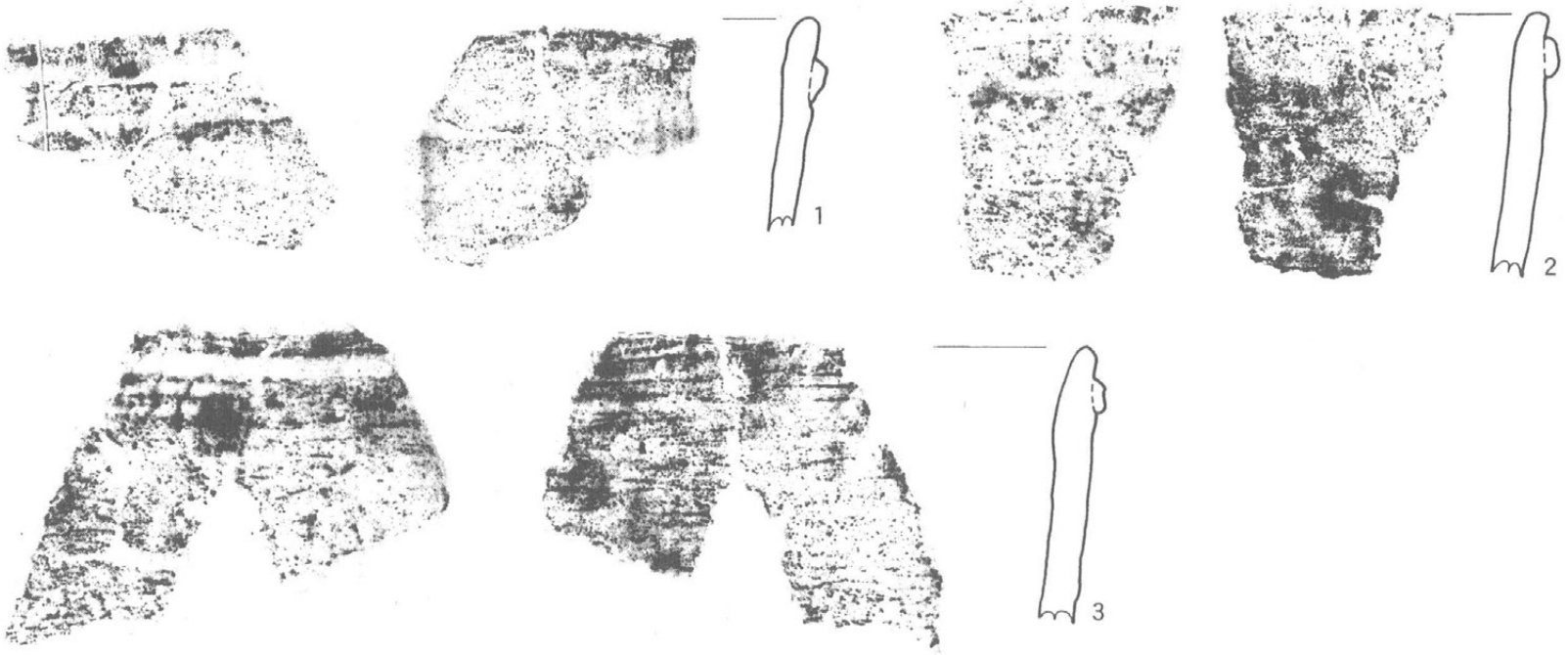
C区においては縄文時代の土坑1基、弥生時代の竪穴住居跡1基、時期不明のピット多数が検出された。

縄文時代の遺構

1号土坑

調査区の北側において検出された。平面形態は不整円形を呈し、長径約0.7m、短径約0.6m、検出面からの深さ約0.25mを測る。ピット2本を持つ。埋土中より縄文土器が出土している。

1から3ともに深鉢で口縁部に一条の突帯を施す。



第34図　C区１号土坑出土土器拓影図（1/3）

表15　上原第３遺跡C区出土遺物観察表

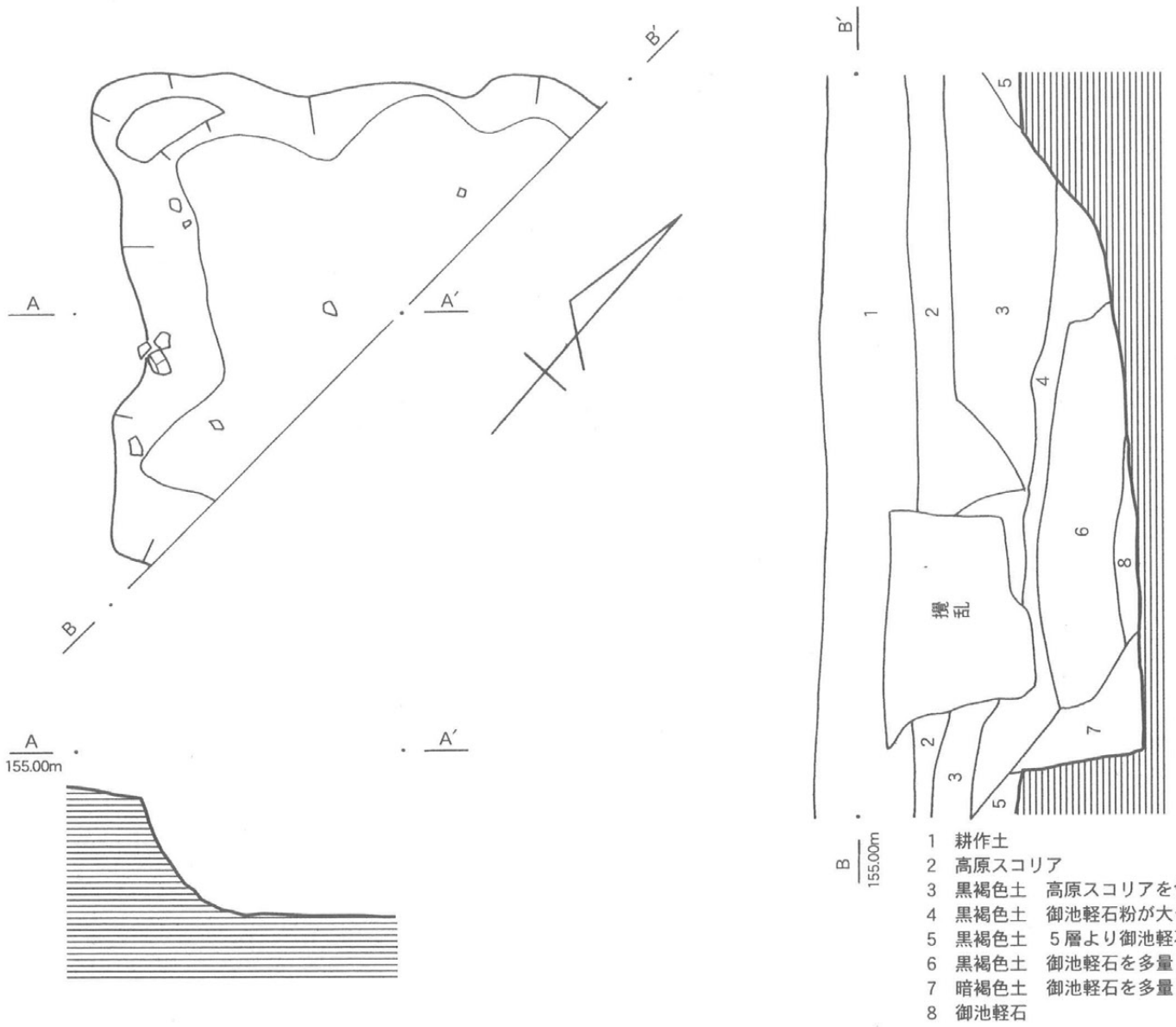
単位：cm

No.	出土位置	種別	器種	法量(上：土器　下：石器)			手法・文様		色調		胎土	備考
				口径	底径	器高						
				最大長	最大幅	最大厚	外器面	内器面	外面	内面		
1	１号土坑	縄文土器	深鉢				突帯。ナデ。	ナデ。	褐灰	褐灰	1mm程度の黒色・茶褐色粒ごく少量。雲母微量。	
2	１号土坑	縄文土器	深鉢				突帯。ナデ。	ナデ。	浅黄橙	灰黄褐	1mm程度の黒色・白色・茶褐色粒少量。	
3	１号土坑	縄文土器	深鉢				突帯。ナデ。	ナデ。	浅黄橙	にぶい黄橙	1～2mmの黒色・茶褐色粒少量。	
4	包含層	縄文土器	深鉢				沈線文。ナデ。	ナデ。	浅黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の黒色・白色粒ごく少量。1～2mmの軽石粒少量。	
5		縄文土器	深鉢				沈線による区画内に貝殻腹縁刺突文。ナデ。	ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1mm程度の黒色・白色粒少量。1mm程度の軽石粒微量。	
6	包含層	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。ナデ。スス付着。	ナデ。	橙	明赤褐	1mm以下の黒色・茶褐色粒ごく少量。	
7	包含層	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。ナデ。	ナデ。	明赤褐	明赤褐	1mm程度の黒色・白色粒少量。	

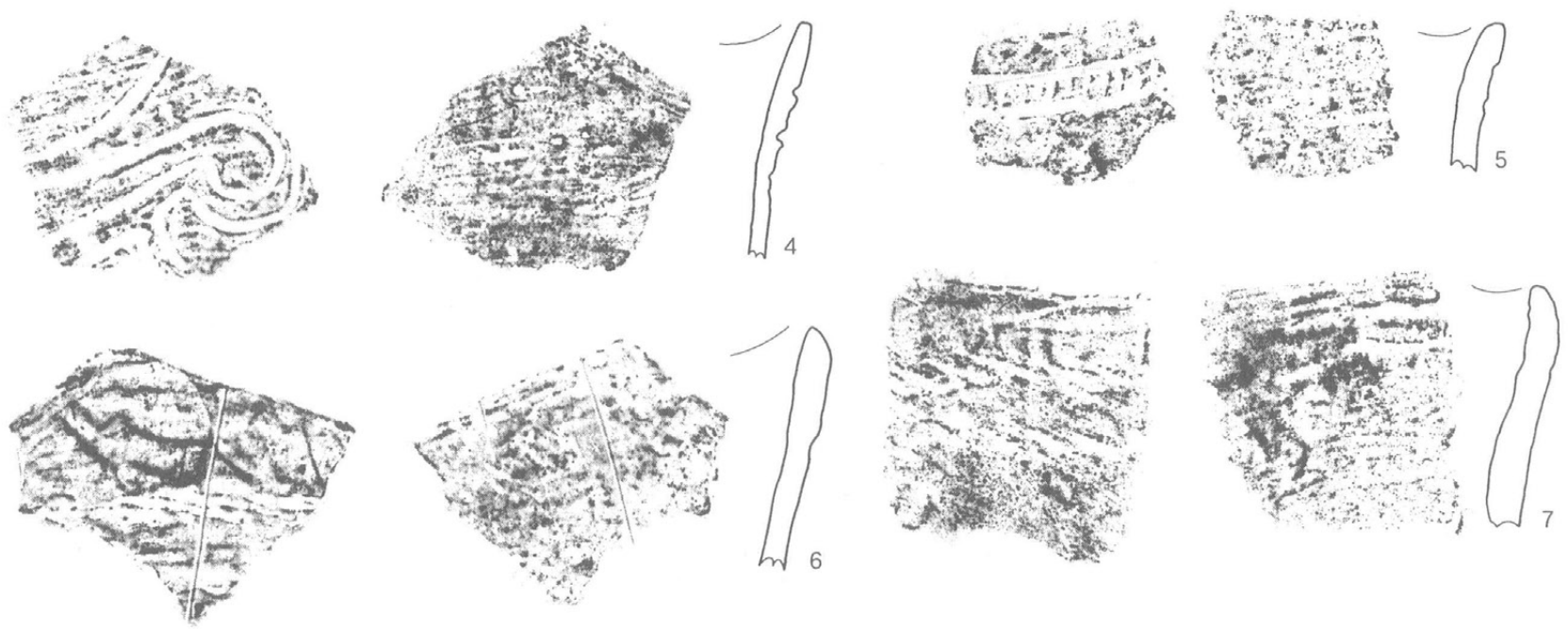
弥生時代の遺構

1号竪穴住居跡

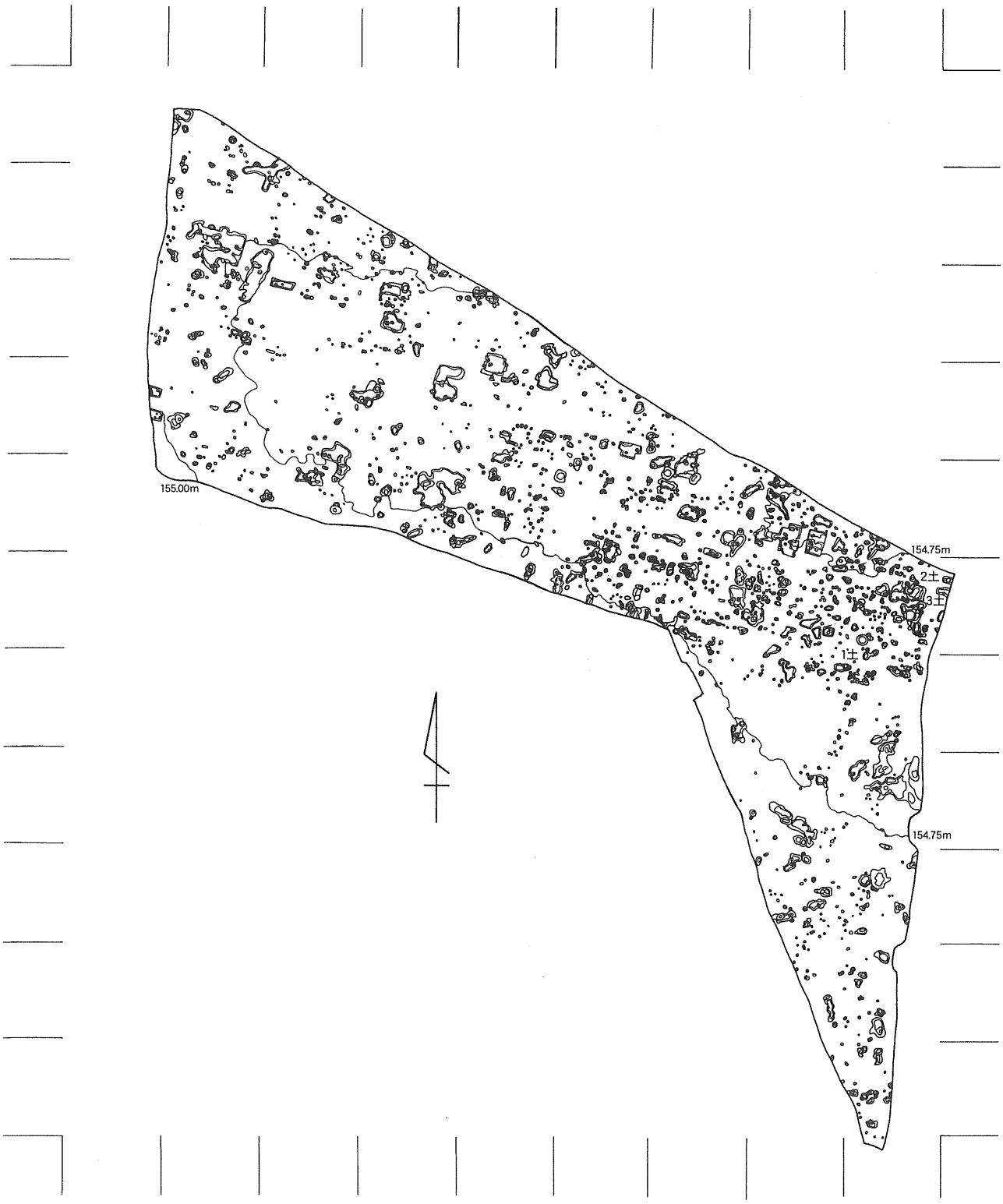
調査区の南東隅において検出された。東側は調査区外である。平面形態は隅丸方形と考えられ、一辺約2.3m、検出面からの深さ約0.5mを測る。床面はほぼ平坦である。



第35図　C区1号竪穴住居跡実測図（1/40）



第36図　C区包含層出土土器拓影図（1/3）



第37図　D区遺構分布図（1/600）

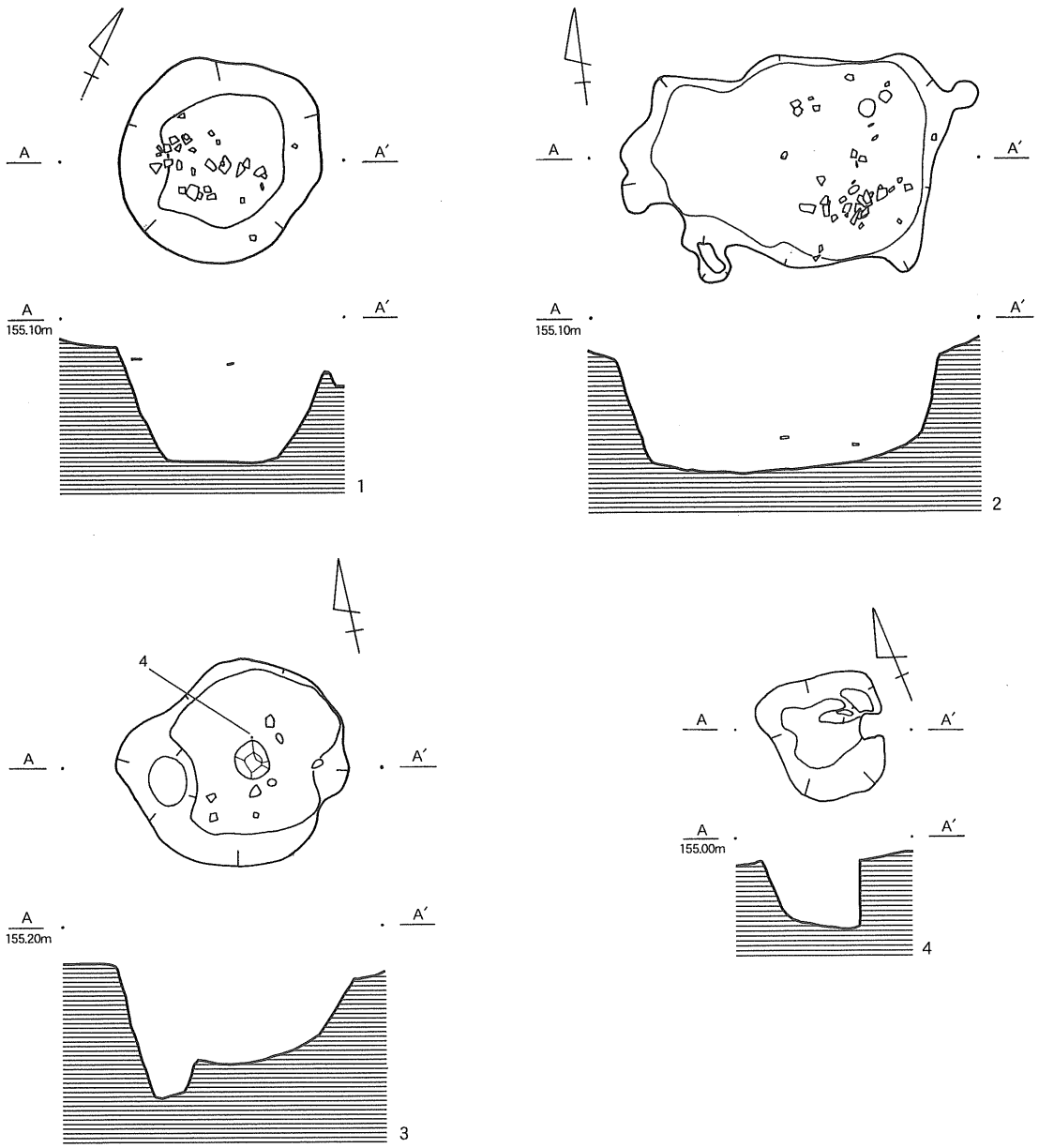
D区の調査

層序

調査区の標高は154.75m～155.00mで、若干北東側に向け傾斜している。層序は1層・表土、2層・高原スコリア、3層・黒色土、4層・黒褐色土1、5層・黒褐色土2、6層・御池軽石層である。調査以前は畑地として利用されていた。

遺構と遺物

縄文時代の土坑3基、時期不明の土坑1基が検出された。



第38図　D区土坑実測図（1/40）

縄文時代の遺構

1号土坑

調査区の東側隅において検出された。平面形態は不整円形を呈し、直径約1.1m、検出面からの深さ約0.6mを測る。埋土中より縄文土器が出土している。

1は深鉢口縁部で一条の突帯を施す。

2号土坑

調査区の東側隅において検出された。平面形態は隅丸長方形を呈し、長軸約1.8m、短軸約1.2m、検出面からの深さ約0.7mを測る。埋土中より縄文土器が出土している。

2は精製土器の浅鉢である。平底の底部より大きく開きながら立ち上がる。口縁部内面を肥厚させ玉縁状となし、一条の沈線を施す。口唇部は平坦に仕上げる。焼成後の穿孔を有する。

3号土坑

調査区の東側隅において検出された。平面形態は不整円形を呈し、直径約1.3m、検出面からの深さ約0.6mを測る。西側にピット１本を持つ。縄文土器、管玉のほか、土坑上部中央より直径約20cmの石が出土している。

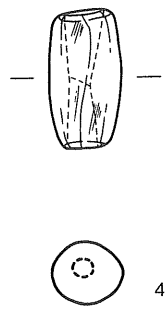
3は深鉢口縁部で、一条の突帯をめぐらせ、口唇部にリボン状突起をもつ。4は管玉で石材はヒスイである。

その他の遺構

4号土坑

平面形態は隅丸方形を呈し、長軸約0.7m、短軸約0.6m、検出面からの深さ約0.6mを測る。焼けた状態の粘土が底面より出土している。土師器の小片が出土している。

第39図　D区１～３号土坑出土土器拓影図（1/3）



第40図　D区３号土坑出土管玉実測図（1/2）

表16　上原第3遺跡D区出土遺物観察表

単位：cm

No.	出土位置	種別	器種	法量(上：土器　下：石器)			手法・文様		色調		胎土	備考
				口径	底径	器高						
				最大長	最大幅	最大厚	外器面	内器面	外面	内面		
1	1号土坑	縄文土器	深鉢	(32)			突帯。ナデ。スス付着。	ナデ。	褐灰	褐灰	1mm程度の黒色・白色・茶褐色粒少量。	
2	2号土坑	縄文土器	浅鉢	22.8	8.2	11.5	ミガキ。	ミガキ。	灰白	灰白	1mm以下の白色粒子少量。	
3	3号土坑	縄文土器	深鉢				突帯。リボン状突起。ナデ。スス付着。	ナデ。	灰黄褐	明黄褐	1mm以下の黒色・白色・茶褐色粒少量。	
4	3号土坑	管玉		1.8	0.9							2g・ヒスイ

まとめ

上原第3遺跡においては縄文時代の竪穴住居跡4軒、土坑9基、溝状遺構1本、弥生時代の竪穴住居跡1軒、古代の掘立柱建物跡１軒、時期の特定ができなかった遺構としては土坑2基、溝状遺構1本のほか多数ピットが検出された。遺物は縄文時代後期、晩期、古墳時代、古代の遺物が出土している。

縄文時代の竪穴住居跡は計4軒の出土を見た。Ａ区2号竪穴住居跡は平面形態が方形を呈し、住居に伴う遺物としては垂飾1点のほか、平行沈線文を基調とし、二本の沈線文間に貝殻腹縁による連続刺突文を施す後期前葉に位置する指宿式系と考えられる土器が出土している。同時期の遺物を伴う住居は山城第1遺跡第3次調査E区において集中的に出土している。A区3号竪穴住居は平面形態が円形を呈し、3号竪穴住居跡においては口縁部をノミ刃状にやや肥厚させる後期中葉に位置付けられる納曽式土器に相当する土器に加え、23,24のような磨消縄文土器が伴う。Ａ区1号竪穴住居は平面形態が方形を呈し、精製・粗製土器の浅鉢、孔列文土器など晩期に位置付けられる土器群を伴う。土坑については計9基の出土を見たがいずれも用途等は不明である。Ｂ区1、2、Ｄ区2号土坑については精製、粗製浅鉢、Ｃ区1号土坑では口縁部よりやや下方に、Ｄ区1、3号土坑では口縁部に突帯が巡る突帯文土器が出土し、いずれも晩期に位置付けられる。またD区3号土坑では土坑上部に配された人頭大の石の下から管玉1点が出土しており概報において土坑墓の可能性が指摘されている。

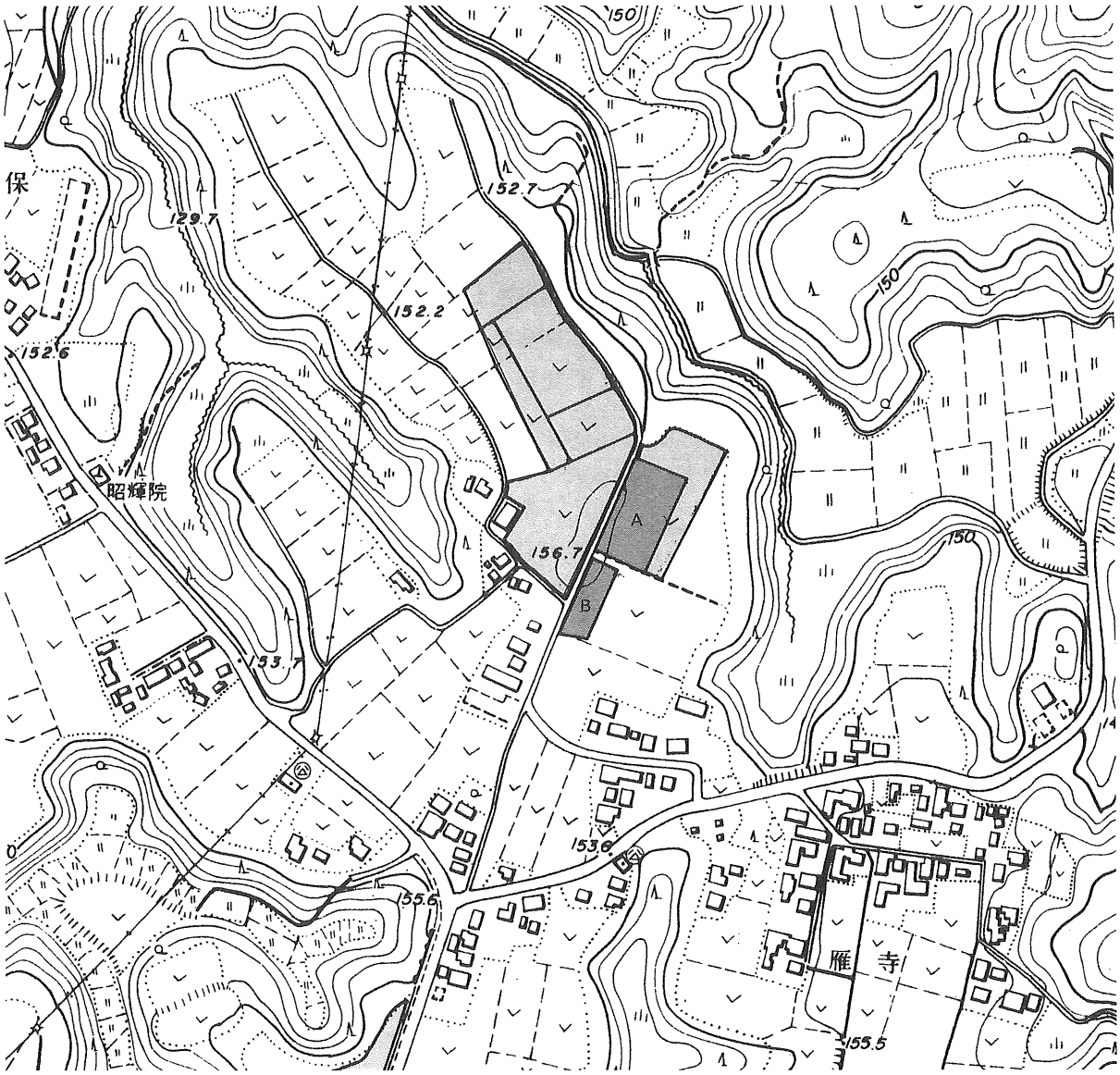
弥生時代の遺構としてはC区において竪穴住居跡1軒が検出された。平面形態は方形を呈すると考えられる。

古代の遺構としてはＡ区において掘立柱建物跡１軒が検出された。

時期の特定のできなかった遺構として土坑2基があるが用途等は不明である。また全ての調査区において多数のピットが検出されているが建物等の構成はならなかった。

包含層出土の縄文土器はいずれの調査区からも指宿式、市来式、丸尾式、納曽式土器などの後期土器を中心に精製・粗製土器の浅鉢などの晩期土器も出土している。またB区より土器片加工円盤1点が出土している。石器についてはＡ区において多数の石鏃、石斧を出土したほか、石錘、孔をもつ自然石である有孔石も出土している。Ａ区においては古墳時代、古代の土器も少量ながら出土している。

山城第1遺跡
（第1次調査）



第１図　山城第１遺跡第１次調査調査区位置図（1/5,000）

発掘調査に至る経緯

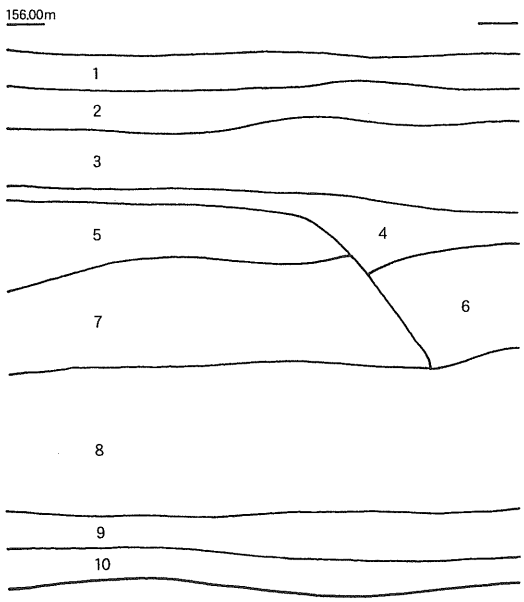
本調査は平成4年度より平成15年度にかけて高城町大字有水において実施された、宮崎県北諸県農林振興局による細井地区県営農業基盤整備事業・平成8年度事業実施予定地における埋蔵文化財発掘調査である。細井地区土地改良区、宮崎県北諸県農林振興局、高城町耕地課(現農村整備課)、宮崎県教育庁文化課、高城町教育委員会社会教育課による協議の結果、平成7年9月18日より平成8年2月10日にかけて雁寺第2遺跡とあわせて発掘調査が実施された。調査対象面積は総計約5,568㎡である。平成7年度調査におけるA、B区に該当する。

立地と環境

本調査区は上原遺跡群の所在する台地と谷を挟み北側、山城第1遺跡の所在する台地の南側に位置し、北からA区、B区に設定されている。

層序

本遺跡の基本土層は、B区トレンチにて確認した土層堆積において代表させる。層序は下記のとおりである。



第２図　B区土層図（1/40）

1	耕作土	
2	黒褐色土	御池軽石を少量含む。Hue7.5YR3/2
3	暗褐色土	御池軽石を多く含む。Hue10YR3/3
4	黒褐色土	御池軽石を多く含む。Hue10YR3/2
5	御池軽石	
6	黒色土	御池軽石を含む。御池軽石含有量は上層に向かい増加する。Hue7.5YR2/1
7	アカホヤ火山灰	
8	カシワバン	
9	黒褐色土	軽石を含む。軽石含有量は下層に向かい増加する。Hue5YR2/1
10	暗赤褐色土	軽石を含む。軽石含有量は上層に向かい増加する。Hue5YR3/2
11	黒褐色土	軽石を多く含む。Hue10YR2/2

A区の調査

層序

調査区の標高は155.00m～157.00mで、北西側が高く南東側に向け傾斜している。層序は1層・耕作度、2層・黒褐色土、3層・暗褐色土、4層・黒褐色土、5層・御池軽石である。調査以前は畑地として利用されていた。

遺構と遺物

A区においては縄文時代の竪穴住居跡３軒、土坑20基、時期不明の土坑３基、ピット多数が検出された。

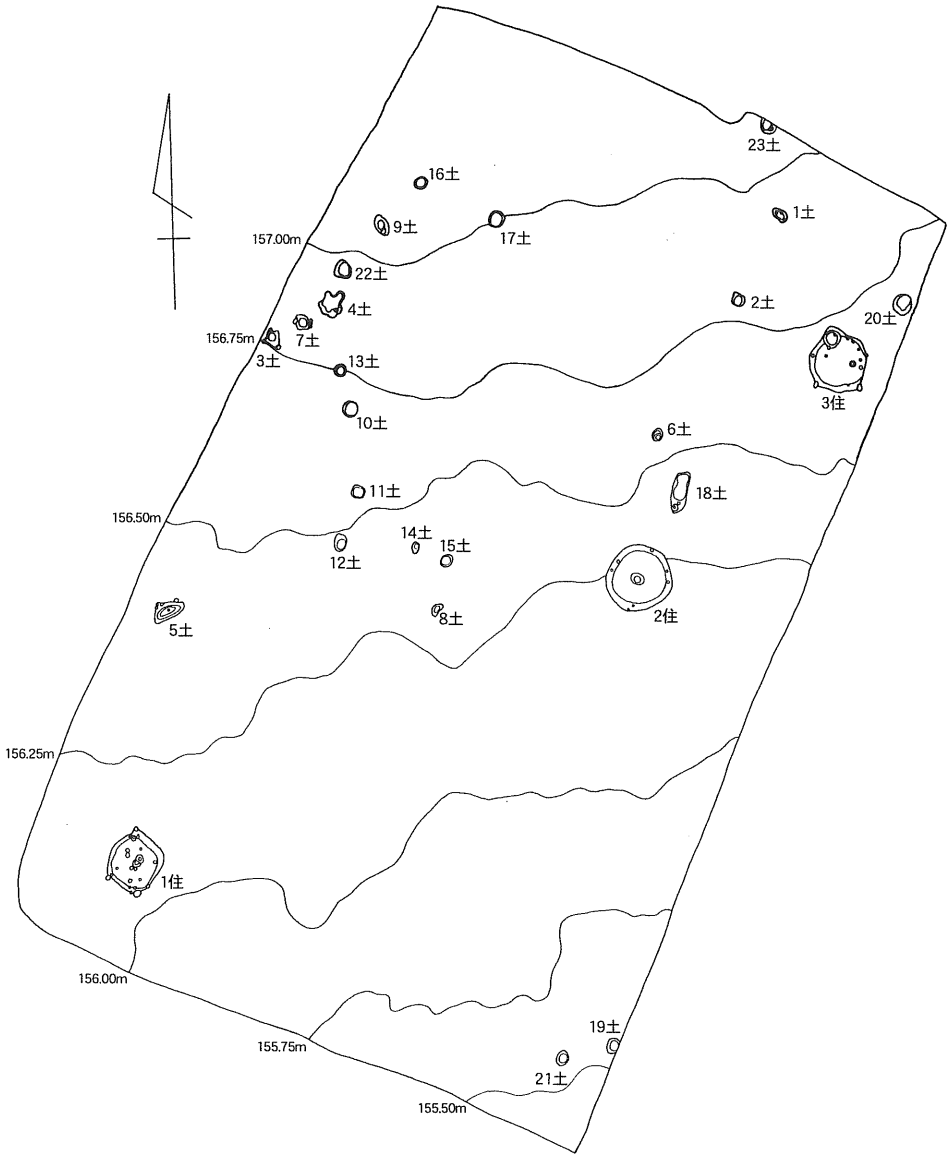
縄文時代の遺構と遺物

1号竪穴住居跡

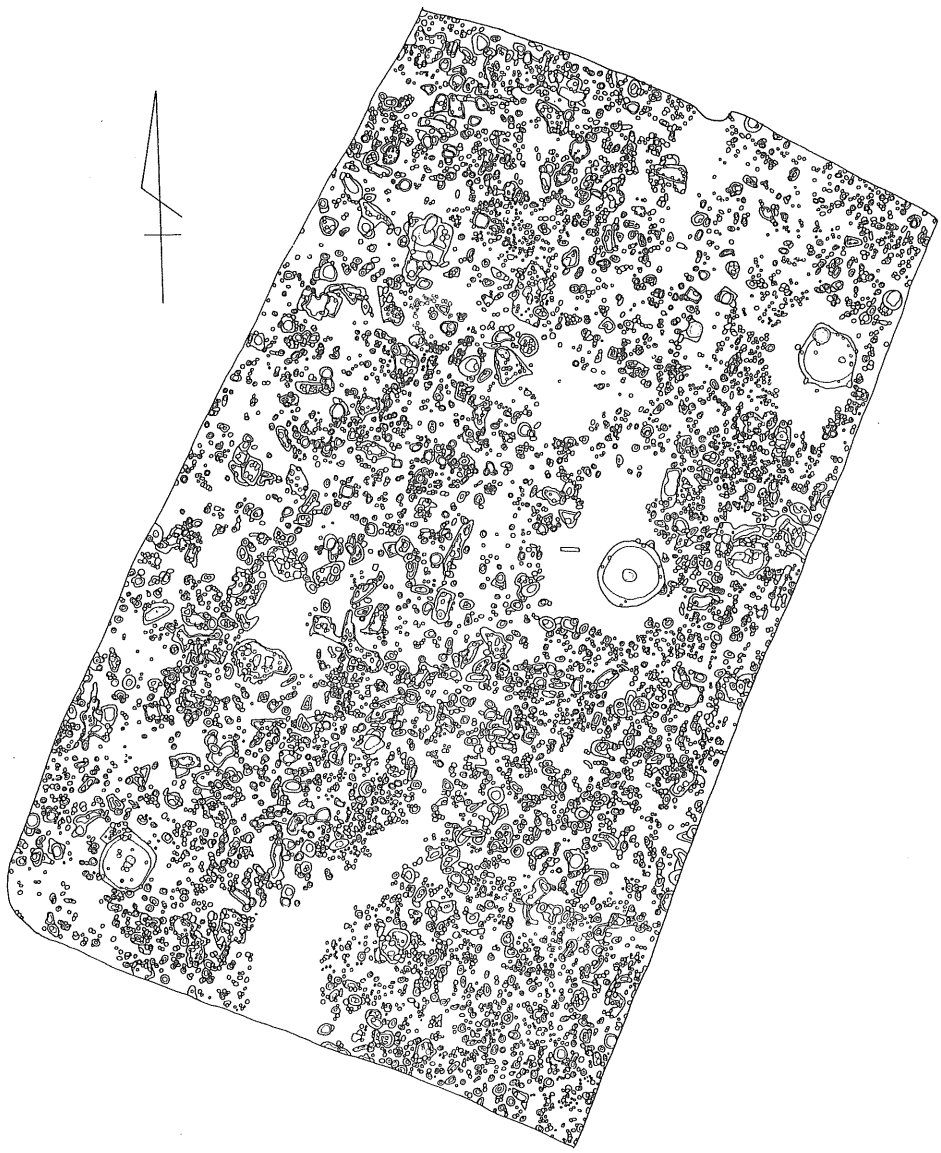
調査区の南西隅において検出された。平面形態は楕円形を呈し、長軸約4m、短軸約3.4m、検出面からの深さ約0.3mを測る。床面はほぼ平坦で、中央に楕円形を呈し、長径約100cm、短径約65cm、床面からの深さ約10cmを測る土坑を持つ。土坑には深さ約80cmを測るピットが伴う。ピットは計8本が確認されている。縄文土器の小片が出土している。

2号竪穴住居跡

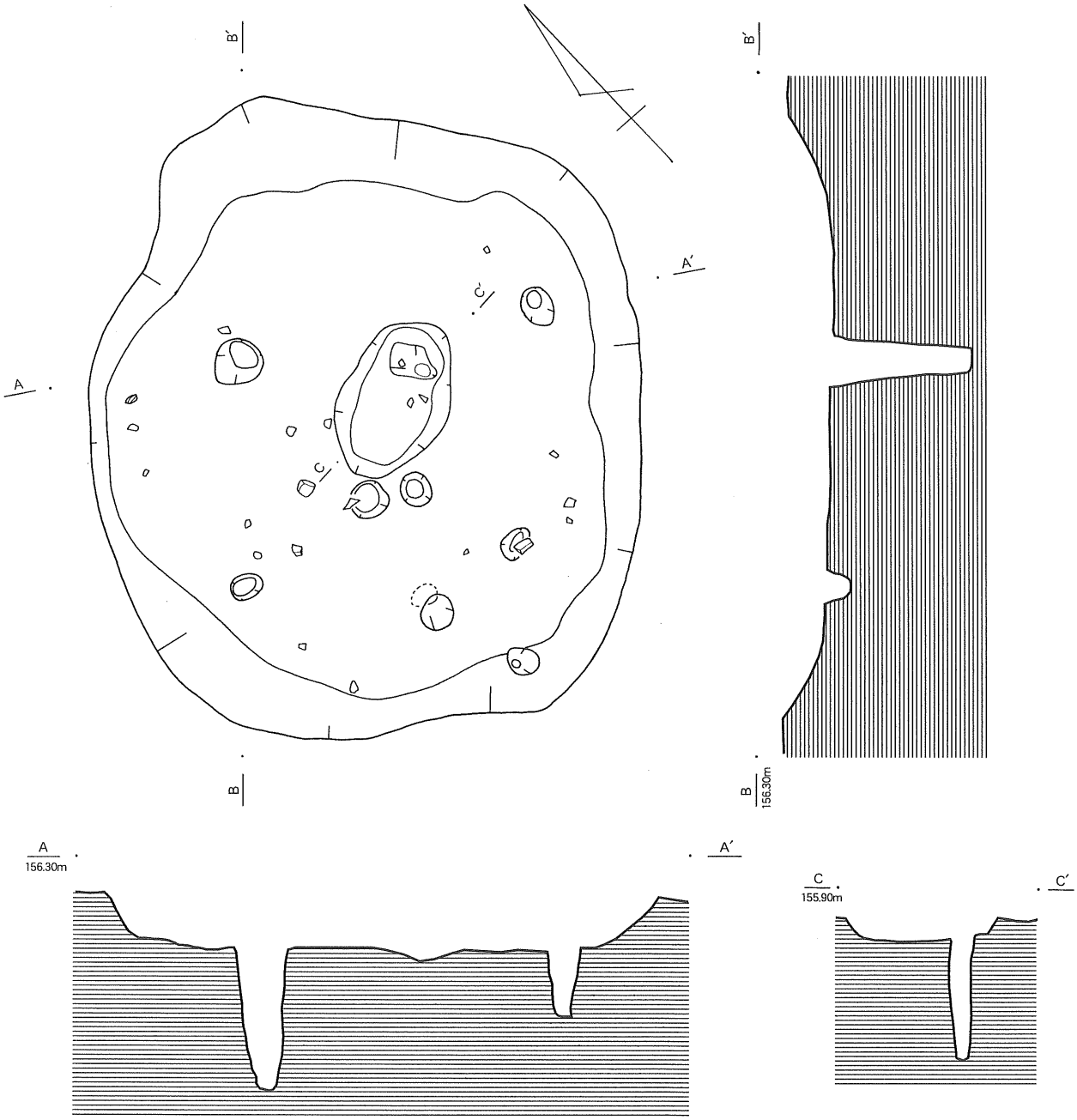
調査区のほぼ中央東側において検出された。平面形態は円形を呈し、直径約4.2m、検出面からの深



第３図　A区地形図（1/500）



第４図　A区遺構分布図（1/500）



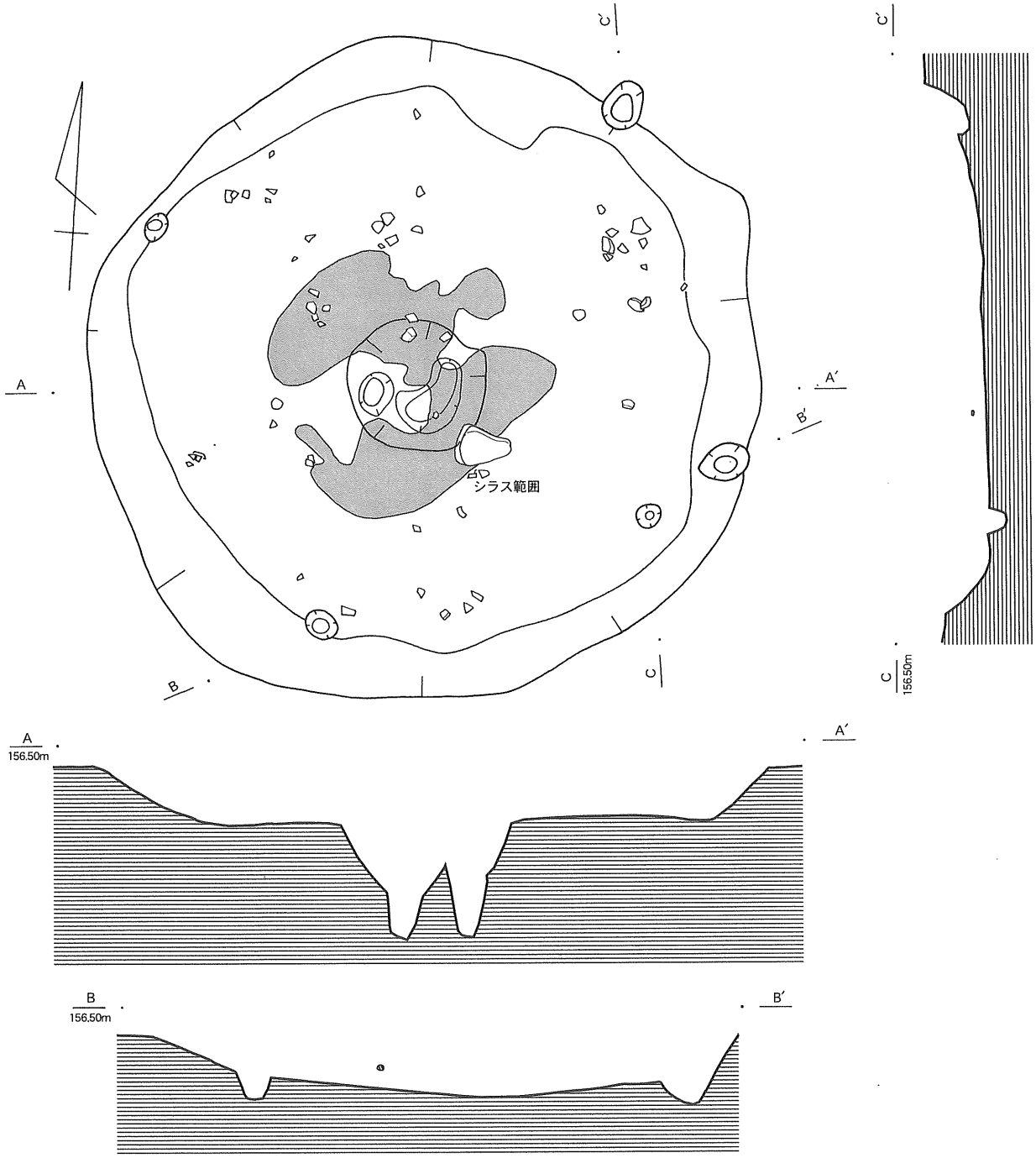
第５図　A区１号竪穴住居跡実測図（1/40）

さ約0.3mを測る。中央に２本のピットを伴い、平面形態は円形を呈し、長径約100cm、短径約65cm、床面からの深さ約10cmを測る土坑を持つ。土坑の周囲にはシラスの堆積が検出された。ピットは計５本が確認されている。縄文土器の小片と石鏃1点が出土している。

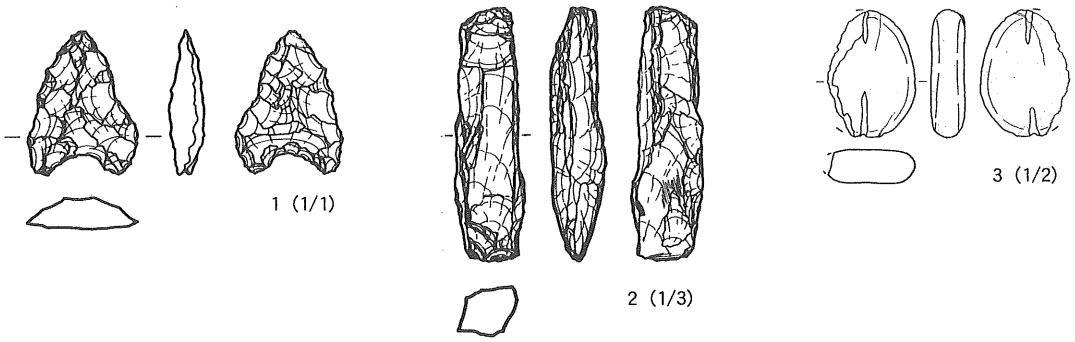
1は二等辺三角形を呈し抉りの浅い石鏃で、石材はチャートである。

3号竪穴住居跡

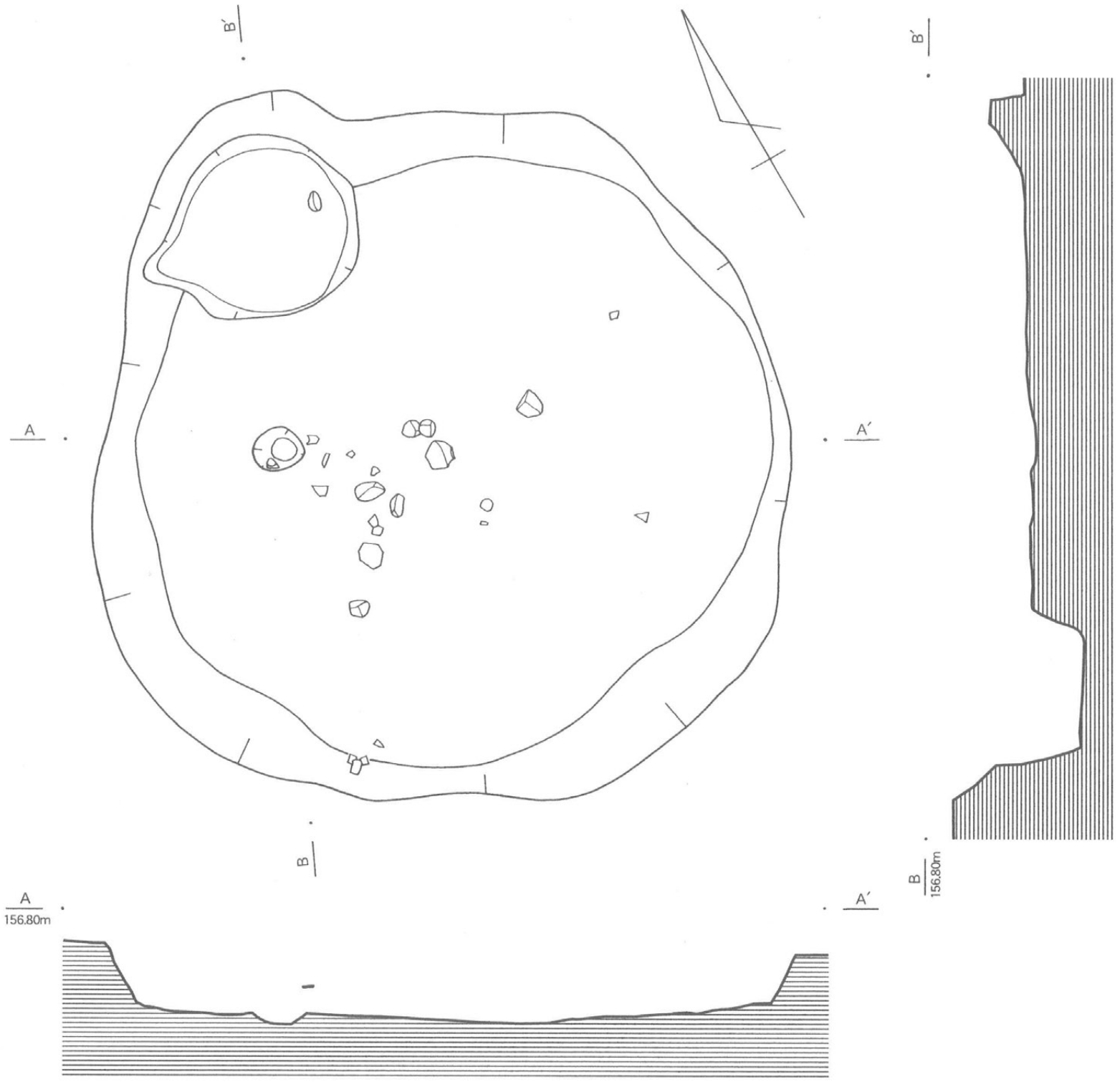
調査区の北東隅において検出された。平面形態は円形を呈し、直径約3.8m、検出面からの深さ約0.3mを測る。北側に円形を呈し、直径約1m、床面からの深さ約0.25mを測る土坑を持つ。縄文土器のほか、打製石斧、石錘が各１点づつ出土している。いずれも埋土からの出土である。



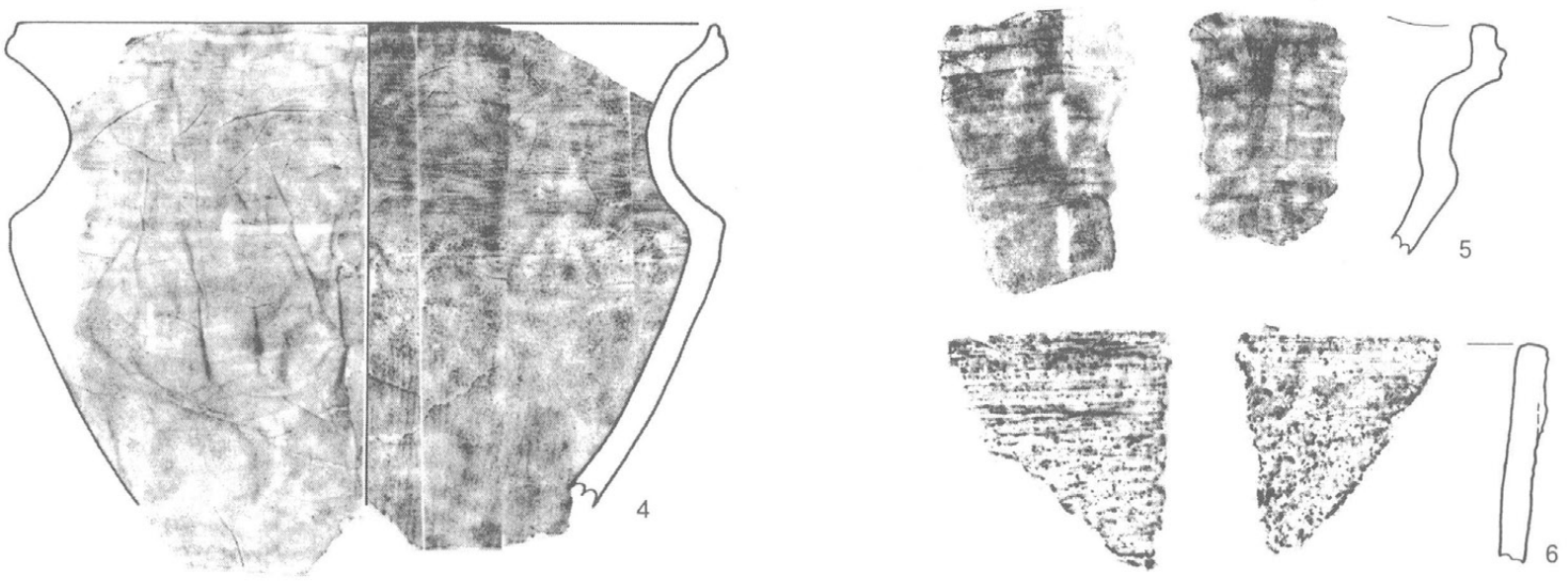
第６図　A区２号竪穴住居跡実測図（1/40）



第７図　A区２・３号竪穴住居跡出土石器実測図



第８図　A区３号竪穴住居跡実測図（1/40）



第９図　A区３号竪穴住居跡出土土器拓影図（1/3）

4、5は黒色磨研土器の深鉢で胴部と頸部の境に明確な段を持ち、口縁部は外反する。口縁部に二条の沈線を施す。6は深鉢で口縁部に一条の突帯をめぐらせる。2は小型で棒状を呈する打製石斧で、石材は頁岩である。3は楕円形を呈し長軸両端に切目を施す切目石錘である。石材は砂岩である。

1号土坑

調査区の北東隅において検出された。平面形態は楕円形を呈し、長径約1.1m、短径約0.6m、検出面からの深さ約0.3mを測る。ピット4本をもつ。縄文土器の小片が出土している。

2号土坑

調査区の北東側において検出された。平面形態は不整円形を呈し、長径約1.3m、短径約1.1m、検出面からの深さ約0.6mを測る。埋土中より縄文土器が出土している。

7は浅鉢口縁部である。多量のススが付着する。

3号土坑

調査区の西隅において検出された。平面形態は不整円形を呈し、直径約1.3m、短径約0.6m、検出面からの深さ約0.9mを測る。縄文土器の小片が出土している。

4号土坑

調査区の西隅において検出された。平面形態は不正形を呈し、長軸約2.0m、短軸約1.2m、検出面からの深さ約0.5mを測る。縄文土器の小片が出土している。

5号土坑

調査区の西隅において検出された。平面形態は長楕円形を呈し、長径約2.2m、短径約1.0m、検出面からの深さ約0.5mを測る。縄文土器の小片が出土している。

6号土坑

調査区のほぼ中央において検出された。平面形態は円形を呈し北側に一段高い張り出しをもつ。長径約0.7m、短径約0.4m、検出面からの深さ約0.4mを測る。南側より縄文土器が出土した。埋甕と考えられる。

10は黒色磨研土器の深鉢で完形である。頸部から胴部にかけての屈曲は弱く、口縁部はやや外反し、口唇部を平坦に仕上げる。

7号土坑

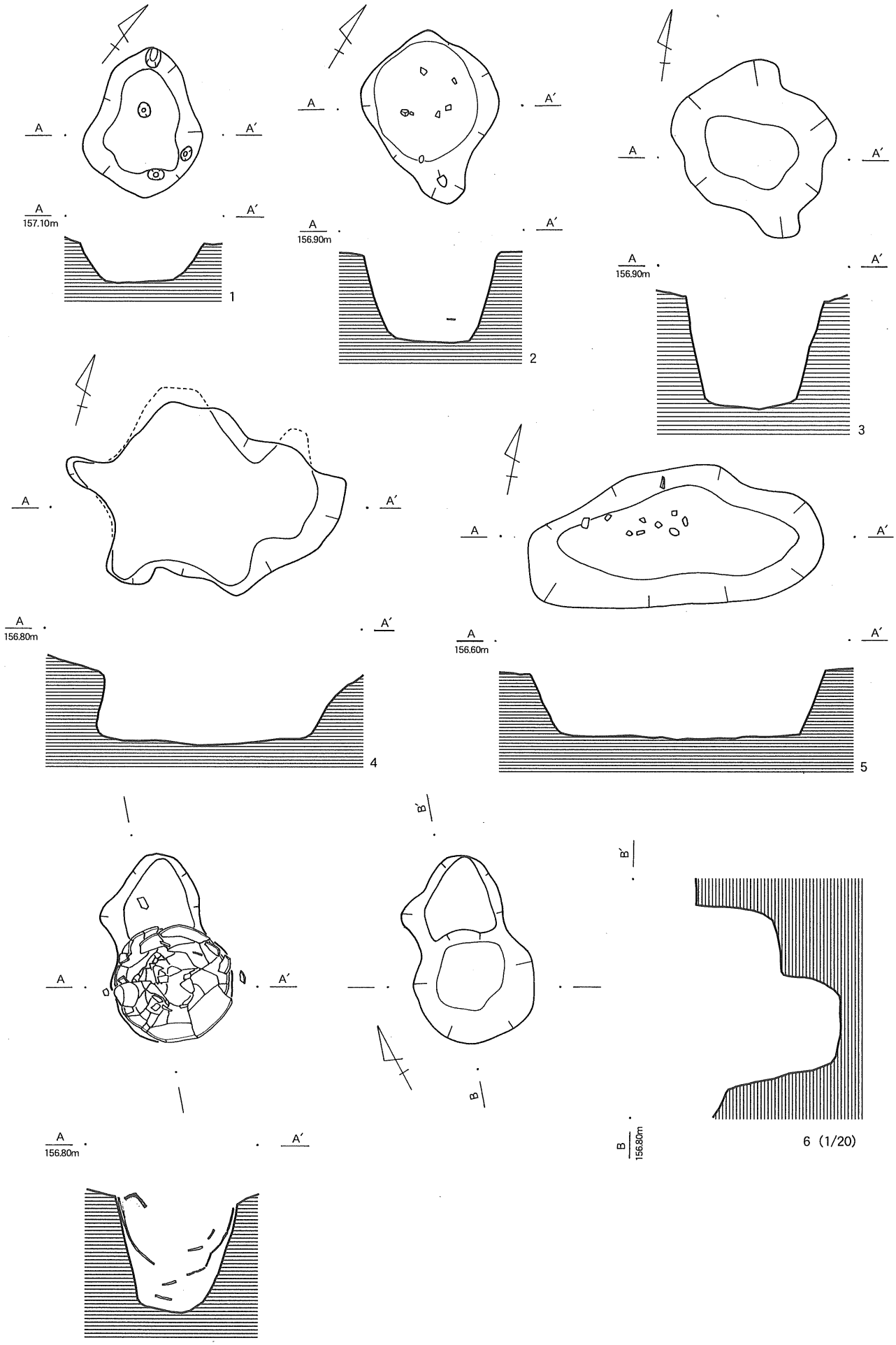
調査区の西隅において検出された。平面形態は不整楕円形を呈し、長径約1.3m、短径約1.0m、検出面からの深さ約0.5mを測る。東西壁にピット2本をもつ。縄文土器の小片が出土している。

8号土坑

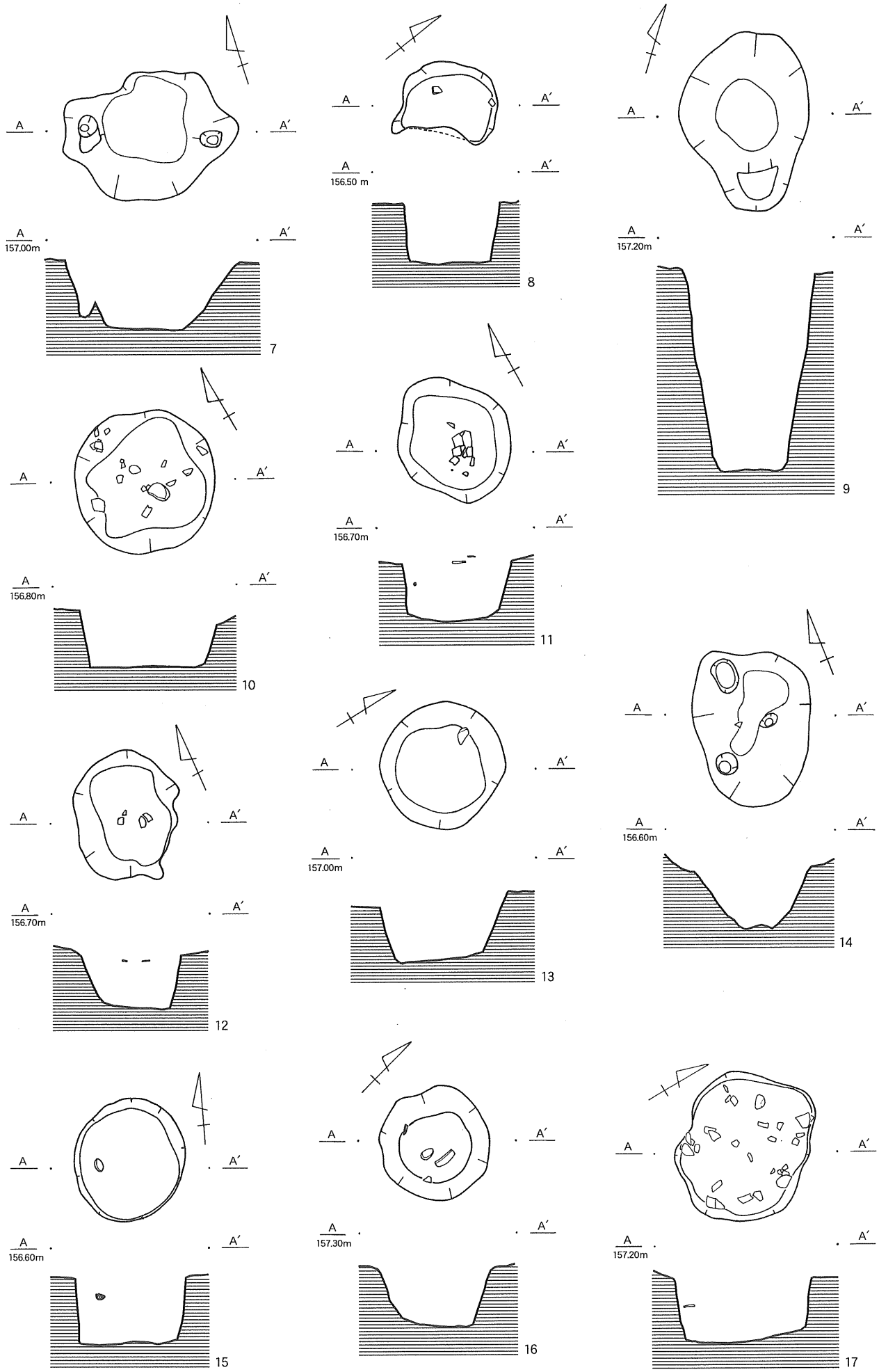
調査区のほぼ中央において検出された。平面形態は楕円形を呈し、長径約0.7m、短径約0.5m、検出面からの深さ約0.5mを測る。縄文土器の小片が出土している。

9号土坑

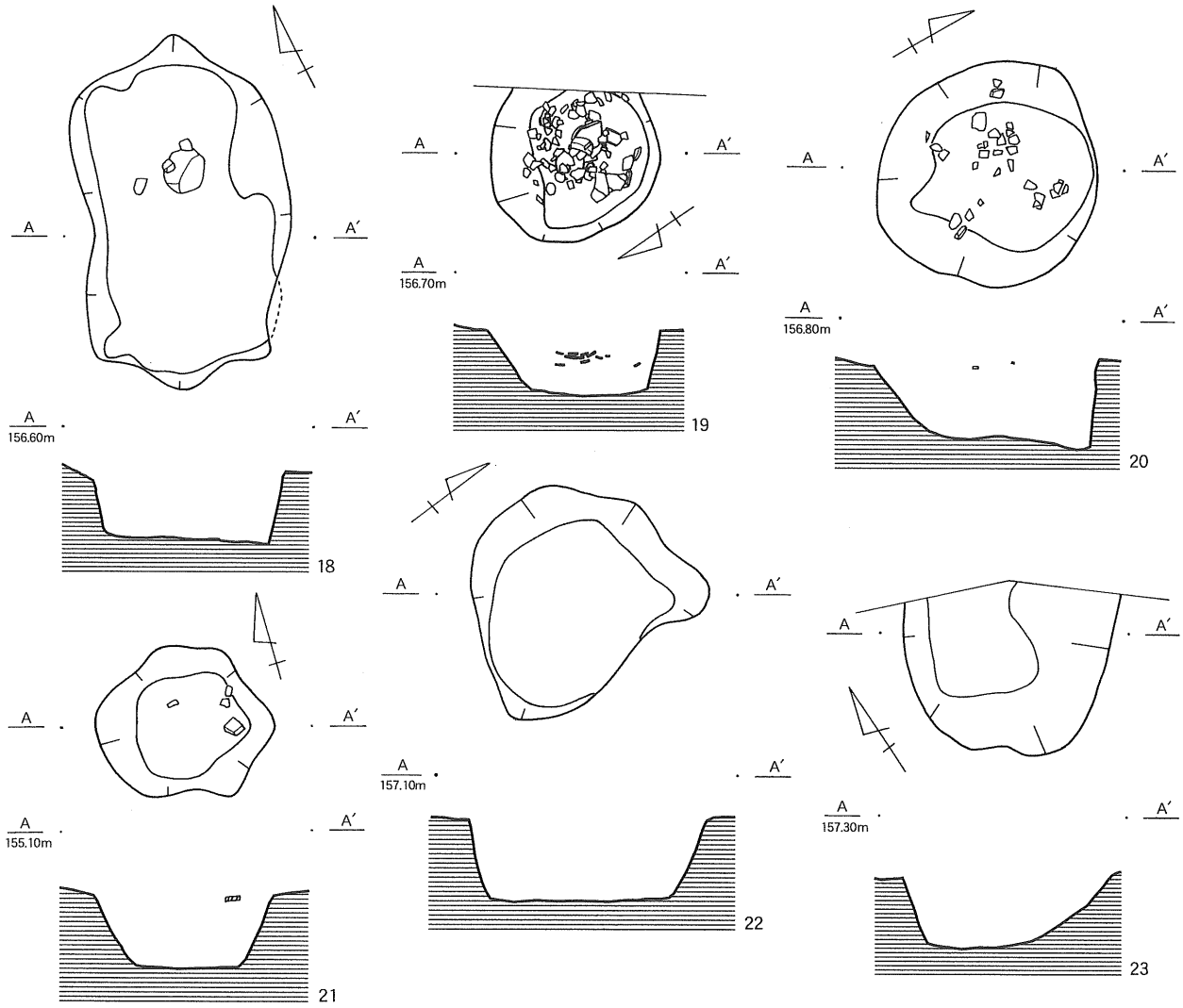
調査区の北西隅において検出された。平面形態は円形を呈し、南側に一段高い張り出しを持つ。長径約1.3m、短径約1.0m、検出面からの深さ約1.5mを測る。縄文土器の小片が出土している。



第10図　A区出土土坑実測図１（1/40）



第11図　A区出土土坑実測図２（1/40）



第12図　A区出土土坑実測図３（1/40）

10号土坑

調査区の西側において検出された。平面形態は円形を呈し、直径約1.0m、検出面からの深さ約0.4mを測る。縄文土器の小片が出土している。

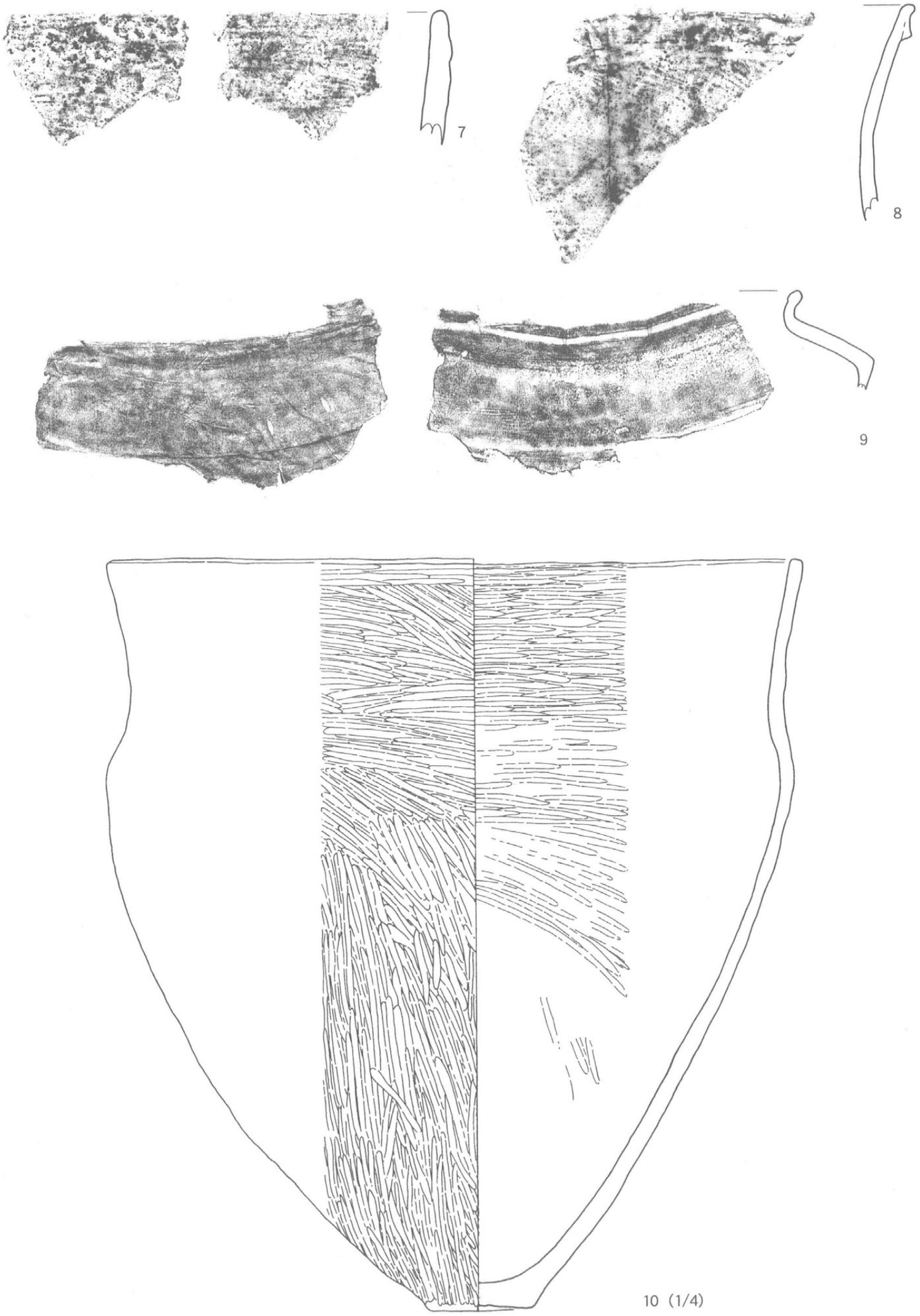
11号土坑

調査区のほぼ中央西側において検出された。平面形態は円形を呈し、直径約1.0m、検出面からの深さ約0.4mを測る。縄文土器の小片の他、石鏃３点が出土している。

17から19共に二等辺三角形を呈し抉りの浅い石鏃で、石材はチャートである。

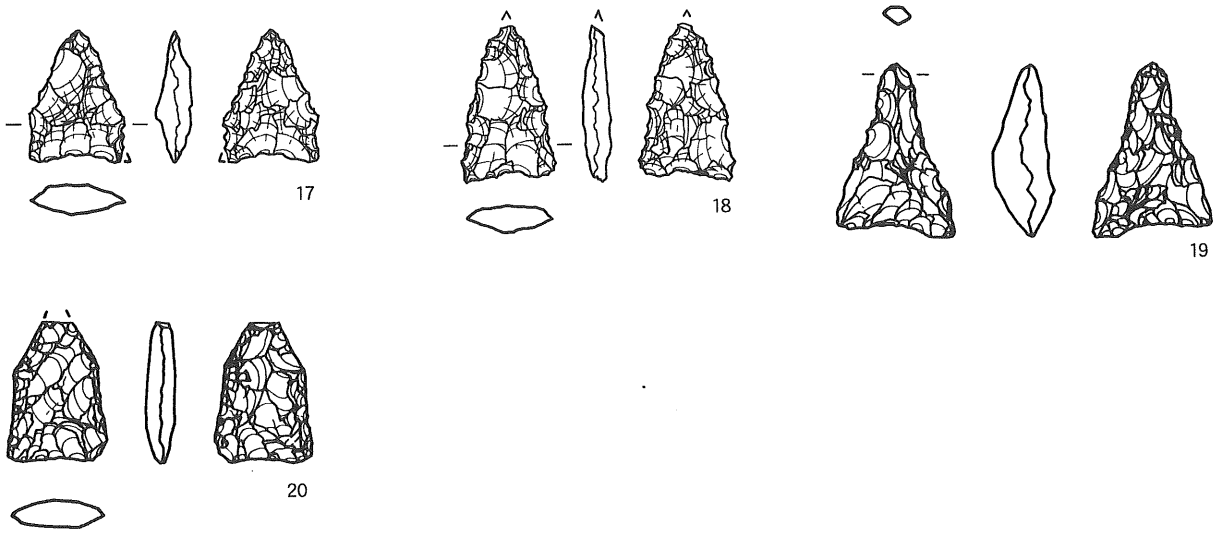
12号土坑

調査区のほぼ中央西側において検出された。平面形態は不整楕円形を呈し、長径約1.0m、短径約0.8m、検出面からの深さ約0.4mを測る。縄文土器の小片が出土している。



第13図　A区２・６・13・16号土坑出土土器拓影図(1/3)

第14図　A区17・20号土坑出土土器拓影図（1/3）



第15図　A区11・17号土坑出土石器実測図（1/1）

13号土坑

調査区の西隅において検出された。平面形態は円形を呈し、直径約1.0m、検出面からの深さ約0.5mを測る。埋土中より縄文土器が出土している。

8は深鉢口縁部で外反し、端部に一条の突帯を施す。

14号土坑

調査区のほぼ中央において検出された。平面形態は楕円形を呈し、長径約1.2m、短径約0.9m、検出面からの深さ約0.5mを測る。ピット3本をもつ。縄文土器の小片が出土している。

15号土坑

調査区のほぼ中央において検出された。平面形態は円形を呈し、長径約1.0m、短径約0.8m、検出面からの深さ約0.5mを測る。磨石1点が出土している。

16号土坑

調査区の北西隅において検出された。平面形態は円形を呈し、直径約0.8m、検出面からの深さ約0.4mを測る。埋土中より縄文土器が出土している。

9は精製土器の浅鉢で胴部に張りをもち口縁部は短く外反する。口縁部は玉縁状を呈し内外面に沈線文を施し、口唇部にリボン状突起をもつ。

17号土坑

調査区の北東側において検出された。平面形態は不整楕円形を呈し、長径約1.1m、短径約0.9m、検出面からの深さ約0.5mを測る。埋土中より縄文土器が出土している。

11は深鉢で胴部に屈曲をもち、やや外反しながら立ち上がり口縁部に一条の突帯を施す。12は深鉢底部で平底である。13は大きく外反する口縁部である。11と同様、胴部に屈曲をもつ器形と考えられる。14は深鉢口縁部と考えられる。20は二等辺三角形を呈し抉りの浅い石鏃で、石材はチャートである。

18号土坑

調査区の北東側において検出された。平面形態は長方形を呈し、長軸約2.0m、短軸約1.0m、検出面からの深さ約0.4mを測る。縄文土器の小片が出土している。

19号土坑

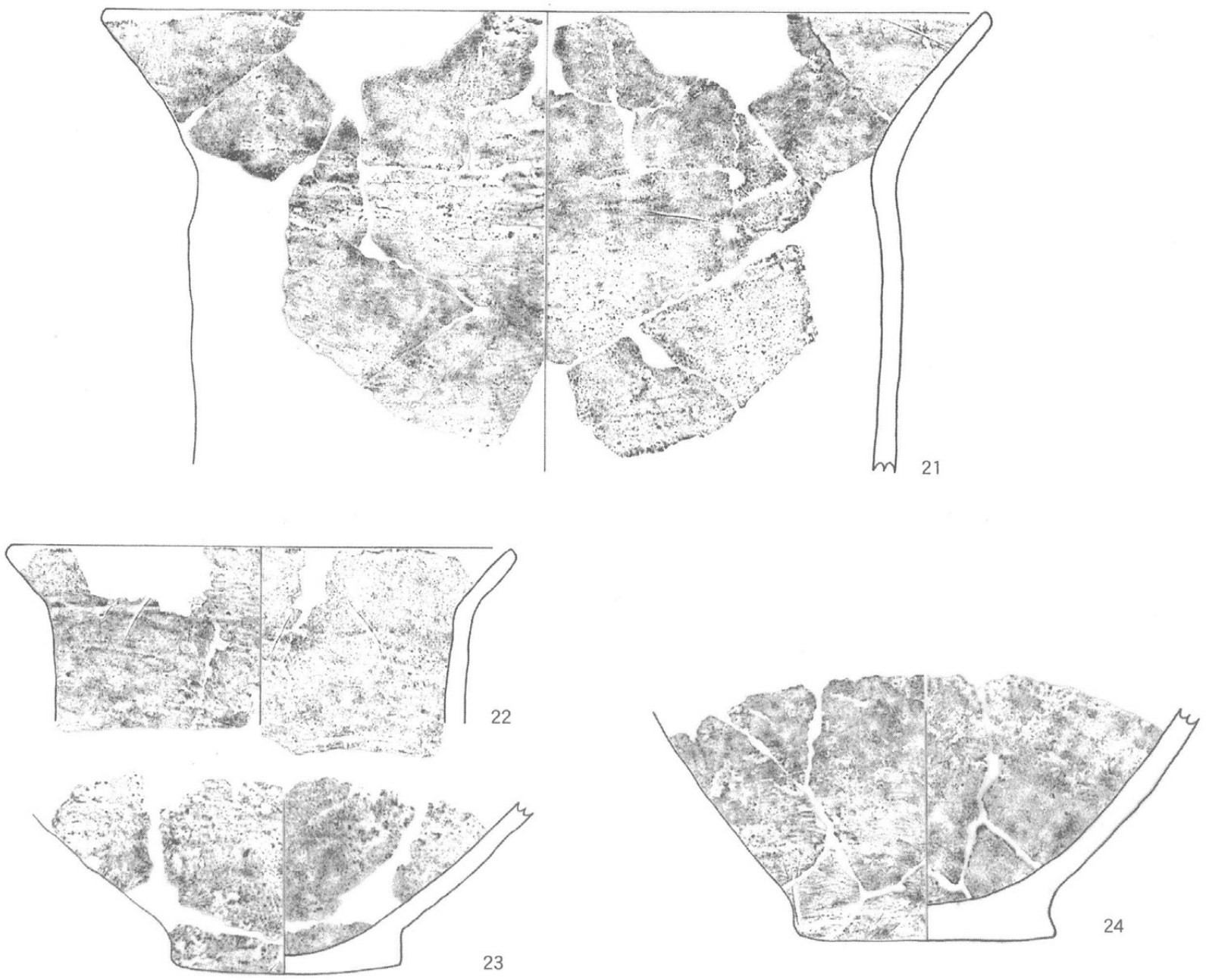
調査区の南東隅において検出された。東側は調査区外である。平面形態は円形と考えられ、直径約1m、検出面からの深さ約0.4mを測る。埋土中より縄文土器が出土している。

21、22は甕で「く」の字状の屈曲をもち口縁部は大きく開く。23、24は壷底部で広めの平底である。

20号土坑

調査区の北東隅において検出された。平面形態は円形を呈し、直径約1.2m、検出面からの深さ約0.4mを測る。埋土中より縄文土器が出土している。

15は浅鉢で屈曲部より下部には組織痕が残る。16は深鉢口縁部で一条の突帯を施し、口唇部にリボン状突起をもつ。



第16図　A区19号土坑出土土器実測図（1/3）

その他の遺構

21号土坑

調査区の南東隅において検出された。平面形態は円形を呈し、直径約0.9m、検出面からの深さ約0.4mを測る。

22号土坑

調査区の北西隅において検出された。平面形態は不正形を呈し、長軸約1.5m、短軸約1.0m、検出面からの深さ約0.4mを測る。

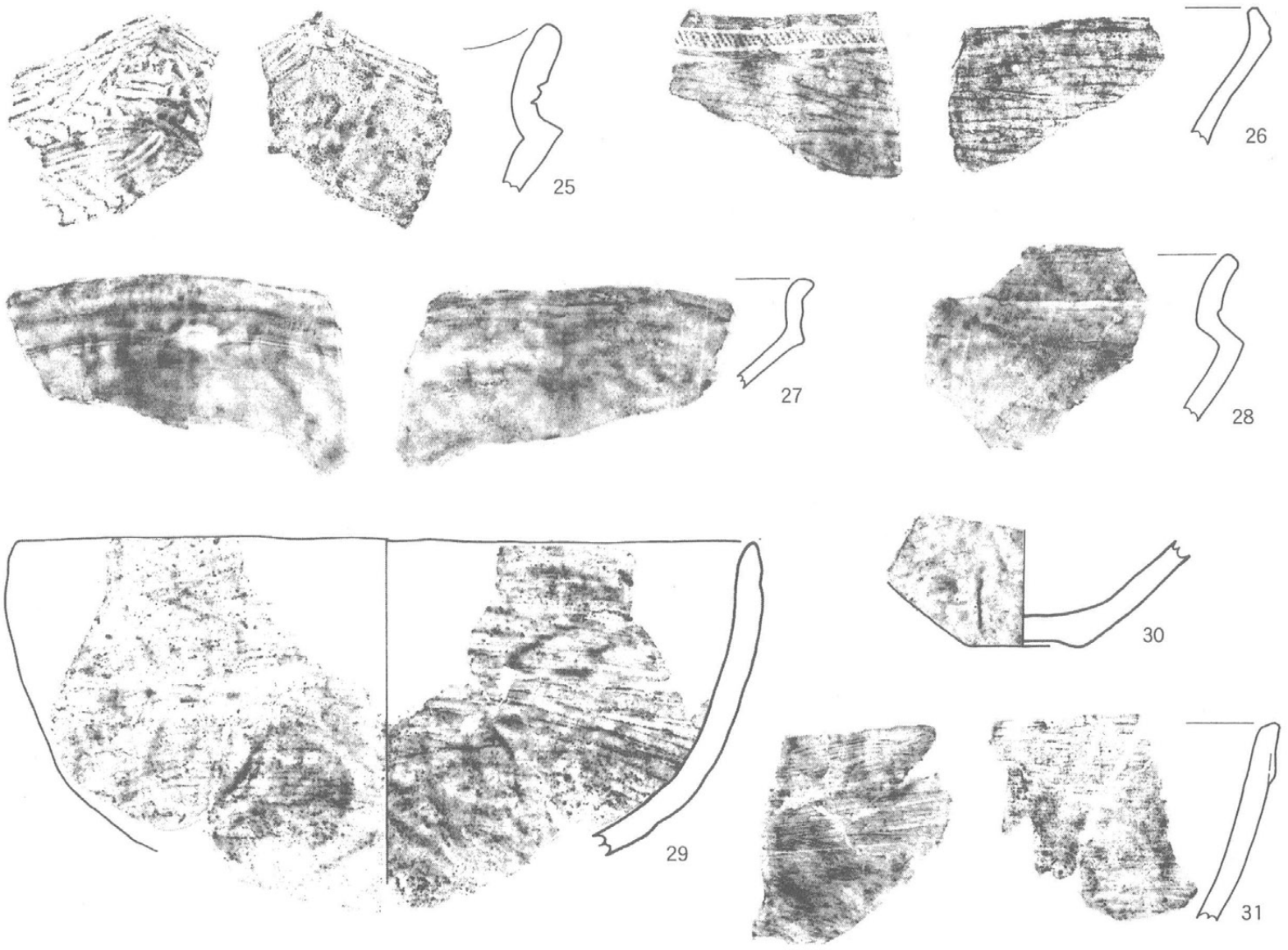
23号土坑

調査区の北端において検出された。北側は調査区外である。現存の最大長約1.0m検出面からの深さ約0.4mを測る。

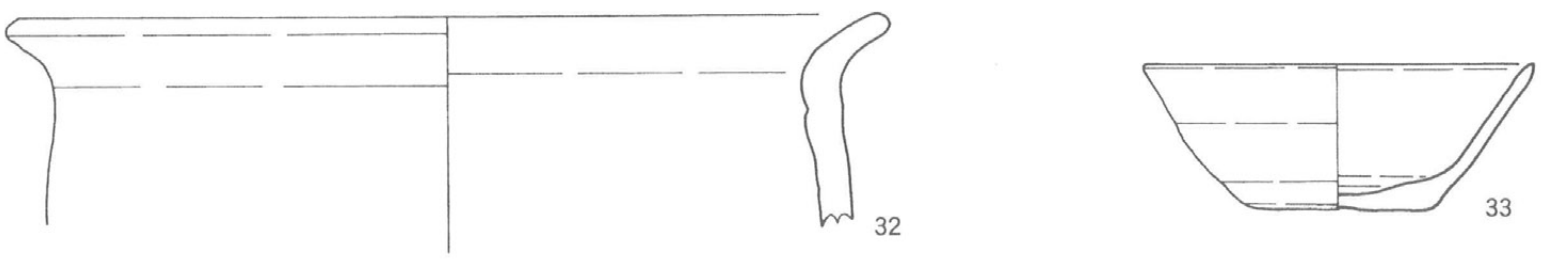
表17　山城第1遺跡第1次調査A区出土遺物観察表1

単位：cm

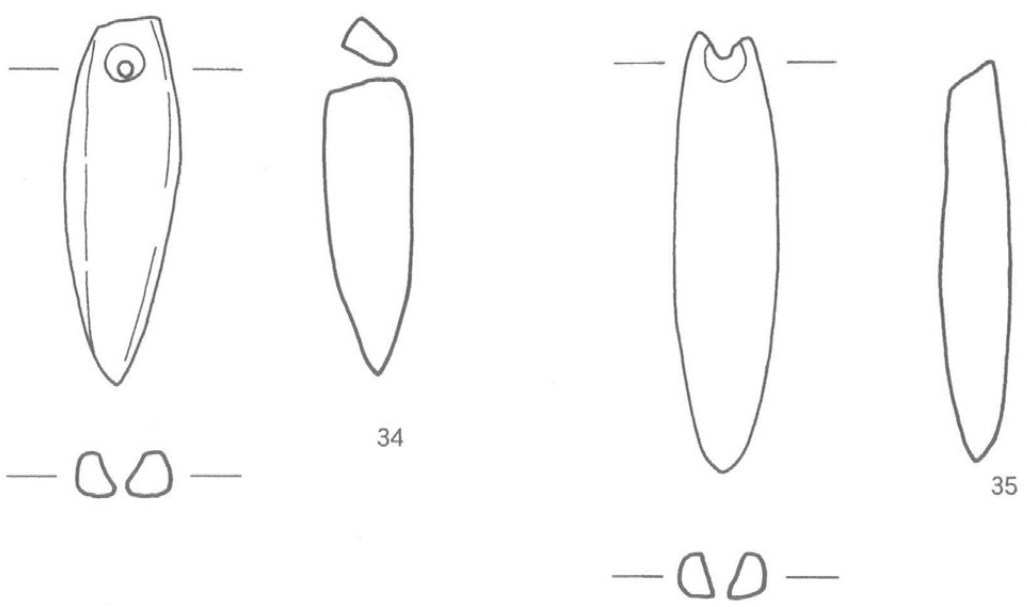
No.	出土位置	種別	器種	法量(上：土器　下：石器)			手法・文様		色調		胎土	備考
				口径	底径	器高						
				最大長	最大幅	最大厚	外器面	内器面	外面	内面		
1	2号住居	石器	石鏃	1.9	1.45	0.45						0.8g・チャート
2	3号住居	石器	打製石斧	9.9	2.7	2.0						71g・頁岩
3	3号住居	石器	切目石錘	3.4	2.35	0.9						10g・砂岩
4	3号住居	縄文土器	深鉢	(21.4)			沈線文。ミガキ。スス付着。	ミガキ。	暗褐	黒褐	1mm以下の白色粒ごく少量。	
5	3号住居	縄文土器	深鉢				沈線文。ミガキ。スス付着。	ミガキ。	黒褐	黒褐	1mm以下の白色粒微量。	
6	3号住居	縄文土器	深鉢				突帯。ナデ。	ナデ。	にぶい黄橙	黒褐	1～2mmの茶褐色粒少量。	
7	2号土坑	縄文土器	浅鉢				ナデ。スス付着。	ナデ。	暗褐	暗褐	1mm以下の白色粒ごく少量。	
8	13号土坑	縄文土器	深鉢				ナデ。突帯。	ナデ。	にぶい黄橙	黒褐	1mm程度の白色・茶褐色粒少量。	
9	16号土坑	縄文土器	浅鉢				ミガキ。リボン状突起。	ミガキ。ナデ。	にぶい黄橙	明黄褐	1mm程度の白色・茶褐色粒少量。	
10	6号土坑	縄文土器	深鉢	45.8	6.8	49.3	ミガキ。スス付着。	ミガキ。	明赤褐	明赤褐	1mm以下の石英粒ごく少量。1mm以下の白色粒ごく少量。雲母微量ごく微量。	
11	17号土坑	縄文土器	深鉢	(29.5)			ナデ。突帯。	ナデ。	黄橙	明黄褐	1mm程度の白色粒少量。	
12	17号土坑	縄文土器	深鉢		10.2		ナデ。	ナデ。ハケ目。スス付着。	にぶい橙	浅黄橙	1～2mmの白色・茶褐色粒少量。	
13	17号土坑	縄文土器	深鉢				ナデ。スス付着。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1～2mmの白色・茶褐色粒少量。	
14	17号土坑	縄文土器	深鉢				ナデ。	ナデ。	明黄褐	橙	1mm以下の黒色・白色・茶褐色粒少量。	
15	20号土坑	縄文土器	浅鉢				ナデ。スス付着。	ナデ。	にぶい黄橙	褐灰	1mm程度の黒色・白色・茶褐色粒ごく少量。	
16	20号土坑	縄文土器	深鉢				ナデ。突帯。リボン状突起。スス付着。	ナデ。	にぶい褐	にぶい黄橙	1mm程度の黒色・白色・茶褐色粒ごく少量。	
17	11号土坑	石器	石鏃	1.75	(1.25)	0.45						0.7g・チャート
18	11号土坑	石器	石鏃	(2.1)	1.25	0.4						0.8g・チャート
19	11号土坑	石器	石鏃	2.2	1.5	0.7						2g・チャート
20	17号土坑	石器	石鏃	(1.9)	1.3	0.4						1g・チャート
21	19号土坑	縄文土器	甕	(35.4)			ナデ。スス付着。	ナデ。	褐灰	にぶい黄橙	1mm以下の石英粒少量。1mm以下の黒色・茶褐色粒微量。	
22	19号土坑	縄文土器	甕	(20)			ナデ。	ナデ。	にぶい橙	浅黄橙	1mm程度の石英粒ごく少量。1mm程度の白色・茶褐色粒ごく少量。雲母微量。	
23	19号土坑	縄文土器	壷		9.4		ナデ。	ナデ。スス付着。	黄橙	灰黄褐	1mm以下の石英粒微量。1mm以下の黒色・白色・茶褐色粒ごく少量。	
24	19号土坑	縄文土器	壷		10.6		ナデ。	ナデ。	にぶい褐	にぶい黄橙	1mm程度の黒色・白色・茶褐色粒ごく少量。	



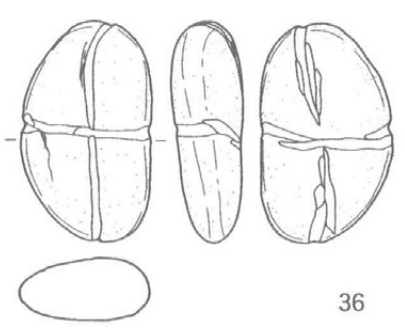
第17図　A区包含層出土土器拓影図（1/3）



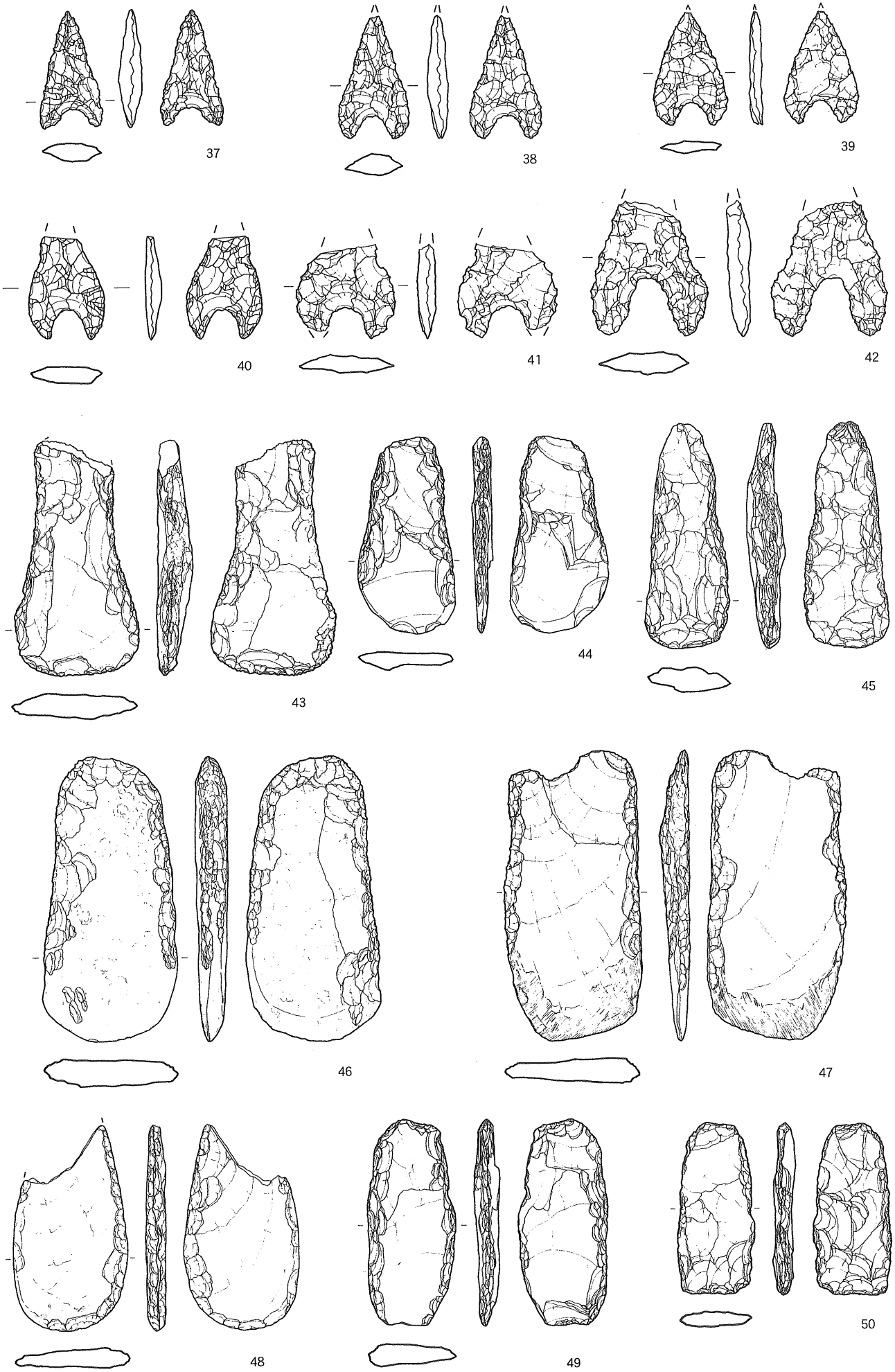
第18図　A区包含層出土土器実測図（1/3）



第19図　A区包含層出土垂飾実測図（1/1）



第20図　A区包含層出土
石器実測図１（1/2）

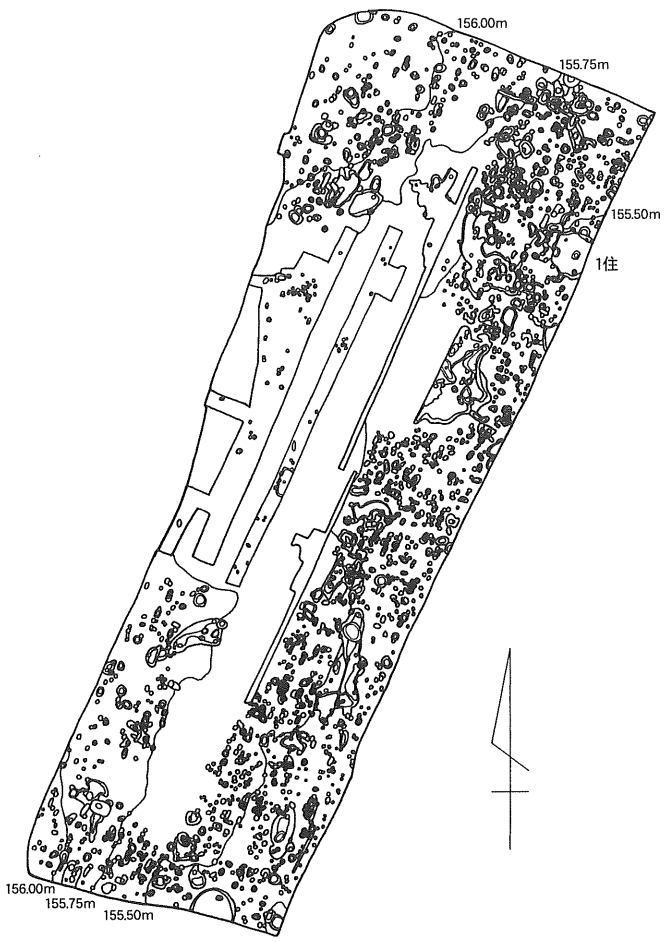


第21図　A区包含層出土石器実測図２（37～42は1/2　43～50は1/3）

表18　山城第1遺跡第1次調査A区出土遺物観察表２

単位：cm

No.	出土位置	種別	器種	法量(上：土器　下：石器)			手法・文様		色調		胎土	備考
				口径	底径	器高						
				最大長	最大幅	最大厚	外器面	内器面	外面	内面		
25	包含層	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。沈線文。	ナデ。			1mm以下の黒色・白色粒微量。雲母ごく少量。	
26	包含層	縄文土器	深鉢				沈線文。磨消縄文。ミガキ。	ミガキ。			1mm以下の白色粒少量。	
27	包含層	縄文土器	浅鉢				ミガキ。	ミガキ。ナデ。			1mm以下の白色粒微量。	
28	包含層	縄文土器	浅鉢				ミガキ。ナデ。	ナデ。			1mm以下の白色粒ごく少量。雲母微量。	
29	包含層	縄文土器	浅鉢	(27.2)			ナデ・スス付着。	ナデ。			1mm程度の白色粒少量。	
30	包含層	縄文土器	浅鉢		4.3		ナデ。スス付着。	ミガキ。ナデ。スス付着。			1mm程度の石英粒ごく少量。１～2mmの黒色・白色・茶褐色粒少量。	
31	包含層	縄文土器	浅鉢				突帯。ミガキ。スス付着。	ナデ。			１～2mmの黒色・白色・茶褐色粒ごく少量	
32	包含層	土師器	甕	(26)			ナデ。	ナデ。			１～2mmの黒色・白色・茶褐色粒少量	
33	包含層	土師器	坏	11.8	5.8	4.4	回転ナデ。	回転ナデ。			１mm以下の茶褐色粒子微量。	
34	包含層	石器	垂飾	3.5	1.2	0.9						5g
35	包含層	石器	垂飾	4.3	1.15	0.75						6g
36	包含層	石器	打製石斧	4.35	2.6	1.4						22.3g・砂岩
37	包含層	石器	石鏃	2.2	1.2	0.5						0.8g・チャート
38	包含層	石器	石鏃	(2.35)	1.35	0.4						0.9g・チャート
39	包含層	石器	石鏃	(1.25)	1.45	0.25						0.6g・チャート
40	包含層	石器	石鏃	(1.95)	1.4	0.3						0.8g・チャート
41	包含層	石器	石鏃	(1.75)	1.9	0.35						1.1g・チャート
42	包含層	石器	石鏃	(2.55)	2.25	0.45						2.1g・チャート
43	包含層	石器	打製石斧	(10.9)	5.6	10.5						69g・砂岩
44	包含層	石器	打製石斧	11.0	5.55	0.9						81g・フォルンフェルス
45	包含層	石器	打製石斧	12.7	4.8	2.1						126g・砂岩
46	包含層	石器	局部磨製石斧	16.2	7.6	1.6						327g・フォルンフェルス
47	包含層	石器	局部磨製石斧	15.5	7.7	1.5						251g・フォルンフェルス
48	包含層	石器	打製石斧	10.7	6.4	0.9						104g・砂岩
49	包含層	石器	打製石斧	11.5	4.85	1.2						100g・フォルンフェルス
50	包含層	石器	打製石斧	9.45	4.4	1.05						63g・フォルンフェルス



第22図　B区遺構分布図（1/500）

B区の調査

層序

調査区の標高は155.25m～156.00mで、北西側が高く南東に向け傾斜している。層序は1層・耕作土、2層・黒褐色土、3層・暗褐色土、4層・黒褐色土、5層・御池軽石層である。調査以前は畑地として利用されていた。

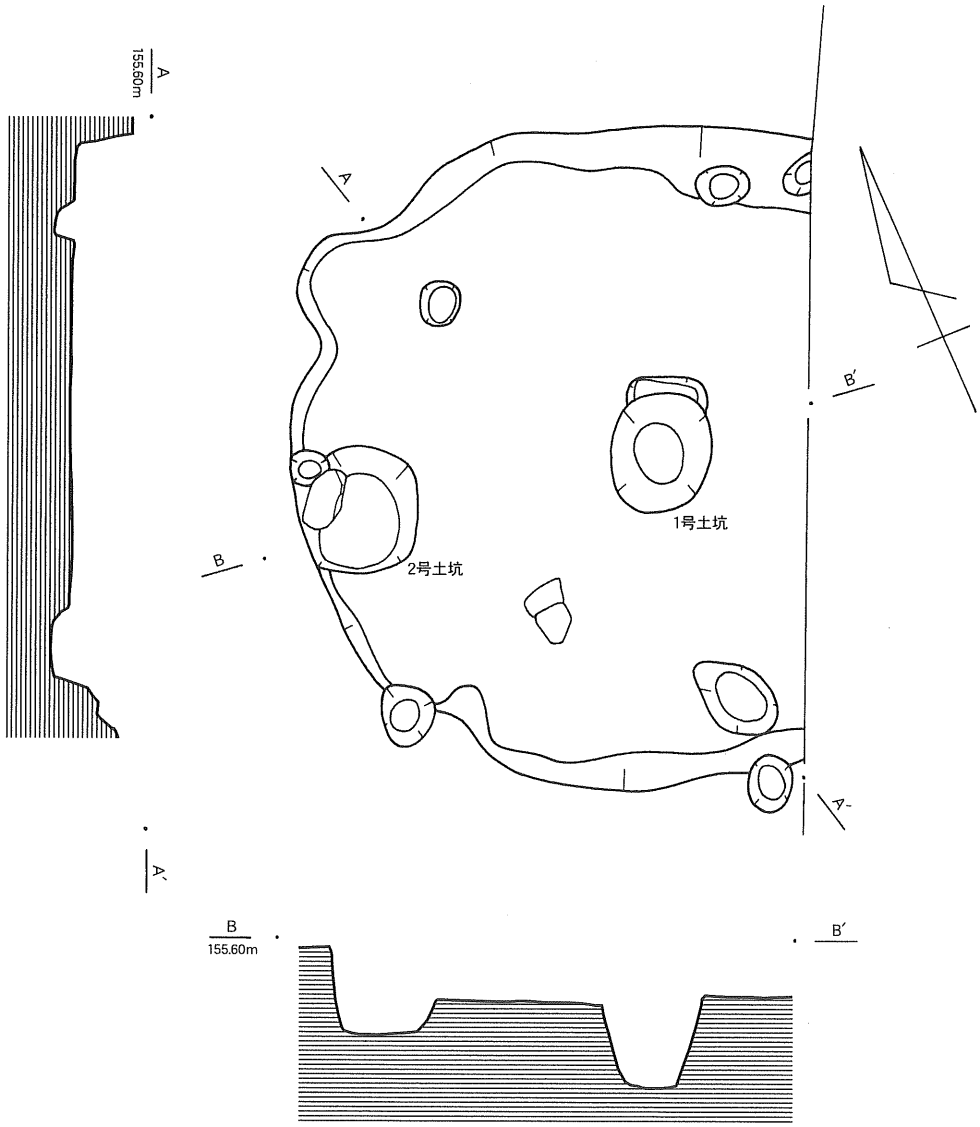
遺構と遺物

B区の調査においては時期の特定はできなかったものの竪穴住居跡1軒の他、多数のピットが出土している。

その他の遺構

1号竪穴住居跡

調査区の北東端において検出された。東側は調査区外である。平面形態は円形と考えられ、直径約3.0m、検出面からの深さ約0.3mを測る。床面はほぼ平坦で、中央と西側壁に土坑を持つ。中央の1号土坑は円形を呈し、長径約55cm、短径約45cm、床面からの深さ約45cmを測る。西側の2号土坑は円形を呈し、長径約60cm、短径約50cm、床面からの深さ約20cmを測る。ピットは計6本が確認されている。



第23図　B区1号竪穴住居跡実測図（1/40）

まとめ

山城第1遺跡第1次調査においては縄文時代の竪穴住居3軒、土坑19基、弥生時代の土坑1基、時期不明の竪穴住居跡1軒、土坑3基、多数のピットが検出された。遺物は縄文時代後期、晩期の土器を中心に、打製石斧、石鏃多数のほか、垂飾2点も出土している。

縄文時代の竪穴住居跡は計3軒の出土をみた。いずれも平面形態は円形を呈し、住居に伴うと考えられるピットはA区3号竪穴住居跡を除き多数検出されたが主柱穴の確定には至らなかった。いずれの住居も出土遺物は少なく、A区3号竪穴住居跡において出土した黒色磨研土土器は口縁部の凹線が階段状であり、頸部から胴部への屈曲がやや鋭い稜を形成している点より後期末から晩期初頭に位置付けられている御領式に相当すると考えられる。1、2号竪穴住居跡では図化はならなかったが晩期土器の小片が出土している。土坑については計20基の出土を見たがいずれも用途等は不明である。土坑に伴う遺物としてはA区6号土坑出土では黒色磨研土器の大型の深鉢が出土している。また20号土坑出土の組織痕を有する浅鉢、2、16号土坑出土の精製・粗製土器の浅鉢、17号土坑出土の突帯文土器などはいずれも晩期土器と考えられる。

時期の特定のできなかった遺構として竪穴住居跡1軒、土坑3基、多数のピットが検出されている。B区1号竪穴住居跡については平面形態が円形を呈し、概報においては晩期の可能性が指摘されている。土坑についてはいずれも用途等は不明である。またA、B区共に多量のピットが検出されているが建物等の構成はならなかった。

包含層出土の土器については縄文土器が市来式土器、黒色磨研土器、粗製・精製土器の浅鉢、突帯文土器など後期中葉から晩期にかけての出土を見た。石器も多量の石鏃、石斧のほか、A区より垂飾2点も出土している。またA区においては少量ながら古代の土師器も出土している。

雁寺第2遺跡